

令和5事業年度 業務実績報告書

第21期（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

令和6年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

令和5 事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	11
(1) 伝統芸能の公開	19
(2) 現代舞台芸術の公演	46
(3) 青少年等を対象とした公演	55
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	62
(5) 快適な観劇環境の形成	74
(6) 広報・営業活動の充実	84
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	94
(8) 日本博の運営・実施	97
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	101
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	104
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	115
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	124
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	130
(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	135
(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	139
(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	140
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	142
III 予算、収支計画及び資金計画	149
IV その他業務運営に関する重要事項	157

令和5 事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	5
<3> 日本博の運営・実施	7
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	8
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	9
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	10
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	11
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	11
III 予算、収支計画及び資金計画	12
IV その他業務運営に関する重要事項	13
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	14
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	15
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	16

令和5事業年度業務実績報告書

第21期（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

令和6年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

1	文化芸術活動に対する援助	1
(1)	助成金等の交付	3
(2)	助成に関する情報等の収集及び提供	9
(3)	芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用	9

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 文化芸術に対する国の支援施策や社会状況を踏まえた適切な組織体制の再編・強化、芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の在り方の検討

エ 専門人材を計画的に配置するなどアーツカウンシルとしての機能強化に向けた、地域版アーツカウンシル・他の独立行政法人等の専門機関・団体・文化庁等との連携の確立及び強化

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動に関する情報の収集、データベース化やホームページを通じた提供の推進

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と安全かつ安定した管理運用

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金等の交付

ア 次に掲げる活動に対する芸術文化振興基金、文化芸術振興費補助金及びその他外部資金による助成金の交付等による支援

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動
- ④ 舞台芸術等総合支援事業、劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業、日本映画製作支援事業

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② 専門委員・専門調査員・PD・PO による公演等調査・評価・次年度のための審査への活用
- ③ 職員による会計調査、PD・PO による助成対象活動の公演等調査及び意見交換の実施
公演等調査:550 件(助成対象件数)
- ④ PD・PO の体制強化及び調査研究の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 助成業務システムを活用した令和 6 年度助成対象活動の募集

ウ 文化芸術に対する国の支援施策や社会状況を踏まえた適切な組織体制の再編・強化、芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の在り方の検討

エ 文化庁との連携による PD・PO を活用した審査・評価・助成事業の在り方の検討、他の独立行政法人等の専門機関や団体等との連携、地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報の収集・提供

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・ホームページ等を通じた提供

ウ 助成対象活動の募集に関する情報提供

エ オンラインやメールフォーム等多様な方法による、助成金に関する応募相談の受付

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と安全かつ安定した管理運用

自己評価	A
自己評価の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評価はA評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演等調査の件数について数値目標を大きく上回った。 ・令和5年2月6日に振興会に交付決定された令和4年度補正予算「統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業」について、17団体の採択活動に対し助成金の交付を行った。 ・令和5年度から振興会に移管された「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」「全国キャラバン」について、計60団体の採択活動に対し助成金の交付を行った。 ・芸術文化振興基金、文化芸術振興費補助金及び民間団体からの寄附金等外部資金による助成金の交付等を年度計画に定められたとおり実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演等調査件数:848件/550件（154.2%）
主要な業務実績	<p>(1) 助成金等の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金による助成金：交付件数463件、助成金交付額715,811千円 ・補助金による助成金：交付件数486件、助成金交付額15,665,407千円 ・寄附金等外部資金による助成金：採択件数5件、助成金交付額161,504千円 <p>(2) 助成に関する情報等の収集及び提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページアクセス件数：130,920件（うち芸術文化振興基金ホームページ：74,464件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業ホームページ：56,456件） <p>(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金運用益：180,818千円 ・芸術文化振興基金への寄附：46件500,858千円

(1) 助成金等の交付

ア 助成金等の交付

① 令和5年度助成金の交付実績

(a) 基金による助成

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付 件数(件)	助成金 交付額(千円)
芸術創造 普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	460	199	378,000	195	371,000
	音楽	(95)	(51)	(95,500)	(51)	(95,500)
	舞踊	(61)	(32)	(56,500)	(31)	(55,500)
	演劇	(304)	(116)	(226,000)	(113)	(220,000)
	伝統芸能・大衆芸能の公開活動	49	31	43,000	31	43,000
	美術の創造普及活動	30	11	13,500	11	13,498
	多分野共同等芸術創造活動	36	12	14,000	10	11,000
	国内映画祭等の活動	60	37	43,300	35	37,690
小計	635	290	491,800	282	476,188	
地域文化 振興活動	地域文化施設公演・展示活動	234	98	169,500	93	161,500
	文化会館公演	(108)	(56)	(75,500)	(55)	(75,000)
	美術館等展示	(126)	(42)	(94,000)	(38)	(86,500)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	7	5	4,700	4	3,123
	民俗文化財の保存活用活動	18	14	12,400	14	12,400
	小計	259	117	186,600	111	177,023
文化振興普及 団体活動	アマチュア等の文化団体活動	189	68	60,100	67	59,600
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	10	4	5,000	3	3,000
	小計	199	72	65,100	70	62,600
合計	1,093	479	743,500	463	715,811	

(b) 補助金による助成

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付 件数(件)	助成金 交付額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	音楽	163	80	1,599,057	79	1,588,579
	舞踊	61	26	544,547	26	529,518
	演劇	202	72	606,991	70	589,938
	伝統芸能	43	26	97,252	26	97,175
	大衆芸能	22	10	107,921	10	105,535
	小計	491	214	2,955,768	211	2,910,745
舞台芸術等総合支援事業 (国際芸術交流支援)	海外公演	50	24	267,582	21	232,294
	国際共同制作公演(海外公演)	5	2	29,245	2	29,245
	国際共同制作公演(国内公演)	5	0	0	0	0
	国際フェスティバル	8	4	141,413	4	133,457
	小計	68	30	438,240	27	394,996
舞台芸術等総合支援事業 (劇場・音楽堂向け支援)	劇場・音楽堂等機能強化総合支援 事業	21	12	626,529	12	599,177
	共同制作支援事業	1	1	36,779	1	25,729
	小計	22	13	663,308	13	624,906
劇場・音楽堂等活性化・ ネットワーク強化事業	地域の中核劇場・音楽堂等活性化 事業	266	111	786,230	111	693,240
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化 事業	30	7	50,842	7	48,881
	小計	296	118	837,072	118	742,121
舞台芸術等総合支援事業 (芸術家等人材育成)	人材育成	84	44	549,500	43	523,805
	年鑑・調査研究	12	11	90,300	11	90,300
	小計	96	55	639,800	54	614,105

舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)	全国キャラバン	21	5	337,000	5	325,653
	小計	21	5	337,000	5	325,653
映画製作への支援	劇映画	128	24	331,665	22	318,726
	記録映画	48	12	73,245	11	71,115
	アニメーション映画	12	8	53,410	8	55,410
	小計	188	44	458,320	41	445,251
統括団体による文化芸術需要 回復・地域活性化事業		27	17	9,660,000	17	9,607,630
	小計	27	17	9,660,000	17	9,607,630
合計		1,209	496	15,989,508	486	15,665,407

- ・文化庁で行っていた「芸術家等人材育成」「全国キャラバン」が5年度より振興会に移管された。
 - ◇「芸術家等人材育成」：文化庁が選定した55件の採択先を公表した(4/3)。
 - ◇「全国キャラバン」：5年度当初予算による5件の採択先を公表した(5/12)。

(c) 補助金による委託事業

- ・文化庁で行っていた「学校巡回公演」が5年度より振興会に移管された。
 - ◇「学校巡回公演」：文化庁が選定した150の公演団体による巡回先1,525校を決定した(再委託経費は3,875,468千円)。

(d) 寄附金等外部資金による助成

事項	財源	応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付額 (千円)
新たなオーケストラ支援事業	特定寄附金	43	3	153,504
若手映画監督を起用した劇映画の製作への支援事業	文化芸術復興創造基金	39	2	8,000

- ・我が国のオーケストラ界の活性化を目的とした民間団体からの特定寄附金により、オーケストラ活動の底上げ及びオーケストラの将来の財産となる取組を支援する「新たなオーケストラ支援事業」を実施した。5年度交付決定額276,500千円(うち2件は確定済(153,504千円)。うち1件は翌年度に繰越)。
- ・映画製作支援のため寄せられた文化芸術復興創造基金への寄附金により、新型コロナウイルス感染症等の影響で製作の機会が減少している若手映画監督を起用した劇映画の製作への支援事業の採択を決定し、4/14に振興会ホームページで公表した。

《新型コロナウイルス感染症に関連した対応》

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行する5/7までに感染症により中止・延期となった公演に対し、中止・延期に要した経費を助成対象とするなど柔軟に対応した。

《その他》

- ・平成31年度文化芸術振興費補助金による助成事業(映画製作への支援)劇映画「宮本から君へ」の助成金不交付決定処分の取消を求める訴訟について、11/17に最高裁判決において助成金不交付決定処分は違法と判断された。判決を踏まえ、当該助成事業の交付決定を行うとともに、判決の趣旨に則って助成金交付要綱等の改正を行った。

イ 助成金交付事務の効率化等

① 専門委員・専門調査員・PD・POによる公演等調査、調査結果を踏まえた評価

《前年度(令和4年度)助成対象活動の事後評価の実施》

- ・文化芸術振興費補助金による各事業(舞台芸術創造活動活性化事業、国際芸術交流支援事業、劇場・音楽堂等機能強化推進事業)について、以下の通り前年度助成対象活動についての事後評価を実施した。
- ・評価結果を団体に伝達するとともに、意見交換・助言等を行う意見交換会を実施した。

《事後評価の経過》

令和4年度中	専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員による公演等調査の実施。 ・舞台芸術創造活動活性化事業 すべての活動 ・国際芸術交流支援事業 国際共同制作公演(国内公演)及び国際フェスティバルの2区分 ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び共同制作支援事業は全助成対象団体活動 ・地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業は抽出された18施設を対象とする。
6月上旬～中旬	第3回専門委員会(書面審議)開催。 事後評価の方法及び評価基準等について審議。「事後評価の進め方について」決定。 PD・POにより各活動の評価案を作成。

6月下旬～7月中旬	各専門委員による書面審査を実施。
7月上旬～下旬	第4回専門委員会開催。 素案を基に合議により評価を実施。
8月	舞台芸術・美術等部会(舞台芸術創造活動活性化事業、国際芸術交流支援事業)。 地域文化活動部会(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)開催。 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
8月～9月	評価対象団体に対し、PD・PO及び事務局より評価結果を伝達するとともに、意見交換、助言等を行った。
9月25日	第63回運営委員会において、事後評価の結果を報告。

② 会計調査、公演等調査、助成対象団体との意見交換の実施

《会計調査》

区分	実績	前年度実績
団体数	89件	122件
助成対象活動数	168件	239件

- ・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、基金部事務職員による会計調査を実施した。

《公演等調査》

区分	実績	年度計画	達成率
助成対象活動数	848件	550件	154.2%
延べ調査回数	1,190回	-	-

- ・助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員等による公演等調査を実施した。
- ・舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)の採択活動については、全ての助成対象活動について調査を実施した。
- ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業については、助成対象活動を視察して個々の活動状況を確認する「活動調査」と、劇場・音楽堂等の担当者へ聞き取りを行い、その実態と成果の確認を行う「ヒアリング調査」を実施した。
- ・映画製作への支援事業については、PD・PO・専門委員による映画試写確認及び映画祭の現地視察を実施した。

《意見交換会》

区分	実績	前年度実績
団体数	349件	152件
延べ実施回数	353件	308件

- ・舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)及び舞台芸術・美術等の創造普及活動について、5年度応募団体のうち希望のあった団体等に対し、助言等を行うため、意見交換会を実施した。
- ・舞台芸術創造活動活性化事業及び国際芸術交流支援事業について、8/4の舞台芸術・美術等部会で評価を決定し、8/16～9/29まで、意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。
- ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、5年度応募団体のうち希望のあった団体に対し、採択・不採択理由等を伝達するため、意見交換会を実施した。
- ・劇場・音楽堂機能強化推進事業について、8/22の地域文化活動部会で評価を決定し、9/12～10/26まで、意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。
- ・映画製作への支援事業について、過去に複数回助成実績がある団体等に対し、今後の助成制度のあり方についてのヒアリングを行うため、意見交換会を実施した。

③ PD・POの体制強化及び調査研究

(a) PD・POの体制強化

- ・地域における文化芸術振興拠点の整備・充実に資するため、5年度より「文化施設」分野を新設した。

(b) 調査研究

- ・助成事業の改善に向けた検討に資するよう、例年助成対象活動の応募団体に対して実施しているアンケート項目の見直しを行い、11月～12月まで「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」を実施し、集計結果を振興会ホームページで公開した。
- ・「カナダにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査」の報告書を振興会ホームページで公開した。
- ・「シンガポールにおける文化芸術活動に対する支援をはじめとする文化振興方策等に関する実態調査」について、プロポーザル方式によりNomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.を業務委託先として選定し、課題点などについて共有しつつ、現地ヒアリングを含む調査を実施した。
- ・「文化芸術活動におけるデジタル技術の活用による表現活動の先行事例調査」について、調査結果を報告書にまとめ、

振興会ホームページで公開した。

- ・振興会でやってきた各国アーツカウンシルに関する調査研究の結果を整理し、比較検討を行った「アーツカウンシル調査報告～イングランド、スコットランド、オーストラリア、カナダ、日本の事例から～」を振興会ホームページで公開した。
- ・「令和6年度文化芸術活動の動向把握に向けた基礎資料収集事業」の企画提案要領を1/17に公開し、2/5～2/14に提案受付を行った。(応募件数：12件、採択件数：12件、採択額計：90,000千円)

④ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

- ・都道府県・政令指定都市の担当部局に6年度助成事業募集開始の情報をメール配信により提供した。昨年度まで印刷物として作成・送付していた芸術文化振興基金「地域の文化振興等に関する活動」の各メニューの概要をまとめた「地域力×文化力パンフレット」を、今年度よりデータPDF版とし、振興会ホームページに掲載するとともに各都道府県・政令指定都市等にメール送信し、効率的に活用してもらうようにした。
- ・公益社団法人全国公立文化施設協会開催の研究大会に文化施設PD・POが出席し、全国の文化施設担当者と意見交換を行った。
- ・劇場、音楽堂等連絡協議会の公開シンポジウムに文化施設PDが登壇し、劇場・音楽堂等機能強化推進事業の6年度からの変更点などについて講演を行い、全国の文化施設担当者からの質問に答えた。

⑤ 令和6年度助成対象活動の募集

(a) 令和6年度助成対象活動の募集

- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による6年度助成対象活動の募集案内及び審査基準を10/7に公開し、応募相談期間を経て、11/8～15に電子申請方式による受付を行った。

(b) 令和6年度助成対象活動の採択状況

i. 基金による助成

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	543	199	407,500
	音楽	(149)	(53)	(122,500)
	舞踊	(79)	(33)	(60,000)
	演劇	(315)	(113)	(225,000)
	伝統芸能・大衆芸能の公開活動	64	34	47,800
	美術・メディア芸術等の創造普及活動	21	8	9,500
	多分野共同等芸術創造活動	34	10	13,500
	国内映画祭等の活動	30	21	23,200
	映画祭	(24)	(20)	(22,900)
	日本映画上映活動	(6)	(1)	(300)
小計		692	272	501,500
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	198	98	170,500
	文化会館公演	(82)	(55)	(74,500)
	美術館等展示	(116)	(43)	(96,000)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	12	10	7,200
	民俗文化財の保存活用活動	18	13	10,100
小計		228	121	187,800
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	191	62	61,200
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	7	4	6,500
	小計	198	66	67,700
合計		1,118	459	757,000

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

ii. 補助金による助成

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動)	複数年計画支援	42	28	1,762,284
	音楽	(20)	(14)	(1,129,470)

	舞踊	(8)	(4)	(324,018)
	演劇	(7)	(6)	(223,724)
	伝統芸能	(3)	(2)	(29,342)
	大衆芸能	(4)	(2)	(55,730)
	公演事業支援(一般枠)	375	150	1,222,638
	音楽	(115)	(40)	(499,447)
	舞踊	(42)	(18)	(220,982)
	演劇	(152)	(59)	(353,257)
	伝統芸能	(43)	(24)	(77,658)
	大衆芸能	(23)	(9)	(71,294)
	公演事業支援(ステップアップ枠)	35	8	33,078
	音楽	(8)	(1)	(2,083)
	舞踊	(4)	(0)	(0)
	演劇	(15)	(6)	(30,019)
	伝統芸能	(3)	(0)	(0)
	大衆芸能	(5)	(1)	(976)
	小計	452	186	3,018,000
舞台芸術等総合支援事業 (国際芸術交流)	海外公演	49	24	313,554
	国際共同制作公演(海外公演)	7	3	15,755
	国際共同制作公演(国内公演)	6	3	13,691
	国際フェスティバル	6	3	100,000
	小計	68	33	443,000
舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)	全国規模の統括団体による公演等実施事業	14	10	520,000
	収益化に向けたデジタルアーカイブ支援	1	1	100,000
	小計	15	11	620,000
舞台芸術等総合支援事業 (芸術家等人材育成)	芸術家等人材育成	61	51	461,000
	小計	61	51	461,000
劇場・音楽堂等機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	23	15	702,000
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	239	119	663,700
	共同制作支援事業	2	2	105,000
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	15	7	50,842
	小計	279	143	1,521,542
日本映画製作支援事業	劇映画	46	11	150,178
	記録映画	13	5	32,980
	アニメーション映画	1	1	21,400
	小計	60	17	204,558
合計		935	441	6,268,100

iii. 補助金による委託事業

- ・「学校巡回公演」について、284 団体の応募団体より 145 団体を採択した(委託業者との契約における再委託金額総額は 4,100,000 千円)。

(c) 令和 6 年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

- ・運営委員会、4 部会及び 15 専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

<委員会・部会・専門委員会の開催実績>

区分	開催実績
運営委員会	第 63 回 9/25、第 64 回 1/26、第 65 回 3/14
舞台芸術・美術等部会	1 回開催 3 月
音楽専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(第 1 分科会 1 回、第 2 分科会 1 回)
舞踊専門委員会	2 回開催 12 月、2 月

演劇専門委員会	3回開催 12月、2月(第1分科会1回、第2分科会1回)
伝統芸能・大衆芸能専門委員会	3回開催 12月、2月(伝統芸能分科会1回、大衆芸能分科会1回)
美術専門委員会	2回開催 12月、2月
国際交流・多分野共同等専門委員会	3回開催 12月、2月(国際分科会1回、多分野分科会1回)
団体専門委員会	2回開催 12月、2月
映像芸術部会	1回開催 3月
劇映画専門委員会	2回開催 12月、2月
記録映画専門委員会	2回開催 12月、2月
アニメーション映画専門委員会	2回開催 12月、2月
映画祭等専門委員会	2回開催 12月、2月
地域文化活動部会	1回開催 3月
文化施設公演活動等専門委員会	4回開催 12月(第1分科会1回、第2分科会1回)、2月(第1分科会1回、第2分科会1回)
文化施設展示活動専門委員会	2回開催 12月、2月
文化団体活動専門委員会	2回開催 12月、2月
文化財部会	1回開催 3月
文化財保存活用専門委員会	2回開催 12月、2月

<審査の経過>

9/25	第63回運営委員会 6年度芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成対象活動募集案内の内容、審査基準等を了承。
11/8～15	6年度助成事業 応募受付期間
12月上旬～下旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による書面審査。
1/16	第64回運営委員会 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
2月上旬～下旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3/14	第65回運営委員会 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

ウ 芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の在り方の検討

≪制度検証推進部会の新設≫

- ・芸術文化振興基金運営委員会特別部会「アーツカウンシル機能の今後の方向性について(報告書)」(3年11月)を踏まえ、アーツカウンシル機能強化を目的とした「助成金の交付に係る中長期的な運営方針」「その他助成に関する重要事項」などを、専門的・集中的に審議するための部会を新設した。
- ・第1回から第3回にかけて、より応募しやすく、文化芸術団体の自律的・持続的な発展に資する制度を目指して募集期間・募集案内の統一や要望書様式の見直し、団体の運営面や活動実績をより考慮に入れた審査基準の見直し等について審議を行い、審議結果を踏まえた募集案内及び審査基準を公開した。
- ・第4回から第6回にかけて、各助成事業が助成の基本方針や目的に照らして適切に機能しているかを確認するとともに、文化芸術の役割や意義を発信することで助成事業への社会的認知を得ることを目的に、助成事業の成果の把握の観点や検証方法等についての議論を行った。

エ 地域版アーツカウンシル等との連携等

≪地域版アーツカウンシル等との連携推進≫

- ・全国に所在するアーツカウンシル機能を有する組織の連携強化を図る「アーツカウンシル・ネットワーク」の活動として、加盟団体が一堂に会すAC-net ミーティングを開催した。

<開催実績>

回次	日程	会場	内容
第1回	7/14	宮崎県庁5号館(宮崎市)	参加者がそれぞれ所属するアーツカウンシルの異同を認識し、運営上の課題等を共有して共に悩み解決へと導くグループワークを実施した。
第2回	10/13	振興会レクチャー室	第1回のグループワークにおける意見等を踏まえ、派生した課題意識などを全体で共有し、参加者同士でグループディスカッションを実施した。

第3回	1/12	オンライン	第2回グループディスカッションの振り返りを行うとともに、特に関心の高かったテーマを選定し、グループトークを実施した。
-----	------	-------	--

- ・多様化するアーツカウンシル機能を持つ団体の実態や活動等をまとめた「アーツカウンシル・ネットワーク年鑑2023」を作成し、アーツカウンシル・ネットワークのホームページで公開した。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報の収集・提供

- ・官民の文化芸術活動への支援に関する情報を引き続き収集し、最新のデータに更新した。

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、助成事業事例集の作成・ホームページ掲載

① ホームページ上の情報の充実

- ・4年度の助成事業を紹介する事例集をホームページに掲載した(10/20)。
- ・助成事業に応募した者に任意で協力を求めた「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」の集計結果を振興会ホームページに掲載した(3/27)。

《アクセス件数》

区分	件数	前年度実績
芸術文化振興基金 HP	74,464 件	368,503 件
劇場音楽堂等機能強化推進事業 HP	56,456 件	18,990 件
合計	130,920 件	387,493 件

※Google Analytics の仕様変更により、今年度より集計方法がユーザー数に変更されている(前年度まではセッション数)。

ウ 助成対象活動の募集に関する情報提供

① 募集情報のホームページへの掲載

- ・6年度募集からの変更点について、募集案内の公開に先行し概要をホームページで周知した。
- ・「学校巡回公演」について、6年度の実施団体募集、7年度以降の変更点及びスケジュール案をホームページで周知した。
- ・振興会ホームページに6年度助成事業募集に関する特設サイトを開設した。募集案内を掲載するとともに審査基準の公表を実施した。
- ・広報用ポスター・チラシに代え、募集案内や応募フォームなど必要な情報を集約した特設サイトを見やすいようリニューアルした。また、地域力×文化力パンフレットは幅広い層に発信できるようPDF版をWebページに掲載した。
- ・要望団体向けに簡潔に説明した「助成金交付要望書オンライン提出の手引き」を作成して掲載した。

② その他地方公共団体等への情報提供

- ・公益社団法人全国公立文化施設協会の協力により同協会のメールマガジンに6年度助成事業募集開始の情報を掲載し、全国の文化施設に広報を行った。

エ 応募相談の受付

区分	実績	前年度実績
団体数	2,041 件	823 件

- ・オンラインや電話、問い合わせフォーム、メール等様々な方法で応募相談を積極的に行った。

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 180,818 千円

- ・基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

イ 寄附金等多様な財源の確保

《寄附の受入》

区分	実績		前年度実績		対前年度増減
	件数	金額	件数	金額	金額
芸術文化振興基金	46 件	500,858 千円	31 件	601,204 千円	△100,346 千円

文化芸術復興創造基金	18件	150千円	55件	1,343千円	△ 1,193千円
------------	-----	-------	-----	---------	-----------

- ・5年度においても引き続きホームページ等による周知を実施し、寄附の受入の促進を図った。
- ・上記の寄附受入の他に、民間団体からの特定寄附金により、5年度から3年間の継続的な支援事業として「新たなオーケストラ支援事業」を実施し、5年度には276,500千円の交付決定を行った。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を上回った。 ・青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数の達成率は 99.8%。これは、国立文楽劇場の夏休み文楽特別公演において出演者に体調不良者が多数出たため一部日程(8/2～5)を中止したこと、国立劇場おきなわの8月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」が台風6号のため中止となったことが要因である。これら災害等の影響を勘案した達成率は100.8%となる。 ・外国人向け公演の入場者数は目標値を大きく上回った。 ・オンライン動画配信の視聴者数については、歌舞伎鑑賞教室と舞踊公演の公演記録映像について、海外で爆発的に視聴回数が伸びたため、目標値を非常に大きく上回った。 ・国立劇場と国立演芸場では「さよなら公演」「さよなら特別公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。また、12月以降は代替劇場での公演を順次開始した。 ・伝統芸能分野では、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。 ・新国立劇場では、国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・日本博2.0移行の初年度として、専門家等による伴走型支援に試行着手するなど、採択事業者と緊密にコミュニケーションを図りつつ、インバウンドのニーズを捉え、来場者満足度の向上については、所期の目標を上回る成果を上げた。また、4月のG7軽井沢外相会合及び5月の広島サミットにおけるプロモーション活動など、現地誘客の促進等の拡大に資する戦略的・一体的なプロモーションの実施を試み、インバウンドの増加に一定の成果を上げた。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>公演数:180公演/179公演(100.6%) 入場者数:587,431人/563,020人(104.3%)(台風等災害による中止分を除いた場合の達成率は104.9%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善:公演実績表参照 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数:147,536人/147,797人(99.8%)(台風等災害による中止分を除いた場合の達成率は100.8%) 外国人向け公演の入場者数:4,327人/2,901人(149.2%) オンライン動画配信の視聴者数:1,227,065回/63,000回(1,947.7%) 日本博採択事業の来場者満足度:39件/32件(121.9%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 [3] 日本博の運営・実施 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<p>[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 [3] 日本博の運営・実施 各表参照</p>

[1] 伝統芸能分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を上回った。 ・青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数の達成率は 99.0%。目標値 130,997 人に対して 1,331 人下回った。これは、国立文楽劇場の夏休み文楽特別公演において出演者に体調不良者が多数出たため一部日程(8/2~5)を中止したことと、国立劇場おきなわの 8 月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」が台風 6 号のため中止となったことが要因である。これら災害等の影響を勘案した達成率は 100.0%となり、目標値を 36 人上回ることができた。 ・外国人向け公演の入場者数は目標値を大きく上回った。 ・オンライン動画配信の視聴者数については、歌舞伎鑑賞教室と舞踊公演の公演記録映像について、海外で爆発的に視聴回数が伸びたため、目標値を非常に大きく上回った。 ・国立劇場と国立演芸場では「さよなら公演」「さよなら特別公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。また、12 月以降は代替劇場での公演を順次開始した。 ・歌舞伎公演では、「初代国立劇場さよなら特別公演」に相応しい義太夫狂言の名作を、2 か月連続の二部構成の形式で通し狂言として上演することで、国立劇場の存在意義を示すことができた。 ・文楽公演では、5 月文楽公演に三大名作の一つ「菅原伝授手習鑑」の初段・二段目、8・9 月文楽公演に三段目から五段目と、51 年ぶりの上演となる場面を含めた完全通し上演を行い、初代国立劇場の大団円にふさわしい構成をとった。 ・8・9 月文楽公演では、国立劇場開場以来、東京公演では最高となる入場者数・収益を達成することができた。 ・舞踊・邦楽等の公演では、ジャンルごとに集大成的な充実した公演を行い、いずれも高水準の舞台と芸の伝承に資する成果を得ることができた。また、5 月声明公演においては、国立劇場開場以来、声明公演としては最高となる入場者数を達成することができた。 ・吉村古ゆうが文楽劇場 10 月舞踊公演で出演した「この鳥」等の成果により芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。 ・能楽堂では、開場 40 周年記念公演や連続性や関連性を持たせた月間特集の企画など充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。 ・国立劇場おきなわでは、開場 20 周年記念公演(6 公演)を実施した。 ・インバウンド対応として、オーディオガイド・字幕タブレットを活用し、また、英語パンフレットの配布、テレビ・ラジオ・ホームページ・SNS、新聞広告、折り込みチラシに、海外 OTA への公演情報掲載による広報など様々な取組を推進した。 ・各分野において、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>公演数: 155公演/154公演(100.6%) 入場者数: 382,484人/377,240人(101.4%)(台風等災害による中止分を除いた場合の達成率は102.3%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善: 公演実績表参照 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数: 129,666人/130,997人(99.0%)(台風等災害による中止分を除いた場合の達成率は100.0%) 外国人向け公演の入場者数: 4,327人/2,901人(149.2%) オンライン動画配信の視聴者数: 1,154,991回/48,000回(2,406.2%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の公開 ア 主催公演の実施 ①歌舞伎 ・「初代国立劇場さよなら特別公演」に相応しい義太夫狂言の名作を、2か月連</p>

続の二部構成の形式で通し狂言として上演した(9月、10月「妹背山婦女庭訓」)。

- ・閉場後初の主催公演を代替劇場で上演した(1月新国立劇場「梶原平三誉石切」「芦屋道満大内鑑」「勢獅子門出初台」)。

②文楽

- ・「初代国立劇場さよなら公演」・「初代国立劇場さよなら特別公演」にふさわしい演目の上演を行った。
- ・5月公演に三大名作の一つ「菅原伝授手習鑑」の初段・二段目、8・9月公演に三段目から五段目と、51年ぶりの上演となる場面を含めた完全通し上演を行い、初代国立劇場の大団円にふさわしい構成をとった。
- ・また「菅原伝授手習鑑」に加え、5月は「夏祭浪花鑑」、8・9月は「寿式三番叟」「曾根崎心中」という人気狂言を併せて上演し、さよなら公演を盛り上げる構成が功を奏し、2公演で5万人に達する集客数を記録した。
- ・初代国立劇場閉場後も、引き続き12月にシアター1010で、2月に日本青年館ホールで文楽公演を開催した。共に大臣、盆回し床と、初代国立劇場での公演と遜色ない機構を実現させ、本格的な文楽公演の上演を可能にした。また、それぞれの地域の自治体等と連携しながら、文楽のファン層拡大を継続している。
- ・国立文楽劇場では、関西圏の新型コロナウイルス感染状況を考慮して三部制の興行形態を維持しつつ、4月文楽公演(初段～三段目)と夏休み文楽特別公演(四段目)で、「妹背山婦女庭訓」の現存する全ての段を文楽劇場では初めて通しで上演した。
- ・令和5年は近松門左衛門の300回忌に当たるため、文楽劇場では各月で近松の代表作を上演した(4月文楽公演「曾根崎心中」、11月文楽公演「冥途の飛脚」、初春文楽公演「平家女護島」)。11月文楽公演では、公演前に大阪市内にある近松門左衛門の墓を公演関係者が訪れ、近松の功績を讃えるとともに公演の周知を行った。
- ・文楽大阪公演では、夏休み文楽特別公演第1部親子劇場の解説において体験コーナーを、また終演時に人形遣いによる見送りを実施し、好評を得た。

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・各ジャンルとも「初代国立劇場さよなら公演」「初代国立劇場さよなら特別公演」にふさわしい内容の上演を行った。
- ・舞踊は〈舞踊名作集〉と題して、古典作品から現代的な作品まで様々な名作を取り上げ、日本舞踊界の第一線で活躍する重鎮から若手の舞踊家による上演で、高水準の舞台と技芸の伝承に資する成果を得ることができた。
- ・邦楽は現代邦楽の名作と国立劇場の委嘱作品を2回公演で対照的に構成したテーマ性の高い公演を上演した。初代国立劇場邦楽公演の掉尾を飾る公演では、人間国宝をはじめ各界を代表する演奏家から次代を担う実力派までが一堂に会し、優れた古典作品の数々を鑑賞いただける芸術性の高い公演を実施した。
- ・雅楽は、重要無形文化財「雅楽」保持者である宮内庁式部職楽部により、初代国立劇場さよなら特別公演にふさわしい、国立劇場で復活上演をした大曲と、稀曲を組み合わせた構成で、洗練された舞楽を上演した。
- ・声明は、さよなら公演として、南都仏教を代表して東大寺と、第1回公演をはじめ多数出演している真言宗豊山派を取り上げた。いずれも劇場ならではの演出で上演し、多様な声明を紹介することができた。
- ・民俗芸能は、最後の公演のテーマを「未来へつなぐ」とし、様々な形で現代に継承されている芸能の一端を紹介した。また、上演前に出演関係者の言葉で解説を付し、それぞれの芸能の背景や現状をリアルに伝えた。
- ・琉球芸能公演は、沖縄の伝統芸能を代表する組踊と琉球舞踊の多様な演目を紹介した。重要無形文化財保持者(各個認定)の出演者をはじめ今日の琉球芸能を代表する出演者が一堂に会し、東京で琉球芸能の至芸を披露した。
- ・特別企画公演では、6館(国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場、新国立劇場、国立劇場おきなわ)で取り組んでいる様々なジャンルの実演家の養成研修を修了したプロの実演家達を一堂に集め、各ジャンルのエッセンスを凝縮した形で切れ目なく展開していくこれまでにない構成として実施した。
- ・文楽劇場の舞踊公演は、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家が一堂に会し、歌舞伎舞踊、上方舞、素踊りの至芸を披露した。また、名作の復活上演にも取り組み上方舞の継承とレパートリーの拡充に寄与した。

- ・文楽劇場の特別企画公演は、民俗芸能から京都の壬生狂言を取り上げ、仏教由来で民間に育まれた伝統芸能の魅力と歴史的価値を紹介した。

④大衆芸能

- ・前年度に引き続き4月以降の公演を「初代国立演芸場さよなら公演」として、また、8月から10月の公演を「初代国立演芸場さよなら特別公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。
- ・令和6年1月以降より代替施設において定席公演に相当する公演を「国立演芸場寄席」と題して継続していく。
- ・国立文楽劇場では奇数月に開催している上方演芸特選会が安定した集客を実現した。
- ・関西浪曲界を代表する浪曲師が集う浪曲名人会では、若手を起用し立体浪曲を上演した。

⑤能楽

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- ・5月特別企画公演では特にワキ方の秘曲である能「檀風」を、また、能「源氏供養」をワキ方で大切に扱われている「語入」の小書で上演した。
- ・9月の国立能楽堂開場40周年記念公演ではのべ5日間にわたり、「翁」・狂言「獅子髻」・能「望月」など、現代能楽界を代表する演者による能・狂言の名作・大曲・稀曲の数々を上演した。
- ・10月特別企画公演では老女物の大曲、能「檜垣」を上演した。
- ・11月企画公演〈能と組踊〉では、能と組踊双方に共通するテーマを持つ作品を上演。能は1日目に「夜討曾我 十番斬」、2日目に「三井寺 二重座」と、両日とも稀な小書で作品を上演することができた。
- ・3月特別企画公演では老女物の大曲、能「鸚鵡小町」を上演した。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・開場20周年記念公演として、平成16年の開場記念公演になぞらえながら、組踊・琉球舞踊・三線音楽・沖縄芝居・民俗芸能・本土の芸能、他ジャンルにわたる公演を実施した。

イ 演目の拡充

- ・5月文楽公演、8・9月文楽公演の通しで上演した「菅原伝授手習鑑」では、上演機会の少ない場面を51年ぶりに取り上げてレパートリーの拡充を実現した。(5月公演「安井汐待の段」、8・9月公演「北嵯峨の段」「大内天変の段」)
- ・文楽劇場の4月文楽公演の第1部では「妹背山婦女庭訓」大序の大内の段を大阪では102年ぶりに上演した。
- ・6月邦楽公演で、「二つのファンタジー」「有為転変」を上演した。「有為転変」は、作品資料の乏しいなか初演に近い形態で上演したことで優れた演目を掘り起こすことができた。
- ・6月邦楽公演で、「有為転変」「水の相对」「南溟暁歌」「琵琶に磨臼」「風姿行雲」を復活上演した。いずれも国立劇場での再演は数十年振りになる作品で、レパートリーの拡充とともに実演家の技芸の継承に寄与した。
- ・8月舞踊公演において、昭和45年9月に制作した新作「鳥獣戯画絵巻」を初演時の出演者に所縁の演者・演奏者により53年ぶりに復活した。
- ・演芸場の10月特別企画公演「圓朝に挑む!」で、橘家圓太郎が、江戸落語を集大成し近代落語の祖とされる三遊亭圓朝作の「またかのお関」を現在の観客にも分かりやすいよう噺を再構成して上演した。
- ・能楽堂では、狂言「獅子髻」(9月開場40周年記念公演)の新演出での上演などにより、レパートリーの拡充を推進した。
- ・文楽劇場では、10月舞踊公演において「この鳥」を初演から64年ぶりに復活上演し、上方舞の継承とレパートリーの拡充に寄与した。
- ・国立劇場おきなわでは、組踊「花売の縁」を復元した。また、新作組踊「祝寿の舞」を上演した。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・中高生を主な対象とした鑑賞教室、社会人、親子を対象とした公演を実施した。
- ・夏休み文楽特別公演第一部親子劇場の「解説 文楽ってなあに」の中で質問コーナーを設け、技芸員との交流を図った。
- ・外国人を対象とした公演を実施した。

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

	<ul style="list-style-type: none"> ・「初代国立劇場さよなら公演」の実施に伴い、地方公共団体や図書館・カルチャーセンター等の文化施設と連携し、講座やステージツアー、公演鑑賞等のイベントの主催又は協力を積極的に行った。 (5) 快適な観劇環境の形成 ・観客用設備の適切な維持管理・改善を実施。 ・チラシ・ポスター等により快適な観劇環境を促進するためのマナー啓発を行った。 ・本館 12 月以降の代替劇場での公演実施にあたり、劇場ごとに異なる観劇環境を踏まえながら、各劇場の協力のもと、プログラムや劇場グッズの販売・イヤホンガイド等のサービスを提供した。 ・各館で上演演目等にちなんだフォトスポットを設けて、来場者の観劇記念とともに、来場者が SNS 等で発信することによる公演情報の周知も図った。 (6) 広報・営業活動の充実 ・公演情報等を公演関係トピックスとして振興会ホームページで公開し、公演 PR を行った。また、出演者のインタビュー映像や公演記録映像を活用したダイジェスト版映像も公演周知に活用した。 ・X(旧 Twitter)、Instagram、LINE に加え、TripAdvisor に写真を掲載するなど、SNS を利用した広報活動を実施した。 ・劇場の地元地域や演目に所縁の地域の観光協会との提携によるチラシ・ポスターの掲示や SNS での広報や、劇場近隣店舗や商業施設との協力によるコラボレーションキャンペーン、ホテル・旅行代理店との連携強化による公演の周知を実施した。 ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施した。 ・地域、美術館・博物館等の文化施設や旅行代理店等との連携による講座等のイベントを通じて、公演の広報・営業活動を積極的に展開した。 ・伝統芸能におけるインバウンドの集客を図るため、歌舞伎・文楽公演における外国人向け割引販売や英語版音声ガイドを実施した。また、8 月から海外 OTA での広報及びチケットの販売を開始した。 ・次世代の観客育成を図るため、「国立劇場キャンパスメンバーズ」会員校を対象にした講座・イベントや、「U29」等の若年層向け割引販売を実施した。 ・能楽堂では、7 月には 40 周年記念サイトを公開し、8 月には国立能楽堂公式 X(旧 Twitter)のアカウントを開設して、公演、イベント及び展示に関する情報を中心に国立能楽堂について能楽ファンへ広く発信した。 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・DM・専門誌等で随時発信した。 ・サービス向上のため、利用者へのアンケートを実施した。 ・再整備期間中の施設利用者向けの継続サービスとして、伝統芸能公演を実施するための相談窓口を設けて情報提供及び舞台技術職員等の派遣による技術協力に応じる体制を設けた。 ・施設の安全性が確認されている本館稽古室・研修室等の貸与を行った。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本館・演芸場においては代替劇場での公演が始まった。代替劇場で上演するにあたっては、まず会場の確保が困難であること、またその中で様々なジャンルの公演を継続できるように維持することが課題として挙げられる。半蔵門の地を離れることにより、50 年以上慣れ親しんでいただいていた観客をいかにつなぎ止められるか、また一方でいかに新たな顧客を開拓するか。多くの制約がある中ではあるが、伝統芸能の保存・普及を継続するため、これまで以上に特色ある企画内容とし、情報の早期公開が重要と考える。

[2] 現代舞台芸術分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を達成した。 ・現代舞台芸術分野全体の入場者数は、コロナ禍前の水準まで大幅に回復して、平成30年度以来となる20万人以上の実績を上げた。 ・オンライン動画配信の視聴者数については、目標値を非常に大きく上回った。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。 ・各分野の出演者が新国立劇場公演に関連し受賞をした。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	<p>公演数: 25公演/25公演(100.0%) 入場者数: 204,947人/185,780人(110.3%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善: 公演実績表参照 青少年を対象とした公演の入場者数: 17,870人/16,800人(106.4%) オンライン動画配信の視聴者数: 72,074回/15,000回(480.5%)</p>
主要な業務実績	<p>(2) 現代舞台芸術の公演</p> <p>①オペラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11公演 54回のオペラ公演を実施し、オペラ公演全体で目標入場者数を達成した(達成率108.1%)。 ・3作品を新制作し、レパートリーを充実させた。 ・新国立劇場開場25周年記念公演として「アイダ」「ラ・ボエーム」を上演した。 ・フィンランド国立歌劇場、テアトロ・レアルとの共同新制作により「シモン・ボッカネグラ」を上演した。 <p>②バレエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6公演 53回のバレエ公演を実施し、バレエ公演全体で目標入場者数を達成した(達成率111.3%)。 ・「くるみ割り人形」を、前年度に続いてお正月期間を含めて年末年始を通じて上演し、過去最高の入場者数を記録した前年度実績を更に上回ることができた。 ・「シェイクスピア・ダブルビル」では、新国立劇場バレエ団委嘱作品・世界初演となる『マクベス』、英国バレエの巨匠フレデリック・アシュトンによる『夏の夜の夢』の2作品を新制作上演し、高い評価を得た。 ・新国立劇場バレエ団のプリンシパルダンサー速水渉悟が、令和5年度(第74回)芸術選奨において文部科学大臣新人賞を受賞し、また、第30回中川鋭之助賞を受賞した。 ・新国立劇場バレエ団のプリンシパルダンサー米沢唯が、令和5年度名古屋市芸術奨励賞を受賞し、また、第76回中日文化賞を受賞した。 <p>③現代舞踊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2公演 4回の現代舞踊公演を実施し、現代舞踊公演全体で目標入場者数を大きく上回った(達成率133.9%)。 ・新国立劇場バレエ団初の試みとして、若手ダンサーにスポットライトを当てたガラ公演「DANCE to the Future: Young NBJ GALA」を実施し、抜擢された若手ダンサーが次世代の主役候補として成長するきっかけとなるとともに、観客がバレエ団の若手に注目する機会となった。 ・新国立劇場バレエ団の中から振付家を育てるプロジェクト「NBJ Choreographic Group」を継続的に実施し、今年度は長期的に作品制作に取り組めるよう、年度内に3回の試演会及びワークショップを行った。 <p>④演劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6公演 127回の演劇公演を実施し、演劇公演全体で目標入場者数を達成した

	<p>(達成率 111.3%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エンジェルス・イン・アメリカ」に出演した山西惇が、令和 5 年度(第 74 回)芸術選奨において<演劇部門>文部科学大臣賞を受賞し、また第 31 回読売演劇大賞において最優秀男優賞を受賞した。 ・公演に付随して実施する企画「ギャラリープロジェクト」を実施し、公演後のガイドツアーのほか、トークセッションはオンラインで配信した。 <p>(3) 青少年等を対象とした公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に青少年を対象とした公演等を 2 公演実施。 <p>(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・共催などによる公演等を 1 公演実施。 ・全国各地の文化施設等における公演を 6 公演実施。 ・国際文化交流公演等を 1 公演実施。 ・「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。 ・海外の劇場等での公演映像上映会にて、新国立劇場の公演記録映像が上映された。 <p>(5) 快適な観劇環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休止していた、オペラ劇場でのバックステージツアーを一部公演で再開した。また、若い世代により興味を持ってもらうことを目的として、25 歳以下の方(お連れ様を含む)が優先してバックステージツアーに参加できる日程も新たに設定した。 ・新制作オペラの作品理解を深め、興味関心を喚起するオペラトークを実施したほか、新制作オペラ・バレエ公演でプレトークやアフタートークを開催し、演劇ではスペシャルトークを実施した。 ・バレエ「シェイクスピア・ダブルビル」ではクラスレス見学会を実施した。 ・バレエ「くるみ割り人形」、オペラ「ドン・パスクワレ」で各 1 回、終演後の英語版バックステージツアーを実施した。 ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施(令和 5 年度障害者等による文化芸術活動推進事業)。 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページと SNS(Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram)を連動させ、映像も活用して積極的に情報発信に努めた。 ・初めてご来場するお客様向けの案内をまとめた「はじめての新国立劇場」サイトを公開した。 ・欧米の舞台専門サイト、専門誌に計 22 件広告出稿するとともに、記事掲載を働きかけた。実際に多数の記事掲載があった中で、新国立劇場「シモン・ボッカネグラ」の舞台写真は、英国の伝統あるオペラ雑誌「Opera Magazine」2024 年 2 月号の表紙を飾った。 ・オペラ「シモン・ボッカネグラ」で海外からジャーナリストを 7 名招聘し、新国立劇場の認知を高めるとともに、海外メディアでの露出を図った。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・上演機会の少ない公演の営業計画については、更なる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。

[3] 日本博の運営・実施

自己評定	A
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本博 2.0 移行の初年度として、専門家等による伴走型支援に試行着手するなど、採択事業者と緊密にコミュニケーションを図りつつ、インバウンドのニーズを捉え、来場者満足度の向上については、所期の目標を上回る成果を上げた。また、4月のG7 軽井沢外相会合及び5月の広島サミットにおけるプロモーション活動など、現地誘客の促進等の拡大に資する戦略的・一体的なプロモーションの実施を試み、インバウンドの増加に一定の成果を上げた。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	日本博採択事業の来場者満足度:39件/32件(121.9%)
主要な業務実績	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じ、採択事業者が展覧会・公演等の主要な取組を実施した際にインバウンドへの対応状況や参加者の実態を確認し、必要に応じて実施内容の改善点等を助言した。特に、5月から6月にかけては文化庁と連携し、フランス人美術史家ソフィー・リチャードに依頼し、採択事業(国立劇場・東京国立近代美術館・国立新美術館等)における文化資源の磨き上げについて、同氏の視点から助言を得る機会を設けたほか、7月から8月にかけては、文化庁と共に訪日外国人の満足度向上に係る取組状況、日本博事業及び事務局へ期待することについて東京都近郊の採択事業者へのヒアリングを行った。これらの取組を通じて、事業の実態及び各事業者の抱える課題を把握、2025 大阪・関西万博に向けた日本博の在り方を検討するための足掛かりを得た。 2025 大阪・関西万博に向けて、インバウンドのニーズに的確に応え、戦略的・一体的かつ継続的なプロモーションを展開するため、「日本博 2.0 プロモーション3カ年計画」を策定した。同計画に基づき、日本博公式ホームページを日本博の各事業を面で捉えた雑誌型の英語サイトへと大幅リニューアルし(8/31 公開)、アート関心層をはじめとするインバウンドをターゲットとした、日本の文化事業への誘客に適したツールとしての運用を開始した。このほか、アクセス分析を踏まえたオンライン広告の掲出を含む SNS の戦略的な活用、英語及び仏語タブロイドの制作・配布、プロモーション動画の制作・放映を通じた国内外への情報発信に取り組んだ。Instagram のフォロワー数は1.4万人を達成(対前年度比2,000人増)した。 旅マエのプロモーションの一環として、海外旅行会社が集う旅行商談会である JAPAN Travel & MICE Mart 2023(JNTO 主催)に日本博事務局として初めて参加し、海外バイヤー26社と直接対面で交渉することを通じて、日本博事業の認知度を測るとともに、インバウンドのニーズ把握及び市場動向を調査した。また、この取組を踏まえ、採択事業者から数事業者を選定し、JTB と連携しながら具体的なインバウンド旅行商材の開発に着手した。 旅ナカのプロモーションの一環として3月に国立劇場と連携し、羽田空港における文楽と日本舞踊のイベントにてインフルエンサーの活用、SNS 等による情報拡散等、インバウンドへ直接日本博 2.0 を紹介する機会を創出した。 各国の首脳らと報道機関に日本文化の魅力を直接発信する機会として、4月のG7軽井沢外相会合及び5月の広島サミットでは日本企業の最先端技術と京都の職人の技による国宝屏風の高精細複製品を活用した広報展示や蒔絵のワークショップ等を、12月の日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議パートナーズ・プログラムでは国立能楽堂が中心となって能楽体験プログラムを、それぞれ開催した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の文化芸術の魅力を磨き上げ、国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を引き続き運営し、採択事業者と緊密にコミュニケーションを図りつつ、来場者満足度を高水準で維持するとともに、外国人来場者の増加に一層努め、2025年大阪・関西万博へ向けたスタートダッシュを加速させる。 ポスト日本博 2.0 について文化庁と密接に連携・検討する。

(1) 伝統芸能の公開	19
ア 主催公演の実施	20
① 歌舞伎	21
② 文楽	24
③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	27
④ 大衆芸能	32
⑤ 能楽	36
⑥ 組踊等沖縄伝統芸能	40
イ 演目の拡充	43
ウ 日本博に関連した公演等の企画・実施	45

2-(1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で多様な伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

再整備期間中に実施する代替施設での公演においては、新たな観客層の獲得に資する上演方法等を検討

ア 歌舞伎公演:筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施

イ 文楽公演:「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施

ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演:質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施

エ 大衆芸能公演:寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施

オ 能楽公演:伝統的な能狂言の演目と各流の演者を能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演:組踊等沖縄伝統芸能の鑑賞機会の提供、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、別表1のとおり主催公演を実施、国立劇場・国立演芸場のさよなら公演及び閉場式を実施、再整備期間中は代替施設で公演を実施、日本博に関連した公演を企画

イ 演目の拡充

①歌舞伎:復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

新作歌舞伎脚本の募集とその周知

②文楽:新作の上演に向けた上演台本作成作業、上演が途絶えていた場面の復活上演のための準備

③大衆芸能:上演機会の少ない優れた演目の上演

④能楽:上演機会の非常に稀な作品の上演、国立能楽堂制作による新作作品の再演、他の能楽堂等で上演された復曲作品の再演

⑤組踊等沖縄伝統芸能:国立劇場おきなわ開場20周年を記念する公演として組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居、民俗芸能及び本土の芸能など多様なジャンルの公演の上演
上演機会の少ない優れた演目の上演

「新作組踊戯曲大賞」の公募・選考・表彰

ア 主催公演の実施

《分野別 公演実績(伝統芸能分野総計)》

分野	実績					計画					入場者数 達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	5	147	106	127,825	60.3%	5	147	106	137,900	65.5%	92.7%
文楽	10	455	167	153,860	50.8%	10	416	170	142,950	52.3%	107.6%
舞踊	5	7	5	4,058	56.9%	5	7	5	5,030	70.5%	80.7%
邦楽	4	8	5	2,973	66.4%	4	6	5	2,510	71.6%	118.4%
雅楽	1	1	1	1,305	81.1%	1	1	1	1,200	74.5%	108.8%
声明	2	3	2	4,502	93.2%	2	3	2	3,970	82.2%	113.4%
民俗芸能	1	1	1	305	51.7%	1	1	1	500	84.7%	61.0%
琉球芸能	1	2	1	1,050	89.0%	1	2	1	970	82.2%	108.2%
特別企画	4	5	4	2,362	47.7%	4	5	4	2,920	59.0%	80.9%
舞踊・邦楽等	18	27	19	16,555	66.8%	18	25	19	17,100	71.8%	96.8%
大衆芸能	49	209	206	35,865	62.3%	47	204	202	33,594	59.9%	106.8%
能楽	50	59	54	36,010	97.3%	50	59	54	33,230	89.8%	108.4%
組踊等	23	37	34	12,369	63.5%	24	38	35	12,466	63.0%	99.2%
合計	155	934	586	382,484	58.5%	154	889	586	377,240	60.8%	101.4%

※入場者数達成率 = 実績入場者数 / 計画入場者数

※単位は、公演数:公演、回数:回、日数:日、入場者数:人

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※公演収支の改善状況については、(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等に記載。

※台風6号のため、8月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」(8/5)を中止した。また、出演者に体調不良者が出たため、夏休み文楽特別公演の一部日程を中止した(8/2~5)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ以下のとおり。

文楽(A)140,041人 (B)109.9%、組踊等(A)12,099人 (B)102.2%、伝統芸能合計(A)373,964人 (B)102.3%。

《館別 公演実績(伝統芸能分野総計)》

館名	公演数	回数	日数	入場者数	入場率
国立劇場	18	271	140	180,933	64.7%
大劇場	10	135	91	126,884	62.1%
小劇場	8	136	49	54,049	71.5%
代替劇場(国立劇場)	6	82	53	33,621	55.7%
国立演芸場	34	151	149	27,558	60.8%
代替劇場(国立演芸場)	7	31	31	3,918	52.8%
国立能楽堂	50	59	54	36,010	97.3%
国立文楽劇場	17	303	125	88,075	43.1%
文楽劇場	10	277	100	84,348	42.2%
小ホール	7	26	25	3,727	90.2%
振興会小計	132	897	552	370,115	58.4%
国立劇場おきなわ	23	37	34	12,369	63.5%
大劇場	20	32	29	11,402	62.3%
小劇場	3	5	5	967	80.9%
合計	155	934	586	382,484	58.5%

※国立劇場・国立演芸場の再整備に伴う代替劇場での公演の実績は、全て「代替劇場」として表示。

※単位は、公演数:公演、回数:回、日数:日、入場者数:人

① 歌舞伎

◀制作方針▶

9月と10月は、これまでの歌舞伎公演の集大成として、〈初代国立劇場さよなら特別公演〉にふさわしい充実した内容の公演を制作する。1月は、初めての外部での主催公演として、代替劇場の特性に合わせた公演を実施し、正月らしい華やかな公演を提供する。

6月・7月には青少年等を対象とした入門公演を実施する。東京公演の後に、6月は静岡県、7月は神奈川県において移動公演を実施する。6月は外国人向けの公演も実施する。

以上により、歌舞伎の保存・振興を図る。

○

〈初代国立劇場さよなら特別公演〉の掉尾を飾る9月・10月の歌舞伎公演は、義太夫狂言屈指の名作『妹背山婦女庭訓』を、2か月にわたる二部制の通し狂言として上演する。明和8年(1771)に大坂竹本座で人形浄瑠璃として初演された本作は、同年歌舞伎に移されて以降、今日まで繰り返し上演を重ねている人気演目である。当劇場では、平成8年(1996)の開場30周年記念公演以来、27年ぶりの通し上演となる。

9月の第一部は、太宰家と大判事家の悲劇を描いた名場面「吉野川」を中心とした場割で上演する。悲劇の背景がより分かりやすくなるよう、雛鳥と久我之助が出会う「春日野小松原」、蘇我入鹿が定高と大判事に難題を突き付ける「太宰館花渡し」を前に付けた場面構成とする。中村時蔵が太宰後室定高を、尾上松緑が大判事清澄を共に初役で演じる。中村梅枝の太宰息女雛鳥、中村萬太郎の久我之助清舟、坂東亀蔵の蘇我入鹿ほか、華やかな共演者を得て、充実した舞台を目指すとともに、次世代への芸の継承を図る。

10月の第二部は、帝を僭称する蘇我入鹿とそれに対峙する漁師鱧七、そして恋する人のために命を落とすお三輪をめぐる名場面「三笠山御殿」を中心とした場割で上演する。序幕に、求女をめぐってお三輪と橘姫が恋の鞘当を繰り広げる竹本による舞踊「道行恋苧環」をつけ、二幕目の「御殿」に続く物語への導入部にするとともに、竹本連中には、国立劇場養成事業出身者で初の重要無形文化財保持者となった竹本葵太夫を筆頭に、直近の研修修了者等が出演し、初代国立劇場の大きな成果の一つともいべき歌舞伎音楽竹本の芸の継承とその到達点を見せる。大詰には、開場後間もない昭和44年に戸部銀作の脚本により上演した「三笠山奥殿」「入鹿討伐」を平成8年以来27年ぶりに上演し、藤原鎌足による入鹿討伐という作品全体を貫く大きなテーマを完結させ、通し狂言の上演に重きを置いてきた初代国立劇場公演の掉尾を飾る。尾上菊五郎が藤原鎌足を、また本年新たに重要無形文化財保持者に認定された中村歌六が蘇我入鹿を演じるのをはじめ、中村時蔵の豆腐買おむら、中村芝翫の鱧七、尾上菊之助のお三輪ほか、初代国立劇場歌舞伎公演を締めくくりにふさわしい華やかな共演者を得て、充実した舞台を目指す。

初春歌舞伎公演は、初代国立劇場閉場後初めての代替劇場での歌舞伎の主催公演となる。新国立劇場中劇場を会場として、尾上菊五郎を中心とする国立劇場の正月にお馴染みの俳優陣の出演により、『梶原平三誉石切』、『芦屋道満大内鑑―葛の葉―』、『勢獅子門出初台』の三本を取り揃え、新春らしい華やかで見応えのある芝居作りを目指す。『梶原平三誉石切』では尾上菊之助が初役で梶原平三景時を勤め、また『葛の葉』では中村梅枝が同じく初役で女房葛の葉と葛の葉姫を勤めるほか、『勢獅子門出初台』では尾上菊五郎や中村時蔵ら第一線の世代と子・孫の世代が共に舞台に立つなど、次代を担う若手俳優たちが新たな役に挑む“芸の継承”の機会としても意義のある公演となることを企図する。

○

歌舞伎を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図ることを目的として、主に歌舞伎初心者を対象とした解説付きの入門公演「歌舞伎鑑賞教室」を実施する。本シリーズは昭和42年から継続して開催している。

6月は、近松門左衛門が神話の世界を描いた『日本振袖始』を上演する。本作は昭和46年12月に当劇場で復活され、今や人気演目の一つとして定着している。歌舞伎鑑賞教室の演目としては、平成30年7月以来2度目の上演となる。毒酒によって次第に本性を顕す岩長姫の妖艶な女方の芸や、八岐大蛇が分身と共に素戔嗚尊と対峙するダイナミックな立廻り、また義太夫節や大薩摩、箏・胡弓等のバラエティー豊かな音楽など、歌舞伎らしい魅力に溢れ、鑑賞教室に相応しい演目と言える。中村扇雀と中村虎之介の親子が共に初役で、岩長姫実ハ八岐大蛇と素戔嗚尊に挑む。併せて、歌舞伎の魅力や様々な約束事、作品の見どころなどを分かりやすく紹介するため、『解説 歌舞伎のみかた』を上演する。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を9日(金)午後7時開演で実施する。さらに、東京以外での鑑賞機会を提供するため、26日(月)に静岡市の静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップで移動公演を行う。

7月は、義太夫狂言の中でも特に有名な一場面『双蝶々曲輪日記―引窓―』を取り上げる。本作は、複雑な人間関係の中で登場人物一人一人が互いを思いやる心の機微が丹念に描かれた秀作として定評がある。歌舞伎に初めて触れる観客が置き去りにされないことがないよう、観劇前の「歌舞伎のみかた」で、登場人物の関

係性や、芝居を見る上で役に立つ予備知識を最大限丁寧に解説し、味わい深い芝居の魅力を紹介する。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を6日(木)・20日(木)午後6時半開演で実施する。また、各種学校の夏休み期間に当たる16日(日)と20日(木)～24日(火)は、「親子で楽しむ歌舞伎教室」として、児童・生徒と保護者が一緒に鑑賞できる機会を提供する(20日は午後2時半の回のみ)。さらに、国立劇場以外での鑑賞機会を提供するため、26日(水)・27日(木)に横浜市の神奈川県立青少年センターで移動公演を行う。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
9月歌舞伎公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」 ＜第一部＞	9/2～26 本館大劇場	23	23	10,489	31.1%	23	23	17,200	49.2%	61.0%
10月歌舞伎公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」 ＜第二部＞	10/4～26 本館大劇場	21	21	18,612	58.3%	21	21	17,200	53.9%	108.2%
1月歌舞伎公演 「梶原平三誉石切」「芦屋道満大内鑑」 「勢獅子門出初台」	1/5～27 新国中劇場	21	21	10,214	47.2%	21	21	14,900	78.2%	68.6%
6月歌舞伎鑑賞教室 「日本振袖始 一八岐大蛇と素戔嗚尊」	6/2～24 本館大劇場	42	21	41,722	65.4%	42	21	39,200	61.4%	106.4%
7月歌舞伎鑑賞教室 「双蝶々曲輪日記 一引窓」	7/3～24 本館大劇場	40	20	46,788	77.0%	40	20	49,400	81.3%	94.7%
歌舞伎【合計】	5公演 計画:5公演	147	106	127,825	60.3%	147	106	137,900	65.5%	92.7%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・歌舞伎公演専門委員会について、第1回は9/27に、第2回は3/13に開催した。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率(B/A)	満足回答率(D/C)
5公演	—	2,319	2,044	2,012	—	98.4%

※「Discover KABUKI」については、ウェブ回答方式で実施。そのため、配布数及び回収率は計測できない。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・初代国立劇場さよなら特別公演にふさわしい演目として、古典歌舞伎の大作「妹背山婦女庭訓」を、9月・10月の2か月にわたる通し狂言として上演することで、国立劇場の存在意義を示すことができた。
- ・他劇場でも多くの歌舞伎公演が行われる中、限られた出演陣で特別公演を成立させたことに対し、専門委員から「歌舞伎座のほか地方公演も複数重なり、また歌舞伎界の世代交代が進んでいるなかで、国立劇場の掉尾を飾るにふさわしい顔ぶれを揃え、適材適所の配役による公演を成立させた」との評価を得た。
- ・9月公演で上演した「吉野川」は、中村時蔵の太宰後室定高、尾上松緑の大判事清澄、中村梅枝の雛鳥、中村萬太郎の久我之助と、いずれも初役であったが、「熱量の高い充実した舞台」との評価を得ることができた。新聞評に「国立劇場らしい好企画で、伝承の危ぶまれる演目を次代につなぐ貴重な上演になった」とあったとおり、充実した舞台成果を上げることができた。
- ・10月公演は、座頭の尾上菊五郎が初日から休演という事態となったが、中村時蔵が藤原鎌足を勤めたほか、蘇我入鹿役の中村歌六や漁師鱈七役の中村芝翫、杉酒屋娘お三輪と采女の局役の尾上菊之助、また烏帽子折求女役の中村梅枝や橘姫役の中村米吉など、ベテランから若手までバラエティーに富んだ俳優陣が芝居を盛り立て、竹本連中の安定感のある演奏も芝居に厚みを持たせることに大いに貢献した。尾上菊市郎が勤めたいじめの官女など、名題以下の俳優陣の活躍も目立ち、総じて充実した舞台成果を上げることができた。
- ・国立劇場における尾上菊五郎を中心とした初春歌舞伎公演とえば、近年は派手な演出を取り入れた復活狂言や通し狂言の形態での上演が定着していたが、歌舞伎の上演を前提として設計されていない代替劇場での上演に当たり、公演形態を見直して複数の演目をバランスよく取り揃えた見取り形式での上演に舵を切り、尾上菊之助や中村梅枝ら歌舞伎の次代を担う世代が初役で古典の大役に挑む機会を創出した(『梶原平三誉石切』『芦屋道満大内鑑』)。仮設花道を設置できない代わりに既存の観客用避難通路を代用し、通

路の手摺りに装飾を施したり、舞台上部に国立劇場と新国立劇場の紋を並べた場吊り提灯を掲げたりするなど、歌舞伎を上演する劇場らしい雰囲気作りにも注力した。『勢獅子門出初台』では、尾上菊五郎、中村時蔵ら第一線の世代から子・孫の世代までが一堂に揃い、初春公演に相応しい祝祭的な雰囲気を観客に提供するなど、総じて充実した内容の公演を制作することができた。

【特記事項】

- ・1 階客席上手側に仮花道を設置して「両花道」の演出で上演した(9 月歌舞伎公演「妹背山婦女庭訓」吉野川の間)。
- ・中村時蔵が「妹背山婦女庭訓」の太宰後室定高ほかの演技により、第 45 回松尾芸能賞の大賞を受賞した(9 月歌舞伎公演)。
- ・尾上菊五郎が体調不良のため初日から千穉楽まで休演し、中村時蔵が藤原鎌足を勤めた(10 月歌舞伎公演)。
- ・10/23 行幸啓(10 月歌舞伎公演)があった。
- ・10/26 千穉楽の来場者全員に特製手拭いを進呈した。また、終演後には舞台上で長谷川眞理子理事長による挨拶と中村歌六の音頭による手締めを行った(10 月歌舞伎公演)。
- ・10/18 に NHK BS プレミアム番組「プレミアムステージ」放送用に映像収録を行った。(10 月歌舞伎公演。令和 6 年 3 月放送)

② 文 楽

◀制作方針▶

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場면을積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリーの拡充につながるよう、また観客に対しても文楽の作品の多様さを伝えられるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

○

初代国立劇場での文楽公演の集大成として、5月公演と8・9月公演の2公演にかけて、浄瑠璃三大名作の一つと言われる「菅原伝授手習鑑」を全段通して上演する。5月公演「安井汐待の段」、8・9月公演「北嵯峨の段」「大内天変の段」という、東京での上演が51年ぶりとなる場面を含む画期的な企画を目指す。

「菅原伝授手習鑑」と併せて、5月公演では大阪の市井を描いた人気の高い世話物「夏祭浪花鑑」、8・9月公演では祝儀曲「寿式三番叟」と文楽最高の人気演目である「曾根崎心中」を上演する。文楽の魅力が存分に伝わる対照的な狂言立てにより、初代国立劇場文楽公演の締めくくりとする。

12月は、中堅、若手技芸員が中核を担う公演。本年は『源平布引滝』の三段目を上演する。代替劇場での初めての公演ということで道具の杯数の比較的少ない演目を選定し、舞台費を抑えるとともに国立劇場に比較して制約が多いシアター1010の舞台での上演を可能にする一方で、本格的な時代物の名作を上演することで、大臣や盆回し床を設置するなど舞台設備のクオリティを維持し、代替劇場においても国立劇場での上演時に劣らない本格的な文楽公演を継続する。また配役面では、進境著しい若手に難役を割り当て、今後の技芸の向上につなげてゆく。

代替劇場での初の文楽本公演である2月文楽公演は、会場である日本青年館ホールが、場内で飲食ができない条件であることから上演時間がコンパクトな三部制を採り、それぞれに劇的要素の濃い名作と軽快かつ華麗さに富んだ景事との組み合わせにて文楽の醍醐味をお楽しみいただく。

○

文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症予防対策として当面の間は三部制公演とする。5年度は、探求心が旺盛で熱心な文楽ファン向けに時代物通し狂言の分割上演、近松門左衛門300回忌にちなんで近松作の演目を各公演で努めて上演することとし、新たな観客層の開拓を図ることを企画した。

「妹背山婦女庭訓」を現在上演可能な場面を全て上演すべく、4月公演では第1部で初段から二段目まで、第2部で三段目を上演し、四段目は夏休み特別公演の第2部で上演する。「妹背山婦女庭訓」の大序である大内の段は大阪では大正10年以来102年ぶりの上演となる。第3部は近松門左衛門作の「曾根崎心中」を上演する。

夏休み特別公演は、定着している第1部を親子劇場、第2部を名作劇場、第3部をサマーレイトショーと題した三部制で実施した。第1部は親子劇場として、未就学児や小学生の観客を育成する目的で、親子で鑑賞できる内容で構成する。今回は、平成26年に文楽劇場で初演した「かみなり太鼓」、文楽劇場開場後文楽のレパートリーとして定着した「西遊記」から孫悟空登場篇を上演した。文楽が上演可能な国内の劇場の中で唯一宙乗りが可能な劇場である点を活かし、夏休み文楽特別公演では、10年間上演の機会を模索してきた人気演目「西遊記」における宙乗り演出を採用した。「解説 文楽ってなあに」は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けて、3年ぶりに体験コーナーを実施する。第2部は名作劇場として、「妹背山婦女庭訓」の四段目を上演し、大詰の入鹿誅伐の段は大阪では46年ぶり、文楽劇場では初めての上演である。第3部は夏狂言の定番「夏祭浪花鑑」を上演する。

11月文楽公演は、人形浄瑠璃文楽の本拠地である国立文楽劇場における令和5年の掉尾を飾るもので、三部制を継続しながら、令和5年度(第78回)文化庁芸術祭主催公演にふさわしい充実した内容とする。各部に人間国宝が出演し、従来からの文楽ファンの期待に応える演目を揃える。第1部は、大坂の市中や近郷を舞台にした世話物「双蝶々曲輪日記」と、にぎやかな景事「面売り」を上演する。第2部では近松半二による重厚な時代物の大曲、「奥州安達原」より三段目を朱雀堤の段から貞任物語の段まで上演する。第3部は近松門左衛門300回忌として、世話物の傑作である「冥途の飛脚」を上演する。

初春文楽公演は、第1部は令和6年の繁栄を願って「七福神宝の入船」で、幕を開ける。おしゅん伝兵衛の心中物を題材にした「近頃河原の達引」を上演、ツレ弾きの入る門付け芸の猿唄「お猿はめでたや」で賑やかな終演である。第2部では熱心な文楽ファン向けに、御家騒動物の「伽羅先代萩」を上演、床下の段は文楽劇場では11年ぶりの上演である。第3部は近松門左衛門没後300年に当たるため、「平家女護島」鬼界が島の段と、八百屋お七の櫓登りが文楽独特の演出である「伊達娘恋緋鹿子」を上演。「伊達娘恋緋鹿子」の八百屋内の段は文楽劇場では14年ぶりの上演である。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	

5月文楽公演 通し狂言「菅原伝授手習鑑」 「夏祭浪花鑑」	5/11～30 本館小劇場	57	19	20,397	64.7%	57	19	21,500	68.7%	94.9%
8・9月文楽公演 通し狂言「菅原伝授手習鑑」 「寿式三番叟」 「曾根崎心中」	8/31～9/24 本館小劇場	69	23	29,707	77.9%	69	23	21,500	56.8%	138.2%
12月文楽公演 「源平布引滝」	12/4～14 シアター1010	11	11	3,928	67.9%	10	10	4,950	94.8%	79.4%
2月文楽公演 「二人三番叟」 「仮名手本忠臣蔵」 「艶容女舞衣」 「戻鴛色相肩」 「五条橋」 「双蝶々曲輪日記」	2/5～13 日本青年館	27	9	10,013	47.6%	18	9	10,700	76.3%	93.6%
12月文楽鑑賞教室 「団子売」 「傾城恋飛脚」	12/5～14 シアター1010	20	10	8,361	79.5%	20	10	7,800	74.7%	107.2%
文楽(東京)【小計】	5公演 計画:5公演	184	72	72,406	67.7%	174	71	66,450	67.2%	109.0%
4月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」 「曾根崎心中」	4/8～30 文楽劇場	66	22	19,519	42.5%	66	22	14,000	30.3%	139.4%
夏休み文楽特別公演 「かみなり太鼓」 「解説 文楽ってなあに？」 「西遊記」 「妹背山婦女庭訓」 「夏祭浪花鑑」	7/22～8/13 文楽劇場	54	18	15,790	40.0%	66	22	16,000	33.3%	98.7%
11月文楽公演 「双蝶々曲輪日記」 「面売り」 「奥州安達原」 「冥途の飛脚」	11/4～26 文楽劇場	66	22	16,061	33.3%	44	22	15,000	46.9%	107.1%
初春文楽公演 「七福神宝の入船」 「近頃河原の達引」 「加羅先代萩」 「平家女護島」 「伊達娘恋緋鹿子」	1/3～22 文楽劇場	57	19	17,185	41.2%	38	19	15,000	54.3%	114.6%
6月文楽鑑賞教室 「五条橋」 「解説 文楽へようこそ」 「仮名手本忠臣蔵」	6/8～22 文楽劇場	28	14	12,899	63.0%	28	14	16,500	81.1%	78.2%
文楽(大阪)【小計】	5公演 計画:5公演	271	95	81,454	41.6%	242	99	76,500	43.9%	106.5%
文楽【合計】	10公演 計画:10公演	455	167	153,860	50.8%	416	170	142,950	52.3%	107.6%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※出演者に体調不良者が出たため、夏休み文楽特別公演の一部日程を中止した(8/2～5)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ以下のとおり。

夏休み文楽特別公演(A)16,000人×54回/66回=13,091人 (B)120.6%

文楽(大阪)合計(A)73,591人 (B)110.7%、文楽合計(A)140,041人 (B)109.9%。

- ・上記公演以外に、文楽未体験者や訪日外国人に向けた文楽普及を目的とした文楽入門公演「BUNRAKU 1st SESSION」を開催した(3/23～29。会場：有楽町よみうりホール。入場者数4,165名)。

(b) 外部専門家等の意見

- ・文楽公演専門委員会(本館)について、第1回を7/13に、第2回を3/25に開催した。
- ・文楽公演専門委員会(文楽劇場)について、第1回を9/5、第2回を3/5に開催した。

(c) アンケート調査

区分	公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率(B/A)	満足回答率(D/C)
東京	5公演	—	1,504	1,323	1,312	—	99.2%
大阪	5公演	1,360	1,084	1,022	1,005	79.7%	98.3%
合計	10公演	—	2,588	2,345	2,317	—	98.8%

※本館、文楽劇場はアンケート用紙の配布によるアンケートを実施。

※本館12月「Discover BUNRAKU」については、無料配布プログラムにQRコードを印刷した紙を挟み込み、Web回答式で実施。そのため、配布数及び回収率は計測できない。

(d) 優れた業績・評価すべき点

<東京公演>

- ・本館5月公演は、昭和47年5月以来、東京では51年ぶりの上演となる「安井汐待の段」の復活等、大作

「菅原」の完全通し上演がさよなら公演にふさわしい画期的な企画として評価された。また、第三部も、「夏祭」における重鎮、中堅が火花を散らす配役による舞台が好評を博した。公演開始後に、芸芸員の談話を掲載した YouTube 動画等 による宣伝活動の強化が功を奏し、期間の後半には集客が上向きとなった。さよなら公演ならではの企画性に鑑みるとともに、収支の改善を図るため、入場料金の値上げを実施したこともあり、公演収支がコロナ禍以前でも稀な黒字額を記録した。

- ・数年前より 2 月(近松名作集)、5 月(「菅原伝授手習鑑」前半と「夏祭浪花鑑」)公演、そして 8・9 月公演と、初代国立劇場最終公演に向けて世間の関心を徐々に高めるラインナップを想定、準備してきた甲斐あって、完全通しの「菅原伝授手習鑑」の完結、切語り総出演(結果的に咲太夫は休演)の「三番叟」そして最高人気演目「曾根崎心中」という極め付けの狂言建を文楽座の総力を結集した形で成立させ、初代国立劇場最後の文楽公演を、有料入場者数、公演収支とも目標を大きく上回る、東京公演としては過去最高の好成績を実現できた。
- ・本館 12 月文楽公演は代替劇場での初の文楽本公演であったが、昨年 12 月の鑑賞教室・若手公演の経験を活かし、舞台の質を維持しつつ円滑に公演を遂行することができた。
- ・本館 12 月文楽公演は、初の代替公演会場となったシアター1010 が、交通アクセスの良さや階下を含め商業施設に隣接していることから観劇環境として良好との評価も相まって好意的な評価を得られた。また、九郎助住家の段の切場の後半に起用した豊竹芳穂太夫は、経験豊富な野澤錦糸の三味線を得て若手ながら進境著しいところを見せた。
- ・本館 2 月文楽公演は、近年の文楽公演では例がなかったが、第一部の開演時間を 12 時に設定することで、食事スペースがないホール環境において、食事を済ませてから観劇ができるように配慮した。また通常の 11 時開演よりゆとりを持って劇場に足を運ぶことへの好評価が得られた。
- ・文楽公演プログラムの販売につき、販売部数が有料入場者数の 50%近くに及んでも赤字となる状態が続いていたが、販売条件が会場ごとになる代替劇場での公演に鑑み、収支改善のため、12 月文楽公演から仕様や販売価格を根本的に見直した結果、同公演では 600 千円以上の黒字となった。
- ・12 月公演、2 月公演ともに本格的な文楽公演上演に必要な舞台装置である大臣や盆回し床を設置するなど、文楽公演をより完全に近い形で維持できたことが多くの観客から支持を受けた。
- ・3/23～29 に有楽町よみうりホールにおいて文楽入門公演「BUNRAKU 1st SESSION」を開催した。文楽とアニメーションとをコラボレーションさせる企画で、『曾根崎心中』天神森の段を、男鹿和雄が描いた背景美術を用いて上演した。初心者向けの解説と合わせて 60 分という極めてコンパクトな上演形態で、英語によるパンフレット配布やイヤホンガイド貸付(いずれも無料)も行い、文楽未体験者や訪日外国人に向けた文楽普及の形態を確立することができた。

＜大阪公演＞

- ・近松門左衛門 300 回忌を契機として、文楽劇場 4 月文楽公演において「曾根崎心中」、11 月文楽公演において「冥途の飛脚」、初春文楽公演において「平家女護島」を上演した。連続して同作者の作品を取り上げることで観客の注目を集めた。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演の第 1 部「西遊記」において、宙乗り場面となる釜煮の段では入念な台本の改訂及び作曲者による周到な補曲を得て、文楽ならではの出遣いの姿のまま、上下動を取り入れた宙乗りによって観客の頭上間近に迫る迫力のある宙乗りの場面を実現し、本作の最大の見せ場として際立たせることに成功した。
- ・英文を付した公演映像を海外へ向けて有料配信した(文楽劇場夏休み文楽特別公演)。
- ・文楽劇場 4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11 月文楽公演の第三部において「開演後割引」を実施し、仕事帰り等の客層を取り込んだ。

【特記事項】

- ・公益財団法人文楽協会創立 60 周年記念(本館：5 月文楽公演)
- ・ライブエンタメ産業の基盤強化支援補助金(J-LOX)申請(文楽劇場 6 月文楽鑑賞教室、文楽劇場夏休み文楽特別公演)
- ・本館 8・9 月文楽公演では、国立劇場閉場にちなみ、9/6、12、19 の第一部開演前に「おたのしみトーク」と題し芸芸員に劇場での思い出話や改修中の文楽公演の案内を呼びかけるコーナーを設けた。
- ・本館 8・9 月文楽公演千種楽 9/24 の第一部～第三部にご来場のお客様に千種楽記念の大入り袋を配布し、第三部終演後にカーテンコールを行った。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演について、公演関係者の間に感染症罹患者が増加したため 8/2～5 を休演とした。また、8/6 からは感染予防対策として、第 1 部「解説 文楽ってなあに」における体験コーナーを質問コーナーに企画変更した上で実施した。
- ・国立文楽劇場令和 5 年初春文楽公演「壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段」について、中堅・若手の太夫・三味線に、ベテラン・中堅の人形遣いという組み合わせで上演し、刮目すべき舞台成果を上げたことに加えて、ベテラン・中堅・若手の共演によって大曲の芸芸が継承されたという点、また SNS 等で話題を呼び、新たな観客層に文楽をアピールしたという点も成果を大きく評価されて、令和 5 年度大阪文化祭賞を受賞した。

③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

《制作方針》

本館の舞踊公演では、「初代国立劇場さよなら公演」として、大劇場では〈舞踊名作集〉と題した公演を実施し、古典作品から現代的な作品まで、様々な名作を上演することで、日本舞踊の多彩な魅力を伝えることを目指す(全3回中今年度2回実施)。小劇場及び代替劇場では、日本舞踊初心者を対象とした公演を行い、舞踊に親しめるきっかけ作りを行う。いずれも、公演の意図や性格に適した舞踊家を積極的に起用する。

本館の邦楽公演では、古典の演奏会から邦楽の創作の歴史を振り返る公演など、今まで国立劇場が行ってきた公演の総括となる企画を実施し、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には重要無形文化財保持者を中心に、公演の方針や作品の内容に応じて適宜すぐれた演奏家を起用する。

雅楽公演では、昭和41年の開場以来、雅楽公演を舞楽・管絃・舞楽法会等の形式で行い、その魅力を様々な観点から紹介してきた。初代国立劇場さよなら特別公演では、第1回公演をはじめ最も多く出演している、重要無形文化財「雅楽」保持者である宮内庁式部職楽部の舞楽を上演する。さよなら特別公演にふさわしく国立劇場で復活上演をした大曲と稀曲を組み合わせた構成とし、洗練された舞楽を上演する。

声明公演は、「初代国立劇場さよなら公演」及び「さよなら特別公演」として、2公演実施する。国立劇場では、従来儀礼として行われてきた仏教音楽・声楽の芸術的な側面に光を当て、日本の伝統音楽の一ジャンルとして「声明」を確立し、広く公開してきた。国立劇場第1回声明公演で上演したことで、いわば仏教音楽の歴史において転換点の一つとなった演目である、真言宗豊山派総本山長谷寺による『二箇法用付大般若転読会』と、日本で最も古い声明の一つで、声明の大きな流れである平安仏教(天台宗・真言宗)とは異なる魅力を持つ東大寺の『修二会』を取り上げ、声明の音楽性や動きの面白さ、多様性等を紹介する。

民俗芸能公演では、開場当初から現在まで、日本全国で受け継がれている様々な芸能を紹介してきた。初代国立劇場で最後となる民俗芸能公演のテーマを「未来へつなぐ」とし、伝統や希望を未来へつないでいる芸能の形を紹介する。

琉球芸能公演では、初代国立劇場さよなら特別公演を締めくくる公演として、沖縄の伝統芸能を代表する組踊と琉球舞踊の多様な演目を紹介する。組踊は、玉城朝薫が創作した組踊を代表する「朝薫の五番」から、趣の異なる「女物狂」と「二童敵討」を取り上げる。「女物狂」は国立劇場では昭和42年の第一回琉球芸能公演以来、56年ぶりの上演となる。琉球舞踊は、「古典舞踊」と明治以降の民謡や風俗を取り入れた「雑踊」を国指定重要無形文化財保持者らの名手による至芸を披露する。

4月特別企画公演は、新進気鋭の舞踊家・邦楽演奏家を起用し、紹介することを目的とした「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」である。若手実力家が主役・難曲に挑むことで今後の飛躍を期待する構成とする。8月特別企画公演は6館(国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場、新国立劇場、国立劇場おきなわ)で行われている実演家養成事業の研修修了者による合同公演で、各ジャンルのエッセンスを凝縮した形で切れ目なく展開していく構成として実施する。



文楽劇場の舞踊公演では、日本舞踊界を代表する舞踊家と演奏家の総出演により、国立文楽劇場ならではの高い水準の舞踊公演を継続的に提供する。

10月公演「東西名流舞踊鑑賞会」では、上方舞各流の家元や代表者クラスの競演を柱の一つとして、歌舞伎舞踊、素踊り、座敷舞など舞踊の多彩な魅力に迫る番組構成とするほか、上方舞の継承及びレパートリーの拡充に資するため、長らく上演が途絶えている名作について復活上演を目指す。

文楽劇場8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」は、文楽座の太夫・三味線弾きの演奏のみで物語を表現し、観客の想像力を刺激し、浄瑠璃の演奏の魅力に触れていただく内容とする。

文楽劇場12月特別企画公演「壬生狂言」は、京都を代表する民俗芸能である「壬生狂言」より代表的な三演目を取り上げ、仏教由来で民間に育まれた民俗芸能の魅力と歴史的価値を紹介する。

文楽劇場5月特別企画公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光を当てて舞踊・邦楽界の将来を展望する。

(a) 公演実績

《分野別 公演実績》

分野	実績					計画					達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
舞踊	5	7	5	4,058	56.9%	5	7	5	5,030	70.5%	80.7%
邦楽	4	8	5	2,973	66.4%	4	6	5	2,510	71.6%	118.4%
雅楽	1	1	1	1,305	81.1%	1	1	1	1,200	74.5%	108.8%

声明	2	3	2	4,502	93.2%	2	3	2	3,970	82.2%	113.4%
民俗芸能	1	1	1	305	51.7%	1	1	1	500	84.7%	61.0%
琉球芸能	1	2	1	1,050	89.0%	1	2	1	970	82.2%	108.2%
特別企画	4	5	4	2,362	47.7%	4	5	4	2,920	59.0%	80.9%
舞踊・邦楽等【合計】	18	27	19	16,555	66.8%	18	25	19	17,100	71.8%	96.8%

《公演別 公演実績》

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
5月舞踊公演 「舞踊名作集Ⅱ」	5/27 本館大劇場	1	1	664	43.7%	1	1	1,200	78.9%	55.3%
7月舞踊公演 「親子で楽しむ日本舞踊」	7/28 本館小劇場	1	1	381	64.6%	1	1	460	78.0%	82.8%
8月舞踊公演 「舞踊名作集Ⅲ」	8/11 本館大劇場	2	1	1,875	61.7%	2	1	2,400	78.9%	78.1%
3月舞踊公演 「Discover NIHONBUYO—日本舞踊へのいざない—」	3/24 能楽堂	1	1	404	64.4%	1	1	420	67.0%	96.2%
舞踊(東京)【小計】	4公演 計画:4公演	5	4	3,324	57.5%	5	4	4,480	77.5%	74.2%
6月邦楽公演 「現代邦楽名曲選—創作の軌跡—」	6/10 本館小劇場	2	1	734	62.2%	2	1	830	70.3%	88.4%
10月邦楽公演 「邦楽鑑賞会」	10/14~15 本館小劇場	3	2	1,160	65.5%	2	2	960	81.4%	120.8%
1月邦楽公演 「源氏物語音楽絵巻」	1/27 新国小劇場	2	1	701	90.8%	1	1	320	81.2%	219.1%
邦楽(東京)【小計】	3公演 計画:3公演	7	4	2,595	69.7%	5	4	2,110	76.6%	123.0%
9月雅楽公演 「舞楽」	9/30 本館大劇場	1	1	1,305	81.1%	1	1	1,200	74.5%	108.8%
雅楽(東京)【小計】	1公演 計画:1公演	1	1	1,305	81.1%	1	1	1,200	74.5%	108.8%
5月声明公演 「東大寺修二会の声明」	5/20 本館大劇場	2	1	3,077	95.6%	2	1	2,650	82.3%	116.1%
8月声明公演 「長谷寺の声明」	8/5 本館大劇場	1	1	1,425	88.5%	1	1	1,320	82.0%	108.0%
声明(東京)【小計】	2公演 計画:2公演	3	2	4,502	93.2%	3	2	3,970	82.2%	113.4%
6月民俗芸能公演 「未来へつなぐ民俗芸能」	6/17 本館小劇場	1	1	305	51.7%	1	1	500	84.7%	61.0%
民俗芸能(東京)【小計】	1公演 計画:1公演	1	1	305	51.7%	1	1	500	84.7%	61.0%
10月琉球芸能公演 「組踊と琉球舞踊」	10/22 本館小劇場	2	1	1,050	89.0%	2	1	970	82.2%	108.2%
琉球芸能(東京)【小計】	1公演 計画:1公演	2	1	1,050	89.0%	2	1	970	82.2%	108.2%
4月舞踊・邦楽公演 「明日をにう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	4/22 本館小劇場	1	1	315	53.4%	1	1	320	54.2%	98.4%
8月特別企画公演 「舞台芸術のあしたへ」	8/20 本館大劇場	2	1	927	31.6%	2	1	1,800	61.4%	51.5%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
特別企画(東京)【小計】	2公演 計画:2公演	3	2	1,242	35.3%	3	2	2,120	60.2%	58.6%
舞踊・邦楽等(東京)【合計】	14公演 計画:14公演	22	15	14,323	67.5%	20	15	15,350	75.8%	93.3%
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	10/14 文楽劇場	2	1	734	54.2%	2	1	550	40.6%	133.5%
舞踊(大阪)【小計】	1公演 計画:1公演	2	1	734	54.2%	2	1	550	40.6%	133.5%
8月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	8/19 文楽劇場	1	1	378	50.2%	1	1	400	53.1%	94.5%
邦楽(大阪)【小計】	1公演 計画:1公演	1	1	378	50.2%	1	1	400	53.1%	94.5%
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	5/13 文楽劇場	1	1	394	58.2%	1	1	280	41.4%	140.7%
12月特別企画 「壬生狂言」	12/2 文楽劇場	1	1	726	96.4%	1	1	520	69.1%	139.6%
特別企画(大阪)【小計】	2公演 計画:2公演	2	2	1,120	78.3%	2	2	800	55.9%	140.0%
舞踊・邦楽等(大阪)【合計】	4公演 計画:4公演	5	4	2,232	63.1%	5	4	1,750	49.5%	127.5%
舞踊・邦楽等【総合計】	18公演 計画:18公演	27	19	16,555	66.8%	25	19	17,100	71.8%	96.8%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を本館各ジャンルで各2回開催。
 - ◇6/15、3/26 舞踊公演専門委員会
 - ◇6/14、3/27 邦楽公演専門委員会
 - ◇6/22、3/19 雅楽・声明公演専門委員会
 - ◇6/19、3/12 民俗芸能公演専門委員会
- ・短期公演等専門委員会(文楽劇場)を2回開催。第1回(8/21)、第2回(3/13)。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
10公演	—	3,986	3,515	3,452	—	98.2%

※舞踊1公演、邦楽3公演、雅楽1公演、声明1公演、民俗芸能1公演、琉球芸能1公演、特別企画1公演で紙によるアンケートを実施。

※「Discover NIHONBUYOー日本舞踊へのいざないー」については、外国人向けアンケートをウェブ回答方式で実施。そのため、配布数及び回収率は計測できない。

(d) 優れた業績・評価すべき点

《本館》

<舞踊>

- ・5月 衣裳付と素、古典と新作、時代と世話など、様々な要素が異なる5作品それぞれの魅力を出演者が十分に引き出し、日本舞踊の面白さを示すことができた。また、主催公演には初出演となる若手も実力を発揮し、今後の活躍につながる機会となった。
- ・7月 解説「日本舞踊を知ろう」では、トークに慣れた若柳薫子がテンポ良く日本舞踊のポイントを説明し、観客とのやり取りを入れて楽しく舞踊を紹介することができた。子供たちの反応も良く、終演後の写真撮影に長蛇の列ができるなど、日本舞踊の魅力に触れるという目標を達成できた。
- ・8月 「大津絵藤娘」は市山流に古くから伝わる振りで東京と新潟の市山流の家元同士の顔合わせ、「歌右衛門狂乱」は山村流独自の扇の技巧、「鳥獣戯画絵巻」は昭和45年に国立劇場で初演された大作の53年ぶ

りの復活、「鷺娘」は歌舞伎舞踊の名作を古風な形の踏襲、「小鍛冶」は二世花柳壽輔の振付による花柳流の大切な演目の継承、「尾上雲賤機帯」は京舞ならではの味わいなど、公演を通して各流派の特色を見せることができた。

<邦楽>

- ・6月 現代邦楽の歩みを振り返るとともに、国立劇場の委嘱作品の成果を見直すことができた。大半の出演者は本公演で初めて各曲に挑戦することとなり、新しく創造された技芸の継承につながった。また、「二つのファンタジー」「有為転変」「三絃散手」「海峡」「水の相對」「南溟暁歌」「琵琶に磨臼」「風姿行雲」などは上演頻度も限られており、レパートリー拡充にも寄与することができた。
- ・10月 国指定重要無形文化財保持者(各個認定)の認定を受けている10名の演奏家をはじめ、斯界を代表する演奏家が一堂に会し、優れた芸の数々を披露し、初代国立劇場の最後の邦楽公演として高い評価を得た。
- ・1月 箏曲・雅楽・声明など様々なジャンルの芸能が一堂に会したことによって、各ジャンルの観客が他ジャンルの芸能に触れるきっかけとなった。また、新国立劇場に縁のある俳優を演劇・朗読パートで起用したことで、これまで伝統芸能に触れて来なかった現代演劇ファンにもアプローチすることもできた。本年の大河ドラマで話題になっている「源氏物語」に関連した内容であり、演奏だけでなく演劇も入れてストーリーをわかりやすく上演したことが功を奏し、目標入場者数を大きく上回る結果となった。

<雅楽>

- ・宮内庁式部職楽部でなければ実現が難しい大曲・稀曲を組み合わせた構成により、目標を上回る入場者数を達成することができた。演目としては26年ぶりの「安摩・二ノ舞」と、昭和49年の復活上演以来となる「新鳥蘇」を再演した。特に「新鳥蘇」は、49年ぶりであったが、今回の上演によって、次代に確実に継承することができた。

<声明>

- ・5月 平成21年以来14年ぶり、3回目の東大寺修二会の公演であった。現地では、声明が実際どのように唱えられているか分からない部分が多いが、僧侶の動きを含め、舞台上に再現し、観客の理解を深めることができた。入場者数は、声明公演としては国立劇場開場以来で最多となった。
- ・8月 音楽的要素の強い声明や語りのような節回しといった、様々な種類の声明を聴けるとともに、転読のように、特徴的な声明と所作を含む、視覚・聴覚ともに楽しめる内容とした。また、「神祇法楽」に含まれる「般若心経」は、通常柘を使用するところ、長谷寺の伝承に則り太鼓を使用して、これまでの公演とは違った形で紹介することができた。冒頭、公演の背景となる豊山派声明の歴史や公演内容に関する解説と、国立劇場の声明公演を振り返り、古典や新作など特徴的な内容を取り上げたお話をし、観客の理解の一助とした。入場者数は目標を達成することができた。前年度の2月声明公演「比叡山延暦寺の神前法要 日吉大社の山王礼拝講」当日には劇場内で周知し、早期の情報公開が可能となったことで、一般及び委託販売の購入枚数の合計が総席数の約50%に相当する800枚となるなど、例年に比べて高い入場者数を記録した。

<民俗芸能>

- ・東日本大震災への鎮魂を込めた念仏踊り、女性のみの子供たちによる風流、演舞の見せ方が現代風の神楽など、様々な形で現代に継承されている芸能の一端を紹介することができた。各演目の上演前に、出演関係者による解説を付し、それぞれの芸能の背景や現状をリアルに伝えることができた。

<琉球芸能>

- ・重要無形文化財保持者(各個認定)の出演者をはじめ今日の琉球芸能を代表する出演者が一堂に会し、東京で琉球芸能の至芸を披露できた。

<特別企画>

- ・4月 各出演者とも実力を存分に発揮し、若手らしい熱のこもった演技、演奏により充実した舞台となり、更なる飛躍を期待させるに十分な成果を得ることができた。また、舞踊は衣裳付と素踊りを、邦楽は珍しい胡弓独奏を含む3ジャンルを取り上げ、本公演らしく舞踊・邦楽の多彩な魅力を示すことができた。
- ・8月 ジャンルの垣根を超えた研修修了者を中心とする公演として、前例のない画期的な試みであった。来場者が書き込んだと思われる観劇後のSNS等の反応では、好意的な意見が多く見受けられた。国立劇場でこれまで取り組んできた舞台芸術の実演家養成研修事業の成果を広く世間にアピールする絶好の機会となった。また、午後6時の部終演後には、観光再始動事業の一環として、歌舞伎・文楽・能楽・組踊のワークショップを実施し、訪日外国人に向けて我が国の伝統芸能の魅力に肌で触れられる機会を創出することができた。

<<文楽劇場>>

<舞踊>

- ・10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」では、日本舞踊界の名手たちの総出演により多彩な作品を上演した。

また、本公演シリーズでは上方舞四流の家元や重鎮の競演が毎年継続的に実現しており、各流の芸の継承面において大変意義深い。さらに初演から64年ぶりの復活上演を実現した「創作 こうの鳥」は、山村友五郎、吉村古ゆう、花柳基の共演により当代最高峰といえる充実した内容で、「母鳥」を演じた吉村古ゆうが芸術選奨文部科学大臣賞を受賞し高い評価を受けた。この復活上演は、上方舞の保存・継承の面で成果を上げただけでなく、公演スタッフにとっても有意義で貴重な業務経験となるなど、日本舞踊界の活性化に貢献できた。

<邦楽>

- ・8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、中堅層の竹本織太夫と鶴澤清志郎による「源平布引滝」九郎助住家の段、切語りの竹本鋳太夫と鶴澤藤蔵による「ひらかな盛衰記」松右衛門内より逆櫓の段、同じく切語りの竹本千歳太夫と豊澤富助による「卅三間堂棟由来」平太郎住家より木遣り音頭の段と、時代浄瑠璃の中核である三段目の3曲の競演で、浄瑠璃の魅力を十分に伝えることができた。

<特別企画>

- ・5月特別企画公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、各出演者とも大曲、名曲に挑戦し充実した舞台成果をあげ、「鐘ヶ岬」を舞った山村若葵紀が大阪文化祭賞奨励賞を受賞した。また、初紹介となる二十五絃箏や約20年ぶりとなる新内節の上演により、邦楽の幅広い魅力に触れてもらうことができた。
- ・12月特別企画公演「壬生狂言」では、代表的な三演目を上演前の解説とともに紹介した。初番の『炮烙割』に関連して、炮烙の奉納を体験してもらおう入場者参加型の試みも好評であった。壬生寺の狂言堂の重厚な破風や「飛び込み」の装置など、現地の雰囲気を最大限に再現した舞台での本格的な上演により、仏教由来の歴史的な道筋もあわせて、京都を代表する民俗芸能「壬生狂言」の魅力を紹介することができた。

【特記事項】

- ・東大寺開山良弁僧正千二百五十年御遠忌記念(5月声明)

④ 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・講談・浪曲のほか、奇術・太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、従来からの寄席形式で構成する定席公演を中心に大衆芸能公演を実施する。

定席公演は、公益社団法人落語芸術協会及び一般社団法人落語協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、浪曲、奇術、太神楽曲芸、漫才、コント、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

若手新人公演は、各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

初代国立演芸場閉場までの企画公演は、国立名人会、立川流落語会、五代目圓楽一門会をはじめ初代国立演芸場の最後を飾る「日本の寄席芸」公演など公演ごとに主題を設け、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

初代国立演芸場閉場後は、令和6年1月より代替施設において定席に相当する公演を「国立演芸場寄席」と題して継続していく。

○

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。

浪曲名人会は、関西を代表する浪曲師が顔を揃える恒例の公演。各出演者が十八番や名曲を披露し、浪曲の魅力をも十分に堪能できる公演とする。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、4名の若手浪曲師が2曲ずつ口演する構成で、日頃の成果を披露し今後の飛躍に繋がる公演とする。

上方演芸特選会では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
4月上旬	4/1～10 演芸場	10	10	918	30.6%	10	10	1,000	33.3%	91.8%
4月中席	4/11～20 演芸場	10	10	1,379	46.0%	10	10	1,200	40.0%	114.9%
5月中席	5/11～20 演芸場	10	10	2,704	90.1%	10	10	1,800	60.0%	150.2%
6月上旬	6/1～10 演芸場	10	10	1,669	55.6%	10	10	1,100	36.7%	151.7%
6月中席	6/11～20 演芸場	10	10	1,717	57.2%	10	10	1,000	33.3%	171.7%
7月上旬	7/2～10 演芸場	9	9	1,223	45.3%	9	9	1,500	55.6%	81.5%
7月中席	7/11～20 演芸場	10	10	1,445	48.2%	10	10	1,500	50.0%	96.3%
8月上旬	8/1～10 演芸場	10	10	817	27.2%	10	10	1,100	36.7%	74.3%
8月中席	8/11～20 演芸場	10	10	1,556	51.9%	10	10	1,500	50.0%	103.7%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
9月上席	9/1～10 演芸場	10	10	1,418	47.3%	10	10	1,800	60.0%	78.8%
9月中席	9/11～20 演芸場	10	10	1,846	61.5%	10	10	1,800	60.0%	102.6%
1月国立演芸場寄席 (11日～15日)	1/11～15 紀尾井小ホール	5	5	476	38.1%	5	5	700	56.0%	68.0%
1月国立演芸場寄席 (16日～20日)	1/16～20 紀尾井小ホール	5	5	1,087	87.0%	5	5	700	56.0%	155.3%
2月国立演芸場寄席 (6日～10日)	2/6～10 紀尾井小ホール	5	5	846	67.7%	5	5	700	56.0%	120.9%
2月国立演芸場寄席 (21日～25日)	2/21～25 内幸町ホール	5	5	526	57.5%	5	5	700	76.5%	75.1%
3月国立演芸場寄席 (12日～16日)	3/12～16 紀尾井小ホール	5	5	404	32.3%	5	5	700	56.0%	57.7%
3月国立演芸場寄席 (26日～30日)	3/26～30 紀尾井小ホール	5	5	351	28.1%	5	5	700	56.0%	50.1%
定席公演【小計】	17公演 計画:17公演	139	139	20,382	51.1%	139	139	19,500	48.9%	104.5%
4月花形演芸会	4/22 演芸場	1	1	268	89.3%	1	1	280	93.3%	95.7%
5月花形演芸会(5/13)	5/13 演芸場	1	1	223	74.3%	1	1	280	93.3%	79.6%
5月花形演芸会(5/21)	5/21 演芸場	1	1	293	97.7%	1	1	280	93.3%	104.6%
6月花形演芸会(6/3)	6/3 演芸場	1	1	138	46.0%	1	1	280	93.3%	49.3%
6月花形演芸会(6/24)	6/24 演芸場	1	1	255	85.0%	1	1	280	93.3%	91.1%
7月花形演芸会(7/22)	7/22 演芸場	1	1	216	72.0%	1	1	280	93.3%	77.1%
7月花形演芸会(7/29)	7/29 演芸場	1	1	255	85.0%	1	1	280	93.3%	91.1%
8月花形演芸会(8/19)	8/19 演芸場	1	1	206	68.7%	1	1	280	93.3%	73.6%
8月花形演芸会(8/26)	8/26 演芸場	1	1	293	97.7%	1	1	280	93.3%	104.6%
9月花形演芸会(9/9)	9/9 演芸場	1	1	152	50.7%	1	1	280	93.3%	54.3%
9月花形演芸会(9/30)	9/30 演芸場	1	1	291	97.0%	1	1	280	93.3%	103.9%
花形演芸会【小計】	11公演 計画:11公演	11	11	2,590	78.5%	11	11	3,080	93.3%	84.1%
4月名人会	4/28 演芸場	1	1	290	96.7%	1	1	280	93.3%	103.6%
6月名人会	6/22 演芸場	2	1	574	95.7%	1	1	280	93.3%	205.0%
8月名人会	8/27 演芸場	1	1	291	97.0%	1	1	280	93.3%	103.9%
国立名人会【小計】	3公演 計画:3公演	4	3	1,155	96.3%	3	3	840	93.3%	137.5%
5月特別企画公演 「立川流落語会」	5/26～28 演芸場	3	3	830	92.2%	3	3	800	88.9%	103.8%
6月特別企画公演「花形演芸会ス ペシャル～受賞者の会～」	6/9 演芸場	1	1	292	97.3%	1	1	288	96.0%	101.4%
7月特別企画公演 「親子で楽しむ演芸会」	7/30 演芸場	2	1	574	95.7%	2	1	576	96.0%	99.7%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
9月特別企画公演 「五代目圓楽一門会」	9/22～24 演芸場	3	3	566	62.9%	3	3	700	77.8%	80.9%
10月特別企画公演 「圓朝に挑む！」	10/1 演芸場	1	1	286	95.3%	1	1	280	93.3%	102.1%
10月特別企画公演「国立講談三 夜～講談協会・日本講談協会・ なみはや講談協会 三派の会～」	10/2～4 演芸場	3	3	795	88.3%	-	-	-	-	-
10月特別企画公演「演芸大にぎ わい～東から西から～」	10/7～9 演芸場	3	3	573	63.7%	3	3	690	76.7%	83.0%
10月特別企画公演 「六代目圓楽を思い出す会」	10/12 演芸場	1	1	288	96.0%	-	-	-	-	-
10月特別企画公演 「日本の寄席芸」	10/14～25 演芸場	10	10	2,917	97.2%	10	10	2,800	93.3%	104.2%
3月特別企画公演「花形演芸会ス ペシャル～受賞者の会～」	3/25 紀尾井小ホール	1	1	228	91.2%	1	1	240	96.0%	95.0%
特別企画【小計】	10公演 計画:8公演	28	27	7,349	88.0%	24	23	6,374	89.1%	115.3%
大衆芸能(東京)【合計】	41公演 計画:39公演	182	180	31,476	59.7%	177	176	29,794	58.2%	105.6%
浪曲名人会	2/23 文楽劇場	1	1	662	87.9%	1	1	530	70.4%	124.9%
浪曲名人会【小計】	1公演 計画:1公演	1	1	662	87.9%	1	1	530	70.4%	124.9%
浪曲錬声会	5/27 文楽小ホール	2	1	241	75.8%	2	1	270	84.9%	89.3%
浪曲錬声会【小計】	1公演 計画:1公演	2	1	241	75.8%	2	1	270	84.9%	89.3%
5月上方演芸特選会	5/17～20 文楽小ホール	4	4	558	87.7%	4	4	500	78.6%	111.6%
7月上方演芸特選会	7/26～29 文楽小ホール	4	4	575	90.4%	4	4	500	78.6%	115.0%
9月上方演芸特選会	9/20～23 文楽小ホール	4	4	608	95.6%	4	4	500	78.6%	121.6%
11月上方演芸特選会	11/15～18 文楽小ホール	4	4	497	78.1%	4	4	500	78.6%	99.4%
1月上方演芸特選会	1/17～20 文楽小ホール	4	4	620	97.5%	4	4	500	78.6%	124.0%
3月上方演芸特選会	3/6～9 文楽小ホール	4	4	628	98.7%	4	4	500	78.6%	125.6%
上方演芸特選会【小計】	6公演 計画:6公演	24	24	3,486	91.4%	24	24	3,000	78.6%	116.2%
大衆芸能(大阪)【合計】	8公演 計画:8公演	27	26	4,389	89.8%	27	26	3,800	77.8%	115.5%
大衆芸能【総合計】	49公演 計画:47公演	209	206	35,865	62.3%	204	202	33,594	59.9%	106.8%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

・大衆芸能公演専門委員会について、第1回は6/21に、第2回は3/18に開催した。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6公演	1,467	842	842	772	57.4%	91.7%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・再整備により当演芸場における公演は10月末までであり、例年と異なるスケジュールで公演を行った。
- ・定席公演は9月で終了し、最後の公演となる9月上・中席は、落語芸術協会・落語協会ともに協会員が日替わり出演で構成した。
- ・最終月となる10月は、演芸場最後を飾る企画公演を5公演行った。
- ・三遊亭圓朝の作品を初め各出演者が大ネタに挑む「圓朝に挑む！」は回を重ねるごとに出演者も新たな演題に挑み、意義内容共に充実した会として固定したファンを獲得している。
- ・「国立講談三夜」は関東・関西で活躍中の講談師が出演し大変見応えがあり、国立演芸場ならではの公演となった。
- ・「演芸大にぎわい～東から西から～」は、日本演芸家連合に所属する関東・関西の出演者が、通常寄席では観られない様々な演芸を上演する公演として定着している。
- ・初代国立演芸場の最終公演として「日本の寄席芸」公演を行った。この公演は寄席演芸会で現在活躍中の各協会会長・重要無形文化財保持者・重鎮・人気のある演者を一堂に集め10日間日替わり出演で構成した。各出演者は、各々がその至芸を披露し最後を飾るにふさわしい公演となった。
- ・1月以降は代替施設において公演を行い、定席相当公演は「国立演芸場寄席」と名称を変え毎月公演を継続している。
- ・若手新人公演は、花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する13組のレギュラーを中心に、4月～9月で11回公演を実施し、花形演芸大賞・金賞・銀賞受賞者を選出して、3月特別企画公演「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」贈賞式を行った。
- ・文楽劇場では、5月の「浪曲錬声会」で若手浪曲師4名がオリジナル作品や古典の大ネタに取り組み、観客に着実な成長を印象付けた。
- ・関西浪曲界の第一人者を揃えた2月の「浪曲名人会」では、ベテランの十八番に加えて若手浪曲師4名による立体掛合浪曲を上演した。大道具や照明により視覚的にも楽しめる要素を加え、好評を得た。
- ・上方演芸特選会は、落語、漫才、浪曲、マジックなど多彩なプログラムを実施し、年間6公演を通して安定した集客を実現することができた。

【特記事項】

- ・令和5年度花形演芸会レギュラー出演者(50音順)
 - 入船亭扇橋(落語)、鏡味仙成(曲芸)、桂福丸(上方落語)、こばやしけん太(音まね)、春風亭昇也(落語)、春風亭柳枝(落語)、笑福亭喬介(上方落語)、瀧川鯉八(落語)、玉川太福(浪曲)、真山隼人(浪曲)、まんじゅう大帝国(漫才)、柳家崑三郎(落語)、柳家風柳(落語)
- ・令和5年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。
 - ◇大賞：入船亭扇橋(落語)
 - ◇金賞：春風亭柳枝(落語)、春風亭昇也(落語)、真山隼人(浪曲)、柳家崑三郎(落語)
 - ◇銀賞：春風亭一蔵(落語)、林家はな平(落語)、上の助空五郎(ヴォードヴィル)、国本はる乃(浪曲)

⑤ 能 楽

《制作方針》

国立能楽堂は今年度、昭和 58 年の開場から 40 年の節目を迎える。開場月である 9 月の「国立能楽堂開場 40 周年記念公演」をはじめ、年間を通して、現代能楽界を代表する演者による能・狂言の名作・大曲・稀曲の数々を上演する。

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月 2 回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月 1 回のペースで公演する。

企画公演においては、「国立能楽堂開場 40 周年記念公演」での「翁」、「特別企画公演」での「檜垣」「鸚鵡小町」などの大曲を上演、記念年ならではの番組構成を企図する。その他、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」、入門的な内容を軸に新たな観客層を開拓する「国立能楽堂ショーケース」を実施する。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。学生が親しみを持てるよう、能・狂言上演の前に解説を付ける。また外国人を主対象とした公演としては「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を英語解説付きで実施する。

(a) 公演実績

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
狂言「鈍太郎 萬乃古式」、能「藤戸」	4/5	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「佐渡狐」、能「賀茂 素勲・御田」	5/10	1	1	623	99.4%	109.3%
狂言「杭か人か」、能「東岸居士」	5/19	1	1	552	88.0%	96.8%
狂言「縄綯」、能「国栖 白頭・天地之声」	6/7	1	1	623	99.4%	109.3%
狂言「人を馬」、能「飛鳥川」	6/16	1	1	621	99.0%	108.9%
狂言「水掛髻」、能「砧 梓之出」	7/5	1	1	621	99.0%	108.9%
開場 40 周年記念 狂言「呂蓮」、能「呉服 作物出」	10/4	1	1	582	92.8%	102.1%
開場 40 周年記念 狂言「岩橋」、能「雪 雪踏之拍子」	11/8	1	1	623	99.4%	109.3%
開場 40 周年記念 演出の様々な形 狂言「六地藏」、能「乱 置壺・双之舞」	11/17	1	1	623	99.4%	109.3%
開場 40 周年記念 狂言「鳴子遣子」、能「遊行柳」	12/6	1	1	621	99.0%	108.9%
開場 40 周年記念 演出の様々な形 狂言「六地藏」、能「七人狸々」	12/15	1	1	623	99.4%	109.3%
開場 40 周年記念 狂言「三人夫」、能「春日龍神 龍女之舞・町積」	1/6	1	1	622	99.2%	109.1%
開場 40 周年記念 月間特集 絵画と能・狂言一特集・英一蝶没後 300 年一 狂言「節分」、能「松風 見留」	2/21	1	1	619	98.7%	108.6%
開場 40 周年記念 月間特集 絵画と能・狂言一特集・英一蝶没後 300 年一 狂言「内沙汰」、能「小督」	2/29	1	1	620	98.9%	108.8%
開場 40 周年記念 狂言「鬼ヶ宿」、能「志賀」	3/6	1	1	619	98.7%	108.6%
開場 40 周年記念 狂言「長刀応答」、能「角田川」	3/15	1	1	621	99.0%	108.9%
定例公演【小計】	16 公演 計画:16 公演	16	16	9,835	98.0%	107.8%
解説、狂言「引括」、能「雲林院」	4/8	1	1	621	99.0%	103.5%

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
解説、狂言「貴聾」、能「班女」	5/13	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「惣八」、能「半部」	6/10	1	1	622	99.2%	103.7%
解説、狂言「魚説経」、能「阿漕」	7/8	1	1	620	98.9%	103.3%
開場 40 周年記念 解説、狂言「居杭」、能「高野物狂」	10/14	1	1	623	99.4%	103.8%
開場 40 周年記念 解説、狂言「竹生嶋詣」、能「実盛」	11/11	1	1	623	99.4%	103.8%
開場 40 周年記念 解説、狂言「苞山伏」、能「葛城 大和舞」	12/9	1	1	623	99.4%	103.8%
開場 40 周年記念 解説、狂言「鞍馬参り」、能「二人静」	1/13	1	1	623	99.4%	103.8%
開場 40 周年記念 月間特集 絵画と能・狂言一特集・英一蝶没後 300 年一 解説、狂言「柿山伏」、能「蟻通」	2/17	1	1	619	98.7%	103.2%
開場 40 周年記念 解説、狂言「鐘の音」、能「胡蝶」	3/9	1	1	623	99.4%	103.8%
普及公演【小計】	10 公演 計画:10 公演	10	10	6,220	99.2%	103.7%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「蝸牛」、能「葵上 梓之出」	4/21	1	1	622	99.2%	124.4%
【企画公演】新作・復曲再演の会 復曲狂言「鷺」、新作能「夢浮橋」	4/27	1	1	618	98.6%	106.6%
【特別企画公演】 能「源氏供養 舞入・語入」、狂言「舟船」、能「檀風」	5/30	1	1	613	97.8%	105.7%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「蚊相撲」、能「杜若」	7/19	1	1	623	99.4%	124.6%
【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「二人大名」、狂言「菌」	7/29	1	1	615	98.1%	106.0%
【企画公演】素の魅力 一調「おかしき天狗」、脇仕舞「大蛇」、仕舞「柏崎 クセ」、袴能「鶴」	8/3	1	1	603	96.2%	104.0%
【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「安達原 白頭」	8/5	1	1	615	98.1%	106.0%
【企画公演】 蠟燭の灯りによる 特集・魂魄のゆくえ 狂言と落語・講談 講談「番町皿屋敷」、落語「野ざらし」、狂言「武悪」	8/24	1	1	617	98.4%	106.4%
【企画公演】 蠟燭の灯りによる 特集・魂魄のゆくえ 狂言「八尾」、能「楊貴妃 玉簾」	8/26	1	1	618	98.6%	106.6%
【開場 40 周年記念公演】 「翁」、能「清経 恋之音取」、狂言「栗焼」、能「山姥 波濤ノ舞」	9/6	1	1	615	98.1%	106.0%
【開場 40 周年記念公演】 能「枕慈童 前後之習」、狂言「月見座頭」、能「船弁慶 後之出留之伝・語入・名所 教」	9/9	1	1	621	99.0%	107.1%
【開場 40 周年記念公演】 一調一声「三井寺」、狂言「萩大名」、能「白田村」	9/15	1	1	617	98.4%	106.4%
【開場 40 周年記念公演】狂言の会 狂言「末広かり」、狂言「鬨罪人」、狂言「獅子聾」	9/22	1	1	597	95.2%	102.9%
【開場 40 周年記念公演】 能「芭蕉」、狂言「文蔵」、能「望月」	9/30	1	1	622	99.2%	107.2%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「太刀奪」、能「紅葉狩」	10/20	1	1	622	99.2%	124.4%
開場 40 周年記念 【特別企画公演】 狂言「菊の花」、能「檜垣」	10/26	1	1	616	98.2%	106.2%
開場 40 周年記念 【企画公演】能と組踊 組踊「万歳敵討」、能「夜討曾我 十番斬」	11/24	1	1	617	98.4%	106.4%

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
開場 40 周年記念 【企画公演】能と組踊 組踊「執心鐘入」、能「三井寺」	11/25	1	1	611	97.4%	105.3%
開場 40 周年記念 【特別企画公演】 狂言「張蚰」、狂言「米市」、狂言「金岡」	12/21	1	1	576	91.9%	99.3%
開場 40 周年記念 【企画公演】リクエスト能・狂言 狂言「通円」、能「屋島 弓流・奈須与市語」	12/23	1	1	622	99.2%	107.2%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「梟山伏」、能「巴」	1/19	1	1	623	99.4%	124.6%
開場 40 周年記念 【特別企画公演】 狂言「花争」、能「鸚鵡小町 杖三段之舞」	3/20	1	1	618	98.6%	106.6%
企画公演【小計】	22 公演 計画:22 公演	22	22	13,521	98.0%	108.7%
【外国人のための能楽鑑賞教室】 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「二人袴」、能「邯鄲」	5/27	1	1	627	100.0%	104.5%
【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「伯母ヶ酒」、能「羽衣」	6/20～24	10	5	5,807	92.6%	114.5%
鑑賞教室等【小計】	2 公演 計画:2 公演	11	6	6,434	93.3%	113.5%
能楽【合計】	50 公演 計画:50 公演	59	54	36,010	97.3%	108.4%

※劇場は全て能楽堂。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

《目標入場者数》

区分	定例公演	普及公演	企画公演 (ショーケース)	企画公演 (その他)	Discover NOH & KYOGEN	能楽鑑賞教室
目標入場者数 ()内は入場率	570 人/回 (90.9%)	600 人/回 (95.7%)	500 人/回 (79.7%)	580 人/回 (92.5%)	600 人/回 (95.7%)	5,070 人 (80.9%)

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を2回開催(2/2、3/6)。
- ・専門家の主な意見は下記のとおり。
 - ◇9月は40周年記念公演の豪華で趣向をこらした番組立であった。シテ方五流の家元(クラス)と実力者を揃え、狂言方の人間国宝や、東西のバランスなどにも目配りし、大曲が並んだ。今の能狂言界の実力を示す催しになったと思う。
 - ◇(11月企画公演)開場40周年記念プログラムの一環。仇討ちをテーマにした組踊と能の取り合わせ。両者の芸術的な違いが示された好企画である。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
9 公演	5,179	1,312	1,312	1,268	25.3%	96.6%

※うち1回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- ・新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら安全に公演を継続することができた。
- ・4月企画公演〈新作・復曲再演の会〉では平成12年国立能楽堂制作初演の新作能「夢浮橋」を、主催公演では平成20年以来15年ぶりに再演した。
- ・5月特別企画公演では特にワキ方の秘曲である能「檀風」を、また能「源氏供養」をワキ方で大切に扱われている「語入」の小書で上演した。
- ・9月の国立能楽堂開場40周年記念公演ではのべ5日間にわたり、「翁」・狂言「獅子髻」・能「望月」など、現代能楽界を代表する演者による能・狂言の名作・大曲・稀曲の数々を上演した。

- ・10月特別企画公演では老女物の大曲、能「檜垣」を上演した。
- ・11月・12月定例公演〈演出の様々な形〉では同一曲あるいは類曲を異なる流儀で上演、能・狂言の演出の多様な姿を紹介する好機会となった。
- ・11月企画公演〈能と組踊〉では、能と組踊双方に共通するテーマを持つ作品を上演。能は1日目に「夜討 曾我 十番斬」、2日目に「三井寺 二重座」と、両日とも稀な小書で作品を上演することができた。
- ・12月特別企画公演は〈狂言の会〉として狂言の稀曲「張蛸」や大曲「金岡」を上演した。
- ・12月企画公演〈リクエスト能・狂言〉は国立能楽堂初の試みとしてお客様のリクエストにより曲目が決まる内容。リクエストには座席字幕を活用し、多くの方々からの投票もあり話題となった。
- ・1月定例公演では能「春日龍神」を、狂言方で重く扱われている「町積」の小書で上演した。
- ・2月の〈月間特集・絵画と能・狂言〉では、効果的に月間特集を組むことで公演に連続性や関連性を持たせ、観客の注目を集めることができた。
- ・3月特別企画公演では老女物の大曲、能「鸚鵡小町」を上演した。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、長年レパートリーとして親しまれてきた作品「孝行の巻」のほか、上演機会の少ない敵討もの「屋慶名大主敵討」や、没後 250 年にあたる田里朝直の作品の中から「大城崩」「万歳敵討」を取り上げる。

琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」、「琉球舞踊特選会」、「琉球舞踊鑑賞会」のほか、新進の若手舞踊家による「うりずんの舞」、「新進男性舞踊家の会」、各流派のカラーを活かした創作舞踊に焦点を当てた「創作舞踊の会」、琉球舞踊の中でも人気の高い打組舞踊のみで構成する「打組舞踊の会」を上演し、琉球舞踊の魅力を発信する。

三線音楽公演では、湛水親方の生誕 400 年に当たることから、温雅な趣のある湛水流の音楽に焦点を当てた「湛水流の美」、沖縄民謡界を牽引してきたベテラン勢による味わい深い歌唱と三線音楽の魅力を幅広く紹介する「名人たちの歌情け」を上演する。

沖縄芝居公演では、当劇場の舞台機構を駆使し、沖縄芝居の魅力を堪能する公演制作に努め、舞踊の名手でもある名優玉城須美雄の作品で、当劇場初上演となる「三良若按司」を上演する。

民俗芸能公演では、沖縄本島各地域に継承される民俗芸能を上演する。各地域の特色を活かし、個性豊かな演目を取り上げる。

企画公演では、国立劇場おきなわ開場 20 周年記念公演の幕開けとして、琉球芸能の中でも祝儀を意味する演目を集め、「開場 20 周年 祝いの宴」を上演する。また、「組踊・歌劇傑作選」と題し、組踊と歌劇の中でも名作と言われている作品を一つの公演で同時に上演する。このほか、本土の芸能から山口県の無形文化財に指定されている「山口鷲流狂言」、アジア・太平洋地域の芸能として台湾の伝統的な室内楽「南管」、毎年秋の実施が定着している「国立劇場寄席」を上演する。

研究公演では、首里士族の芸風を継承した金武良章氏から伝わる組踊の研究を目的とした公演を試みる。指導として、金武氏の組踊継承者の一人、知念績有を迎え、男女混合の立方による組踊「花売の縁」を上演する。

普及公演では、親子のための組踊鑑賞教室「二童敵討」、小学生以上の児童・生徒・学生等を対象とした組踊鑑賞教室「執心鐘入」で、組踊の理解を深める工夫をし、解説を交えながら上演する。併せて、外国人向けの公演「はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～」を実施する。また、沖縄芝居、琉球舞踊についても、歴史や鑑賞のポイントを紹介し、新たな観客層の拡充に努める。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
琉球舞踊「うりずんの舞」	4/8～9 おきなわ小劇場	2	2	381	83.2%	2	2	310	67.7%	122.9%
琉球舞踊「打組舞踊の会」	4/22 おきなわ大劇場	1	1	483	80.5%	1	1	390	65.0%	123.8%
組踊「孝行の巻」	5/13 おきなわ大劇場	1	1	313	56.3%	1	1	322	60.1%	97.2%
三線音楽「湛水流の美」	5/27 おきなわ小劇場	1	1	178	72.4%	1	1	126	55.0%	141.3%
琉球舞踊「新進男性舞踊家の会」	6/10～11 おきなわ大劇場	2	2	408	82.9%	2	2	310	67.7%	131.6%
沖縄芝居「三良若按司」	6/24～25 おきなわ大劇場	2	2	626	50.5%	2	2	716	60.1%	87.4%
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	7/8 おきなわ大劇場	1	1	390	63.9%	1	1	390	65.0%	100.0%
組踊「大城崩」「万歳敵討」	8/26 おきなわ大劇場	1	1	393	70.7%	1	1	322	60.1%	122.0%
琉球舞踊「創作舞踊の会」	10/14 おきなわ大劇場	1	1	293	47.4%	1	1	390	65.0%	75.1%

組踊「屋慶名大主敵討」	12/9 おきなわ大劇場	1	1	305	54.9%	1	1	322	60.1%	94.7%
琉球舞踊「男性舞踊家の会」	12/16～17 おきなわ大劇場	2	2	810	65.5%	2	2	812	67.7%	99.8%
開場 20 周年記念 民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭」	1/28 おきなわ大劇場	1	1	530	94.5%	1	1	281	59.9%	188.6%
開場 20 周年記念 三線音楽「名人たちの歌情け」	2/17 おきなわ大劇場	1	1	417	68.6%	1	1	328	55.0%	127.1%
開場 20 周年記念 琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	2/24～25 おきなわ大劇場	2	2	740	59.9%	2	2	780	65.0%	94.9%
定期公演【小計】	14 公演 計画:14 公演	19	19	6,267	65.5%	19	19	5,799	63.0%	108.1%
アジア・太平洋地域の芸能 ～海を渡り台湾で継承される伝統 音楽 南管～	10/29 おきなわ大劇場	1	1	284	46.6%	1	1	325	54.5%	87.4%
国立劇場寄席	11/11 おきなわ大劇場	1	1	346	56.0%	1	1	358	60.1%	96.6%
開場 20 周年記念 開場 20 周年 祝いの宴	1/13 おきなわ大劇場	1	1	492	80.7%	1	1	447	75.0%	110.1%
開場 20 周年記念 本土の芸能「山口鷺流狂言」	3/2 おきなわ大劇場	1	1	392	64.3%	1	1	358	60.1%	109.5%
開場 20 周年記念 組踊・歌劇 傑作選「花売の縁」 「泊阿嘉」/「執心鐘入」「薬師堂」	3/16～17 おきなわ大劇場	2	2	1,102	89.0%	2	2	745	62.5%	147.9%
企画公演【小計】	5 公演 計画:5 公演	6	6	2,616	71.0%	6	6	2,233	62.4%	117.2%
組踊「花売の縁」	9/30 おきなわ大劇場	1	1	276	49.6%	1	1	312	58.2%	88.5%
研究公演【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	276	49.6%	1	1	312	58.2%	88.5%
親子のための組踊鑑賞教室 「二童敵討」	7/22 おきなわ大劇場	1	1	243	48.1%	1	1	331	60.1%	73.4%
琉球舞踊鑑賞教室 ※公演中止	8/5 おきなわ大劇場	0	0	0	-	1	1	367	60.1%	-
沖縄芝居鑑賞教室 「割符」	9/14～16 おきなわ大劇場	3	3	1,025	62.8%	3	3	945	65.1%	108.5%
組踊鑑賞教室 「執心鐘入」	11/15～18 おきなわ大劇場	7	4	1,942	54.9%	7	4	2,479	64.3%	78.3%
普及公演【小計】	3 公演 計画:4 公演	11	8	3,210	56.6%	12	9	4,122	63.7%	77.9%
組踊等沖縄伝統芸能【合計】	23 公演 計画:24 公演	37	34	12,369	63.5%	38	35	12,466	63.0%	99.2%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※台風 6 号のため、8 月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」(8/5)を中止した。

組踊等沖縄伝統芸能合計について、(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数は 12,099 人、(B)入場者数の対計画達成率は 102.2%。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を 8 月と 3 月に 2 回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
23 公演	7,158	4,851	4,819	4,651	67.8%	96.5%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・研究公演では、金武良章から伝わる首里系組踊の研究を目的とした公演を上演。演出・扮装・演奏・唱え等を深く掘り下げ、第一部では、唱えと音楽に着目した「執心鐘入」を、第二部では男女交えた配役で「花売の縁」を上演した。

- 企画公演では、国立劇場おきなわ開場 20 周年記念公演として、祝儀性のある舞踊や古典音楽斉唱、芸術監督が本公演のために書き下ろした新作組踊「祝寿の舞」で祝賀の舞台をお届けする「開場 20 周年 祝いの宴」を上演した。また、コロナ禍前同様に海外から出演団体を招聘し、「アジア・太平洋地域の芸能」公演を実施した。
- 琉球舞踊公演では、琉球舞踊の中でも人気の高い打組舞踊のみで構成した「打組舞踊の会」公演を新設し実施した。
- 組踊公演では、上演機会が少ない優れた演目として、「屋慶名大主敵討」を上演した。物語の途中で能楽「三井寺」の謡曲が謡われるなど、能と組踊のつながりを感じさせる演目で、今回は、謡曲を観世流の清水寛二の指導のもと、初めて地謡が挑戦した。
- 1 月から 3 月は、開場 20 周年記念公演を企画した。3 ヶ月間に、当劇場主催公演の主なジャンル(組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居、民俗芸能)や本土の芸能を網羅する多彩な構成で、琉球芸能の奥深さと広がりを実感できる企画とすることができた。
- 普及公演では、親子のための組踊鑑賞教室「二童敵討」において、ホワイエに「組踊小道具の展示」「写真撮影コーナー」「楽器体験コーナー」のブースを設置し、親子連れの観客を中心に楽しんでいただいた。
- 外国人向けの取組として、多言語オーディオガイド(2 公演)、字幕タブレット(3 公演)の無料貸出を行った。

イ 演目の拡充

《復活・復曲・新作の上演を実施した作品数》

歌舞伎	文楽	舞踊・邦楽等	大衆芸能	能楽	組踊等	合計
0	4	7	1	1	2	15

<文楽>

- ・本館 5 月文楽公演「菅原伝授手習鑑」(安井汐待の段)
- ・本館 8・9 月文楽公演「菅原伝授手習鑑」(北嵯峨の段、大内天変の段)
- ・文楽劇場 4 月文楽公演「妹背山婦女庭訓」(大序 大内の段)
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演「西遊記」(閻魔王宮より釜煮の段)

<舞踊・邦楽等>

- ・本館 6 月邦楽公演「有為転変」「水の相对」「南溟暁歌」「琵琶に磨白」「風姿行雲」
- ・本館 8 月舞踊公演「鳥獣戯画絵巻」
- ・文楽劇場 10 月舞踊公演「こうの鳥」

<大衆芸能>

- ・演芸場 10 月特別企画公演「圓朝に挑む！」(またかのお関)

<能楽>

- ・9 月国立能楽堂開場 40 周年記念公演〈狂言の会〉狂言「獅子髻」

<組踊等沖縄伝統芸能>

- ・9 月研究公演 組踊「花売の縁」
- ・1 月企画公演 組踊「祝寿の舞」

※以下に示す詳細のうち、文頭が「◆」となっているものが当該作品の説明である。

① 歌舞伎

(a) 新作歌舞伎脚本の募集とその周知

- ・5・6 年度の新作歌舞伎脚本募集の告知を、8 月末より 9 月初めにかけて振興会ホームページ、9 月歌舞伎公演の解説書等で開始した。併せて、本館を始めとする振興会各劇場、松竹系劇場等約 15 施設に、チラシの配架、ポスターの掲出を委託した。
- ・9 月から 1 月末にかけて募集を行い、104 篇の応募があった。2 月から振興会内部で選考を開始した。6 年度末までに入選作を選考し、贈賞式を行う予定である。

② 文楽

(a) 新作の上演・復活上演に向けた上演台本作成作業等

- ・文楽劇場では、開場 40 周年記念に当たる 6 年度の 4 月文楽公演第 2 部で上演する豊竹呂太夫改め十一代目豊竹若太夫襲名披露狂言「和田合戦女舞鶴」市若初陣の段において、昭和 15 年以来 84 年ぶりに端場(導入部)の「中」を復活し、「切」の内容をより理解し易くなるものとするべく準備に努めている。

(b) 新演出の初演

◆文楽劇場は、文楽が上演可能な国内の劇場のなかで唯一宙乗りが可能な劇場である。この利点を活かすため、夏休み文楽特別公演では、10 年間上演の機会を模索してきた人気演目「西遊記」(昭和 63 年初演)の孫悟空登場篇での宙乗り演出を新演出として採用した。入念な台本の改訂及び作曲者の竹澤團七による周到な補曲を得て、文楽ならではの出遣いの姿のまま、上下動を取り入れた宙乗りによって観客の頭上間近に迫る迫力のある宙乗りの場面を実現し、本作の最大の見せ場として際立たせることに成功したことは、今後の観客層として期待される未就学児とその保護者層に文楽鑑賞の誘因となる印象深い場面を提供することとなった。

(c) 上演が途絶えていた場面の復活上演

- ◆本館 5 月文楽公演で「菅原伝授手習鑑」安井汐待の段を、8・9 月文楽公演で「菅原伝授手習鑑」北嵯峨の段、大内天変の段をそれぞれ 51 年ぶりに上演した。
- ◆文楽劇場 4 月文楽公演「妹背山婦女庭訓」大序 大内の段を、大阪では大正 10 年以来 102 年ぶりに上演した。

(d) 上演機会の少ない場面の再演

- ・夏休み文楽特別公演では、入鹿誅伐の段を大阪では昭和 52 年朝日座での上演以来 46 年ぶりに上演した。

③ 舞踊・邦楽等

(a) 上演機会の少ない優れた演目の復活上演

- ◆本館 6 月邦楽公演で「有為転変」を上演した。同演目は作曲家の没後初めての上演で、作品資料の乏しいなか初演に近い形態で上演したことで優れた演目の掘り起こしにつながった。
- ◆文楽劇場 10 月舞踊公演において、昭和 34 年度の芸術祭賞受賞作品である吉村雄輝作舞の「この鳥」を初演から 64 年ぶりに復活上演した。吉村雄輝の衣鉢を継ぐ吉村古ゆう、山村流六世宗家山村友五郎と花柳基の全面協力により、初演時の舞台写真等をもとにした再現を試みると同時に、文楽劇場の舞台機構の活用と今回の配役ならではの舞台を目指して、大道具や演出に関する綿密な打合わせを重ねた。また演奏は囃子のみという珍しい舞踊作品であったが譜面が現存せず、このたびの復活上演のために起譜作業から取り組み、本番では生音による演奏で舞台を盛り上げた。

(b) 上演機会の少ない優れた演目の再演

- ・本館 6 月邦楽公演で「二つのファンタジー」を上演した。同演目は二十絃箏という戦後新たに製作された邦楽器のために委嘱された新作で、音楽史的にも重要な作品として評価されている。今回再演された意義は大きい。
- ・本館 8 月舞踊公演において、市山流に伝わる稀少な作品である清元「大津絵藤娘」を一部補曲も施しながら平成 6 年以来、29 年ぶりに再演した。
- ・本館 9 月雅楽公演において、昭和 49 年に国立劇場で復活上演した「新鳥蘇」を 49 年ぶりに再演した。
- ・本館 10 月邦楽公演において、「京鹿子娘道成寺」をあまり上演されることのない“立分れ”という形式で再演した。
- ・本館 10 月琉球芸能公演において、組踊を代表する「朝薫五番」のうちの「女物狂」を、昭和 42 年第 1 回琉球芸能公演以来、国立劇場では 56 年ぶりに上演した。

(c) 国立劇場制作による新作作品の復活

- ◆本館 6 月邦楽公演で、「水の相对」「南溟暁歌」「琵琶に磨白」「風姿行雲」を上演した。いずれも初演以来演奏される機会のなかった作品を、故人であったり高齢であったりするために作曲者や初演時の演奏者に直接指導を仰ぐことができない中、楽譜と残された音源を元に、次代を担う現役の演奏家と協力して作品を復活上演したことで、レパートリーの拡充とともに、作品の継承につなげることができた。
- ◆本館 8 月舞踊公演において、昭和 45 年 9 月に制作した新作「鳥獸戯画絵巻」を復活した。初演時の出演者に所縁の演者・演奏者により 53 年ぶりに復活した。

(d) 国立劇場制作による新作作品の再演

- ・本館 6 月邦楽公演で、「秋庭歌」「海峡」を上演した。国立劇場新作作品の再評価を図るとともに今後の創作活動の方向性を検討する好機となった。

④ 大衆芸能

(a) 上演機会の少ない優れた演目の上演

- ◆演芸場 10 月特別企画公演「圓朝に挑む！」で橘家圓太郎が、江戸落語を集大成し近代落語の祖とされる三遊亭圓朝作の「またかのお関」を現在の観客にも分かりやすいよう斬を再構成して上演した。

⑤ 能楽

(a) 上演機会の非常に稀な作品の上演

- ・4 月定例公演において、狂言「鈍太郎」を野村万蔵家による新作の小書「萬乃古式」で上演した。
- ・5 月特別企画公演において、特にワキ方の秘曲である能「檀風」を、また能「源氏供養」をワキ方で大切に扱われている「語入」の小書で上演した。
- ・8 月企画公演〈素の魅力〉において、狂言一調「おかしき天狗」、脇仕舞「大蛇」を上演した。
- ・9 月国立能楽堂開場 40 周年記念公演において以下の曲を上演した。
 - ◇「翁」、能「清経 恋之音取」、能「枕慈童 前後之習」、能「山姥 波濤ノ舞」、能「船弁慶 後之出留之伝・語入・名所教」、一調一声「三井寺」、能「白田村」、狂言「獅子髻」
- ・10 月特別企画公演において能「檜垣」を上演した。
- ・11 月企画公演〈能と組踊〉において能「夜討曾我 十番斬」を上演した。
- ・12 月定例公演において能「七人狸々」を上演した。
- ・12 月特別企画公演〈狂言の会〉において狂言「張蛸」「金岡」を上演した。
- ・1 月定例公演において、能「春日龍神」を狂言方で重く扱われている「町積」の小書で上演した。
- ・3 月特別企画公演において能「鸚鵡小町 杖三段之舞」を上演した。

(b) 国立能楽堂制作による新作作品の再演

- ・4 月企画公演において、平成 12 年国立能楽堂制作初演の新作能「夢浮橋」を、主催公演では平成 20 年以来 15 年ぶりに再演した。

(c) 他の能楽堂等で上演された復曲作品の再演

・4月企画公演において、平成元年横浜能楽堂復曲初演の復曲狂言「驚」を上演した。

(d) 新演出の初演

◆9月国立能楽堂開場40周年記念公演〈狂言の会〉において、昭和47年に山本東次郎襲名披露公演にて復曲された大蔵流山本東次郎家のみで伝わる狂言「獅子髻」を上演した。今回は舅が髻と一緒に舞を舞うなどの新演出での上演で、作品に新たな魅力を付加することができた。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

(a) 開場20周年を記念する多様なジャンルの公演の上演

- ・1月には祝儀性の高い演目を集めた舞踊及び新作組踊、沖縄本島各地から集めた選りすぐりの民俗芸能を上演した。
- ・2月には沖縄民謡会の重鎮による三線音楽公演と人間国宝が織りなす琉球舞踊公演を実施した。
- ・3月には本土の芸能山口鷺流狂言及び組踊と沖縄芝居を1日にそれぞれ1演目ずつ2日間上演した。

(b) 上演機会の少ない優れた演目の上演

- ・6月沖縄芝居公演で、これまで口頭伝承による上演をしていた「三良若按司」を過去の複数の映像をもとに台本を作成し上演した。
- ・12月組踊公演において「屋慶名大主敵討」を上演した。

(c) 上演機会の少ない優れた演目の復活上演

◆9月研究公演において、通常の組踊公演で上演するものとは演技様式が異なる首里系組踊を研究し、組踊「花売の縁」を復元した。

(d) 「新作組踊戯曲大賞」の公募・選考・表彰

・沖縄の伝統芸能の保存振興を図るため、新たな作品の創造を目指して「新作組踊戯曲大賞」を6月から募集した(応募期間：9/15～10/16)。

- ◇大賞 該当作品なし
- ◇奨励賞 「恋染の手巾」大城貴幸
- ◇奨励賞 「玉掛けの糸」鈴木耕太
- ◇佳作 「笠松若茶良」伊良波賢弥

(e) 新作の上演

◆1月企画公演「開場20周年 祝いの宴」で新作組踊「祝寿の舞」を上演した。

ウ 日本博に関連した公演等の企画・実施

・日本博2.0関連事業として、公演や公演関連イベント等を実施した。

事業区分	館名	対象公演等
令和5年度日本博2.0事業(委託型)	本館	Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、3月舞踊、1月邦楽、8月特別企画 14時の部 LIVE PERFORMANCE OF JAPANESE TRADITION -Welcome!BUNRAKU and NIHONBUYO-(3/21 羽田空港第3旅客ターミナル)
	能楽堂	ショーケース公演(4公演)、Discover NOH & KYOGEN
	文楽劇場	Discover BUNRAKU インバウンド向け舞踊・邦楽公演配信事業(令和5年8月15日～令和6年9月30日)
	おきなわ	1月企画公演「開場20周年祝いの宴」、3月企画公演 組踊・歌劇傑作選「花売の縁」「泊阿嘉」/ 「執心鐘入」「薬師堂」 9月研究公演 組踊「花売の縁」 7月普及公演 親子のための組踊鑑賞教室「二童敵討」、8月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」(公演中止)、9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「割符」、11月普及公演 組踊鑑賞教室「執心鐘入」
令和5年度日本博2.0事業(参画型)	本館	全公演(Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、3月舞踊、1月邦楽、8月特別企画を除く)
	能楽堂	全公演(ショーケース、Discover NOH & KYOGENを除く)
	文楽劇場	全公演(Discover BUNRAKUを除く)

(2) 現代舞台芸術の公演	46
①オペラ	48
②バレエ	50
③現代舞踊	52
④演劇	53

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演し、その振興と普及に努める

ア オペラ公演:名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演

イ バレエ公演:スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演

ウ 現代舞踊公演:特徴あるスタイルを持つ芸術家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等の上演

エ 演劇公演:新作上演の企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、別表2のとおり主催公演を実施

ア 主催公演の実施

《分野別 公演実績(現代舞台芸術分野総計)》

分野	実績					計画					入場者数 達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
オペラ	11	54	54	79,119	83.2%	11	54	54	73,200	77.0%	108.1%
バレエ	6	53	40	79,016	85.0%	6	53	42	71,000	76.4%	111.3%
現代舞踊	2	4	4	3,188	82.7%	2	4	4	2,380	66.3%	133.9%
演劇	6	127	115	43,624	72.7%	6	127	115	39,200	65.6%	111.3%
合計	25	238	213	204,947	81.4%	25	238	215	185,780	73.9%	110.3%

※入場者数達成率 = 実績入場者数 / 計画入場者数

※単位は、公演数:公演、回数:回、日数:日、入場者数:人

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※公演収支の改善状況については、(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等に記載。

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
新国立劇場開場 25 周年記念公演 「アイーダ」	4/5～21 オペラ劇場	7	7	11,279	93.4%	7	7	10,100	83.6%	111.7%
「リゴレット」(新制作)	5/18～6/3 オペラ劇場	6	6	7,885	76.1%	6	6	7,500	72.4%	105.1%
「サロメ」	5/27～6/4 オペラ劇場	4	4	5,647	81.8%	4	4	5,400	78.2%	104.6%
新国立劇場開場 25 周年記念公演 「ラ・ボエーム」	6/28～7/8 オペラ劇場	5	5	6,834	79.2%	5	5	6,500	75.3%	105.1%
「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」(新制作)	10/1～9 オペラ劇場	4	4	4,441	62.0%	4	4	4,900	68.4%	90.6%
「シモン・ボッカネグラ」(新制作)	11/15～26 オペラ劇場	5	5	6,791	75.8%	5	5	6,600	73.7%	102.9%
「こうもり」	12/6～12 オペラ劇場	4	4	6,519	90.9%	4	4	5,900	82.3%	110.5%
「エウゲニ・オネーギン」	1/24～2/3 オペラ劇場	4	4	5,812	81.1%	4	4	5,100	71.1%	114.0%
「ドン・パスクワレ」	2/4～10 オペラ劇場	3	3	4,203	78.2%	3	3	3,900	72.5%	107.8%
「トリスタンとイゾルデ」	3/14～29 オペラ劇場	6	6	9,474	88.1%	6	6	8,200	76.3%	115.5%
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023 「ラ・ボエーム」	7/10～15 オペラ劇場	6	6	10,234	97.7%	6	6	9,100	86.9%	112.5%
オペラ【合計】	11 公演 計画:11 公演	54	54	79,119	83.2%	54	54	73,200	77.0%	108.1%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
11 公演	-	-	10,513	9,562	-	91.0%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023「ラ・ボエーム」では鑑賞校にアンケートを配布し、後日回収した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・11 公演 54 回のオペラ公演を計画どおり実施し、オペラ公演全体で目標入場者数を達成した(達成率 108.1%)。
- ・「リゴレット」「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」「シモン・ボッカネグラ」の3 作品を新制作上演した。
- ・新国立劇場開場 25 周年記念公演として「アイーダ」「ラ・ボエーム」を上演し、豪華なプロダクションと出演者により祝祭性を盛り上げた。
- ・フィンランド国立歌劇場、テアトロ・リアルとの共同新制作により「シモン・ボッカネグラ」を上演し、劇場間の国際交流に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症による入国制限が緩和され、海外からの招聘キャストのほとんどが予定通り出演することができた。また、コロナ禍の中で出演機会が大幅に増加した日本人歌手も引き続き重要な役で出演し、国内の優れた芸術家の存在を発信した。

- ・「リゴレット」マッダレーナ(清水華澄)、「サロメ」ヨハナーン(青山貴)、「ラ・ボエーム」シヨナル(駒田敏章)、「こうもり」アルフレード(伊藤達人)など、年度を通じてオペラ研修所修了生を起用し、その高い実力を示すことができた。
- ・日本語字幕の表示に加え、令和元年度から実施している全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。併せて、公演プログラムには従来のあらすじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の観劇環境整備を更に推進した。

【特記事項】

- ・令和 5 年度日本博 2.0 事業(委託型)：オペラ「シモン・ボッカネグラ」、高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023 「ラ・ボエーム」
- ・NHK BS プレミアム 4K 及び NHK BS 「プレミアムシアター」においてオペラ「シモン・ボッカネグラ」(令和 5 年 11 月収録)が放送された(1/21)。
- ・NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」においてオペラ「こうもり」(令和 5 年 12 月収録)が放送された(3/8)。

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「シェイクスピア・ダブルビル」(新制作)	4/29～5/6 オペラ劇場	7	7	9,057	72.4%	7	7	8,400	67.1%	107.8%
「白鳥の湖」	6/10～18 オペラ劇場	9	7	15,032	93.4%	9	9	13,000	80.8%	115.6%
「ドン・キホーテ」	10/20～29 オペラ劇場	10	7	15,136	84.7%	10	7	12,800	71.6%	118.3%
「くるみ割り人形」	12/22～1/8 オペラ劇場	17	13	26,603	87.5%	17	13	24,300	79.9%	109.5%
「ホフマン物語」	2/23～25 オペラ劇場	4	3	5,552	77.6%	4	3	4,800	67.1%	115.7%
こどものためのバレエ劇場 2023 エデュケーショナル・プログラム「白鳥の湖」	7/28～30 オペラ劇場	6	3	7,636	85.3%	6	3	7,700	86.0%	99.2%
バレエ【合計】	6 公演 計画:6 公演	53	40	79,016	85.0%	53	42	71,000	76.4%	111.3%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	-	-	1,839	1,774	-	96.5%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・6公演53回のバレエ公演を実施し、バレエ公演全体で目標入場者数を達成した（達成率111.3%）。
- ・「シェイクスピア・ダブルビル」では、新国立劇場バレエ団委嘱作品・世界初演となる『マクベス』、英国バレエの巨匠フレデリック・アシュトンによる『夏の夜の夢』の2作品を新制作上演し、高い評価を得た。
- ・「白鳥の湖」「ドン・キホーテ」「くるみ割り人形」では、主要役に若手ダンサーを積極的に登用し、多くのダンサーにロールデビューの機会を与えられたとともに、観客にバレエ団の層の厚さをアピールすることができた。
- ・「ドン・キホーテ」は新国立劇場バレエ団初の愛知公演を実施した。
- ・「くるみ割り人形」昨年度に続いてお正月期間を含めて年末年始を通じて上演し、過去最高の入場者数を記録した前年度実績を更に上回ることができた。
- ・新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまで遺憾無く実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、観客から高い支持を得た。また、外部専門家等からも評価を受けた。
- ・SNS(X、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に映像・写真で掲載したり、映像広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。
- ・新国立劇場バレエ団のプリンシパルダンサー速水渉悟が、令和5年度(第74回)芸術選奨において文部科学大臣新人賞を受賞し、また、第30回中川鋭之助賞を受賞した。
- ・新国立劇場バレエ団のプリンシパルダンサー米沢唯が、令和5年度名古屋市芸術奨励賞を受賞し、また、

第76回中日文化賞を受賞した。

【特記事項】

- ・日本発のグローバルのコンテンツを制作・発信するとともに、世界トップクラスのバレエ団の確立を目指すにあたり、多岐にわたるリハーサルに対応できる十分なリハーサル環境の整備が課題となっていた。ダンサーの育成や技術の強化及び一層の作品の質向上を図るため、10月に劇場1階フロアにバレエリハーサル室を増設した。

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2023」	6/24～25 中劇場	2	2	1,285	71.5%	2	2	1,140	63.5%	112.7%
新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future:Young NBJ GALA」	11/25～26 中劇場	2	2	1,903	92.4%	2	2	1,240	69.0%	153.5%
現代舞踊【合計】	2公演 計画:2公演	4	4	3,188	82.7%	4	4	2,380	66.3%	133.9%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
2公演	-	-	211	182	-	86.3%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・2公演4回の現代舞踊公演を実施し、現代舞踊公演全体で目標入場者数を大きく上回った(達成率133.9%)。
- ・日本独自の創作舞踊のパイオニアたちの作品を復元上演する企画の第4弾「ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2023」では、各作品責任者による丁寧な指導と、その作品が創作された場に立ち会ったスタッフの協力・指導により、質の高い舞台を改めて創りあげた。
- ・新国立劇場バレエ団初の試みとして、若手ダンサーにスポットライトを当てたガラ公演「DANCE to the Future: Young NBJ GALA」を実施し、抜擢された若手ダンサーが次世代の主役候補として成長するきっかけとなるとともに、観客がバレエ団の若手に注目する機会となった。
- ・新国立劇場バレエ団の中から振付家を育てるプロジェクト「NBJ Choreographic Group」を継続的に実施し、今年度は長期的に作品制作に取り組めるよう、年度内に3回の試演会及びワークショップを行った。

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「エンジェルス・イン・アメリカ」 第一部「ミレニアム迫る」/第二部 「ペレストロイカ」	4/18～5/28 小劇場	42	32	8,653	67.8%	42	32	8,000	62.7%	108.2%
【未来につながるもの】新作Ⅲ 「楽園」	6/8～25 小劇場	16	16	1,983	38.5%	16	16	3,500	67.9%	56.7%
「モグラが三千あつまって」	7/8～30 小劇場	17	17	3,510	60.7%	17	17	3,800	69.4%	92.4%
シェイクスピア、ダークコメディ交互 上演「尺には尺を」	10/18～11/18 中劇場	17	17	11,585	75.6%	17	17	10,000	65.4%	115.9%
シェイクスピア、ダークコメディ交互 上演「終わりよければすべてよし」	10/19～11/19 中劇場	17	17	12,786	83.4%	17	17	10,000	65.4%	127.9%
「東京ローズ」	12/7～24 小劇場	18	16	5,107	90.4%	18	16	3,900	67.3%	130.9%
演劇【合計】	6 公演 計画:6 公演	127	115	43,624	72.7%	127	115	39,200	65.6%	111.3%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	-	-	1,408	1,324	-	94.0%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・6公演 127回の演劇公演を実施し、演劇公演全体で目標入場者数を達成した（達成率 111.3%）。
- ・「エンジェルス・イン・アメリカ」においては、日本ではなかなか見ることのできない作品の一部・二部通し上演を複数日程で実現させた。二部作通して7時間半にも及ぶ大作であり、たった8名で本作を演じ切る出演者をフルキャストオーディションで決定したことは、演劇界でも大きなニュースとなった。
- ・シェイクスピアの歴史劇シリーズを2009年の「ヘンリー六世三部作」から14年間にわたって上演し続けてきたスタッフ、キャストが再集結し、シェイクスピアのダークコメディ「尺には尺を」「終わりよければすべてよし」を交互上演した。
- ・フルオーディション企画の第6弾「東京ローズ」は、英国で2019年に初演されたミュージカルを日本版としてディベロップし、日本独自の演出とオーディションで選ばれた実力のあるキャストによる好演で高い評価を得た。
- ・「モグラが三千あつまって」、シェイクスピア、ダークコメディ交互上演「尺には尺を」「終わりよければすべてよし」各公演に付随して、視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポート（文化庁委託事業「令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業」）を実施した。
- ・公演に付随して実施する企画「ギャラリープロジェクト」を実施し、公演後のガイドツアーのほか、トークセッションはオンラインで配信した。
- ・「エンジェルス・イン・アメリカ」に出演した山西惇が、令和5年度（第74回）芸術選奨において＜演劇部門＞文部科学大臣賞を受賞し、また第31回読売演劇大賞において最優秀男優賞を受賞した。
- ・演劇「モグラが三千あつまって」では、原作者・原作挿絵作家の遺族の全面的な協力を得て、作品世界をより具体的に見せることができ、小劇場そのものをモグラの地下都市に見立て、センターステージの形式で壁も360°モグラの世界で囲むことにより、観客をより劇世界の中へと誘うことができた。また、毎公演

終演後に行う子供向けガイドツアーやホワイエの装飾、新国メンバーズの来場者プレゼントキャンペーンなどのスペシャル企画をプロモーションの一助とし、長塚圭史と共に制作してきた「こどもも大人も楽しめる」シリーズ史上最多の子供の観客が来場した。

【特記事項】

- NHK BS プレミアム 4K 及びNHK BS「プレミアムステージ」において、以下の公演映像が放送された。
 - ◇演劇「キネマの天地」(令和3年6月収録。12/3放送)
 - ◇演劇「尺には尺を」(令和5年11月収録。1/14放送)
 - ◇演劇「終わりよければすべてよし」(令和5年11月収録。2/4放送)

(3) 青少年等を対象とした公演	55
ア 青少年、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)	56
イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)	59
ウ 外国人を対象とした公演・入門企画	60
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	62
[1] 伝統芸能の公開に際しての留意事項等	63
[2] 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等	69

2-(3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 国内外の幅広い来訪者に伝統芸能及び現代舞台芸術の魅力を分かりやすく紹介するため、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表 4 のとおり実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫
- ウ 外国人を対象とした公演・入門企画を別表 5 のとおり実施

ア 青少年、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は近松門左衛門の原作による神話の世界を題材にした舞踊劇「日本振袖始」を、7月は味わい深い義太夫狂言の名場面として名高い「双蝶々曲輪日記－引窓－」を、それぞれ分かりやすい解説付きで上演することにより、歌舞伎初心者への普及を図る。

なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を実施するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施する。

本館文楽公演では、12月には初代国立劇場閉場後初めての代替施設で行う鑑賞教室を実施する。演目は舞踊劇「団子売」と世話物の名作「傾城恋飛脚」を選定し、短い時間で文楽の魅力を、出演者による解説と共に楽しむことができる構成とする。また、公演期間中に2回の社会人向けステージを用意し、学生以外の観客層に対しても、文楽に触れる機会を設ける。

演芸場では、毎年開催している7月「親子で楽しむ演芸会」を1日2回開催する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「伯母ヶ酒」、能の人気曲「羽衣」に、学生が親しみを持てるよう解説を付ける。年間を通して定期的に「国立能楽堂ショーケース」、7・8月には「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。

文楽劇場では、青少年や観劇経験の少ない層を主な対象として文楽鑑賞教室を実施する。「五条橋」を上演して文楽の舞台に触れた後、「文楽へようこそ」と題して人形遣いの実演解説を行う。最後に名作鑑賞として「仮名手本忠臣蔵」殿中刃傷の段、塩谷判官切腹の段、城明渡しの段を上演し、文楽の普及を図る。また、夏休み文楽特別公演では三部制の第1部を「親子劇場」と題し、より低年齢層とその保護者に文楽に親しめるように、雷神と人間の家族の交流を描く「かみなり太鼓」を上演し、引き続き「文楽ってなあに」と題した三人遣いの人形の遣い方の解説を行い、観客から参加者を募って舞台上で体験させる。そして人気演目の「西遊記」では、孫悟空が宙乗りをして座席上を移動、子どもを中心に観客の興味を喚起する。

国立劇場おきなわでは、7月には親子、11月には一般及び主として中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。公演では、組踊の上演前に理解を深めるために、案内役がスクリーンを活用しながら組踊の解説を行う。また、9月には沖縄芝居の魅力を広めるため「沖縄芝居鑑賞教室」を上演する。

① 公演実績

(a) 青少年や社会人・親子等を対象とした公演(再掲)

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「日本振袖始 一八岐大蛇 と素戔鳴尊」	6/2～24 本館大劇場	42	21	41,722	65.4%	42	21	39,200	61.4%	106.4%
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑 賞教室」	6/9 本館大劇場	(1)	(1)	(1,167)	(76.8%)	(1)	(1)	(740)	(48.7%)	157.7%
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「双蝶々曲輪日記 一引窓 」	7/3～24 本館大劇場	40	20	46,788	77.0%	40	20	49,400	81.3%	94.7%
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑 賞教室」	7/6・20 本館大劇場	(2)	(2)	(1,407)	(46.3%)	(2)	(2)	(1,480)	(48.7%)	95.1%
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	7/16・20～24 本館大劇場	(11)	(6)	(16,398)	(98.1%)	(11)	(6)	(15,500)	(92.7%)	105.8%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「団子売」「傾城恋飛脚」	12/5～14 シアター1010	20	10	8,361	79.5%	20	10	7,800	74.7%	107.2%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞 教室」	12/9・10 シアター1010	(2)	(2)	(832)	(79.1%)	(2)	(2)	(700)	(67.0%)	118.9%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「五条橋」「解説 文楽へよう こそ」「仮名手本忠臣蔵」	6/8～22 文楽劇場	28	14	12,899	63.0%	28	14	16,500	81.1%	78.2%

文楽	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」	6/11 文楽劇場	(1)	(1)	(705)	(97.0%)	(1)	(1)	(450)	(61.9%)	156.7%
文楽	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)	7/22~8/13 文楽劇場	18	18	6,479	49.5%	22	22	5,500	34.4%	117.8%
舞踊	7月舞踊公演 「親子で楽しむ日本舞踊」 ※年度計画外	7/28 本館小劇場	1	1	381	64.6%	-	-	-	-	-
大衆 芸能	特別企画公演 「親子で楽しむ演芸会」	7/30 演芸場	2	1	574	95.7%	2	1	576	96.0%	99.7%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「蝸牛」、能「葵上 梓之出」	4/21 能楽堂	1	1	622	99.2%	1	1	500	79.7%	124.4%
能楽	【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「伯母ヶ酒」、能「羽衣」	6/20~24 能楽堂	10	5	5,807	92.6%	10	5	5,070	80.9%	114.5%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「蚊相撲」、能「杜若」	7/19 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	500	79.7%	124.6%
能楽	【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「二人大名」、狂言「菌」	7/29 能楽堂	1	1	615	98.1%	1	1	580	92.5%	106.0%
能楽	【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「安達原 白頭」	8/5 能楽堂	1	1	615	98.1%	1	1	580	92.5%	106.0%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「太刀奪」、能「紅葉狩」	10/20 能楽堂	1	1	622	99.2%	1	1	500	79.7%	124.4%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「梟山伏」、能「巴」	1/19 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	500	79.7%	124.6%
組踊等	親子のための組踊鑑賞教室 「二童敵討」	7/22 おきなわ大劇場	1	1	243	48.1%	1	1	331	60.1%	73.4%
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室 ※公演中止	8/5 おきなわ大劇場	0	0	0	-	1	1	367	60.1%	-
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室「割符」	9/14~16 おきなわ大劇場	3	3	1,025	62.8%	3	3	945	65.1%	108.5%
組踊等	組踊鑑賞教室 「執心鐘入」	11/15~17 おきなわ大劇場	6	3	1,667	55.0%	6	3	2,148	65.0%	77.6%
	合計	17公演 計画:17公演	177	103	129,666	70.1%	181	107	130,997	69.7%	99.0%

※第5期中期目標の指標2-4「青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数」に評価単位を揃えるため、令和5年度計画における別表3及び別表4の公演を合算して評価する。

※ただし、別表4のうち、「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」「親子で楽しむ歌舞伎教室」「社会人のための文楽鑑賞教室」「大人のための文楽入門」は、別表3の「6月歌舞伎鑑賞教室」「7月歌舞伎鑑賞教室」「12月文楽鑑賞教室」「6月文楽鑑賞教室」の内数であるため、実績値・計画値とも合計には含まない。

- ・台風6号のため、8月普及公演「琉球舞踊鑑賞教室」(8/5)を中止した。また、出演者に体調不良者が出たため、夏休み文楽特別公演の一部日程を中止した(8/2~5)。

(A)中止分を計画から除いた場合の計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ以下のとおり。

伝統芸能合計(A)129,630人 (B)100.0%

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	共催
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演	グランシップ 中ホール	6/26	2	1	1,505	86.2%	(公財)静岡県文化財団、静岡県
共催	7月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立青少年 センター	7/26 ~27	4	2	1,233	43.4%	かながわ伝統芸能祭実行委員会

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
11公演	4,769	3,835	3,564	3,490	80.4%	97.9%

※能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

③ 優れた業績・評価すべき点

<歌舞伎>

- ・歌舞伎では、6・7月に鑑賞教室を実施し、ダイナミックな立廻りや妖艶な女方の芸、バラエティー豊かな音楽などが特徴的な「日本振袖始」(6月)と、登場人物一人一人が互いを思いやる心の機微が描かれる義太夫狂言の名場面「双蝶々曲輪日記ー引窓ー」(7月)を取り上げ、作品の内容に則した分かりやすい事前解説を施すことで、若年層が歌舞伎の魅力に初めて触れる貴重な機会を提供することができた。
- ・公演内容の理解を促進するため、歌舞伎音楽の詞章を字幕表示装置で舞台進行に合わせて表示した。
- ・「親子で楽しむ歌舞伎教室」では、イラスト入りのパンフレットを作成し、無料配布した。また、スマートフォンによるAR(拡張現実)技術を活用し、ロビー内での観客による謎解きゲームを実施し、フォトフレームを提供した。

<文楽>

(東京)

- ・今年度の文楽鑑賞教室は、代替劇場で行う初めての長期公演であった。昨年度までと同じく、字幕表示を実施し、初心者が鑑賞する手助けとした。文楽鑑賞教室ならではの解説パートも、出演者による解説を従前と変わることなく実施し、名作鑑賞だけではなくプロの技のレクチャーをライブで聞く、鑑賞教室ならではの趣向を提供することができた。まず、太夫・三味線の軽快な音楽と人形の軽快な動きを楽しめる「団子売」を鑑賞し、解説で文楽の見どころをとらえて、60分間の「傾城恋飛脚」を楽しむという展開は、コンパクトに文楽の世界を知ることができる構成であった。
- ・代替劇場では終演時間によって観客の退館方法が変わるため時間的な制約が大きくなった。そのため、できるだけシンプルに、かつ分かりやすい解説に取り組んだ。

(大阪)

- ・文楽鑑賞教室では、解説者の映像をスクリーンに拡大投影し、ステージから遠い席の観客にも解説の内容が見えるようにした。また、昨年引き続き、演目解説の際に、無料配布の公演解説書に掲載されているあらすじマンガをスクリーンに拡大投影しながら紹介し、視覚的にも、分かりやすく内容を伝えることができ好評であった。
- ・夏休み文楽特別公演では、第一部親子劇場の解説「文楽ってなあに」において、人形遣いによる実演付きの解説を行った後、質疑応答の時間を設けて、出演者と観客との相互コミュニケーションを図ることができた。

<大衆芸能>

- ・演芸場で夏休み期間に1日2回開催した「親子で楽しむ演芸会」では、落語を中心に、講談、マジック、コントなど、子どもにも分かりやすい盛りだくさんの番組で、多くの親子に演芸の多彩な魅力を存分に楽しんでもらうことができた。

<能楽>

- ・能楽鑑賞教室では、動きの多い、ポピュラーな作品を選曲することとし、今年度は「伯母ヶ酒」と「羽衣」を上演した。能・狂言の上演前には出演者による解説を設け、鑑賞の導きとした。
- ・「国立能楽堂ショーケース」は社会人を主対象とした入門的な公演で、親しみやすい作品を選択して上演、事前のワークショップや当日のプレトークなど様々に工夫を凝らしながら、年間を通して定期的実施した。座席字幕表示装置には日本語での現代語訳チャンネルを追加して3チャンネル方式とし好評を得た。また、ワークショップでは通訳の手配を可能とするなどして、外国人の誘客促進にも努めた。
- ・「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では公演内容等の理解を促進するため、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評であった。

<組踊等沖縄伝統芸能>

- ・7月、11月の組踊鑑賞教室は、初めて組踊を鑑賞する方の理解を深めるために、案内役による掛け合いやスクリーンを活用しながら組踊の歴史や約束事などを分かりやすく丁寧に解説した。
- ・9月の沖縄芝居鑑賞教室は、初めて沖縄芝居を鑑賞する方の理解を深めるために、案内役の3人が沖縄芝居の歴史背景や舞台機構の紹介をしながら、沖縄芝居の魅力伝えた。
- ・7月の親子のための組踊鑑賞教室及び8月の琉球舞踊鑑賞教室では、親子料金を学童にも適用し、県内学童に周知した。また、9月の沖縄芝居鑑賞教室及び11月の組踊鑑賞教室では、学校行事としての参加を促すため、前年度から営業活動に取り組んだ。
- ・沖縄県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体等の誘客に努めた。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

① 公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023「ラ・ボエーム」	7/10～15 オペラ劇場	6	6	10,234	97.7%	6	6	9,100	86.9%	112.5%
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2023 エデュケーショナル・プログラム「白鳥の湖」	7/28～30 オペラ劇場	6	3	7,636	85.3%	6	3	7,700	86.0%	99.2%
	合計	2公演 計画:2公演	12	9	17,870	92.0%	12	9	16,800	86.5%	106.4%

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演、主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演》

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023「魔笛」	ロームシアター京都 メインホール	10/26 ～27	2	2	2,983	85.8%	京都市、ロームシアター京都((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)

《主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	日程	回数
令和5年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)	新潟県、石川県、岐阜県、京都府、富山県、福井県、東京都の小中学校	主催:文化庁	6月～1月	8回

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
2公演	—	—	6,867	6,212	—	90.5%

※一部でウェブアンケートを実施。そのため、配布数、回収数及び回収率は計測できない。

③ 優れた業績・評価すべき点

・こどものためのバレエ劇場 2023 として上演したエデュケーショナル・プログラム「白鳥の湖」は、バレエを構成する様々な要素の説明や観客が身体を動かして体験する場面を織り込んだ構成で、子ども達が楽しみながらバレエや舞台の魅力を学べる内容となった。本公演と同じ衣裳・装置を使用し、オーケストラの生演奏で上演し、子ども達に本格的な鑑賞体験を提供することができた。また、ホワイエで衣裳展示を行い、衣裳を間近で見られるだけでなく、デザイン画等の資料もあわせて展示して、舞台を創り上げるスタッフワークへの興味も喚起することができた。

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」をはじめ、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

本館文楽では、文楽に興味を持つ外国人でも鑑賞しやすいステージとして、「Discover BUNRAKU」公演を行う。解説では文楽技芸員の説明を、通訳がその場で翻訳する形で実施する。従前は設定を作りこむことで、日本文化への理解へ踏み込むことを目的としていたが、今後さまざまな代替劇場でステージを実施することから、設備に頼らず汎用性の高い進行ができるよう、また文楽そのものの理解ができるような展開を行うこととする。本編の上演では、英語字幕とオーディオガイドを導入することで、理解の助けとする。

文楽劇場においては、解説にアメリカ生まれで大阪育ちのフリーアナウンサーを起用し、英語字幕の表示、別冊の無料解説書(英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)、英語イヤホンガイドの無料提供により、文楽の理解を深める一助とする。

能楽堂においては、座席字幕表示装置を活用し、6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行う。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語表記として、理解促進に役立てる。

国立劇場おきなわにおいては、多言語対応として、日本語・英語・中国語・韓国語による音声ガイドを無料貸与し、鑑賞の手助けとする。

① 公演実績

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	6/23 本館 大劇場	2	1	2,265	74.5%	2	1	1,320	43.4%	171.6%
文楽	12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	12/8 シアター 1010	1	1	467	88.8%	1	1	300	57.5%	155.7%
文楽	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」	6/11 文楽劇場	1	1	289	39.8%	1	1	350	48.1%	82.6%
舞踊	3月舞踊公演 「Discover NIHONBUYO－日本舞踊へのいざない－」 ※年度計画外	3/24 能楽堂	1	1	404	64.4%	-	-	-	-	-
能楽	【外国人のための能楽鑑賞教室】 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「二人袴」、能「邯鄲」	5/27 能楽堂	1	1	627	100.0%	1	1	600	95.7%	104.5%
組踊等	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	11/18 おきなわ 大劇場	1	1	275	54.5%	1	1	331	60.1%	83.1%
	合計	6公演 計画:5公演	7	6	4,327	71.5%	6	5	2,901	53.1%	149.2%

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
5公演	-	1,005	972	957	-	98.5%

※一部でウェブアンケートを実施。そのため、配布数及び回収率は計測できない。

③ 優れた業績・評価すべき点

＜歌舞伎・文楽(東京)＞

- ・「解説」について、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」では英語話者ナビゲーターを交えた特別バージョンにアレンジし、「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」では同時通訳をつけて提供した。
- ・「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」では舞台上部に英語字幕を掲出し、2言語(英語・日本語)の音声同時解説と6言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)表記のパンフレットを無料で提供し、外国人観客の理解促進を図った。

<文楽(大阪)>

- ・「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」では写真入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料で配布した。
- ・文楽鑑賞教室公演中の土日6ステージ(Discover BUNRAKUの1ステージを含む)において、英語イヤホンガイドの無料貸出を実施し、外国人観客の理解の手助けとした。

<舞踊>

- ・「Discover NIHONBUYOー日本舞踊へのいざないー」では座席字幕表示装置に日本語・英語選択式の字幕を表示し、2言語(日本語・英語)表記のパンフレットを無料で提供し、外国人観客の理解促進を図った。

<能楽>

- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」は6月の能楽鑑賞教室から独立させて5月に実施し、充実した番組によって外国人鑑賞者に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行った。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語表記とし、理解促進に大いに役立った。

<組踊>

- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、劇場ロビーに英語通訳者を配置したほか、多言語音声ガイド(4言語：日本語・英語・中国語・韓国語)を導入した。
- ・また、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成、県内学校の外国語指導助手(ALT)や県人会への周知等、誘客活動を実施した。
- ・国立劇場おきなわ運営財団ウェブチケット販売サービスの英語サイトや、英語版のチケット販売ウェブサイト(Confetti)を活用し、外国のお客様の利便性向上を図った。
- ・日本博対象公演については、音声ガイド、タブレットの他、英語のリーフレットを配布した。

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数及び公演収支の改善目標の設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、他の独立行政法人、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等
 - ④ICTを活用した舞台映像の配信

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 別表 1 及び別表 2 のとおり公演収支の改善
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等を別表 6 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施
 - ④インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信
オンライン動画配信の視聴者数
 - i. 伝統分野: 48,000 回
 - ii. 現代舞台芸術: 15,000 回

[1] 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 公演収支の改善

＜分野別 公演収支改善率＞

(単位:千円)

分野	前中期実績	実績		計画	
		公演収支額	改善率(A)	公演収支額	改善率(B)
歌舞伎	△159,948	19,215	112%	△79,974	50%
文楽	△87,341	62,618	172%	△40,875	55%
舞踊・邦楽等	△41,257	△42,079	△2%	△41,257	0%
舞踊		△16,523			
邦楽		△7,453			
雅楽		4,428			
声明		11,337			
民俗芸能		△4,723			
琉球芸能		△2,338			
特別企画		△26,807			
大衆芸能	21,367	31,998	50%	21,367	0%
能楽	4,698	26,336	461%	4,698	0%
組踊等	△48,509	△43,601	10%	△48,509	0%
合計	△310,991	54,487	118%	△184,550	46%

※前中期実績＝平成30年度～令和4年度実績の年平均値

※改善率＝(公演収支額－前中期実績)／前中期実績

※大衆芸能については、もともと黒字公演が多いところ、国立演芸場の再整備に伴って客席数・公演回数が減少するため、代替劇場の確保状況により年度ごとに公演収支額が変動することになる。そのため、以下の算出式により、国立演芸場に係る前中期実績を補正する。上表の前中期実績は補正後の数値である。

前中期実績補正值＝公演収入の前中期実績補正值－公演支出の前中期実績補正值

公演収入の前中期実績補正值＝公演収入の前中期実績×当年度計画の総席数／総席数の前中期実績

公演支出の前中期実績補正值＝公演支出の前中期実績×当年度計画の公演回数／公演回数の前中期実績

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

② アンケート調査の実施

＜分野別集計＞

分野	公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	5公演	—	2,319	2,044	2,012	—	98.4%
文楽	10公演	—	2,588	2,345	2,317	—	98.8%
舞踊・邦楽等	10公演	—	3,986	3,515	3,452	—	98.2%
大衆芸能	6公演	1,467	842	842	772	57.4%	91.7%
能楽	9公演	5,179	1,312	1,312	1,268	25.3%	96.6%
組踊等沖縄伝統芸能	23公演	7,158	4,851	4,819	4,651	67.8%	96.5%
合計	63公演	—	15,898	14,877	14,472	—	97.3%

※「Discover KABUKI」、本館12月「Discover BUNRAKU」、「Discover NIHONBUYOー日本舞踊へのいざないー」の外国人向けアンケートについては、ウェブ回答方式で実施。そのため、配布数及び回収率は計測できない。

※能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
----	-----	----	----	----	----	------	-----	-------

協力	特別企画公演 「演芸大にぎわい～東から西から～」	演芸場	10/7 ～9	3	3	573	63.7%	(一社)日本演芸家連合
共催	沖縄県伝統芸能公演「華&舞」	おきなわ 小劇場	6/30	1	1	185	72.5%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「肝心(ちむぐくる)」	おきなわ 小劇場	7/7	1	1	146	57.3%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「組踊が2倍楽しくなる鑑賞教室 Vol.7 組踊「執心鐘入」」	おきなわ 小劇場	7/21	1	1	233	91.4%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「はばたけ！未来を担う若手舞踊家たち！」	おきなわ 小劇場	8/18	1	1	164	64.3%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「もっと知りたい？もっと楽しい！沖縄の器楽」	おきなわ 小劇場	8/25	1	1	132	51.8%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「第2回高校生選抜かりゆし芸能公演」	おきなわ 小劇場	8/27	1	1	166	65.1%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「琉球古典音楽野村流保存会中部南支部～若者の芽～組踊へのチャレンジ」	おきなわ 小劇場	9/15	1	1	104	40.8%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県伝統芸能公演「絃ぬ縁(いとぬ縁)～継承～」	おきなわ 小劇場	11/24	1	1	209	82.0%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	新春組踊大公演	おきなわ 大劇場	1/6 ～7	2	2	343	29.7%	(一社)伝統組踊保存会
共催	沖縄県伝統芸能公演「新作組踊 春夜の夢～牡丹亭の梅と柳」	おきなわ 小劇場	1/26	1	1	229	89.8%	(公財)沖縄県文化振興会
	合計	11公演		14	14	2,484	57.1%	

(b) その他の公演、地方自治体等との後援・協力等

i. 令和5年度(第78回)文化庁芸術祭

区分	館名	公演名
主催公演	本館大劇場	10月歌舞伎公演
	演芸場	10月特別企画公演(1公演)
	能楽堂	11月企画公演
	文楽劇場	11月文楽公演、10月舞踊公演
	おきなわ	10月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)
協賛公演	おきなわ	10月定期公演、11月企画公演、11月普及公演

ii. 地方公共団体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力等

館名	公演名	区分	連携協力先
本館	歌舞伎鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	親子で楽しむ歌舞伎教室 (7月歌舞伎鑑賞教室期間中)	共催	東京都教育委員会
		後援	文化庁、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
	社会人のための歌舞伎鑑賞教室	後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所
	文楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	9月歌舞伎、10月歌舞伎	後援	千代田区、千代田区観光協会
	8月特別企画、1月邦楽、3月舞踊	主催	文化庁
	6月邦楽(現代邦楽名曲選)	協力	株式会社春秋社
	5月声明	協力	公益財団法人朝日新聞文化財団
	10月琉球芸能	協力	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
	8月特別企画	協力	公益財団法人新国立劇場運営財団、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
	10月歌舞伎	特別協力	紡ぐプロジェクト
10月琉球芸能	協賛	株式会社沖縄タイムス社、株式会社琉球新報社	
演芸場	10月特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」	制作協力	一般社団法人日本演芸家連合
能楽堂	能楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	国立能楽堂開場40周年記念特別シンポジウム「古典に親しむ～能楽の道標～」	後援	古典の日推進委員会
文楽劇場	全公演	共催	関西元気文化圏共催事業
	6月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局

		協力	公益財団法人文楽協会
	夏休み文楽特別公演	後援	尼崎市、大阪府教育委員会

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	劇場	主催等	日程
共催	国際物理オリンピック 2023 日本大会	国立オリンピック記念青少年総合センター 他	一般社団法人国際物理オリンピック 2023 協会	7/10 ～17
共催	人形浄瑠璃文楽座特別公演-文楽祭-	本館小劇場	一般社団法人人形浄瑠璃文楽座、公益財団法人文楽協会	9/25
共催	第 39 回俳優祭	本館大劇場	公益社団法人日本俳優協会	9/28
制作協力	第四回古典芸能を未来へ～至高の芸と継承者～(新作狂言「鮎」)	国立劇場大劇場	NHK エンタープライズ	8/2
制作協力	京都観世会 11 月例会(復曲能「名取ノ老女」)	京都観世会館	京都観世会	11/26
制作協力	野村萬斎狂言劇場(新作狂言「鮎」)	衛武營國家藝術文化中心(高雄市【台湾】)	衛武營國家藝術文化中心	3/9 ・10
協力	「初代国立劇場さよなら公演×日比谷カレッジ メイキング オブ 歌舞伎 イヤホンガイド編」	千代田区立日比谷図書文化館	千代田区立日比谷図書文化館	5/8
協力	教養講座「初代国立劇場を知る～5 月文楽公演『菅原伝授手習鑑』～」	国立劇場小劇場 他	千代田区九段生涯学習館	5/17 ・20
協力	伝統文化学習鑑賞会(歌舞伎学習鑑賞会)	本館大劇場 他	まちづくり文化ボランティアグループよこすか市民会議	7/15
協力	「初代国立劇場さよなら公演×日比谷カレッジ 国立劇場の思い出-制作の視点から」	千代田区立日比谷図書文化館	千代田区立日比谷図書文化館	9/8
協力	ITEAC2023JAPAN	国立能楽堂 大講義室	ITEAC2023 JAPAN 実行委員会、一般社団法人日本劇場技術者連盟	9/19
協賛	2023 年度小学生のための歌舞伎体験教室	本館小劇場 他	文化庁	7/16、 8/19 ～25
協賛	第 33 回全国高等学校総合文化祭 優秀校東京公演	本館大劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/26 ～27
協賛	令和 5 年度キッズ伝統芸能体験	国立能楽堂	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/17 ～3/31
協賛	第 64 回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/18
後援	硯修會	国立能楽堂	硯修會	2/24
後援	トークイベント「直木賞永井紗耶子が国立劇場の奈落に！多数の写真で『木挽町のあだ討ち』のネタバレありトーク 美術展ナビ×六本木蔦屋書店×国立劇場」	六本木蔦屋書店シェアラウンジ	美術展ナビ(読売新聞)	10/28
後援	梅村能の会	横浜能楽堂	梅村能の会	11/4

② 全国各地の文化施設等における公演等

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
※主催	1 月歌舞伎公演 「梶原平三誉石切」「芦屋道満大内鑑」「勢獅子門出初台」	新国中劇場	1/5 ～27	21	21	10,214	47.2%	
※主催	12 月文楽公演 「源平布引滝」	シアター1010	12/4 ～14	11	11	3,928	67.9%	足立区
※主催	2 月文楽公演 「二人三番叟」「仮名手本忠臣蔵」/ 「艶容女舞衣」「戻駕色相肩」/ 「五条橋」「双蝶々曲輪日記」	日本青年館	2/5 ～13	27	9	10,013	47.6%	
※主催	12 月文楽鑑賞教室 「団子売」「傾城恋飛脚」	シアター1010	12/5 ～14	20	10	8,361	79.5%	足立区
※主催	3 月舞踊公演 「Discover NIHONBUYO-日本舞踊へのいざない-」	能楽堂	3/24	1	1	404	64.4%	
※主催	1 月邦楽公演 「源氏物語音楽絵巻」	新國小劇場	1/27	2	1	701	90.8%	
※主催	1 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	紀尾井小ホール	1/11 ～15	5	5	476	38.1%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	1 月国立演芸場寄席(16 日～20 日)	紀尾井小ホール	1/16 ～20	5	5	1,087	87.0%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	2 月国立演芸場寄席(6 日～10 日)	紀尾井小ホール	2/6 ～10	5	5	846	67.7%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	2 月国立演芸場寄席(21 日～25 日)	内幸町ホール	2/21 ～25	5	5	526	57.5%	千代田区
※主催	3 月国立演芸場寄席(12 日～16 日)	紀尾井小ホール	3/12	5	5	404	32.3%	(公財)日本製鉄文化財団

	日)		～16					
※主催	3月国立演芸場寄席(26日～30日)	紀尾井小ホール	3/26～30	5	5	351	28.1%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	3月特別企画公演「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」	紀尾井小ホール	3/25	1	1	228	91.2%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	第27期歌舞伎俳優・第25期歌舞伎音楽(竹本)・第18期歌舞伎音楽(鳴物)研修修了発表会、第28期歌舞伎俳優・第9期歌舞伎音楽(長唄)・第8期大衆芸能(太神楽)研修発表会(合同)	国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール	3/15	1	1	229	73.4%	独立行政法人国立青少年教育振興機構
主催	第32回能楽若手研究会 京都公演 若手能	京都観世会館	6/24	1	1	381	84.3%	
主催	第32回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	1/20	1	1	405	90.4%	
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	グランシップ中ホール	6/26	2	1	1,505	86.2%	(公財)静岡県文化財団、静岡県
共催	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	7/26～27	4	2	1,233	43.4%	かながわ伝統芸能祭実行委員会
共催	国立劇場おきなわ県外公演	アクロス福岡福岡シンフォニーホール	12/5	2	1	2,052	57.0%	(一社)九州市民大学
共催	国立劇場おきなわ県外公演	岡山芸術創造劇場	2/11	1	1	492	77.5%	(公財)岡山文化芸術創造岡山芸術創造劇場
合計		20公演		125	92	43,836	56.3%	

※印のものは、国立劇場等再整備期間中の代替施設における公演

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等

(a) 年度計画公演

公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	本館大劇場	6/23	2	1	2,265	74.5%	
12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	シアター1010	12/8	1	1	467	88.8%	
6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」	文楽劇場	6/11	1	1	289	39.8%	
3月舞踊公演「Discover NIHONBUYOー日本舞踊へのいざないー」 ※年度計画外	能楽堂	3/24	1	1	404	64.4%	
【外国人のための能楽鑑賞教室】 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「二人袴」、能「邯鄲」	能楽堂	5/27	1	1	627	100.0%	
アジア・太平洋地域の芸能 ～海を渡り台湾で継承される伝統音楽南管～	おきなわ大劇場	10/29	1	1	284	46.6%	
はじめての組踊～Discover KUMIODORI ～組踊「執心鐘入」	おきなわ大劇場	11/18	1	1	275	54.5%	
合計	7公演		8	7	4,611	69.2%	

(b) 在日各国大使等の公演招待

- ・国立劇場 Discover KABUKI 公演において各国駐日大使等招待を実施し、終演後にレセプションを行った。27の国と地域から大使等48名、観光庁・文化庁等関係者42名が参加した。
- ・国立劇場 8月特別企画公演において各国駐日大使等招待を実施。26の国と地域から大使等46名、日本博・文化庁関係者4名が参加した。
- ・国立文楽劇場 Discover BUNRAKU 公演において在阪の領事館招待(18か国)を実施した。

④ インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信

《舞台映像配信実績》

分野	配信件数	視聴回数	年度計画	達成率
歌舞伎	4件	501,067回		

文楽	31 件	11,611 回		
舞踊・邦楽等	30 件	628,774 回		
大衆芸能	6 件	108 回		
能楽	3 件	11,400 回		
組踊等	2 件	2,031 回		
伝統芸能合計	76 件	1,154,991 回	48,000 回	2,406.2%
うち視聴回数が非常に多かったコンテンツ	2 件	1,011,925 回		
その他のコンテンツ	74 件	143,066 回		

<各館共通>

- ・より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像を配信した。
- ・振興会ホームページへのトピックス及びダイジェスト動画掲出、国立オンライン劇場への情報掲出、お知らせメールへの情報掲載、X(旧 Twitter)への投稿、振興会ニュースへの情報掲載により周知を行った。

<本館>

- ・伝統芸能分野の配信については、海外からの視聴回数が増大しており、特にタイトルに「Kabuki」が付いている歌舞伎公演(4年7月歌舞伎鑑賞教室「紅葉狩」の英語版 500,998回)や舞踊公演(4年7月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」より『藤娘』の英語版 510,927回)の無料配信の視聴回数が顕著に伸びている(2件で1,011,925回)。
- ・本館5月文楽公演について公演終了後の6/17~7/9に有料動画配信を実施し、文楽公演の動画配信コンテンツ拡充を図った。

<文楽劇場>

- ・ストーリーミングサービスを用い、公演終了後に収録した公演記録映像を有料で配信し、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した(4月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11月文楽公演、初春文楽公演)。

⑤ 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

i. 国立劇場再整備等事業関連

・千代田区

◇千代田区との連携協力に関する包括協定の締結

- より広く連携協力を行うことで区民等へのさらなる伝統芸能の普及を行い、地域との連携を深めることを目的とし、既に締結している基本協定に加え、連携協力に関する包括協定を締結、千代田区役所において区長と理事長による締結式を行った(1/26)。

◇千代田区及び一般社団法人千代田区観光協会(以下、「千代田区観光協会」)の後援による公演周知等(9月歌舞伎・10月歌舞伎)

- 公演チラシの配架(千代田区管轄施設10か所と千代田区観光協会)
- 千代田区在住・在勤者及び千代田区観光協会員限定「さよなら初代国立劇場ロビー&ステージガイドツアー」を実施(9/20・10/22の終演後)。10/22の回では樋口千代田区長が挨拶及び参加した。
- 大劇場ロビー1階に両団体の広報用の専用ブースを設置

◇千代田区との共催事業「国立劇場歌舞伎・文楽公演ポスター展-ありがとう、そして、これからも-」(8/28~11/25、全3期。同区立千代田図書館)

- 大劇場ロビー3階においても出展ポスターを展示(9/2~10/26)。

◇国立劇場主催公演の公演周知(千代田区観光協会)

- ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)・X(旧 Twitter)への情報掲載
- 協会施設へのチラシ掲出
- 歌舞伎・文楽以外の短期公演も対象に追加

◇初代国立劇場さよなら公演との連携による外部団体主催の特別講座に積極的に協力し、同公演の周知や集客につなげた(5月文楽：区立九段生涯学習館、6月歌舞伎鑑賞教室・9月歌舞伎：区立日比谷図書館)

◇連携協力に関する包括協定に基づき、3月文楽入門イベント「BUNRAKU 1st session」チラシ及び千代田区限定割引クーポンを配架(千代田区管轄施設10か所、千代田区観光協会主催「千代田のさくらまつり」特設観光案内所)

・足立区

◇シアター1010(足立区文化芸術劇場)における文楽公演開催に伴う足立区との連携による事業

- 地域文化課との連携による区民還元事業(技芸員レクチャー「初めての文楽講座」(9/9・16、12/6)、12月文楽・文楽鑑賞教室区民無料招待)
- 産業振興課の協力による「北千住商店街」キャンペーン(マップの作成、近隣商店街でのチラシ掲出)
- シティプロモーション課及び観光交流協会によるPRパンフレット類をシアター1010内で掲出

・江東区及び公益財団法人江東区文化コミュニティ財団

- ◇ 伝統芸能の公開、保存、振興又は普及を図る事業目的と地域住民の福祉の向上、地域文化の振興を目指すことを目的とし、三者にて日本伝統芸能公演等の実施に関する協定を締結した(1/26)。
- ◇ 江東区長・振興会理事長・文楽技芸員による対談を実施(3/27)、5月に江東区報に掲載、ケーブルテレビにて放映予定。
- ・ 荒川区及び荒川区民会館指定管理者
 - ◇ 7年度の歌舞伎公演の一部を区の施設である荒川区民会館(サンパール荒川)において行うため、前年度に引き続き連携協定に関する基本協定を締結した(3/29)。
- ・ 独立行政法人国立青少年教育振興機構(以下「青少年機構」という。)
 - ◇ 青少年機構が主催する「春のキッズフェスタ」「秋のキッズフェスタ」に参加し、養成事業の周知等を行った。
- ・ 東京都千代田区内の商業施設「日比谷 OKUROJI」との提携
 - ◇ 初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら公演とのタイアップキャンペーンとして、同公演期間中におけるチケット半券の提示による参加店舗でのサービス提供を通じて公演の周知及び双方の集客を図った(令和4年10月～令和5年10月末)。

ii. その他

- ・ 国立大学法人お茶の水女子大学
 - ◇ 前年度締結した協定に基づき、共同プロジェクトとして講座「日本の伝統芸能」を実施した(全10回)。
 - ▶ 内容：座学、ワークショップ、観劇、ステージツアーなど。
 - ▶ 講座を受講した学生の中から希望者4名を受け入れ、インターンシップを実施
- ・ 国立劇場・国立演芸場近隣の店舗
 - ◇ 国立劇場・国立演芸場近隣の店舗で両館のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられるキャンペーン「国立劇場ようこそ半蔵門」を継続して実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど24店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した(10月末まで)。
- ・ 公益財団法人北野生涯教育振興会及び公益財団法人目黒区芸術文化振興財団
 - ◇ めぐるパーシモンホール小ホールにおいて、受託事業「伝承講演会『歌舞伎』に親しむ」を実施した(7/15)。
- ・ 渋谷区
 - ◇ 都立明治公園の開園を記念して開催された「みんなでつくる！ 明治公園祭」(11/3・4)
 - ▶ 千駄ヶ谷まちづくり協議会の一員として、近隣の公益社団法人日本将棋連盟、公益財団法人東京二期会らとともに国立能楽堂が参加。
 - ▶ 能楽ミニ公演を行い、国立能楽堂の知名度向上と定例公演(12/15)の周知を図った。
- ・ 大阪府
 - ◇ インバウンドをはじめとする大阪府内各地への誘客事業である大阪文化資源魅力向上事業の参加プログラムとして、文楽劇場11月文楽公演が参画し、相互のメディアを用いて広報連携を行い公演の認知度の向上と集客を図った。
- ・ 大阪市
 - ◇ 大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した。
 - ◇ 大阪市立中央図書館の協力により、市内24区の各図書館へのポスター・チラシの配布などを行った。
 - ◇ 大阪市教育委員会が主催する「探求・読解プロジェクト」に参画し、大阪市内の小中学生に舞台見学を通じて文楽及び国立文楽劇場の認知向上を図った。
- ・ アーツサポート関西「コクヨ文楽支援寄金」
 - ◇ 近畿在住・在勤・在学の15歳～35歳の方を対象として文楽を500円で観劇することのできる「ワンコイン文楽2023」実施に協力し、集客を図った。
- ・ 沖縄県
 - ◇ 沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。
 - ◇ 沖縄県教育庁生涯学習振興センターの主催する県民カレッジと連携し、組踊公演「孝行の巻」の観劇とセットで講座を実施した。
- ・ 一般財団法人沖縄美ら島財団
 - ◇ 同財団と連携して、組踊とゆかりのある首里城で組踊ワークショップを行った。
- ・ 令和6年能登半島地震災害義援金の募金呼びかけ
 - ◇ 能楽堂、文楽劇場、国立劇場おきなわ、新国立劇場の各劇場及び主催公演を実施した代替劇場のロビー等に募金箱を設置して復興支援に努めた。なお、集まった義援金は日本赤十字社を通じて被災者の方々へ送る予定である。
 - ◇ 初春歌舞伎公演では、公益社団法人日本俳優協会と協力して、新国立劇場中劇場ホワイエにて「歌舞伎俳優チャリティー義援金募金」を行った(1/17～21)。
 - ◇ 本館2月文楽公演では、各部開場時にホワイエ内にて、一般社団法人文楽協会、公益財団法人文楽協会と共同で、令和6年能登半島地震災害義援金の募金呼びかけを行い、9日間で2,922,874円の募金があった。

[2] 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 公演収支の改善

《分野別 公演収支改善率》

(単位:千円)

分野	前中期実績	実績		計画	
		公演収支額	改善率(A)	公演収支額	改善率(B)
オペラ	△382,991	△ 56,322	85%	△371,502	3%
バレエ	△111,534	138,638	224%	△105,957	5%
現代舞踊	△18,168	△ 10,003	45%	△18,168	0%
演劇	△64,868	△ 35,301	46%	△64,868	0%
合計	△577,561	37,012	106%	△560,495	3%

※前中期実績とは、平成30年度から令和4年度実績の平均値をいう。

※改善率 = (公演収支額 - 前中期実績) / |前中期実績|

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。
また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	11公演	-	-	10,513	9,562	-	91.0%
バレエ	6公演	-	-	1,839	1,774	-	96.5%
現代舞踊	2公演	-	-	211	182	-	86.3%
演劇	6公演	-	-	1,408	1,324	-	94.0%
合計	25公演	-	-	13,971	12,842	-	91.9%

- ・劇場内にウェブアンケート回答用ページにアクセスできるQRコードを掲示した他、希望者に同様のQRコードを印字した用紙をお渡しした。
- ・アンケートにご協力いただいたお客様の中から抽選で劇場グッズをプレゼントする取り組みを実施し、アンケート回答率の向上に努めた。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室2023「ラ・ボエーム」に関しては、事前配布したアンケート用紙を後日学校単位で回収し、6,797件の回答があった(回収率66.4%)。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。

ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	オペラ「二人のフォスカリ」	オペラ劇場	9/9 ~10	2	2	2,325	64.9%	(公財)日本オペラ振興会、(公財)東京二期会
	合計	1公演		2	2	2,325	64.9%	

(b) その他の公演等

i. 令和5年度(第78回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	オペラ「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」(文化庁芸術祭オープニング公演) 現代舞踊「DANCE to the Future: Young NBJ GALA」

② 全国各地の文化施設等における公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023「魔笛」	ロームシアター京都 メインホール	10/26 ~27	2	2	2,983	85.8%	京都市、ロームシアター京都((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)

受託	演劇「エンジェルス・イン・アメリカ」 第一部「ミレニアム迫る」 / 第二部 「ペレストロイカ」	穂の国とよはし 芸術劇場 PLAT 主ホール	6/3	2	1	490	32.8%	豊橋市、(公財)豊橋文化 振興財団
受託	演劇「エンジェルス・イン・アメリカ」 第一部「ミレニアム迫る」 / 第二部 「ペレストロイカ」 ※公演中止	兵庫県立芸術文化 センター 阪急中ホール	6/10	0	0	0	-	兵庫県、兵庫県立芸術文 化センター
受託	オペラ「サロメ」	札幌文化芸術劇場 hitaru	6/11 ~13	2	2	1,731	47.8%	札幌文化芸術劇場 hitaru((公財)札幌市芸術 文化財団)
受託	バレエ「ドン・キホーテ」	愛知県芸術劇場 大ホール	11/3 ~4	2	2	2,859	65.5%	(公財)愛知県文化振興事 業団
受託	バレエ「クラシックバレエハイライト」	枚方市総合 文化芸術センター 関西西大大ホール	3/9	1	1	1,369	97.1%	アートシティひらかた共同 事業体
合計			5 公演		9	8	9,432	65.6%

(b) その他の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	日程	回数
新日本フィルハーモニー交響楽団定期公演 メンデルスゾーン:「讃歌」	すみだトリフォニーホール、サントリー ホール	主催:(公財)新日本フィルハーモニー 交響楽団	5/13 ~15	2 回
季節のお便りコンサート ワンコインコンサート	江戸川区総合文化センター	主催:江戸川区、江戸川区総合文化セ ンター指定管理者サントリーパブリシ ティサービスグループ	5/26 11/27 2/22	3 回
令和5年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回 公演)	新潟県、石川県、岐阜県、京都府、富 山県、福井県、東京都の小中学校	主催:文化庁	6 月 ~1 月	8 回
東京都立国分寺高等学校鑑賞会 芸術鑑賞教室	たましん RISURU ホール	主催:東京都立国分寺高等学校	6/7	1 回
NHK 番組「クラシック TV」番組収録	NHK 局内スタジオ		6/7 ※放送 は 7/6	1 回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ヴェルディ:「オテロ」	Bunkamura オーチャードホール、東京 オペラシティコンサートホール、サント リーホール	主催:(公財)東京フィルハーモニー交 響楽団	7/23 ~31	3 回
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2023[サラ ダ音楽祭] メインコンサート/ドヴォルザーク:「スターバト マーテル」 ミニコンサート 6 回、ワークショップ 4 回	メインコンサート/東京芸術劇場、ミニ コンサート/グローバルリングシア ター・メトロポリタンプラザ、ワーク ショップ/東京芸術劇場ギャラリー	主催:TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL[サラダ音楽祭]実行委員会 (東京都/(公財)東京都交響楽団/(公 財)東京都歴史文化財団東京芸術劇 場/豊島区/三菱地所(株))	8/5 ~6	1 回
藤原歌劇団公演 ヴェルディ:オペラ「二人のフォスカリ」	新国立劇場オペラパレス	主催:(公財)日本オペラ振興会	9/9 ~10	2 回
紀尾井ホール室内管弦楽団定期演奏会 メンデルスゾーン:「詩篇第 42 番」「讃歌」	紀尾井ホール	主催:(公財)日本製鉄文化財団	9/22 ~23	2 回
フジテレビ番組「トキタビ」番組収録	フジテレビ湾岸スタジオ		10/4 ※放送 は 11/4	1 回
読売日本交響楽団定期演奏会 アイスラー:「ドイツ交響曲」	サントリーホール	主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/ 読売テレビ/(公財)読売日本交響楽団	10/17	1 回
フジテレビ番組「トキタビ」番組収録	フジテレビ湾岸スタジオ		11/1※ 放送は 12/23	1 回
東京芸術劇場マエストロシリーズ井上道義&読売 日本交響楽団 マーラー:交響曲第 2 番ハ長調「復活」	東京芸術劇場コンサートホール	主催:(公財)東京都歴史文化財団 東 京芸術劇場	11/18	1 回
千葉市立生浜小学校創立 150 周年記念式典	千葉市立生浜小学校	主催:千葉市立生浜小学校創立 150 周年記念事業実行委員会	11/25	1 回
NHK 交響楽団第 2000 回定期演奏会 マーラー:交響曲第 8 番「千人の交響曲」	東京芸術劇場、サントリーホール、大 阪フェスティバルホール、横浜みなと みらいホール	主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/ 読売テレビ/(公財)読売日本交響楽団	12/15~ 24	7 回
NHK 交響楽団第 2000 回定期演奏会 マーラー:「交響曲第 8 番千人の交響曲」	NHKホール	主催:NHK/NHK 交響楽団	12/16~ 17	2 回
東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	東京オペラシティコンサートホール、 サントリーホール、Bunkamura オー チャードホール	主催:(公財)東京フィルハーモニー交 響楽団	12/22~ 24	3 回
NHK 交響楽団演奏会 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	NHK ホール、サントリーホール	主催:NHK/NHK 交響楽団/NHK 厚生 文化事業団	12/22~ 27	5 回
東京都交響楽団演奏会 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	すみだトリフォニーホール、東京文化 会館、サントリーホール	主催:(公財)東京都交響楽団	12/24~ 26	3 回
第 66 回 NHK ニューイヤーオペラコンサート	NHKホール	主催:NHK/NHK プロモーション	1/3	1 回
東京都交響楽団定期公演 バーンスタイン:交響曲第 3 番「カディッシュ」	サントリーホール	主催:(公財)東京都交響楽団	2/16 ~17	2 回

東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 オルフ:「カルミナ・ブラーナ」	オーチャードホール、東京オペラシ ティコンサートホール、サントリーホー ル	主催:(公財)東京フィルハーモニー交 響楽団	3/10 ~15	3回
--	---	---------------------------	-------------	----

ii. 新国立劇場バレエ団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	日程	回数
NHKバレエの饗宴 2024 「ドン・キホーテ」第3幕	NHKホール	主催:NHK/NHKプロモーション	1/27	1回

iii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- 札幌文化芸術劇場 hitaru、東京文化会館、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)、ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場、上田市交流文化芸術センター(サントミュージーゼ)と連携・協力に関する協定を締結し、全国公演等を実施している。
- 全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- 東京医科大学と新国立劇場との協力関係をより一層強化するため、学校法人東京医科大学と包括連携協定を締結した。
- 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受入れ若しくは地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。
- 枚方市総合文化芸術センター公演「クラシックバレエハイライト」に関連し、バレエ・ワークショップを2回実施した(2/4)。
- 劇場・音楽堂等連絡協議会総会等に参加し全国加盟館との情報共有をした。

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等

(a) 年度計画公演

公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
「シモン・ボッカネグラ」(新制作)	オペラ劇場	11/15 ~26	5	5	6,791	75.8%	フィンランド国立歌劇場、 テアトロ・レアル
合計	1公演		5	5	6,791	75.8%	

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

分野	公演等名	開催場所	日程
海外配信	「ワールド・バレエ・デー2023」でクラスレスソンのライブ映像とバレエ「シェイクスピア・ダブルビル」の紹介映像を配信		11/1~11/30
上映会	台中国家歌劇院においてオペラ「ドン・パスクワーレ」上映	台中国家歌劇院(台湾)	2/10、2/12
国際会議	オペラ・ヨーロッパ「デジタル・オーディオ・ビジュアル・フォーラム」	オンライン	5/25
国際会議	アジア太平洋パフォーミングアーツセンター協会(AAPPAC)年次総会	クイーンズランド・パフォーミングアーツセンター(オーストラリア)	9/5~9/8
国際会議	オペラ・ヨーロッパ年次総会	ロイヤル・デイニッシュ劇場(デンマーク)、マルモ劇場(スウェーデン)	10/4~10/7
国際会議	世界舞台芸術協会設立総会 北京フォーラム会議	中国国家大劇院	11/12~11/14
その他	「国際オペラフェスティバル/大邱オペラ賞」 20周年を記念して新国立劇場より祝辞動画を送った	韓国大邱オペラハウス	

- ワールド・バレエ・デー2023に参加し、「ドン・キホーテ」愛知公演の稽古中であつた愛知県芸術劇場よりクラスレスソンのライブ映像と、4月バレエ公演「シェイクスピア・ダブルビル」において新制作上演した『マクベス』の紹介映像を配信した。
- 中国春節(旧正月)にあたり、台中国家歌劇院におけるオペラ「ドン・パスクワーレ」無料上映会が開催された(2/10・12、参加者数428名)。

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

日付	国・地域等名称	来場者
5/6	韓国	元国立バレエ団芸術監督及び元国立現代舞踊団芸術監督
5/6	ドイツ	ボン大学教授3名
5/30	イスラエル	ホロン劇場関係者2名
6/13・14	イギリス	英国アーツカウンシル在外研修演出家
6/29	韓国	世宗特別自治市劇場建設関係者4名
9/12	スペイン	テアトロ・レアルの総裁、副総裁
10/3	台湾	台中国家歌劇院企画部長1名
10/10	台湾	台中国家歌劇院観客サービス課長他4名
10/24	スペイン	テアトロ・レアル営業課長1名
11/7	カナダ	国立芸術センター-CEO及びマネージング・ディレクター2名

11/12～14	チェコ	ブルノ国立劇場国際部長 1 名
12/14	アラブ首長国連邦	大使館関係団体 Sharjah Youth/Sharjah Capability Development 14 名
1/23～1/25	スペイン	テアトロ・レアル総裁、副総裁
2/13	フランス	パリ・オペラ座バレエ団芸術監督他 7 名
2/27	ベルギー	オペラ・ヨーロッパ事務局関係者
3/26	ドイツ	哲学者マルクス・ガブリエル氏
3/29	韓国	韓国国立オペラ芸術監督他 2 名

iii. 在日各国大使館との連携協力

- ・在日各国大使鑑賞プログラム
 - ◇オペラ「ラ・ボエーム」(参加実績：12 か国 22 名の大使及び外国文化機関代表)
 - ◇オペラ「こうもり」(参加実績：13 か国 22 名の大使及び外国文化機関代表。観光庁の観光再始動事業『「こうもり」オペラ鑑賞と日本の酒を楽しむ 1 日』と連携して実施。)
- ・プログラム以外の主催公演には主要国大使を招待し、大使館関係者へのチケット購入を促した。
- ・在日各国大使館等の後援・協力により、公演の広報・営業を行った。
 - ◇バレエ「シェイクスピア・ダブルビル」(後援：ブリティッシュ・カウンシル)
 - ◇オペラ「こうもり」(後援：オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム東京、スウェーデン大使館)

(c) 舞台芸術グローバル拠点事業

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。
- ・バレエ団ダンサーの医療サポート等、アーティストの活動環境整備を進めた。
- ・海外劇場等との交流や公演記録映像の活用による海外広報戦略等を通じて、国際的な情報発信の取組を推進した。
- ・台中国家歌劇院でオペラ映像上映会を実施した。

《広報・営業》

- ・観光局が運営するインバウンド向けの情報発信サイト「Trip Advisor」に新国立劇場の情報を投稿した他、東京都・公益財団法人 東京観光財団(TCVB)主催の国際商談会へ参加し、インバウンドビジネス市場へのPRを行った。
- ・欧米の舞台専門サイト、専門誌に計 22 件広告出稿するとともに、記事掲載を働きかけた。実際に多数の記事掲載があった中で、新国立劇場「シモン・ボッカネグラ」の舞台写真は、英国の伝統あるオペラ雑誌「Opera Magazine」2024 年 2 月号の表紙を飾った。

《Opera Vision での配信実績》

- ・ボリス・ゴドゥノフ(2022 年 11 月公演)：視聴回数 18,662 回(令和 5 年度期間のみ)
- ・修道女アンジェリカ/子どもと魔法(2023 年 10 月公演)：視聴回数 20,900 回(令和 5 年度期間のみ)

《養成研修事業》

- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

《舞台芸術グローバル拠点事業関連指標》

- ・英語版の新国立劇場ホームページへのアクセス件数：118,452 件(セッション数)
- ・主催公演(研修所公演を除く)の外国人入場者数：4,106 人
- ・舞台映像の海外からの視聴割合：36.1%
- ・新国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数：106 件

④ インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信等

《舞台映像の配信》

分野	配信件数	視聴回数	年度計画	達成率
オペラ	6 件	44,880 回		
バレエ	0 件	0 回		
現代舞踊	0 件	0 回		
演劇	2 件	27,194 回		
現代舞台芸術合計	8 件	72,074 回	15,000 回	480.5%

- ・より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像の配信を実施した。
- ・新国立劇場主催公演等の映像配信について情報を集約し発信する「新国デジタルシアター」にて公演記録映像等をインターネット配信した。
- ・「新国デジタルシアター」は英語版サイトも設置し、オペラ公演の配信においては英語字幕の表示も選択可

能とした。

- ・オペラ「ラ・ボエーム」のライブ配信・オンデマンド配信では英語字幕付きの映像を配信した。
- ・Opera Visionにおいて「ボリス・ゴドゥノフ」(令和4年11月収録、配信期間3/25～9/24)及び「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」(令和5年10月収録、配信期間R5/12/16～R6/6/15)を無料配信した。

⑤ 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

・渋谷区

- ◇北渋谷エリアの地域振興に寄与することを目的として渋谷区が後援し開催された玉川上水旧水路緑道の再整備事業に伴う参加型イベント「388FARM β (ササハタハツファームベータ)」vol.4及びvol.5に出店協力するとともに、渋谷区等が主催する北渋谷 RunRun フェスタや地域住民が主催する北渋谷フェスティバルの開催に協力した。
 - ◇第46回渋谷区くみんの広場「ふるさと渋谷フェスティバル2023」に出店し、地域住民・団体へ向けた劇場施設の紹介及び公演情報等の周知を行った。
 - ◇演劇「尺には尺を」「終わりよければすべてよし」では、渋谷区の後援名義を取得し、公演情報の周知に努めた。これに伴い、北渋谷フェスティバルにおいて公演チケットのプレゼントキャンペーンも実施した。
- ・令和6年能登半島地震災害義援金の募金呼びかけ
 - ◇劇場ロビー等に募金箱を設置した。集まった義援金は日本赤十字社を通じて被災者の方々へ送る予定である。
 - ◇バレエ「くるみ割り人形」では最終公演日の1/7・8の両日、終演後に吉田芸術監督とダンサーたちが募金活動を行った。

(5) 快適な観劇環境の形成	74
ア 快適で安全な観劇環境の提供	75
イ 多様な購入方法の提供	79
ウ 公演内容等の理解促進のための取組	79
エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態の把握、サービスの向上	83
(6) 広報・営業活動の充実	84
ア 効果的な広報・営業活動の展開	85
イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実	92
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	94
ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与	95
イ 各施設の利用促進を図るための取組	95
ウ 他の劇場施設の利用料金等の調査	96
エ 各劇場の相乗効果を発揮するための連携協力	96
オ 再整備期間中における施設利用者向けのサービス継続等	96

2-(5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等を踏まえ、高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実、観劇前後を含めた体験の質の向上
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等の実施
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービスの向上

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
国立劇場等の再整備期間中における代替施設での公演実施に当たって、代替施設の管理者等と連携協力した各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
公演内容の事前説明会、ワークショップ、ステージツアー等の実施
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ等で寄せられる意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供

① 観客の要望等を踏まえたサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけ

(a) 観客の利便性・安全性を向上させる取組

<各館共通>

- ・5/8に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更され、振興会ガイドライン及び実施要領が廃止となり、観客に安心して快適に観劇できるよう、通常の観劇環境に戻すべく、休止していたサービスの再開や、感染症対策のお願いの廃止と周知について、速やかに対応した。
- ・引き続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線LANサービス(無料Wi-Fi)を実施した。
- ・主催公演のプログラム販売においてクレジットカード、交通系電子マネー等の利用に対応した。

<本館>

- ・空気環境(二酸化炭素濃度等)の測定を開演中の客席で実施し、外気と大差ない良好な空気環境であることを確認し、数値をロビーに掲示した。
- ・夏場の7~9月の公演期間中は冷風機を設置し、暑い外気を直接取り込まないよう工夫をした。
- ・学校団体の熱中症などに対応するため、ロビーの臨時医務室を1か所増設し、合計2か所設置した(6月・7月歌舞伎鑑賞教室)。
- ・大・小劇場ロビーに無料で使用できるICカード認証型ロッカーを設置した。
- ・歌舞伎・文楽公演等において、託児サービスを実施、観客の利便を図った。
- ・代替劇場においても、初春歌舞伎公演は新国立劇場シアターショップにて、2月文楽公演は文楽劇場売店が出店し、国立劇場オリジナルグッズを継続して販売した。

<演芸場>

- ・新型コロナウイルス感染症対策として禁止していた劇場内での飲食の規制解除後も希望団体に対しては継続して大・小劇場レストランの利用を案内し、好評を得た。

<能楽堂>

- ・カレンダーを能楽書林、檜書店、小林能装束の3店舗で、月刊国立能楽堂を檜書店で販売した。

<文楽劇場>

- ・新型コロナウイルス感染症対策として劇場内での飲食禁止を実施していたが、その規制解除後に飲食ができる場所として1階の旧食堂をお客様に提供し、好評を得た。

<新国立劇場>

- ・小劇場のカフェをリニューアルした。にぎわい、利便性を向上させるため、開場時間の15分前にオープンするとともに、入場動線(正面ガラス扉を解放)を工夫して、チケットを持たない一般の方も利用できるようにした。また、メニューの充実やオリジナルマグカップでの提供を行った。

(b) 観劇の雰囲気盛り上げるための取組

<各館共通>

- ・上演演目ゆかりの地の地方公共団体や近隣店舗等と連携して、特産品の販売やマスコットキャラクターによる観光PR等を実施した。

<本館>

- ・ロビー壁面に季節を感じる装飾を施した。
- ・9月、10月の歌舞伎公演が共通演目の通し上演であることを告知して両公演を楽しんでもらうため、大劇場ロビー2階に、演目にちなんだ懸垂幕を設置した。
- ・初代国立劇場さよなら特別公演の特別メニューとして、9月・10月歌舞伎公演にあわせ、お食事処「十八番」にて、江戸料理弁当を販売した。
- ・プログラムに掲載した漫画家による描き下しイラスト(5月文楽)、重要無形文化財保持者各個認定(人間国宝)の邦楽演奏家18名による自筆の色紙(10月邦楽)、鶴岡八幡宮宮司による新年に寄せた色紙(初春歌舞伎)をロビーで展示した。

<演芸場>

- ・ロビー壁面や正面入口に季節を感じる装飾を施した。
- ・紀尾井小ホール、千代田区立内幸町ホール公演において、入口付近に初代国立演芸場の入口を模した名入り提灯、小型の幟を配置して演芸場の雰囲気を創出した。

<能楽堂>

- ・1/8まで、能舞台に注連を張り、能楽堂入口に門松を、ロビーには鏡餅を設置して、正月らしい雰囲気を演出して来場者を迎えた。

<文楽劇場>

- ・正面玄関の柱に演目に登場する文楽人形の写真ポスターを巻きつけた装飾、2階ロビーへの大階段周辺に大型懸垂幕ポスター掲出し。上演演目の周知と併せて観劇に向けての盛り上がる雰囲気の醸成を図った。

- ・2階ロビーに上演演目に登場する人形等を展示し、当該演目を上演しない部に訪れた観客にも演目への関心を喚起した。

<おきなわ>

- ・来場者に劇場オリジナルグッズが当たる「お年玉抽選会」を実施し、初春公演の雰囲気盛り上げた(1月企画公演～開場20周年記念公演～「祝いの宴」)。

<新国立劇場>

- ・公演期間に合わせて、メインエントランスや劇場ホワイエ等に上演演目や季節等に合わせた装飾を施した。
- ・上演演目に合わせて京王新線初台駅の列車接近メロディを変更した。
- ・バレエ公演にて、バレエ団シーズンビジュアルの大型バナーをオペラパレスホワイエに掲出した。
- ・ブッフェ及びカフェにて、上演演目や季節等に合わせたフード・ドリンクメニューを提供した。

(c) 観劇記念となるフォトスポット設置・グッズ配布等

<本館>

- ・閉場までの日数を入れた初代国立劇場さよなら記念公演の観劇記念の足踏み式スタンプをロビーに設置した。
- ・7月「親子で楽しむ歌舞伎教室」期間中、スマートフォンによるAR(拡張現実)技術を活用し、ロビー内での観客による謎解きゲームを実施し、フォトフレームを提供した。
- ・上演演目の道具帳(舞台面の完成見本図)や松羽目の舞台面などを模したフォトスポットをロビーに設置した。
- ・終演後に出演者による見送り及び写真撮影のサービスを行った(7月舞踊)。

<演芸場>

- ・初代国立演芸場さよなら公演アンバサダーとして俳優の植田圭輔を任命し、新規客層をターゲットとするWeb配信に重点を置いた周知活動を行うと同時に等身大パネルをフォトスポットとして設置、月替わりでポストカードの配布、サイン入りグッズプレゼントの募集を行った(8/1～10/25)。

<能楽堂>

- ・「親子で楽しむ狂言の会」では面を、「親子で楽しむ能の会」では作り物をフォトスポットとしてロビーに設置した。
- ・子供向けイラスト入りパンフレットと尺とセンチで測ることのできるイラスト入り布メジャーを配布した(7・8月企画公演<国立能楽堂夏スペシャル>「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」)。

<文楽劇場>

- ・上演演目にちなんだ観劇記念スタンプをロビーに設置した。
- ・ARフォトフレームを表示できるポスターをロビーに掲出した(6月文楽鑑賞教室：利用回数236回、夏休み文楽特別公演)。
- ・第1部親子劇場「かみなり太鼓」「西遊記」の上演にちなみ、登場するキャラクターをモチーフにしたグッズ(スケッチブック)を作成し、来場した子供全員にプレゼントした(夏休み文楽特別公演)。

<おきなわ>

- ・ロビーに開場20周年記念のモニュメントや組踊の登場人物のフォトスポット、顔出しパネル等を設置した。
- ・開場20周年を記念し、観客に劇場オリジナル飴玉をプレゼントした(1月企画公演「祝いの宴」)。
- ・親子を対象とした公演について、フォトスポットや体験コーナーを設置した。また、親子向けバックステージツアーに参加した子供に塗り絵等をプレゼントした。

<新国立劇場>

- ・オペラ劇場でのオペラ・バレエ公演にて、公演ポスターや等身大ダンサー写真バナーを用いたフォトスポットや季節の装飾を施したフォトスポットを設置した。
- ・通常は客席内での撮影は禁止としているが、子ども向け公演での特別企画として、演劇「モグラが三千あつまって」では終演後の写真撮影を可能とした。
- ・一部の公演について、来場者記念として、来場者に新国立劇場オリジナルグッズをプレゼントした。

(d) 観劇マナーの向上に関する取組

- ・視覚的なサインを用いたボードによる周知を行った。
- ・観劇マナーチラシ・ポスター(日本語・英語)を掲出した。

<新国立劇場>

- ・はじめてご来場するお客様向けの案内をまとめた「はじめての新国立劇場」サイトを公開し、観劇マナーをイラスト付きで掲載した。

② 高齢者・障害者等多様な観客に配慮した環境整備等各種サービスの充実

(a) バリアフリーに関する取組

<各館共通>

- ・車椅子での来場、筆談や補助犬入場等に対応した。
- ・劇場ホームページにバリアフリー情報を継続して掲載、観劇する方が事前に劇場内情報を手に入れやすいようにした。

<演芸場>

- ・障害がある方の団体鑑賞に際し、駐車場から段差無く移動できるよう、非常口扉を開放し、スムーズな入退場ができるよう配慮した。
- ・引き続き、演芸場正面の入場階段やトイレ内に段差があることを表示する注意喚起の白色テープを貼り付けた。

(b) 観劇サポートの実施

<各館共通>

- ・字幕表示を実施した。

<本館>

- ・聴覚障害者の観劇機会拡大のため、無線ポータブル字幕機に上演台本を表示する観劇支援(有料)を実施した(6月歌舞伎鑑賞教室)。
 - ◇6/18・24の2日4ステージ(1日80台限定。利用実績98名)。
 - ◇振興会ホームページ、X(旧Twitter)、プレスリリースサービス、聴覚特別支援学校へのDM送付により周知
- ・聴覚障害者の歌舞伎鑑賞において、台本の事前貸出しを行った(6月歌舞伎鑑賞教室、7月歌舞伎鑑賞教室、8月稚魚の会・歌舞伎会合同公演、9月歌舞伎公演、10月歌舞伎公演：各公演での利用者数1名)。

<能楽堂>

- ・座席字幕表示装置を活用して字幕表示を実施した。

<新国立劇場>

- ・文化庁委託事業「令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、視覚・聴覚に障害を持つ観客への観劇サポートを実施した。

【サポート内容】

- ◇視覚障害者向け：開演前舞台説明会、リアルタイム音声ガイド等
- ◇聴覚障害者向け：バリアフリー字幕の提供等手持ち型ポータブル字幕機の貸出

【実施実績】

公演	視覚障害者向け 実施日	聴覚障害者向け 実施日	参加者数 (合計)
「モグラが三千あつまって」	7/22・27	7/23・28	63名
「尺には尺を」	10/29・11/16	11/11・12	35名
「終わりよければすべてよし」	11/11・18	11/5・11	53名

- ・「<ギャラリープロジェクト>芸術監督公開トークシリーズ Vol.1. 4—舞台芸術の入口をつくる～開かれた公共劇場をめざして—」において、鑑賞サポートとして、舞台上での手話通訳を実施した。
- ・観劇サポートの取組み、劇場のバリアフリー情報をまとめたチラシを作成した。
- ・一般社団法人日本舞台美術家協会と協力し、主として視覚障害者向けの「触る模型」にスポットを当てた資料を作成した。
- ・観劇サポートの取組みをまとめたサイトをリニューアルして公開した。

(c) 割引等各種サービスの実施

<各館共通>

- ・前年度に引き続き、各公演において障害者割引を行った。
- ・障害者割引利用におけるチケット引取り時の確認について、障害者手帳以外に障害者手帳アプリ「ミライロID」の提示でも可能とした。

<新国立劇場>

- ・引き続き、高齢者割引(窓口・電話・WEB)を行った。

③ 外国人利用者に配慮した環境整備等各種サービスの充実

(a) Discover 公演における各種サービスの充実

<各館共通>

- ・演目解説・あらすじ等を一冊にまとめた多言語リーフレットを無料配布した。

館名	対応言語
本館	7言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語) ※Discover NIHONBUYO のみ2言語(日本語・英語)

能楽堂	6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
文楽劇場	7言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
おきなわ	2言語(日本語・英語)

- ・多言語による字幕表示を実施した。

館名	対応言語
本館	2言語(日本語・英語)
能楽堂	座席字幕表示 6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
文楽劇場	1言語(英語)
おきなわ	英語字幕タブレットの無料貸出

- ・多言語による音声ガイドを無料貸出した。

館名	対応言語
本館	2言語(日本語・英語) ※Discover KABUKI、Discover BUNRAKU のみ
文楽劇場	2言語(日本語・英語)
おきなわ	4言語(日本語・英語・中国語・韓国語)

<能楽堂>

- ・ロビーに「日本の麴文化発信コーナー」を設置し、国立能楽堂近隣に所在する「彩食絢 美」による、狂言にお酒が登場することになった糀甘酒やお酒にまつわるお菓子の販売や、糀文化を紹介する展示・動画上映を行い、伝統的な日本の食文化の発信を図った(Discover NOH&KYOGEN)。

(b) 観劇環境の充実

<各館共通>

- ・英語による場内アナウンス・案内表示等により、外国人の観劇環境を充実した。
- ・英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・英語版の劇場案内パンフレットやシーズンガイド等を配布した。
- ・英語版のチケット購入サイトを提供した。

<おきなわ>

- ・外国人観客の案内や問合せに対応するため、多言語対応のタブレットによるオンライン通訳サービスを実施した。

<新国立劇場>

- ・新国立劇場オペラパレスで配布する避難経路図に、英訳に加え中国語(繁体字・簡体字)・韓国語訳を組み込んで4か国語対応とした。

(c) 観劇サポートの実施

<各館共通>

- ・英語字幕表示を実施した。
- ・外国人の理解促進を図るため、解説書のあらすじ、案内パンフレット等について英文による記載を行い、一部公演では無料配布した。
- ・英語版ホームページにおいて、英語であらすじや概要等、公演詳細を掲載した。
- ・Discover 公演以外でも英語イヤホンガイドの貸出を実施した。

区分	公演数	利用実績
歌舞伎公演(東京)	5公演	1,190名
文楽公演(東京)	4公演	201名
文楽公演(大阪)	2公演	494名

<能楽堂>

- ・開演前に玄関広間にて伶以野陽子(シテ方観世流能楽師)による英語での能の概説、上演演目についての解説を実施した(11/17 定例公演)。

<おきなわ>

- ・Discover 公演以外でも英語版字幕タブレットや多言語音声ガイドの無料貸出を実施した。

区分	対応言語	公演数
字幕タブレット	英語	3公演
多言語音声ガイド	日本語・英語・中国語・韓国語	1公演
多言語音声ガイド	日本語・英語	1公演

<新国立劇場>

- ・バレエ「くるみ割り人形」、オペラ「ドン・パスクワレ」で各1回、終演後の英語版バックステージツアー

を実施した。

- ・公演終了後に利用しやすい劇場周辺の飲食店を紹介するリーフレットを4か国語(英語・中国語繁体字・簡体字・韓国語)で作成した。
- ・オペラと日本の食文化を新国立劇場で楽しめる機会を外国人来場者に提供するため、ジャパニーズウィスキーや日本酒を楽しむイベントをオペラ公演にあわせて実施した。
- ・「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」オペラトークダイジェスト動画の英語版を作成し、配信した。

④ 災害等への対応

<能楽堂>

- ・職員、委託業者が参加する自衛消防訓練を実施した(9/19、2/15)。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行った。
- ・2月には自衛消防訓練に引き続き舞台安全会議を開催し、職員、委託業者等、全職域が参加して、原宿警察署署員による防犯レクチャー(さすまたのデモンストレーション及び簡易訓練)を実施した。

<文楽劇場>

- ・文楽劇場にて団体観劇の高校生と教職員(計 288 人)の協力を得て、職員、出演者及び委託業者が参加し避難誘導等の実施訓練を行った(6/12)。
- ・小ホールにて、職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを視聴し消防活動について学んだあと、避難経路の説明、小ホールからの避難誘導訓練を行った。併せて屋内消火栓を使用した実地訓練を行った(3/13)。
- ・文楽劇場小ホールにおいて、職員及び委託業者社員により、舞台安全対策会議及び現場でのシミュレーションを含む舞台安全講習会を実施した(12/11)。

<おきなわ>

- ・警備職員、中央監視員による通報訓練及び水消火器を使用した消火訓練を実施した(6/5)。
- ・職員や委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を実施し、通報訓練及び避難や消火器の取扱い等について実地訓練を実施した(12/11)。
- ・職員や委託業者等、全職域が参加する津波避難訓練を実施した(11/6)。

<新国立劇場>

- ・職員、委託会社等を対象とした避難訓練を実施し、発災時の初動対応を確認した(10/6、1/30)。
- ・発災時の劇場内の状況を知るために、防火扉・シャッターを閉鎖した状態での行動を体験した(9/12)。
- ・各公演前に、劇場案内スタッフを主体とした避難誘導訓練を実施した。
- ・毎月1回防災センター内での訓練を実施し、様々な災害状況に対応できるよう努めた。
- ・国立劇場で行われた「図上型避難訓練」に営業部と施設課の職員が参加し新国立劇場での公演に備えた。

イ 多様な購入方法の提供

<本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場>

- ・チケットセンターホームページ内に親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。
- ・親子を対象とする公演のインターネット販売では、文楽を除く各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。

<おきなわ>

- ・学生(大学生・高校生以下)チケットをウェブチケット販売サービスでも購入できるようにした。

<新国立劇場>

- ・オペラシーズンセット券を販売した。
- ・観客の要望に応え、オペラシーズンセット券及び会員抽選申し込みにおいて、座席ブロックの希望受付を再開した。
- ・子ども向けのバレエ公演と演劇公演を組み合わせた「夏のこども劇場セット」を販売した。
- ・演劇「エンジェルズ・イン・アメリカ」「シェイクスピア、ダークコメディ交互上演」において、「通し券」を販売した。新国立劇場ボックスオフィス以外のプレイガイドにおいても日時の組み合わせを作り広く販売した。
- ・演劇「シェイクスピア、ダークコメディ交互上演」において、7月の文学座公演「夏の夜の夢」(鶴山仁演出)とのダブル観劇による割引販売を行った。
- ・演劇公演において、将来の演劇界を担う劇団研究生向けの特別優待割引販売(ユース・アクターズ・プラン)を実施した。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

① 解説書等の作成

<各館共通>

- ・演目に関する解説や出演者の写真・インタビュー等を掲載した解説書等を作成した。

- ・公演内容に応じてゆかりの地に関する特集を組み、また、カラー写真や図版を多用して、視覚的にも理解促進が図れるよう工夫した。

<本館>

- ・国立劇場大劇場及び小劇場において実施した全ての公演(養成研修発表会を除く)において公演解説書を作成した。
- ・初心者を対象にした公演などである、4月舞踊・邦楽公演、7月舞踊公演、8月音の会、8月特別企画公演は、無料配布とした。また、閉場後の短期公演(1月邦楽公演、3月舞踊公演)についても、無料配布とした。
- ・6・7月歌舞伎鑑賞教室及び12月文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本(初心者向けガイドブック)を無料配布した。
- ・6・7月「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」において、社会人を主とする来場者が演目の内容を一層理解できるように、ミニ台本を無料配布した。
- ・歌舞伎と文楽のさよなら公演では、プログラムの表紙に高級感のある用紙を使用し、特別感を演出した。
- ・さよなら公演のプログラムでは、文楽、琉球舞踊、現代邦楽、雅楽、声明、民俗芸能の公演において、それぞれの芸能分野の専門家による、これまでの主催公演を振り返る特集記事を掲載した。
- ・初代国立劇場さよなら記念に寄せて、10月歌舞伎公演では幹部俳優102名、10月邦楽公演では重要無形文化財保持者各個人指定(人間国宝)18名による自筆の色紙をプログラムに掲載した。
- ・12月以降の代替劇場公演では、収支改善を図るため、定形外からB5定形へのサイズ変更等、プログラムの仕様を見直した。

<演芸場>

- ・「公演ガイド」を作成し無料配布した。

<能楽堂>

- ・「月刊国立能楽堂」を作成。演目解説や出演者紹介の他、対談などの特集記事、展示、公演案内及びグッズ販売等の情報を掲載した。

<文楽劇場>

- ・各公演(上方演芸特選会を除く)において解説書を作成した。
- ・5月舞踊・邦楽公演、5月浪曲録声会、6月文楽鑑賞教室、6月文楽若手会、1月及び3月若手素浄瑠璃の会、2月浪曲名人会は無料配布とした。

<おきなわ>

- ・公演解説書ステージガイド(月刊)を作成した。
- ・普及公演において、イラスト付き鑑賞リーフレットを配布した。

<新国立劇場>

- ・全ての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。
- ・バレエ・現代舞踊公演は無料配布とした。
- ・2023/2024 シーズンガイドを作成し、シーズンを通した演目の紹介、各種サービスの案内を行った。
- ・新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

② 音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

<本館>

- ・歌舞伎・文楽の全公演で、日本語及び英語による音声同時解説サービス(骨伝導イヤホンを含む)を実施した(英語版は日程・演目を限定)。

<文楽劇場>

- ・文楽の全公演で、日本語及び英語(一部日程)による音声同時解説サービスを実施した。
- ・夏休み文楽特別公演第一部「親子劇場」では、18歳未満の子供について音声同時解説サービスの無料貸出を実施した。

<新国立劇場>

- ・令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇3演目(「モグラが三千あつまって」「尺には尺を」「終わりよければすべてよし」)の一部公演で、視覚に障害がある方向けにリアルタイム音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

分野	実施公演数	内 訳
歌舞伎(鑑賞教室含む)	2公演	6月鑑賞教室、7月鑑賞教室
文楽(鑑賞教室含む)	10公演	全公演
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗	12公演	東京:5月舞踊公演、7月舞踊公演、8月舞踊公演、3月舞踊公演

芸能・琉球芸能・特別企画		東京:10月邦楽公演(邦楽鑑賞会)、1月邦楽公演 大阪:8月邦楽公演
		東京:5月声明公演、8月声明公演
		東京:10月琉球芸能公演
		東京:4月特別企画公演、8月特別企画公演
能楽(鑑賞教室含む)	48公演	蠟燭能を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能(鑑賞教室含む)	22公演	「国立劇場寄席」及び「琉球舞踊鑑賞教室」を除く全公演
オペラ(鑑賞教室含む)	11公演	全公演
演劇	3公演	令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として実施
研修発表会等	2公演	オペラ研修所試演会「Scenes Recital 2023」、オペラ研修所修了公演「カルメル会 修道女の対話」

<本館>

- ・全ての文楽公演において、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・舞踊公演、邦楽公演等において、上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
- ・1月邦楽公演において、観客がスマートフォンにダウンロードして利用できる字幕アプリを採用した。

<能楽堂>

- ・座席字幕表示装置を活用して、8月企画公演〈蠟燭の灯りによる〉を除く公演で、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・7・8月企画公演〈国立能楽堂夏スペシャル〉「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」において、座席字幕表示装置の表示言語を通常の日本語と英語のチャンネルに加えて、子供用の現代語訳チャンネルを、また、4・7・10月国立能楽堂ショーケースにおいては日本語現代語訳チャンネルを表示し、それぞれ3チャンネルとした。

<文楽劇場>

- ・全ての文楽公演において、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。

<おきなわ>

- ・22公演において、字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

<新国立劇場>

- ・全てのオペラ公演で日・英字幕を表示し、演劇3公演については聴覚障害者向けにポータブル字幕機で字幕を表示した。

③ 公演内容の事前説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施

(a) 公演説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施

<公演説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施実績>

区分	参加者数
本館	6,837人
演芸場	373人
能楽堂	1,469人
文楽劇場	2,602人
国立劇場おきなわ	1,187人
新国立劇場	26,360人

※YouTube等オンラインでの参加者数も含む

<各館共通>

- ・バックステージツアーや出演者等による観劇団体向けの解説を実施した。

<本館>

- ・開演前に小劇場舞台で舞踊の体験を実施した(7月舞踊。参加者50名)。
- ・8月特別企画18時の部は観光再始動事業として、終演後に歌舞伎、文楽、能楽、琉球舞踊の各ジャンルのワークショップを実施し、海外オンライン販売サイトで購入した外国人8名及び、日本在住の外国人無料モニター28人が参加した。

<演芸場>

- ・一般社団法人日本演芸家連合の制作協力を得て、外国人に対応を広げて演芸ワークショップを開催した。親子の参加に加え、観光案内所や留学生関連などを通じて外国人の参加を働きかけた。

<能楽堂>

- ・東京体験スクール(主催:東京都教育庁)において、都内留学生が参加するバックステージツアーを実施した(7/11・12/12。参加者数:合計77名)。
- ・アラブ首長国連邦シャールジャ首長国の法人2団体に対し、能舞台の見学及び照明・音響についての説明を行った(12/14。参加者数:15名)。
- ・日・ASEAN友好協力50周年パートナーズ・プログラム(外務省・文化庁)に会場を提供するとともに、公演制作を受託。能「羽衣」鑑賞、楽屋での面・装束体験や囃子体験を実施した(12/18)。

<文楽劇場>

- ・株式会社エイチ・アイ・エスにチケットの販売を委託し、有料で外国人向けに舞台機構・舞台、照明、音響の解説、舞台装置のデモンストレーションを含む体験型のバックステージツアーを実施した(2/7・8。参加者数:44名)。

<おきなわ>

- ・近畿日本ツーリスト沖縄との合同企画として、年2回の組踊ワークショップ付きで公演ゆかりの地巡りと公演鑑賞がセットになったツアーを実施した。
- ・沖縄県教育庁生涯学習振興センターと連携し、県民カレッジ主催講座として、公演と講座がセットになった講座を実施した。

<新国立劇場>

- ・新制作オペラの作品理解を深め、興味関心を喚起するため、演出家等のスタッフによるオペラトークを実施した。
- ・演劇公演の作品理解を深め、興味関心を喚起するため、演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介するシアタートークを実施した。

<<オペラトーク・シアタートーク開催実績>>

区分	実施回数	参加者数
オペラトーク	3件	229人
オペラトーク配信版	3件	13,257人
シアタートーク	5件	1,926人
合計	11件	15,412人

- ・オペラ芸術監督による2024/2025シーズンオペラお客様向けラインアップ説明会を実施した。
- ・オペラ「シモン・ボッカネグラ」終演後に、指揮を務めたオペラ芸術監督大野和士と主演歌手等によるアフタートークを開催した(11/18)。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から休止していた、バックステージツアーや公演ガイドツアーを一部公演で再開した。また、若い世代により興味を持ってもらうことを目的として、25歳以下の方(お連れ様を含む)が優先してバックステージツアーに参加できる日程も新たに設定した。
- ・子供を対象とした公演(こどものためのバレエ劇場2023エデュケーショナル・プログラム「白鳥の湖」、演劇「モグラが三千あつまって」)において、子供向けバックステージツアー・公演ガイドツアーを実施した。
- ・新制作バレエの作品理解を深め、興味関心を喚起するため、プロダクションガイドツアー、振付家や主演ダンサー等によるプレトーク・アフタートーク等のイベントを実施した。
- ・バレエ「シェイクスピア・ダブルビル」において、チケットを購入した一般の観客に向け、新国立劇場バレエ団のクラスレッスン見学会を行った。新国立劇場バレエ団ファンへのチケット販売の促進を図るとともに、通常では見学することのできないレッスンを見学してもらうことにより、新国立劇場バレエ団への関心とバレエに対する理解を深め、新たなファンの獲得を図った。
- ・シェイクスピア、ダークコメディ交互上演にて、過去のシェイクスピア歴史劇シリーズより続けて出演しているキャスト陣による「歴史劇皆勤賞トーク」を実施した。
- ・演劇公演「東京ローズ」にて、英国上演時のクリエイターチームを招き、「スペシャルシアタートーク」を実施した。
- ・一部のイベントでは、オンライン(YouTube)でもライブ配信やアーカイブ配信を行った。

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

<本館>

- ・「初代国立劇場さよなら公演」との提携企画として劇場外での講座を実施した。
 - ◇連続講座「初代国立劇場を知る」(5/17・20。主催:千代田区立九段生涯学習館。講師:高木秀樹。参加者数40名)
 - ◇初代国立劇場さよなら公演×日比谷カレッジ(主催:千代田区日比谷図書文化館)

➤ 5/8 「メイキングオブ歌舞伎イヤホンガイド編」(講師：佳山泉。参加者数 63 名)

➤ 9/8 「国立劇場の思い出—制作の視点から」(講師：神山彰。参加者数 79 名)

＜能楽堂＞

- ・国費外国人留学生歓迎会 2023(主催：文部科学省、独立行政法人日本学生支援機構)に、能楽体験ブースを出展し、令和 6 年 6 月の能楽鑑賞教室英語版チラシを配布した(12/16。東京国際交流館。参加者数：約 200 名)。

＜おきなわ＞

- ・首里城を管理運営する一般財団法人沖縄美ら島財団と連携し、英語通訳付きで組踊ワークショップを 6 回実施した(7/19、9/27、11/16、各日 2 回実施。参加者数 246 名)。

＜新国立劇場＞

- ・チケット購入団体に対して外部専門家及び職員によるオペラ・バレエ公演の事前レクチャーを実施した(一部オンラインでも実施)。

エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービスの向上

① 意見・要望等への対応体制

＜振興会＞

- ・各館に寄せられた観客の意見・感想・要望及び観劇予定者からの質問等については、迅速な対応を図るとともに、対応状況については把握、職員や案内業務委託業者等と情報を共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

＜おきなわ＞

- ・観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

＜新国立劇場＞

- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。
- ・アンケートは用紙の配布を行わず、ウェブで実施した。
- ・アンケート回答者のうちから抽選でオリジナルグッズが当たる企画を実施し、回答率の向上に努めた。
- ・意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

② 意見・要望等への対応

区分	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	39 件	11 件	299 件	255 件
演芸場	10 件	2 件		
能楽堂	0 件	0 件		
文楽劇場	62 件	15 件		
国立劇場おきなわ	2 件	0 件	0 件	0 件
新国立劇場			439 件	201 件
合計	113 件	28 件	738 件	456 件

＜主な対応・改善例＞

- ・新国立劇場では、いただいた意見・要望について下記のような対応を行った。
 - ◇公演内容、チケット購入方法に関する問合せに対して適宜回答した。
 - ◇公演における忘れ物、落とし物に関する問合せについて、適宜防災センターや現場に確認して回答し、可能な限り返却の可能性を高めるよう努力した。
 - ◇上演時間についてなど、頻繁に問われる情報については、早期にウェブサイトにて情報を記載する、SNS で配信するなどの努力を行った。
 - ◇特に英語で多く寄せられる、合唱団、バレエ団、研修所などのオーディションに関する問合せに対して適宜回答した。

2-(6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人々が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動の展開

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ・SNS等を活用した最新情報の提供、ホームページのアクセシビリティ向上

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開

より効果的かつ効率的な運営を行うための会員組織の見直し

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用した効果的な広報活動

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b)SNS やメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)外国語版のホームページ等での外国人に対する情報発信を効果的に実施、より効果的な情報発信を行うための検討

(d)国内外に向けた振興会各種事業の情報発信及び周知

③振興会各種事業に関する広報誌の発行

・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)

・月刊情報誌国立劇場おきなわステージガイド(毎月発行)

・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

⑤団体観劇促進のための、公演内容に応じた営業活動の展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑥若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の運営、会員校の増加及びサービスの拡充に努める

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的を実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

令和11年度の国立劇場等の再開場に向けて、新会員組織の構築について検討

①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年4回程度、代替施設での上演方法や施設利用状況等を踏まえ適宜実施)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)

・会員向けイベント(年4回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)

・会員向けイベント(年3回程度)

④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年5回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 多様な媒体を活用した効果的な広報活動

(a) ホームページ、SNS 等インターネットを活用した広報活動

- ・詳細は「②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供」に記載。

(b) メディア等と連携した広報活動

<各館共通>

- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)を劇場・近隣のホテル・上演演目ゆかりの地等で実施した。また、個別にマスコミの取材対応等も行った。
- ・新聞・雑誌等に公演情報を掲載した。
- ・テレビ・ラジオ番組(地元地域のコミュニティ FM を含む)で職員や出演者・芸術監督等関係者が公演 PR を行った。

<本館>

- ・初代国立劇場での最後の鑑賞教室(7 月歌舞伎鑑賞教室)や最終公演(10 月歌舞伎公演)として NHK の取材に対応し、「首都圏ニュース」ほかで放送された。
- ・3 月文楽入門公演「BUNRAKU 1st SESSION」のゲネプロで NHK の取材に対応し、首都圏及び関西圏で放送された。

<演芸場>

- ・日本テレビ「笑点」の公開収録を行い、初代国立演芸場の閉場を広く周知した。

<能楽堂>

- ・NHK ラジオ「マイあさ！」にて開場 40 周年記念の PR を行った。
- ・能「檀風」ゆかりの地である新潟県佐渡市にて取材会を実施し、参加した伝統文化ジャーナリストによる紀行文を、カラー写真ともに公演プログラムに掲載した(5 月特別企画公演)。

<文楽劇場>

- ・吉田玉男が重要無形文化財保持者各個認定(人間国宝)されることが発表され、テレビや新聞でも大きく取り上げられた。また、吉田玉男がテレビ・ラジオ番組に出演し、人間国宝認定に関する話題のほか、文楽公演の PR を行い、公演周知にもつなげた。
- ・夏休み文楽特別公演において、「妹背山婦女庭訓」杉酒屋の段にゆかりのある大神神社(奈良県桜井市)の協力を得て、国立文楽劇場にて杉玉の授与式及び取材会を実施した。公演期間中にはお三輪の文楽人形と共に杉玉をロビーに展示した。また、今西酒造(奈良県桜井市)の協力を得て、杉玉と文楽人形の写真でデザインした特製タグつきの日本酒「三諸杉」を数量限定で販売した。

<おきなわ>

- ・シネマ組踊「孝行の巻」と連携した広報を行った(5 月組踊公演「孝行の巻」)。

<新国立劇場>

- ・オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による 2024/2025 シーズンラインアップ記者発表を行った(オペラ 2/21、舞踊・演劇 2/28)。
- ・各公演についてマスコミに記事掲載の働きかけを行い、多くのメディアにおいて公演情報、インタビュー、公演評等が掲載された。
- ・バレエ「シェイクスピア・ダブルビル」の「マクベス」について、メディア向けに公開リハーサルを実施した。

(c) チラシ・ポスター等による広報活動

<各館共通>

- ・劇場ロビーや演目ゆかりの地、文化施設・公共施設等にチラシ・ポスターを掲出した。
- ・駅貼りポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を行った。

<本館>

- ・文楽公演(文楽鑑賞教室)は、用途や使用枚数、情報の決定時期の違いに応じて、解説文付きと配役付きとで別の宣材を順に展開するのが通例だったが、半蔵門を離れて代替劇場での開催となることから、初めて文楽に触れる人を意識して作品解説と配役をどちらも紹介し、会場についても丁寧に掲載するため、判型を A3 二つ折りとして 1 枚で同時に作成、展開した。

<演芸場>

- ・他の 4 席亭との共同制作による真打昇進披露公演のチラシ・ポスターを作製した(5 月中席、7 月上席、2 月 6 日～10 日国立演芸場寄席)。
- ・国立演芸場公演ガイド巻頭に「さよなら公演特別企画」として国立演芸場を振り返る記事や柳家小さんのインタビューを掲載し、さよなら公演への関心拡大につなげた。

<能楽堂>

- ・開場 40 周年記念公演、記念行事、展示情報を集約したラインナップチラシを作成し、ロビー及び関係各所に配布した。
- ・同一作品を 2 か月連続で上演する「演出の様々な形」(11・12 月定例公演)特別チラシを作成(8,000 部)。中央・総武線沿線の劇場等でも配布を行った。
- ・11 月企画公演「能と組踊」特別チラシを作成(6,000 部)。都内沖縄アンテナショップでも配布を行った。

<文楽劇場>

- ・吉田玉男が出演した「道頓堀川面舞台 2023」(11/25)、吉田一輔が参加した今宮戎神社「十日戎」の宝恵駕行列(1/10)など地域のイベント等で、チラシの配布及びポスターの掲出を行った。

<おきなわ>

- ・開場 20 周年記念公演合同チラシを作成し、会員や来場者、協賛企業等へ配布した(30,000 枚)。

<新国立劇場>

- ・各演目のチラシを作成し、新国立劇場および他劇場、コンサートホールにて配布した。

(d) 来場者に対する広報活動

<演芸場>

- ・演芸場 2 階ロビーに「令和 4 年度国立演芸場花形演芸大賞受賞者」の看板を掲示し、来場者に各受賞者及び花形演芸大賞制度を周知した。

<能楽堂>

- ・主催公演開催時に、見所内座席字幕表示装置に公演情報等の映像を流して、公演周知に努めた。

<文楽劇場>

- ・劇場利用客への効果的な広報、宣伝を実施するために、1 階エントランスロビーの大画面テレビモニター及び 2 階ロビーの観客用舞台モニターで、公演宣伝映像等を上映した。

<おきなわ>

- ・開場 20 周年記念公演を PR するため、ロビーにデジタルサイネージを設置した。
- ・ロビーに公演ポスター等を掲示する他、公演告知映像を放映した。

<新国立劇場>

- ・公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行った。
- ・全国公演の会場にて、新国立劇場のブースを設置し PR を行った。

(e) 各分野の特性や公演内容に応じた広報活動

<本館>

- ・代替劇場で開催する最初の文楽公演をアピールするため、会場が入る北千住マルイ 2F 入口前スペースにて、「国立劇場文楽公演 in シアター1010 開催記念 北千住初お目見え 文楽へようこそ」と題し、文楽人形のデモンストレーションイベントを行った(12/2)。
- ・代替劇場で行う最初の歌舞伎公演となる初春歌舞伎公演の取材会を、会場の新国立劇場中劇場ホワイエで開催した(12/14)。
- ・東京国際空港(羽田空港)利用のインバウンドを主な対象にした人形浄瑠璃文楽と日本舞踊のミニ実演イベント「LIVE PERFORMANCE OF JAPANESE TRADITION—Welcome! BUNRAKU and NIHONBUYO—」を同空港第 3 旅客ターミナルで開催し、日本の伝統芸能の海外発信の契機にするとともに、「BUNRAKU 1st session」 「Discover NIHONBUYO」の集客を図った(3/21)。
- ・6 月歌舞伎鑑賞教室「日本振袖始—八岐大蛇と素戔嗚尊—」を実施している大劇場のロビーに小道具の大蛇を 2 体飾り、同時期に小劇場で実施する 6 月民俗芸能公演(芸北神楽「八岐大蛇」ほか)の宣伝をした。

<文楽劇場>

- ・11 月文楽公演第一部の「双蝶々曲輪日記」が八幡の里が舞台であることから、石清水八幡宮駅を通る京阪電車の車両サイネージにて動画広告を掲出した。

<おきなわ>

- ・沖縄は島嶼県であることから、沖縄へ来る JAL と ANA の国際線・国内線において、9 月の 1 か月、国立劇場おきなわの CM を放映した。
- ・那覇空港から訪れる観光客に向けて、沖縄都市モノレールゆいレールにて開場 20 周年記念公演の吊り広告を実施した。
- ・組踊は元々、冊封使の歓待のため首里城で披露されていた宮廷芸能であり、首里城観光と親和性が高いため、首里城にて組踊ワークショップを行い、参加者にチラシを配布して広報した。

<新国立劇場>

- ・2023/2024 シーズンガイドを作成し、シーズンを通した演目の紹介、各種サービスの案内を行った。
- ・2023/2024 シーズン開幕にあたり、京王線新宿駅 JR 連絡通路(新宿アドストリート)と京王新線/都営新宿線新宿駅改札前(新宿 KT ビジョン)に開幕記念広告を展開した(9/25~10/1)。
- ・隣接する東京オペラシティビルで無料開催されるロビーコンサートにブースを設置し、公演情報等の周知を行った(4/6~9、7/20~23、10/12~15、12/21~24、3/22~25)。

② 振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供

(a) ホームページ、SNS やメールマガジンによる公演等の情報発信

《ホームページアクセス件数》

区分	件数	前年度実績
振興会 HP	1,927,486 件	3,256,736 件
おきなわ HP	980,695 件	810,674 件
新国立劇場 HP	4,187,863 件	7,331,073 件

※Google Analytics の仕様変更により、今年度より集計方法がユーザー数に変更されている(前年度まではセッション数)。

《SNS 等登録者数》

区分	Facebook	Instagram	LINE	YouTube	X(旧 Twitter)	メールマガジン
国立劇場	-	10,200	-	37,200	11,641	-
国立劇場チケットセンター	-	-	-	-	-	133,386
演芸場	-	-	-	-	2,514	-
能楽堂	-	-	-	-	1,294	-
文楽劇場	-	660	1,536	-	15,587	-
おきなわ	3,019	1,138	1,535	2,020	500	-
新国立劇場	-	-	19,871	53,643	-	-
新国立劇場(英語)	3,342	6,547	-	-	-	-
新国メンバーズ	-	-	-	-	-	58,479
新国立劇場オペラ	17,411	6,884	-	-	21,993	-
新国立劇場バレエ団	18,782	50,391	-	-	25,412	-
新国立劇場演劇	3,650	2,615	-	-	27,381	-

《各劇場のホームページや SNS 等を活用した広報活動》

＜各館共通＞

- ・国立劇場・国立演芸場・伝統芸能情報館の閉場・閉館に伴い、振興会ホームページをリニューアル、ヘッダーに情報を集約するなど、各劇場トップページ等のデザイン変更を行い、利便性の向上を図った。
- ・公演情報等をホームページ、SNS、メール等で情報発信し、公演 PR を行った。
- ・公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画、稽古場の様子、出演者・公演スタッフ等の関係者によるインタビュー・見どころ紹介・取材会の映像等をホームページや SNS 等で公開し、公演 PR に努めた。

＜本館＞

- ・未来へつなぐ国立劇場プロジェクトサイトで、さよなら公演の周知を行った。
- ・5 月文楽、8・9 月文楽が 2 公演連続通し上演という企画だったことから、演目を詳細に紹介する特設サイトを制作して周知した。
- ・毎年実施していた「さくらまつり」について、令和 6 年は国立劇場が閉場しているため実施しないが、振興会ホームページにて国立劇場さくら情報(開花状況等)を事前に公開し、桜を見にいらした方に前庭を開放した。

＜演芸場＞

- ・未来へつなぐ国立劇場プロジェクトサイトで、さよなら公演の周知を行った。
- ・8 月より初代国立演芸場さよならアンバサダーとして 2.5 次元俳優の植田圭輔を起用し、プレゼントキャンペーンと同時に本人の SNS と連携して情報を発信した。公式 X での表示が 20 万回を超える投稿もあり、閉館までの公演で新規の若年層や女性客を集客した。

＜能楽堂＞

- ・令和 5 年 1 月に令和 5 年度の全主催公演のラインナップをホームページに掲載した。
- ・国立能楽堂開場 40 周年特設サイトを製作し、ドローンでの撮影によるスペシャルムービーを公開するなど、公演等、周年関連の情報を発信した。
- ・8 月に国立能楽堂 X(旧 Twitter)を開設し、随時情報発信を行った。また、フォローした方にアイコンを無料配布するキャンペーンを行い、フォロワー数の獲得につなげた。

＜文楽劇場＞

- ・11 月文楽公演初日にあわせ、国立文楽劇場公式 LINE アカウント及び Instagram アカウントを開設した。
- ・公式 LINE では、開演後割引などの案内やプレゼントクーポンの配信により登録者の増加を図った。
- ・来場時に撮影した写真の投稿によるキャンペーンやフォローやリツイートした方に招待券をプレゼントするキャンペーンを実施し、SNS 上での口コミ拡散を図った。

- ・漫画家の細川貂々による「仮名手本忠臣蔵」のあらすじ紹介漫画を振興会ホームページやX(旧 Twitter)で事前に公開し、演目内容の周知を図った(6月文楽鑑賞教室)。

<おきなわ>

- ・公演回数が2回以上ある連続公演の場合は特設ページを設けた。

<新国立劇場>

- ・ホームページのチケット関連ページ及びアトレ会員ページをリニューアルした。
- ・初めてご来場するお客様向けの案内をまとめたサイト「はじめての新国立劇場」を公開した。
- ・舞台稽古や舞台裏等の映像の SNS 投稿に対してインプレッション数が投稿から1か月で数十万件に達するなど大きな反響があった。
- ・オペラ「修道女アンジェリカ／子どもと魔法」「シモン・ボッカネグラ」にて、舞台リハーサル招待キャンペーンを実施し、参加者にリハーサルの感想を X(旧 Twitter)で投稿してもらうことで、新制作公演への期待感の醸成につなげた。
- ・新国立劇場内で撮影した写真を SNS で投稿した方に抽選でオリジナルグッズ等をプレゼントするキャンペーンを実施した。

<<外部のサイトや SNS を活用した広報活動>>

<各館共通>

- ・PRTIMES など外部サイトを活用し、公演情報やイベント情報を告知した。

<本館>

- ・12月文楽公演・文楽鑑賞教室について、美術展ナビのウェブサイトにはバナー広告を掲出した。

<能楽堂>

- ・能楽堂では初の試みとして、Google における WEB 広告を実施した。一度公演ページへアクセスしたユーザーに再度広告が表示されるリマーケティングも導入し、1,880,230 表示、10,890 クリックの成果を得た。

<文楽劇場>

- ・文楽劇場では初の試みとして、11月文楽公演において Google における WEB 広告を実施した。一度公演ページへアクセスしたユーザーに再度広告が表示されるリマーケティングも導入し、1,309,082 表示、17,199 クリックの成果を得た。
- ・新聞社等のニュースサイト、ポータルサイトなど関西圏の劇場等来訪者を対象に WEB 広告を掲出した(文楽公演)。

<おきなわ>

- ・沖縄県庁や沖縄科学技術大学院大学等のイントラネット、沖縄県教育庁生涯学習推進センターの管理運営するまなびネットに公演情報を掲載した。

<新国立劇場>

- ・公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社の SNS・メルマガ等を通じた幅広い顧客への公演情報の周知を行うことができた。

(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討

<各館共通>

- ・ホームページ、SNS、日本博の公式英語アカウント等において、過去の公演記録映像のダイジェスト映像も活用した公演情報を積極的に英語で発信した。
- ・外部の英語サイトや SNS 等で公演情報を発信した。

<Discover 公演>

- ・英文ニュースサイトに広告を掲出した。
- ・大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所への DM 送付等により公演を周知した。
- ・文楽劇場では、Facebook や Instagram 等において、日本文化に興味を持つ旅行者や在日外国人へのターゲット広告を実施した。

<本館>

- ・読売旅行に委託して海外 OTA でのチケット販売(Viator・KLOOK・GetYourGuide)を開始した(8月特別企画、9月歌舞伎、10月歌舞伎。販売実績19枚)。
- ・12月以降海外 OTA の Viator(12月文楽鑑賞教室、初春歌舞伎、1月邦楽、2月文楽、3月文楽入門、3月舞踊)及び Getyourguide(3月文楽入門、3月舞踊)に直接依頼し、公演情報の掲載とチケットの販売を行った(販売実績74枚)。
- ・外国人向けに短時間で安価にみられる WELCOME! TICKET を販売(5月文楽、8・9月文楽、9月歌舞伎、初春歌舞伎、2月文楽。販売実績264枚)。
- ・外国人旅行者の観劇の増加を図るため、英文によるスケジュールチラシ・歌舞伎イメージポスターや歌舞伎・文楽紹介リーフレット(7言語。英・中(簡・繁)・韓・西・仏・独)を国立劇場、羽田空港・成田空港・都内の主要な観光案内所・ホテル等に掲出した。

<演芸場>

- ・トリップアドバイザーの演芸場ページの画像を最新画像に随時更新した。

<能楽堂>

- ・主催公演予定表(冊子体)、ショーケース特別チラシを日英表記で作成し、ロビー配架、団体への送付等を行った。
- ・能「東岸居士」、狂言「杭か人か」の出演者それぞれに取材し、英語に翻訳したコメントをホームページに掲載することで公演をアピールした。また、公演当日の来場者にコメントを配布して、演目の魅力を伝えた(5月定例公演)。
- ・11/17 定例公演において、訪日外国人の来場を促すため、開演前に玄関広間で伶以野陽子(シテ方観世流能楽師)による能の概説、当日の演目についての解説を行った(参加者数 150 名)。実施に当たっては、振興会ホームページで周知を行い、外国人にも能楽により親しみやすい環境を整えていることをアピールした。公演には、約 80 名の外国人が来場した。

<文楽劇場>

- ・観光庁観光再始動事業『伝統芸能「文楽」を基軸にした高付加価値の観光事業』に参画し、インバウンド向けの取組を行った。
 - ◇1 階ロビーでプロジェクションマッピングによる、文楽のデジタルコンテンツ作品投影を実施
 - ◇株式会社エイチ・アイ・エスが販売するインバウンド向けツアーに参画し、11 月文楽公演の観劇機会を提供
- ・観光庁観光再始動事業である大阪商工会議所主催「大阪プレミアムツアー」に参画し、ワークショップの会場手配や公演観劇等を実施した。

<おきなわ>

- ・英語のホームページについて、公演情報一覧のページがトップにくるよう改修し、「組踊」「三線音楽」「琉球芸能」と「国立劇場おきなわ」を紹介するプロモーションムービーを一番上に配置した。
- ・英語版オンラインチケット購入の公演情報詳細ページを、英語版特設ページに誘導するように変更した。
- ・Discover KUMIODORI をはじめ、多言語対応している日本博対象公演においては、基地内雑誌へ公演の広告を掲載したほか、OIST、JICA、ウチナンチュネットワーク等、外国人の目に触れるツールでの広報を行った。
- ・沖縄県を通じて県教育庁及び県内市町村(JET プログラム任用団体)へ、ALT(外国語指導助手)及び CIR(国際交流員)に対する公演の周知・誘客を図った。
- ・JAL・ANA の国際線において劇場の CM を放映し、認知度向上を図った。
- ・首里城において実施した組踊ワークショップでは、英語通訳者を付けて、外国人向けに組踊の歴史背景を説明した上での公演の周知を行った。

<新国立劇場>

- ・欧米の舞台専門サイト、専門誌に計 22 件広告出稿するとともに、記事掲載を働きかけた。実際に多数の記事掲載があった中で、新国立劇場「シモン・ボッカネグラ」の舞台写真は、英国の伝統あるオペラ雑誌「Opera Magazine」2024 年 2 月号の表紙を飾った。
- ・オペラ「シモン・ボッカネグラ」で海外からジャーナリストを 7 名招聘し、新国立劇場の認知を高めるとともに、海外メディアでの露出を図った。
- ・オペラ「アイダ」「リゴレット」「ラ・ボエーム」「エウゲニ・オネーギン」「ドン・パスクワーレ」「トリスタンとイゾルデ」、バレエ「シェイクスピア・ダブルビル」「白鳥の湖」「ドン・キホーテ」「くるみ割り人形」「ホフマン物語」について、英語版トレーラーを作成し、外国人に向けて英語 Facebook、Instagram で広告展開した。
- ・英語版ラインアプリーフレットを日本政府観光局(JNTO)の海外拠点に配備したほか、都内ホテル、ツーリストインフォメーションに英語版シーズンガイドとともに発送し、配置を依頼した。
- ・大使鑑賞プログラム等に関連して、大使館のホームページや SNS でも周知するなど広報協力を得た。
- ・日本政府観光局主催の「第 26 回 JNTO インバウンド旅行振興フォーラム」や東京都・公益財団法人 東京観光財団(TCVB)主催の国際商談会に参加し、海外の旅行会社に向けて新国立劇場の PR 及び誘客のほか、各海外市場のインバウンド最新動向について情報収集を行い、今後の情報発信の参考とした。
- ・オペラ「こうもり」における外国人向け特別イベントについて、公演の入場券と合わせたチケットを設け、OTA である KKday にて告知と販売を行った。
- ・オペラ「エウゲニ・オネーギン」において、在日旅行代理店(インバウンド取扱い)のモニター観劇会を実施した。

③ 振興会各種事業に関する広報誌の発行

- ・年度計画に従い、以下の広報誌を作成・発行した。
 - ◇「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行。情報発信の効率化を図るため 10 月号をもって廃刊。)
 - ◇国立劇場おきなわ情報誌「ステージガイド」(毎月発行)
 - ◇新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)
- ・その他、下記の刊行物を作成・発行した。

- ◇ 「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日英併記)」(10月発行)
- ◇ 「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧 令和5年度(WEB版)」(11月発行)
- ◇ 「新国立劇場 令和4年度年報」(9月発行、2言語(日本語・英語)表記)

④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーン等の企画・実施

<本館・新国立劇場>

- ・国立劇場公演と新国立劇場公演のダブル観劇キャンペーンを実施した。

<本館>

- ・「さよなら特別公演 WEB クーポン」による割引販売を実施。既存団体や見込み団体に DM で周知したほか、「ようこそ半蔵門」や日比谷 OKUROJI の協力店舗や天神社等でチラシを配布した(8・9月文楽、9月歌舞伎。販売実績 59 枚)。
- ・「チラシ割引特別クーポン」による割引販売を実施。代替劇場周辺の協力店舗や近隣施設でチラシを配布したほか、足立区報により公演の周知を図った(12月文楽鑑賞教室 20 枚、12月文楽 10 枚、初春歌舞伎 12 枚、2月文楽 26 枚)。

<演芸場>

- ・継続的に行っているスタンプラリーキャンペーンについて、代替施設での公演時にも継続して行うことをアピールしてリピーターの増加を図った(定席公演)。

<能楽堂>

- ・同一等級の座席を 2 枚以上同時購入の場合に割引となる「お誘い割」を実施した(4月・7月・10月・1月ショーケース。販売実績 337 枚)
- ・「演出の様々な形」(11/17・12/15 両定例公演)のセット割引を実施した(販売実績 64 枚)。
- ・國學院大學関係者、団体常連客、近隣の商店街、能楽堂近辺に在住・通勤・通学の方などに対する特別価格キャンペーンを実施した(4月定例公演、5月定例公演(5/19)、6月能楽鑑賞教室。販売実績 127 枚)。

<文楽劇場>

- ・幕見席を販売した(4月文楽公演第1部・第2部、夏休み文楽特別公演第2部、11月、初春文楽公演。販売実績 1,404 枚)。
- ・「開演後割引」を実施した(4月文楽公演第3部、夏休み文楽特別公演第3部、11月文楽公演第3部。販売実績 160 枚)。
- ・団体以外の顧客、近隣の商店街などに対する特別価格キャンペーンを実施した(4月文楽公演、夏休み文楽特別公演第3部、11月文楽公演。販売実績 78 枚)。

<おきなわ>

- ・「2日通し券」を販売した(4月琉球舞踊公演「うりずんの舞」、6月琉球舞踊公演「新進男性舞踊家の会」、12月琉球舞踊公演「男性舞踊家の会」、2月琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」、3月企画公演 組踊・歌劇傑作選「花売の縁」「泊阿嘉」「執心鐘入」「薬師堂」。販売実績 772 枚)。
- ・7月の親子のための組踊鑑賞教室及び8月の琉球舞踊鑑賞教室について、親子料金を適用した(販売実績 59 枚)。

<新国立劇場>

- ・2023/2024 シーズンセット券を販売した(オペラ公演。販売実績 13,570 枚)。
- ・クラブ・ジ・アトレ会員と賛助会員を対象とした「バレエ&ダンス 郵送申込シード権」による優先販売を行った(バレエ・現代舞踊公演)。
- ・演劇公演「エンジェルス・イン・アメリカ」において、第一部と第二部の「通し券」を販売した(販売実績 2,534 枚)。
- ・演劇 シェイクスピア、ダークコメディ交互上演「尺には尺を」「終わりよければすべてよし」において、2作品の「通し券」を販売した(販売実績 3,708 枚)。
- ・公演ジャンルを横断した「夏のこども劇場セット」を販売した(こどものためのバレエ劇場 2023 エデュケーショナル・プログラム「白鳥の湖」、演劇公演「モグラが三千あつまって」。販売実績 514 枚)。
- ・シェイクスピア、ダークコメディ交互上演において、7月の文学座公演「夏の夜の夢」(鶴山仁演出)とのダブル観劇による割引販売を行った。

⑤ 公演内容に応じた営業活動の展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 訪問、メール、DM 等による営業活動

<各館共通>

- ・訪問・メール等による団体営業を行った。
- ・ホームページ、SNS、外部のプレスリリースサービス等に団体観劇に関する案内を掲出した。
- ・過去に利用実績のある団体や利用見込団体等に対して公演情報 DM を定期的に送付した(本館 7 回 26,630 件、能楽堂 2 回 209 件、文楽劇場 6 回 3,362 件、おきなわ 5 回 2,298 件、新国立劇場 1 回 890 件)。

<おきなわ>

- ・ホームページにおいて、団体鑑賞の誘客ページをリニューアルし、修学旅行団体向けのページも追加した。

(b) 学校団体や若年層を対象とした営業活動

<各館共通>

- ・学校等に対して5年度鑑賞教室の案内DMを送付した(本館13,621件、能楽堂120件、文楽劇場2,758件、おきなわ1,728件)。
- ・親子を対象とする公演について、学校・地方公共団体等を通じて生徒・児童にチラシを配布した(本館122万枚、能楽堂680枚、文楽劇場278,010枚、おきなわ約1,000枚)
- ・6年度鑑賞教室の案内DMを送付した(本館11,716件、能楽堂844件、文楽劇場2,186件、おきなわ576件、新国立劇場1,693件)。
- ・6年度鑑賞教室の団体鑑賞申込み受付を開始した。

<本館>

- ・学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行10月号」)に団体鑑賞の案内を掲載した。
- ・学校向けに鑑賞教室体験会を実施し、次年度の鑑賞教室の利用促進を図った(6月歌舞伎鑑賞教室)。
- ・29歳以下のあぜくら会員、NTJメンバーを対象にした「U29割引」券を販売した(2月文楽。販売実績27枚)。

<能楽堂>

- ・キャンパスメンバーズ会員校等に向けた、レクチャー付きの観劇を実施し、特別チラシの配布等で宣伝活動を行った(4/5定例公演。販売実績29枚)。

<文楽劇場>

- ・大阪市経済戦略局が鑑賞費用を負担する「青少年のための文楽鑑賞教室」について、大阪市立小中学校(414件)に対し事業を周知した(6月文楽鑑賞教室)。
- ・大阪市と連携し大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した(夏休み文楽特別公演)。
- ・親子劇場向けに大阪中央図書館とタイアップして「図書館で観る文楽2023展」(8/4~9/6)を開催し、文楽公演入場料の割引(大阪市立図書館利用者に対してカードの提示による割引)を行った。

<おきなわ>

- ・沖縄芝居鑑賞教室「割符」及び組踊鑑賞教室「執心鐘入」について、観劇する学校団体等に対し、貸切バス費用の助成を実施した。
- ・学校向け修学旅行情報誌(月刊「教育旅行11月号」)に団体鑑賞を案内する記事を掲載した。
- ・親子券のある夏休み期間中の公演については、学童等に周知を図った。
- ・3月企画公演 本土の芸能「山口鷺流狂言」について、演目の一つが小学校6年の国語の教科書に掲載されていることから、近隣の小学校6年生に、教育事務所を通じてチラシを配布した(47校4,660枚)。

<新国立劇場>

- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室2023「ラ・ボエーム」に際して、鑑賞校へレクチャー教材(映像)を提供した。
- ・首都圏大学宛てに新国メンバーズ入会(U25)を促進するために入会案内チラシのDMを送付し、各大学での配布協力を依頼した(458件)。
- ・オペラ「リゴレット」「サロメ」において、U25/39チケット購入者に対して新国立劇場オリジナルグッズ等をプレゼントする「新年度!オペラへようこそ♪U25/39キャンペーン」を実施した。
- ・こどものためのバレエ劇場2023エデュケーショナル・プログラム「白鳥の湖」、演劇「モグラが三千あつまって」では、渋谷区教育委員会、東京都公立小学校長会、東京私立初等学校協会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシを配布した。

(c) 外国人を対象とした営業活動

- ・詳細は「(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討」に記載。

(d) 旅行代理店、ホテル、地方公共団体等との連携による営業活動

<各館共通>

- ・ホテル・観光案内所に対して公演案内のDMを定期的に送付し、併せてチラシ掲出を依頼した(本館1,007件、おきなわ1,140件)。
- ・旅行代理店に対して公演案内のDMを定期的に送付した(本館1,880件、新国立劇場890件)。
- ・地元地域の地方公共団体・文化施設(図書館等)との連携により関連施設等にチラシ・ポスターを掲出した。

<本館>

- ・新たな観客層の開拓の一環として、(株)リクルート運営の旅行ウェブサイト「じゃらんnet」の遊び・体験予約サービスを利用してチケットを販売した(販売実績276枚)。
- ・株式会社読売旅行と提携し、海外OTA向けに解説書付き、イヤホンガイド付きのプランを販売した(販売実績14枚)。
- ・コンシェルジュ協会の定例会を伝統芸能情報館レクチャー室において実施し、「伝統芸能いろは」として講演を実施し、伝統芸能に関するチケットの販売協力を依頼した(3/14)。

<能楽堂>

- ・京王プラザホテルと連携し、国立能楽堂所蔵の面装束をホテルロビーにて展示(10/1～31)。会期中に、ミニ公演(シテ方喜多流能楽師・大島輝久による日本語・英語での能の解説と実演)を行った(10/19・24)。
- ・能楽堂近隣の鳩森八幡神社でのイベント「千駄ヶ谷おとなりサンデー」でチラシを配布した(6/4)。

<文楽劇場>

- ・旅行会社と協力して文楽公演観劇を含むツアーを造成した。
- ・Osaka Metro との連携による観客勧誘を行った。
 - ◇1日乗車券の提示による観劇チケットの割引を実施した(夏休み文楽公演)。
 - ◇大阪市内の小学生全員に配布されるOsaka Metroの「おでかけKID'S サマーPass」の宣伝パンフレットへ公演情報を掲載した。また、提示特典に協力して記念品の引換を行った(参加者数215名)。

<おきなわ>

- ・旅行社と連携し、ホテルやレンタカーと一緒に鑑賞チケットを購入できる仕組みを作った。

(e) 各分野の特性や公演内容に応じた営業活動

<各館共通>

- ・上演演目ゆかりの地の地方公共団体・文化施設・観光協会等関係団体に対する営業活動を行った。
 - ◇訪問、DM発送等による団体勧誘
 - ◇関連施設やイベント等でのチラシ・ポスターの掲出
 - ◇劇場ロビーでゆかりの地の自治体等の物産展を開催
- ・鑑賞の前後に出演者等による演目解説を実施する団体向けサービスを提供した。

<能楽堂>

- ・国立能楽堂開場40周年を広く周知するため、公演関連イベントや近隣の文化・スポーツ団体、店舗等と連携したイベント等を実施し、外部イベントでも能楽師によるミニ公演等を実施した。

<文楽劇場>

- ・邦楽部のある学校団体等に対してDMを送付した(5月舞踊邦楽公演・10月舞踊公演)。

<おきなわ>

- ・那覇文化芸術劇場なは一と連携し、相互にチラシを配布したほか、他の劇場・ホール等で上演される沖縄芝居や琉球舞踊公演において、チラシを配布した。

⑥ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

- ・会員数：30校
 - (4年度より継続加入：29校)
 - 青山学院大学、大妻女子大学、お茶の水女子大学、学習院女子大学、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、共立女子大学、学校法人国際共立学園、国士舘大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、学校法人上智学院、白百合女子大学、清泉女子大学、国立大学法人総合研究大学院大学、玉川大学、津田塾大学、東京アニメーションカレッジ専門学校、東京学芸大学、東京藝術大学、東京工芸大学、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本大学、日本女子大学、フェリス学院大学、法政大学、武蔵野音楽大学、明治学院大学、了徳寺大学
 - (5年度より新規加入：1校)
 - 文京学院大学
- ・利用枚数：2,374枚
- ・イベント及び提携・協力事業：6回実施(参加者数：864名)
 - ◇レクチャーイベント(能楽堂4月定例公演(4/5)、参加者数3名)
 - ◇9月文楽公演開演前レクチャー(9/17、参加者数17名)
 - ◇国立劇場ラストステージツアー(9/15・10/20、参加者数20名)
 - ◇お茶の水女子大学共同プロジェクト「日本の伝統芸能」講座(5/13文楽、7/8歌舞伎、10/4・20・11/8能楽。参加者数172名)
 - ◇大妻女子大学文学部第55回国文学会総会記念講演「世界一の人形芝居～文楽を知る」(6/10。参加者数74名)
 - ◇鎌倉女子大学特別授業「観劇の楽しみ方」(12/6・11、参加者数578名)

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

- ・協定締結校：12校
 - 東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学、学校法人東京医科大学

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

(a) 会員数

区分	会員数	対前年度末増減 (A-B)	今年度入会者数 (A)	今年度退会者数 (B)
あぜくら会	15,229 人	△ 1,101 人	347 人	1,448 人
文楽劇場友の会	7,717 人	△ 77 人	293 人	370 人
国立劇場おきなわ友の会	1,425 人	+ 72 人	581 人	509 人
クラブ・ジ・アトレ	12,102 人	+ 231 人	1,265 人	1,034 人

(b) 会報誌の発行

区分	発行回数	実績
あぜくら会	12 回	「あぜくら」を毎月 2 日に発行
文楽劇場友の会	5 回	文楽本公演に合わせて「友の会会報」を発行
国立劇場おきなわ友の会	4 回	「国立劇場おきなわ友の会会報」を 6、9、12、3 月に発行
クラブ・ジ・アトレ	12 回	「ジ・アトレ」を毎月発行

(c) 会員向けイベント

区分	実施回数	参加者数
あぜくら会	4 件	951 人
文楽劇場友の会	4 件	738 人
国立劇場おきなわ友の会	5 件	444 人
クラブ・ジ・アトレ	11 件	392 人

<文楽劇場友の会>

- ・一定数以上の公演のチケットを購入した会員へ記念品を贈呈する「文楽公演観劇ラリー」を実施した。

<おきなわ友の会>

- ・普及公演のチケット購入者に対し、入会金 0 円キャンペーンを実施した。
- ・開場 20 周年を記念し、新規会員の入会を促すことを目的として、前年 12/28 から本年 12/28 まで、入会金 0 円キャンペーン及び紹介者キャンペーンを実施した。

<クラブ・ジ・アトレ>

- ・U39 からクラブ・ジ・アトレ会員へのステップアップとして、40 歳で入会の方に 2024 年版新国立劇場カレンダーをプレゼントする「40 歳限定アトレ入会キャンペーン」を実施した。
- ・三井住友カードの協力を得て、バレエ「くるみ割り人形」公演開始からオペラセット券優先販売期間中にあたる 12 月～3 月にかけて入会キャンペーンを実施し、会員募集に努めると同時に、カード利用促進キャンペーンを行った。

(d) 会員向けサービスの充実**<あぜくら会・文楽劇場友の会>**

- ・振興会ホームページ内に会員専用ページを作成し、各種情報や会報を掲載した。

<文楽劇場友の会>

- ・新規入会者に公演プログラム引換券(1 冊分)と文楽劇場オリジナルグッズ引換券をプレゼントした。

<クラブ・ジ・アトレ>

- ・シーズンセット券については、2023/2024 シーズンは 2023 年 3 月よりオペラセット券のみを、10～18%の割引価格にて優先的に販売した。
- ・バレエ公演・現代舞踊公演において、過去の購入実績に基づき優先的に購入できる「バレエ&ダンス 郵送申込シード権」を引き続き実施した。
- ・会員サイト上で会報誌を講読できるサービスを提供した。

(e) アンケート調査等**<おきなわ友の会>**

- ・会員向けイベント「ザ談会」でアンケートを実施した。

<クラブ・ジ・アトレ>

- ・今後の運営に活用するため、公演アンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2-(7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上
鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供
利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る
- ウ 再開場後の新劇場の施設使用料金等について検討
- エ 振興会が有する各劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営を実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施
 - ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
 - ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
 - ③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む
 - ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ウ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用
再開場後の新劇場の施設使用料金等について、他の劇場施設等の施設利用料金等を調査
- エ 振興会が有する各劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施
- オ 国立劇場等の再整備期間中は施設利用者向けのサービス継続のため、情報提供及び技術協力等の斡旋を検討

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演・養成 研修等使用日数 (A)	貸劇場使用日数 (左記使用日との重複除く) (B)	稼働日数 (C)=(A)+(B)	使用可能日数 (D)	劇場稼働率 (C)/(D)	前年度 劇場稼働率
本館大劇場	131日	46日	177日	184日	96.2%	85.5%
本館小劇場	88日	88日	176日	193日	91.2%	86.7%
演芸場	163日	19日	182日	189日	96.3%	97.4%
能楽堂	132日	127日	259日	292日	88.7%	88.6%
文楽劇場	158日	71日	229日	305日	75.1%	82.2%
文楽劇場小ホール	67日	92日	159日	278日	57.2%	73.6%
国立劇場おきなわ大劇場	141日	50日	191日	285日	67.0%	67.9%
国立劇場おきなわ小劇場	35日	102日	137日	281日	48.8%	37.9%
伝統芸能分野 合計	915日	595日	1,510日	2,007日	75.2%	77.6%
新国立劇場オペラ劇場	247日	15日	262日	268日	97.8%	100.0%
新国立劇場中劇場	100日	209日	309日	324日	95.4%	100.0%
新国立劇場小劇場	155日	155日	310日	315日	98.4%	98.7%
現代舞台芸術分野 合計	502日	379日	881日	907日	97.1%	99.6%
総合計	1,417日	974日	2,391日	2,914日	82.1%	83.7%

※主催公演・養成研修等使用日数は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

※使用可能日数：365日－(休演日＋保守日＋調整日)

※新型コロナウイルス感染症の影響による利用中止

国立劇場 大劇場：1件2日 小劇場：影響なし

国立演芸場：影響なし

国立能楽堂：影響なし

国立文楽劇場 文楽劇場：2件3日 小ホール：影響なし

国立劇場おきなわ：影響なし

新国立劇場：影響なし

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において貸劇場使用日は0日として計上されるため、重複日分については、実際に貸与した日数が増加した場合でも劇場稼働率は上昇しない。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止による公演中止日は調整日とした。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

① ホームページへの掲載

- ・ホームページに利用案内及び使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。
- ・国立劇場おきなわでは使用可能日もホームページに掲出し、利用促進を図った。
- ・新国立劇場では、募集期間中はホームページのトップ画面にニュースを掲載し情報発信した。

② パンフレットやダイレクトメールによる広報

- ・劇場内(ロビー・楽屋等)、執務室等に施設利用に関する案内を設置した。過去の劇場利用者へ利用案内を予約申込書とともにDMで送付した(能楽堂：88件、文楽劇場：180件、国立劇場おきなわ：665件、新国立劇場：240件)。
- ・国立劇場稽古室の申込受付案内DMを送付した(国立劇場：417件)。

③ 利用希望者に対する説明・見学等

- ・利用希望者には随時、申込手続きの説明や施設・設備の見学を行い、劇場利用者の増加に努めた。
- ・(文楽劇場)劇場利用者の増加を図るため、施設見学会を実施して施設の説明及び公演以外での利用も含めた案内を行った(2/7・8、参加者数27名)。見学会実施に当たっては、ホームページでの周知、利用実績者・マスコミ関係・専門学校・企画会社へのDM、関西経済連合会・大阪商工会議所への協力依頼によって広く参加者を募集した。
- ・(おきなわ)劇場稼働率の向上を図るため、行政機関及び民間企業等の主催するシンポジウムや講演会等が開催された実績を踏まえ、行政機関やイベント会社等に対する劇場利用のPRの実施を検討した。

④ 利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・各種事業の日程をより効率的に設定するなど、劇場使用効率の向上を図った。
- ・施設利用者に対してアンケートを実施した。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。
- ・(おきなわ)利用者に対するサービスや利便性の向上に資する取組を行った。

- ◇国立劇場おきなわ施設使用予約システム(通称:稽古室使い隊!)の運用による稽古室等の予約の24時間受付
- ◇LINEでの連絡による名簿の受付及び予約確認・変更等
- ◇現金及び銀行振込の他、クレジットカード及びコンビニでの使用料支払いに対応
- ◇稽古室の夜間利用

《アンケート結果》

劇場	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
本館・演芸場	153件	30件	30件	29件	19.6%	96.7%
能楽堂	51件	11件	11件	10件	21.6%	90.9%
文楽劇場	100件	40件	40件	40件	40.0%	100.0%
国立劇場おきなわ	96件	41件	41件	40件	42.7%	97.6%

ウ 他の劇場施設の利用料金等の調査

- ・他劇場の利用料金等について調査を行った。

エ 各劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・再整備期間中の本館主催公演について、代替施設として能楽堂・新国立劇場を有効活用した。
- ・本館8月特別企画公演は、振興会各劇場で実施している養成研修の修了者を中心とする公演として実施した。実施に当たっては、国立劇場おきなわ運営財団、新国立劇場運営財団の協力により公演制作を行った。
- ・本館と新国立劇場の主催公演について、ダブル観劇キャンペーンを実施した。
- ・各劇場で相互に公演チラシ等をロビーに掲出し公演周知に努めた。

オ 再整備期間中における施設利用者向けのサービス継続等

- ・再整備期間中の施設利用者向けの継続サービスとして、伝統芸能公演を実施するための相談窓口を設けて情報提供及び舞台技術職員等の派遣による技術協力に応じる体制を設けた。
- ・施設の安全性が確認されている本館稽古室・研修室等の貸与を行った。

(8) 日本博の運営・実施	97
ア 「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の実施	98
イ 戦略的なプロモーションの実施	99
ウ 効果検証をもとにした「日本博 2.0」の成果の分析・考察	100

2 - (8) 日本博の運営・実施

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

「日本博 2.0」の企画・実施等における中心的な役割を担う事務局を運営し、ユーザー目線でコンテンツを磨き上げる取組や、来場者のアクセスの向上・改善に向けた取組等を支援するとともに、戦略的なプロモーションを通じて、国内外の観光需要の回復や地域の文化資源の活用による体験滞在の満足度向上等に資する戦略的広報・事業活動等の支援等に寄与する取組を図る。

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

これまでの「日本博」の成果や検証を踏まえつつ、「日本博 2.0」の事務局を運営し、委託型・補助型・参画型の企画・実施、効果検証、戦略的なプロモーション等を通じて、国内外の観光需要の回復や体験滞在の満足度向上等による地方誘客を図る

ア 「日本博 2.0」の基本コンセプトの下で、年間を通してインバウンド需要に的確に伝えていくため、「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」(委託型・補助型)を実施

① 委託型・補助型の公募を行い、日本芸術文化振興会審査・評価委員会による評価等を得て採択

② 採択団体に対し、契約、支払、助言・指導、効果検証のための各種調査等を実施

日本博採択事業の来場者満足度:採択時に設定した目標値に達した事業の割合が3分の2以上

イ 「日本博 2.0」の基本コンセプトに合致し、国内外に発信するのにふさわしい団体等を参画型として認証

ウ 「日本博 2.0」の採択事業(委託型・補助型のほか、文化庁において採択したものを含む)及び参画型について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施、国内外の観光需要の回復や地方誘客に取り組む

エ 各事業やプロモーションの効果検証結果をもとに、「日本博 2.0」の成果を分析・考察

ア 「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の実施

① 委託型・補助型事業

＜令和5年度採択事業(委託型・補助型)の採択状況＞

採択事業	企画提案・応募件数	採択件数	交付金額	採択時に設定した来場者満足度に関する目標値を達成した事業数
委託型	75件	37件	1,760百万円	30件
補助型	30件	11件	300百万円	9件
合計	105件	48件	2,060百万円	39件

※振興会事業の採択件数:委託型3件

- ・4年度採択事業である、委託事業(主催・共催型プロジェクト)及び補助事業(イノベーション型プロジェクト)の精算手続きを完了させた。併せて、文化庁に対して運営業務(委託事業)及び補助事業に係る報告等を行った。
- ・5年度採択事業者と必要に応じて個別に調整・打合せ・視察等を行いながら、業務計画書を調整し、委託契約締結手続き及び交付決定手続きを順次実施した。
- ・5年度採択事業者向けに精算手続きをまとめた手引きを作成・配布し、精算及び額の確定を順次実施した。
- ・月に2回程度、文化庁新文化芸術創造室との定例ミーティングを実施した。「日本博2.0」を円滑に遂行すべく、万博に向けた打合せや事業の進捗状況等の情報を共有した。

＜令和6年度採択事業(委託型・補助型)の採択状況＞

採択事業	企画提案・応募件数	採択件数	交付金額
委託型	71件	62件	3,200百万円
補助型	25件	16件	343百万円

※振興会事業の採択件数:委託型3件

- ・6年度の公募概要を年末に公開した後、委託型は2/2～19、補助型は2/15～29にかけて提案受付及び公募を実施。採択事業者だけでなく、新規事業者からの応募相談へも対応した。
- ・日本博審査・評価委員会を経て、6年度採択事業を上記のとおり決定し、各事業者へ採択・不採択通知を行った。

② 参画型事業

＜令和5年度認証件数＞

採択事業	認証件数
プロジェクト	471件
文化施設・団体等	40件

※振興会事業の認証件数190件

- ・「日本博2.0」への移行に伴い、認証要領を改定した。
- ・認証要領に基づき、申請事業の認証手続き及び問合せ対応を実施した。

③ 伴走型支援の実施

- ・5月から6月にかけては、フランス人美術史家ソフィー・リチャードが、文化庁と振興会が共同で実施した採択事業(国立劇場・東京国立近代美術館・国立新美術館等)の視察及び意見交換等に参加した。文化資源の磨き上げについて外国人・専門家の視点から助言を得る機会となった。
- ・7月から8月にかけては、文化庁と共に東京都近郊の採択事業者へのヒアリングを実施した。訪日外国人の満足度向上に係る取組状況、日本博事業及び事務局へ期待すること等をヒアリングし、各事業者の抱える課題を認識することで、2025大阪・関西万博に向けた日本博の在り方を検討するための足掛かりとなった。

◇7月 国立新美術館、国立科学博物館

◇8月 落語芸術協会、東京国立近代美術館、国立劇場、国立能楽堂、能楽協会、MOA美術館、東京国立博物館

- ・年間を通して、採択事業者が展覧会・公演等の主要な取組を実施した際には、採択事業者を中心に、文化事業広報チームが主体となって現地へ赴き視察等を行った。インバウンドへの対応状況や参加者の実態調査を行い、必要に応じて実施内容の改善点等について助言した。また、業務計画の実施に難航している採

採事業者については、事務局とひざ詰めで対話し、事業改善の方向性や今後の展望について闊達な意見交換が行われた。

イ 戦略的なプロモーションの実施

《日本博公式ホームページ》

区分	件数
日本博公式 HP 閲覧数	441,986PV (239,916PV)
日本博 HP アクセスユーザー数	232,765 件 (169,531 件)

※PV:ページビュー

※()内は海外からの PV 数・アクセス件数

- ・日本博公式 WEB サイトについて、従来の採択事業が列挙されているだけのカタログ型サイトからテーマを定め、橋本麻里及びソフィー・リチャードによる特集記事や外国人ライターなど有識者によるモデルルート、日本博事務局スタッフによるおすすめ記事、外国人インフルエンサーによる体験記事など、日本博の各事業を面で捉えた雑誌型サイトへ大幅にリニューアル(8月末)するとともに、海外向けプレス及び在日外国大使館に対して、日本博 WEB サイトがリニューアルした旨をプレスリリースした。
- ・毎回テーマを設定のうえ記事コンテンツを作成し、年度内に5回更新を行った。記事コンテンツに加え、施設情報の追加も積極的に実施した。
- ・日本博公式 WEB サイトの更新のタイミングにあわせて、米英豪を含めた7カ国をターゲットに、SNS(Instagram、Facebook)及びWEBでのデジタル広告を実施した。

《SNS フォロワー数》

区分	Facebook	Instagram	YouTube	X(旧 Twitter)
日本博	84,618	14,248	5,640	5,465
日本博(英語)	-	-	-	6,035

- ・昨年度から運用体制を見直し、委託業者経由ではなく直接の投稿とすることでタイムリーな広報発信を実施。インバウンドをターゲットに英語を主言語として年間700本以上を投稿し、動画投稿を増やすなどの工夫によりフォロワーを獲得した。
- ・政府機関、国立施設及び採択団体等との相互フォロー、リポストなど双方向の取組を実施した。

《バーチャル日本博》

- ・日本博公式バーチャルプラットフォーム「バーチャル日本博」開設時からの累計訪問者数：52,517人
- ・バーチャル日本博については、コロナ禍でのリアルな体験に代わるものとして一定の役割を果たしたことから、3/31をもって配信を終了した。

《YouTube 日本博チャンネル》

言語	日本語	英語	中国語	韓国語	フランス語
配信映像数	146 件	92 件	22 件	20 件	21 件

《JNTO との連携》

- ・日本政府観光局(JNTO)が運営する訪日外国員旅行者向け公式グローバルウェブサイト「Travel Japan - The Official Japan Guide」の Insider Blog 記事で、日本博の取組を紹介した。
- ・上記 JNTO サイトにおいて日本博バナーを掲出し、併せて、日本博サイトへも JNTO バナーを掲出した。
- ・JNTO 運営・認定観光案内所へタブロイド紙を配架した。

《その他》

- ・大阪関西万博を見据え、プロモーションにおける3か年計画を策定した。
- ・広島サミット開催に合わせて日本文化のPRのためサミット会場において関係各機関と連携し、国宝屏風の高精細複製とプロジェクションマッピングを組み合わせた特別展示を実施した。併せて、パートナーズプログラムにおいて蒔絵のワークショップも開催した。
- ・メディアとのタイアップとして、Japan Times サミット特集において日本博のプロモーション及び特別展示について広報を行った。
- ・関係者向けのPRとして小冊子を作製した。また、広報ツールとして使用できる鶴を表現したカードを作成した。

- ・ソフィー・リチャードの来日に合わせて、今後のプロモーションについて打ち合わせを行い、戦略的プロモーションについてアドバイスを受けた。また、ソフィーと共に採択事業の実施場所を現地訪問し、ソフィーのアカウントと連携した公式 SNS での発信を行った。
- ・10/26～28 に大阪で開催された VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2023 へ初参加し、26 の海外バイヤーと商談した。初開催の商談分科会では【アート・カルチャー】に特に興味関心がある 10 の海外バイヤーと総当たりで商談を行った。広報用ノベルティとして、商材ダウンロード用 QR コードを記載した日本らしいデザインのポストカードを配布した。
- ・日本博 2.0 コンセプトムービー(ロング版、ショート版)を作成、公開した。日本博に関わる幅広いジャンルの映像を繋げた構成としており、上記旅行商談会においてもプレゼンテーションに使用した。
- ・日本博公式 WEB サイトの記事内容を活用したタブロイド紙を 2 回(英語版、仏語版)発行した。日本博関連の美術館や劇場のほか、JNTO が運営する観光案内所及び JNTO 認定案内所への配架を行い、空港や駅を含めた効果的な場所での周知を行った。また、約 150 の在日外国大使館に対しても発送した。
- ・次年度の商談会に向けて、国内大手旅行代理店である JTB と連携し、委託型及び補助型の採択事業から 7 事業者を選定し、商材造成を開始した。
- ・3/21 に羽田空港第 3 ターミナルにおいて、国立劇場が主催する文楽及び日本舞踊のイベントと連携し、日本博 2.0 のプロモーション(インフルエンサー施策、SNS の活用、広報ツールの配布等)を実施した。

ウ 効果検証をもとにした「日本博 2.0」の成果の分析・考察

- ・調査業務の委託業者と契約を締結し、3 か年の検証計画及び本年度の実施方針を策定した。
- ・前年度の経済波及効果の推計を実施した。
- ・日本博事業の外国人来場者向けアンケートを通年で実施した。英語、中国語(繁体字/簡体字)、韓国語に対応しており、幅広いインバウンド層からの情報収集を見込む。事業ごとのアンケート集計結果は随時事業者にもフィードバックした。
- ・事業主催者等に向け、事業実施にあたって参考となるような情報・知見を提供する「オンラインセミナー」を配信した。
 - ◇第 1 回：有効な来場者アンケート実施のノウハウ
 - ◇第 2 回：外国人来場者の識別・推計のノウハウ
 - ◇第 3 回：外国人来場者の満足度向上に向けた磨き上げの好事例 ～国立新美術館と利賀文化会議による取り組み～

3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成	104
ア 養成の計画的な実施	106
イ 既成者研修の実施	110
ウ 実施に当たっての留意事項	111
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	115
ア 安定的、継続的な実演家の育成	117
イ 実施に当たっての留意事項	122

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修発表会の実施状況について、研修生が辞退したため実施できなかった文楽研修発表会を除いた達成率は100.0%となる。 ・ 伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」が発足し、養成事業の周知、研修生募集広報及び普及事業を効率的、効果的に行った。 ・ 伝統芸能伝承者の安定的確保に資するため、継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始した。100名を超える会員が登録し、養成事業への理解促進と安定した外部資金の獲得に貢献することができた。 ・ 再整備期間中の養成研修の代替施設として、国立オリンピック記念青少年総合センター内に研修施設を整備、移転し、養成事業を着実に継続した。また、青少年が伝統芸能を体験できる機会の創出として、同機構が主催する若年層向けの体験イベント事業において伝統芸能体験プログラムを実施した。 ・ 現代舞台芸術分野の研修では、国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・ バレエ研修所では、より優れたトップアーティストを育成するための全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系への移行に向けて、次年度研修生募集の選考及び「ジュニアクラス」の試行的な実施を進めた。 ・ 全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」を活用した海外研修(オペラ研修所・バレエ研修所)及び「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を活用した国内研修(演劇研修所)を実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>研修発表会の実施状況:16公演/17公演 (94.1%)(研修生が辞退したため実施できなかった文楽研修発表会を除いた達成率は100.0%) 既成者研修発表会の実施状況:10公演/10公演 (100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照</p>

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修発表会の実施状況の達成率は 87.5%であった。これは、文楽研修において研修生が辞退したため研修発表会を実施できなかったことによるものであり、文楽研修発表会を除いた達成率は 100.0%となる。 ・伝統芸能の各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」が発足し、養成事業の周知、研修生募集広報及び普及事業を効率的、効果的に行った。 ・伝統芸能伝承者の安定的確保に資するため、継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始し、100名を超える会員が登録した。会員に対する活動報告や発表会への招待等により、養成事業への理解が深まるとともに、安定した外部資金の獲得に貢献することができた。 ・再整備期間中の養成研修の代替施設として、国立オリンピック記念青少年総合センター内に研修施設を整備、移転し、養成事業を着実に継続した。また、青少年が伝統芸能を体験できる機会の創出として、同機構が主催する若年層向けの体験イベント事業において伝統芸能体験プログラムを実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>研修発表会の実施状況：7公演/8公演（87.5%）（研修生が辞退したため実施できなかった文楽研修発表会を除いた達成率は100.0%） 既成者研修発表会の実施状況：10公演/10公演（100.0%）</p>
主要な業務実績	<p>ア 養成の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽、大衆芸能、能楽(三役)、組踊研修については計画通り研修を実施した。 ・第31期文楽研修については研修生が研修辞退したため研修発表会を実施できなかった。また、前年度募集期間内に応募のなかった第32期文楽研修については、募集期間を延長した結果、応募者があったが、選考試験後に合格者が研修辞退したため研修を実施できなかった。 <p>イ 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成者研修発表会を計画どおり実施した。 ・能楽研究課程を引き続き開講した(受講者45名、実施回数349回)。 <p>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能伝承者養成事業を横断的に所管する組織として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」が令和5年4月に発足し、募集広報や普及活動を実施した。 ・歌舞伎俳優及び文楽研修生の募集活動において、両分野の研修を同一会場で見学することができる合同見学会を開催した。それぞれ複数名の応募者について、選考試験を実施し、合格したため、次年度の研修を実施予定である。 ・外部資金の獲得及び養成事業の広報のため、新たに「国立劇場養成所サポーター」を募集した。 ・再整備期間中の養成研修の代替施設として、国立オリンピック記念青少年総合センターに養成所を移転した。 ・国立オリンピック記念青少年総合センター主催の若年層に対するワークショップや国際交流事業に協力した。 ・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知した。 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・近年応募者が減少傾向にある中、国立劇場伝統芸能伝承者養成所による募集広報や普及活動を強化するとともに、予科やフォローアップ研修など、引き続き伝承者の安定的な確保及び修了者の就業定着のための必要な措置を講じる。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり研修及び研修公演を実施した。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・バレエ研修所では、より優れたトップアーティストを育成するための全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系への移行に向けて、次年度研修生募集の選考及び「ジュニアクラス」の試行的な実施を進めた。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。 ・研修の実施状況、修了生の活動状況等について、ホームページやSNSを活用して継続的に情報を発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く周知できた。 ・オープンスクールや説明会を対面及びオンラインで開催し、研修内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。 ・舞台技術者等の研修については、連携大学からのインターンシップ受入れなど新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	研修発表会の実施状況:9公演/9公演 (100.0%)
主要な業務実績	<p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生6名、演劇研修生7名が修了した。 ・研修公演を計画どおり実施した。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・バレエ研修所では、より優れたトップアーティストを育成するための全日制一貫研修実施を目的とした新研修体系への移行に向けて、次年度研修生募集の選考を実施した。また、バレエ研修所入所前の13・14歳を対象に、基礎強化の「ジュニアクラス」を試行的に実施した。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。 ・研修事業委員会を開催。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、今後の方向性を検討した。 <p>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能・現代舞台芸術の各分野の研修生が一堂に会した本館8月特別企画公演「舞台芸術のあしたへー国立劇場6館研修修了者合同公演ー」にオペラ・演劇研修所の研修生・研修修了生が出演した。 ・ホームページやSNSを活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信した。 ・事業周知と将来の研修生確保のため、オープンスクールや説明会を対面及びオンラインで開催した。 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。 ・提携大学と連携してインターンシップの受入れを行うなど新国立劇場の人材及び施設を活用した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していく。

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を実施

ア 民間での養成が難しい分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊について実施各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽の各分野を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」において、戦略的な広報宣伝活動等を実施、伝統芸能の各分野における課題について関係団体等とともに改善方策を検討し、研修生に対する支援の拡充等により研修修了後の就業定着に努める

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程 3 年間、専門研修課程 3 年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間 2 年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間 3 年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1 年間)

(2) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS 等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用及び研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 国立劇場再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討

オ 国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた検討

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 養成研修の実施

研修修了者の動向把握等による成果の検証

歌舞伎・大衆芸能・能楽・文楽の各分野を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」の設置、戦略的な広報宣伝活動の強化、研修生に対する支援の在り方に関する検討等を実施

国立劇場再整備に伴い、令和 5 年 11 月以降の歌舞伎及び大衆芸能等の養成研修については、国立オリンピック記念青少年総合センターの施設を利用して実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽
(歌舞伎俳優)
 - (a) 第27期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)
 - (b) 第28期生(研修期間2年、5名)の1年目の養成研修(歌舞伎音楽)
 - (c) 竹本第25期生(研修期間2年、3名)の2年目の養成研修(修了)
 - (d) 鳴物第18期生(研修期間2年、2名)の2年目の養成研修(修了)
 - (e) 長唄第9期生(研修期間3年、2名)の2年目の養成研修
- ② 大衆芸能

- (a) 太神楽第8期生(研修期間3年、3名)の2年目の養成研修
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
 - (a) 第11期生(3名)の4年目の養成研修
 - (b) 第12期生(4名)の1年目の養成研修
- ④ 文楽(研修期間2年)
 - (a) 第31期生(1名)の2年目の養成研修(修了)
 - (b) 第32期生(3名程度)の1年目の養成研修
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
 - (a) 第7期生(9名)の1年目の養成研修
- ⑥ 研修発表会を別表9のとおり実施
- ⑦ 研修修了者の動向把握等による成果の検証を踏まえ、研修生を募集
 - (a) 第29期歌舞伎俳優
 - (b) 第26期歌舞伎音楽(竹本)
 - (c) 第19期歌舞伎音楽(鳴物)
 - (d) 第33期文楽
- イ 研修修了者等の伝承者の技芸向上を図るため、既成者研修を実施
 - ① 既成者研修発表会を別表9のとおり実施
 - ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進
- ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項
 - ① 養成事業についての国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS 等を活用して研修修了者の活動状況等を紹介するなど、広報の充実に努める
 - ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実に努めるため、ワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施し、文化普及活動への積極的参画に努める
 - ③ 研修生募集について、ホームページ、SNS 等での告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の積極的な実施等により周知し、応募者の確保に努める
 - ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
 - ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材を活用し、舞台技術者等に対する各種研修の実施や、外部研修への協力等に努める

舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向け、試行的取組を実施

ア 養成の計画的な実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)においては2年間、歌舞伎音楽(長唄)、大衆芸能(太神楽)研修においては3年間の基礎的な研修を実施する。

能楽(三役)研修は、ワキ方・囃子方・狂言方について、基礎研修課程3年、専門研修課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

① 養成研修実績

分野		期数	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	第27期(2年次)	2年	1名	1名	1名
		第28期(1年次)	2年	5名	4名	
	竹本	第25期(2年次)	2年	3名	3名	3名
	鳴物	第18期(2年次)	2年	2名	1名	1名
	長唄	第9期(2年次)	3年	2名	1名	
大衆芸能	太神楽	第8期(2年次)	3年	3名	2名	
	寄席囃子	休止中				
能楽		第11期(4年次)	専門研修課程3年	3名	3名	
		第12期(1年次)	基礎研修課程3年	4名	3名	
文楽		第31期(2年次)	2年	1名	0名	0名
		第32期(1年次)	2年	3名程度	0名	
組踊		第7期(1年次)	3年	9名	9名	

- ・第28期歌舞伎俳優研修生のうち1名が4月に研修を辞退した。
- ・第18期歌舞伎音楽(鳴物)研修生のうち1名が5月に研修を辞退した。
- ・第19期歌舞伎音楽(長唄)研修生のうち1名が4月に研修を辞退した。
- ・第8期大衆芸能(太神楽)研修生のうち1名が5月に研修を辞退した。
- ・第12期能楽研修生のうち1名が4月に研修を辞退した。
- ・第31期文楽研修生1名が6月に研修を辞退し、以後研修実施なし。
- ・第32期文楽研修生については、令和4年度中の募集期間に応募がなく、5年4月まで募集を延長した。その結果2名の応募があったが、選考試験の辞退・欠席により合格者がなく、引き続き募集期間を延長した。その後1名の応募があり、選考試験に合格したが研修を辞退したため、研修生が不在のまま募集を終了した。

《適性審査の実施等》

区分	試験日	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	9/21	4名	4名
能楽	9/27	3名	3名
組踊	8/10	9名	9名

② 主な授業等の概要

分野	合計回数	区分	回数	授業内容
歌舞伎俳優	第27期	実技	581	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲
		その他	77	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
		合計	658	
	第28期	実技	541	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲
		その他	86	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
		合計	627	

歌舞伎音楽	竹本 第25期	実技	480	義太夫、狂言、箏曲・胡弓
		その他	121	作法・講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、発表会ほか
		合計	601	
	鳴物 第18期	実技	273	鳴物、長唄、能楽
		その他	153	作法・講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、黒御簾音楽・楽屋実習、発表会ほか
		合計	426	
	長唄 第9期	実技	55	長唄、五線譜、鳴物
		その他	28	作法・講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、発表会ほか
		合計	83	
大衆芸能	太神楽 第8期	実技	490	太神楽、長唄、囃子、住吉踊り、日本舞踊
		その他	78	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、発表会ほか
		合計	568	
能楽	第11期 第12期 研究課程	実技	1,210	シテ謡、ワキ、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
		その他	286	講義、和裁、五館合同特別講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
		合計	1,496	
文案	第31期	実技	14	人形実技
		その他	63	日本舞踊、作法・講義、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学
		合計	77	
組踊	第7期	実技	472	組踊実技、副実技(琉球舞踊・箏等)、基礎実技
		その他	42	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、発表会ほか
		合計	514	

- ・歌舞伎俳優研修生は、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」にて舞台実習を実施した。修了後の職場環境や舞台・楽屋における作法等を学ぶことができ、貴重な経験となった。
- ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、歌舞伎音楽(長唄)及び大衆芸能(太神楽)研修では、11/28に上野・谷中界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。事前に歴史文化に関する講義を受けた後、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎や落語作品の理解を深めることができた。
- ・組踊研修では、東京で観劇実習を実施した。
- ・研修途中での辞退を予防するため、研修生に対し臨床心理士によるメンタルヘルスカウンセリングを定期的に実施し、研修生のメンタル不調の早期発見・早期対応を図った。

《外部専門家等の意見》

- ・養成事業委員会を開催した。主な意見は以下のとおり。
 - ◇研修生募集の周知のために、主催公演会場での映像紹介、学校巡回、ワークショップ等の普及事業等の広報が充実した。
 - ◇若年層の利用が多いオリンピックセンターへの移転を契機に、若い人たちが伝統芸能に垣根なく近づけるよう、今後も普及事業に力を入れてほしい。
 - ◇伝統芸能に触れたことのない環境で育った人でも、養成所で研修を受けることによって伝承者として活躍できることに振興会の養成事業の意味がある。
 - ◇養成所サポーターは、外部資金の獲得だけでなく養成所の存在の周知広報としても効果が期待できる。
 - ◇特別企画公演「国立劇場6館研修修了者合同公演 舞台芸術のあしたへ」は、国立劇場各館の研修修了者が一同に出演しており、振興会の養成事業の成果をアピールした公演であった。

③ 研修発表会の実施

(a) 研修発表会

《研修発表会の実施実績》

区分	公演名	入場者数	入場率	入場料収入
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第27期歌舞伎俳優・第25期歌舞伎音楽(竹本)・第18期歌舞伎音楽(鳴物)研修修了発表会、第28期歌舞伎俳優・第9期歌舞伎音楽(長唄)・第8期大衆芸能(太神楽)研修発表会(合同)	229	73.4%	-
能楽	第31回青翔会	587	99.3%	741千円

能楽	第 32 回青翔会	542	91.7%	798 千円
能楽	第 33 回青翔会	587	99.3%	736 千円
能楽	第 52 回東西合同研究発表会	230	51.3%	-
文楽	第 31 期文楽研修修了発表会、第 32 期文楽研修発表会(合同) ※中止	-	-	-
組踊	第 7 期組踊研修生第 1 回研修発表会	461	81.3%	-
組踊	第 7 期組踊研修生第 2 回研修発表会	457	80.6%	-
合計	7 公演(計画 8 公演)	3,093	84.3%	2,275 千円

・第 31 期文楽研修修了発表会、第 32 期文楽研修発表会(合同)は、研修生が 0 名のため中止した。

《研修発表会の公演詳細》

合同研修発表会				
劇場・日程・回数	国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール	3/15	1 回	
演目等	鳴物長唄「高砂丹前」、歌舞伎「番町皿屋敷」番町青山家の場、義太夫「団子売」、日本舞踊「越後獅子」、日本舞踊「元禄花見踊」、太神楽「曲桴・五階茶碗」、長唄「鶴亀」、鳴物「大太鼓奏法」、義太夫・舞踊「万歳」、立廻り「歌舞伎の立廻り」			
出演者	第 27・28 期歌舞伎俳優研修生、第 25 期歌舞伎音楽(竹本)研修生、第 18 期歌舞伎音楽(鳴物)研修生、第 9 期歌舞伎音楽(長唄)研修生、第 8 期大衆芸能(太神楽)研修生			
入場料	無料			
第 31 回青翔会				
劇場・日程・回数	能楽堂	6/13	1 回	
演目等	舞囃子「小袖曾我」(金春流)、舞囃子「女郎花」(宝生流)、舞囃子「野守」(喜多流)、狂言「柿山伏」(大蔵流)、能「吉野天人」(観世流)			
出演者	第 11 期研修生、第 6・8・9・10 期修了者、令和 5 年度研究生			
入場料	正面 1,800 円、脇正面 1,200 円、中正面 900 円			
第 32 回青翔会				
劇場・日程・回数	能楽堂	10/17	1 回	
演目等	舞囃子「清経」(金春流)、舞囃子「羽衣」(観世流)、舞囃子「天鼓」(宝生流)、狂言「附子」(大蔵流)、能「熊坂」(喜多流)			
出演者	第 11 期研修生、第 5・6・8・10 期修了者、令和 5 年度研究生			
入場料	正面 1,800 円、脇正面 1,200 円、中正面 900 円			
第 33 回青翔会				
劇場・日程・回数	能楽堂	3/12	1 回	
演目等	舞囃子「邯鄲」(喜多流)、舞囃子「草紙洗」(宝生流)、舞囃子「船弁慶(後)」(金春流)、脇語り「七騎落」(下掛宝生流)、狂言「仏師」(大蔵流)、能「乱」(観世流)			
出演者	第 11 期研修生、第 5・6・8・9・10 期修了者、令和 5 年度研究生			
入場料	正面 1,800 円、脇正面 1,200 円(学生 800 円)、中正面 900 円(学生 600 円)			
第 52 回東西合同研究発表会				
劇場・日程・回数	能楽堂	8/22	1 回	
演目等	舞囃子「経正」(金剛流)、舞囃子「現在七面」(観世流)、能「半部」(観世流)、狂言「鐘の音」(和泉流)、独吟(下掛宝生流)「大蛇」、ワキ語り(高安流)「角田川」、舞囃子「歌占」(喜多流)、狂言小舞「鶉飼」(大蔵流)、舞囃子「唐船」(観世流)、舞囃子「絃上」(金春流)、能「野守」(金剛流)			
出演者	第 11 期研修生、第 7・10 期修了者、令和 5 年度研究生			
入場料	無料			
第 7 期組踊研修生第 1 回研修発表会				
劇場・日程・回数	国立劇場おきなわ大劇場	10/5	1 回	
演目等	組踊「執心鐘入」			
出演者	第 7 期研修生ほか			
入場料	無料			
第 7 期組踊研修生第 2 回研修発表会				
劇場・日程・回数	おきなわ大劇場	3/7	1 回	
演目等	琉球舞踊「かぎやで風」「かせかけ」 組踊「二童敵討」			
出演者	第 7 期研修生ほか			
入場料	無料			

・各分野で研修発表会を開催し、研修の成果を示すことができました。

《研修発表会の公演周知》

- ・ 振興会ホームページ、SNS、外部のホームページに公演情報や出演者のインタビュー動画等を掲載した。
- ・ 振興会出版物(公演プログラム、あぜくら会報等)に公演情報を掲載した。
- ・ 新聞、雑誌等に公演情報を掲載した。

(b) その他の発表会等

区分	公演名	劇場	日程	内容
歌舞伎俳優竹本	第27期・第28期歌舞伎俳優研修・第25期歌舞伎音楽(竹本)研修あげざらい	国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟中練習室41	12/19	○竹本研修生と助演者による合奏 箏曲「生写朝顔話」宿屋の段より抜粋 箏曲「六段の調」 胡弓「八千代獅子」 指導者:川瀬露秋、高橋翠秋、長塚梨秋 ○第27期歌舞伎俳優研修生 日本舞踊「玉屋」 指導者:花柳寿楽、花柳錦吾 ○第27期・第28期歌舞伎俳優研修生 歌舞伎「三人吉三巴白浪」大川端庚申塚の場 指導者:中村時蔵、市村橋太郎
能楽	令和5年度第1回稽古会	能楽堂	4/24	袴狂言「重喜」(大蔵流)、舞囃子「弓八幡」(喜多流)、舞囃子「安宅」(宝生流)、袴能「須磨源氏」(観世流)、舞囃子「玉葛」(金春流) 指導者:観世清和・観世鏡之丞・金春安明ほか 出演者:第11期研修生、第9・10期修了者、令和5年度研究生
能楽	令和5年度第2回稽古会	能楽堂	7/10	舞囃子「放下僧」(観世流)、袴狂言「以呂波」(大蔵流)、舞囃子「加茂」(金春流)、舞囃子「三輪」(喜多流)、袴能「田村」(宝生流) 指導者:金春安明・友枝昭世ほか 出演者:第11期研修生、第5・8・9・10期修了者、令和5年度研究生
能楽	令和5年度第3回稽古会	能楽堂	1/15	袴能「乱」(観世流)、狂言「酢薑」(大蔵流)、舞囃子「西王母」(喜多流)、舞囃子「八島」(宝生流)、舞囃子「東北」(金春流) 指導者:観世鏡之丞・金春安明・友枝昭世ほか 出演者:第11期研修生、第1・8・9・10期修了者、令和5年度研究生、研修講師ほか

④ 次年度の研修生募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
第29期歌舞伎俳優	2/27	2名	2名	2名
第33期文楽	1/26 3/27	3名	3名	3名

- ・ 歌舞伎音楽(竹本・鳴物)研修生については、協力団体及び講師との協議を踏まえ、6年度中は既成者研修を優先して行うこととした。次期研修生は7年度開講に向け、6年度中に募集を行う予定。

⑤ 研修修了者の動向把握等

《伝承者の現況(令和6年4月1日現在)》

分野	研修修了者総数(A)	研修修了者のうち現在従事者数(B)	伝承者総数(C)	研修修了者の占める割合(B/C)
歌舞伎俳優	190人	95人	297人	32.0%
歌舞伎音楽(竹本)	46人	33人	38人	86.8%
歌舞伎音楽(鳴物)	26人	15人	40人	37.5%
歌舞伎音楽(長唄)	13人	11人	45人	24.4%
大衆芸能(寄席囃子)	49人	27人	29人	93.1%
大衆芸能(太神楽)	13人	9人	23人	39.1%
能楽	40人	31人	365人	8.5%
文楽	79人	48人	85人	56.5%
組踊	57人	56人	244人	23.0%

《受賞等》

- ・ 第31回読売演劇大賞選考委員特別賞
中村芝のぶ(第9期歌舞伎俳優研修修了)
- ・ 第45回松尾芸能賞優秀賞
豊竹呂勢太夫(第8期文楽研修修了)

《主催公演への出演》

- ・国立劇場、国立能楽堂及び国立文楽劇場の主催公演に研修修了者が多数出演した。

《その他》

- ・第5期能楽研修修了者の鳥山直也が、出身地(愛知県豊田市)の「WE LOVE とよたスペシャルサポーター」(豊田市の魅力を発信)に任命された。

⑥ 養成所の設置、養成研修制度の在り方に関する検討等

- ・令和5年4月から国立劇場伝統芸能伝承者養成所が正式に発足し、振興会ホームページ、研修生募集チラシ等の広報において養成所の名称を積極的に活用した。
- ・再整備期間中の養成研修の代替施設として、国立オリンピック記念青少年総合センターに養成所を移転した(11月)。
- ・伝統芸能伝承者の安定的確保に資するため、継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始し、100名を超える会員が登録した。会員に対する活動報告や発表会への招待等により、養成事業への理解が深まるとともに、安定した外部資金の獲得に貢献することができた。

イ 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

① 既成者研修発表会の実施

区分	公演名	入場者数	入場率	入場料収入
歌舞伎俳優	稚魚の会・歌舞伎会合同公演	2,063	79.0%	8,814 千円
歌舞伎俳優	上方歌舞伎会	1,700	62.8%	7,048 千円
歌舞伎音楽	音の会	376	36.0%	1,035 千円
能楽	第32回能楽若手研究会 京都公演 若手能	381	84.3%	972 千円
能楽	第32回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	405	90.4%	1,063 千円
能楽	第32回能楽若手研究会 東京公演 若手能	623	99.4%	1,731 千円
文楽	文楽若手会	1,057	72.3%	2,506 千円
文楽	若手素浄瑠璃の会	128	80.5%	109 千円
文楽	若手素浄瑠璃の会	144	90.6%	122 千円
組踊	第13回若手伝承者公演	165	33.1%	220 千円
合計	10公演(計画10公演)	7,042	69.3%	23,619 千円

《既成者研修発表会の公演詳細》

稚魚の会・歌舞伎会合同公演			
劇場・日程・回数	本館小劇場	8/11~15	5回
演目等	「廓三番叟」、「菅原伝授手習鑑」吉田社頭車引の場、佐太村賀の祝の場、「連獅子」		
出演者	中村吉兵衛、中村竹蝶、大谷桂太郎、坂東彌紋、尾上音蔵ほか		
入場料	一般 4,700 円、学生 3,300 円		
上方歌舞伎会			
劇場・日程・回数	文楽劇場	8/25~26	4回
演目等	「仮名手本忠臣蔵」五・六段目、「釣女」		
出演者	片岡松十郎、片岡千壽、片岡千次郎、片岡りき彌、中村翫政ほか		
入場料	一般 4,700 円、学生 3,300 円		
音の会			
劇場・日程・回数	本館小劇場	8/5~6	2回
演目等	鳴物長唄「汐汲」、長唄「秋色種」、長唄「越後獅子」、義太夫舞踊「道行初音旅」		
出演者	田中傳左衛門社中、鳥羽屋三右衛門社中、尾上菊五郎劇団音楽部長唄、竹本連中ほか		
入場料	一般 3,000 円、学生 2,200 円		
第32回能楽若手研究会 京都公演 若手能			
劇場・日程・回数	京都観世会館	6/24	1回
演目等	能「忠度」(観世流)、舞囃子「羽衣」(観世流)、独調「鶴」(観世流)、狂言「梟」(大蔵流)、能「大会」(金剛流)		

出演者	樹下千慧、向井弘記、山本善之ほか		
入場料	前売 3,200 円、当日 3,500 円、学生 1,700 円		
第 32 回能楽若手研究会 大阪公演 若手能			
劇場・日程・回数	大槻能楽堂	1/20	1 回
演目等	能「忠度」(喜多流)、狂言「栗焼」(大蔵流)、能「葵上」(観世流)		
出演者	高林昌司、小西玲央、上野雄介ほか		
入場料	前売 3,200 円、当日 3,500 円、学生 1,700 円		
第 32 回能楽若手研究会 東京公演 若手能			
劇場・日程・回数	能楽堂	2/23	1 回
演目等	能「百万」(観世流)、狂言「瓜盗人」(和泉流)、能「鐘馗」(金春流)		
出演者	坂井音晴、中村修一、中村昌弘ほか		
入場料	正面 3,500 円、脇正面 3,000 円(学生 2,100 円)、中正面 2,300 円(学生 1,700 円)		
文楽若手会			
劇場・日程・回数	文楽劇場	6/24~25	2 回
演目等	「義経千本桜」すしやの段、「傾城恋飛脚」新口村の段、「釣女」		
出演者	豊竹芳穂太夫、鶴澤清丈、吉田文哉ほか		
入場料	一般 3,000 円、学生 2,100 円		
若手素浄瑠璃の会			
劇場・日程・回数	文楽劇場小ホール	1/25	1 回
演目等	「源平布引滝」九郎助住家の段、「絵本太功記」尼が崎の段		
出演者	竹本小住太夫、豊竹亘太夫、鶴澤清丈、鶴澤清公		
入場料	一般 1,000 円、学生 700 円		
若手素浄瑠璃の会			
劇場・日程・回数	文楽劇場小ホール	3/1	1 回
演目等	「妹背山婦女庭訓」花渡しの段、「一谷嫩軍記」組討の段		
出演者	竹本聖太夫、豊竹薫太夫、竹澤團吾、鶴澤清尙		
入場料	一般 1,000 円、学生 700 円		
第 13 回若手伝承者公演			
劇場・日程・回数	国立劇場おきなわ大劇場	11/25	1 回
演目等	琉球舞踊「かぎやで風」「稲まづん」「揚作田」、組踊「賢母三遷の巻」		
出演者	第 6 期研修修了生ほか		
入場料	2,000 円		

・初代国立劇場さよなら特別公演「舞台芸術のあしたへ—国立劇場 6 館研修修了者合同公演—」は、国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場、新国立劇場、国立劇場おきなわ各館の研修修了者が一同に会し、各分野の舞台芸術を披露した。

＜既成者研修発表会の公演周知＞

- ・振興会ホームページ、SNS、外部のホームページに公演情報や出演者のインタビュー動画等を掲載した。
- ・振興会出版物(公演プログラム、あぜくら会報等)に公演情報を掲載した。
- ・新聞、雑誌等への公演情報掲載、ラジオ放送による公演周知を行った。
- ・振興会外部の劇場等にチラシ・ポスター等を掲出した。

② 能楽研究課程の開講

- ・能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生 45 名が受講した(実施回数: 349 回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

① 修了者の活動状況等、養成事業の周知

＜SNS 等登録者数＞

区分	Instagram	TikTok	X(旧 Twitter)
養成所	584	66	1,877

＜インターネットの活用＞

- ・国立劇場養成所サポーターの募集に当たって、プラットフォームである「READYFOR」のサイトを活用し、養成事業及びサポーターの告知を行った。
- ・振興会ホームページや SNS を活用した。
 - ◇養成事業・研修発表会の情報や研修事業紹介映像を掲載した。
 - ◇振興会ニュース(振興会ホームページに掲載)に「研修だより」として養成事業の活動状況や研修修了者・研修生のインタビュー等を掲載した。
 - ◇SNS については、養成所のアカウントから本館・能楽堂・文楽劇場の養成研修を一体的に情報発信した。
- ・外部のホームページや SNS を活用した。
 - ◇日刊スポーツのネットニュースに既成者研修発表会の舞台評が掲載された。
 - ◇檜書店の WEB マガジン Noh+ に、能楽(三役)研修の第 11 期研修生・第 10 期修了者のインタビューが掲載された(9/12)。
 - ◇沖縄県三線製作事業協同組合の Facebook、Instagram、X(旧 Twitter)に養成事業と既成者研修発表会を紹介する記事が掲載された(9/29)。

◀劇場内における周知▶

- ◇振興会の各劇場及び伝統芸能情報館に養成事業紹介パンフレット、募集チラシを掲出した。
- ・公演期間中、劇場ロビーで養成事業を紹介する映像上映やパネル設置を行った(本館、文楽劇場)。
- ・国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場、新国立劇場、国立劇場おきなわ各館の研修修了者が一同に会した、初代国立劇場さよなら公演「舞台芸術のあしたへ」において、ロビーに特設コーナーを設置し養成事業を周知した。
- ・沖縄芝居鑑賞教室「割符」の公演当日(9/16)に、国立劇場おきなわの劇場ロビーで第 7 期組踊研修生が 10/5 に実施する第 7 期組踊研修生第 1 回発表会(入場無料)の入場整理券を配布すると共に、研修風景を張り出したボードを設置し、来館者に研修事業の紹介をした(配布実績：約 60 名、150 枚以上)。

◀劇場外における周知▶

- ・国立青少年教育振興機構との相互連携協定に基づき実施した普及事業において、養成事業を紹介するチラシ・パンフレットを会場に掲出した。
- ・テレビ・ラジオ等での放送、新聞・雑誌等への記事掲載を行った。
- ・その他劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布した。

◀調査▶

- ・全国各地の地芝居など郷土芸能の盛んな地域の関連団体の関係者や地芝居等の参加者に対して、養成所の事業紹介や研修生募集の広報を実施した。
 - ◇黒沢尻歌舞伎保存会、鬼の館等の地歌舞伎を若年層に伝承する活動をしている団体(岩手県北上市)や岩手県高等学校総合文化祭郷土芸能発表会
 - ◇相模人形芝居を伝承する神奈川県内の 5 座が一堂に会し、伝統の技を披露する公演「相模人形芝居大会」(神奈川県横浜市)
 - ◇地芝居が盛んな地域である北陸地方において、出町子供歌舞伎(富山県砺波市)、まるおか子供歌舞伎(福井県坂井市)等の地歌舞伎を若年層に伝承する活動をしている団体
 - ◇長浜曳山まつり推進会議主催「ながはま歌舞伎発表会」(滋賀県長浜市)
 - ◇徳島県民文化祭部門別フェスティバル阿波人形浄瑠璃「受け継がれる伝統芸能」公演(徳島県徳島市)
- ・全国高等学校文化連盟の実務担当者会議に出席し、養成所の事業を紹介するとともに、各都道府県での発表会における研修生募集広報の依頼を行った。

② 全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者による普及事業

◀普及活動の実施実績▶

分野	実施回数	参加者数
歌舞伎	3 件	74 人
大衆芸能	1 件	125 人
能楽	7 件	413 人
文楽	5 件	152 人
組踊	12 件	830 人

- ・若年層やその保護者を対象として、実際に体験して伝統芸能をより身近に感じていただくためにワークショップ「伝統芸能体験教室」を実施した(歌舞伎 2 回、文楽 3 回。参加者数 148 名)。ワークショップ参加者の中から、第 29 期歌舞伎俳優研修生、第 33 期文楽研修生への応募があり、研修生募集の観点からも

開催に意義があった。

- ・国立青少年教育振興機構との相互連携協定に基づく普及事業を実施した。
 - ▶ 「令和5年度春のキッズフェスタ」(5/28。同機構が主催する若年層を対象とする体験活動)
 - ◇ 能楽(三役)研修修了者・研究生等の協力により、能楽の体験プログラム「日本芸術文化振興会による伝統芸能体験」を実施(参加者数16名)
 - ▶ 「令和5年度秋のキッズフェスタ」(10/28。同機構が主催する若年層を対象とする体験活動)
 - ◇ 文楽研修修了者等の協力により、文楽の体験プログラム「日本芸術文化振興会による伝統芸能体験」を実施(参加者数20名)
 - ▶ 「令和5年度日独勤労青年交流事業」(11/16)
 - ◇ 来日したドイツ青年団に対して、養成事業の概要説明及び歌舞伎俳優研修「立廻り・とんぼ」の視察を実施
 - ▶ 「令和5年度オリセンインターナショナルキャンプ」(11/19。同機構が主催する日本の小学生とインターナショナルスクールに通う小学生等を対象とする体験活動)
 - ◇ 歌舞伎俳優研修修了者の研修講師の協力により、「歌舞伎の立廻り」の体験プログラムを実施(参加者数27名)
- ・お茶の水女子大学共同プロジェクト「日本の伝統芸能講座」能楽にて、体験ワークショップを実施した(11/8。参加者数31名)。
- ・宮城県名取市教育委員会と協力し、名取市立小学校3校で能楽体験教室を実施した(11/14~15。参加者数240名)。

③ 研修生募集の周知

《研修見学会・個別相談の実施実績》

分野	実施回数	参加者数
歌舞伎	2件	15人
文楽	4件	53人

- ・養成事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう研修見学会や個別相談を実施した。
- ・歌舞伎・文楽合同での研修見学会を実施した。

《養成事業の周知・研修生募集等に関する映像配信》

実績		前年度実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
3件	5,114回	5件	4,655回

- ・SNSで研修風景映像や研修紹介映像等を配信した。

《インターネットの活用》

- ・振興会ホームページやSNSに研修生募集の情報を掲載した。
 - ◇ 振興会、国立劇場、国立文楽劇場ホームページに、歌舞伎俳優・文楽研修生募集ホームページにリンクしたバナー広告を掲出した。
 - ◇ SNSで研修風景映像や研修紹介映像等を配信した。
- ・外部のホームページやSNSを活用した。
 - ◇ インターネット広告(Google広告、YouTube広告)
 - ◇ 高校生を対象とした進学情報サイトに養成所紹介情報と研修生募集情報を掲載した。
 - ◇ 文化庁、文部科学省、公益財団法人文楽協会、「Kabuki on the web」のホームページ・メールマガジン等に、研修生募集情報や研修生募集ホームページにリンクしたバナー広告を掲出した。
 - ◇ 文楽技芸員に対し、各自のSNSでの文楽研修生募集の情報発信を依頼した。

《学校での周知》

- ・伝統芸能コースがある大阪府立東住吉高校で、文楽の人形実演付きの特別授業「独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義」を実施した。
- ・学校での周知協力を依頼した(4校：近畿大学、天王寺高等学校、北野高等学校、茨木高等学校)。

《その他の周知》

- ・公演期間中に劇場ロビーで研修生募集映像の上映や研修生募集ブースの設置等を行った。
 - ◇ 自主公演や全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演(8/25・26。本館大劇場)の公演期間中
- ・外部の進学相談会・企業説明会等に参加して周知を行った。

- ◇全国高校生伝統芸能フェスティバル、進学情報サイト主催の進学相談会、任期制退職予定自衛官を対象とした合同企業説明会 など
- ・新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った(17件)。
- ・公演プログラム等に研修生募集広告を掲載した。
 - ◇振興会主催の歌舞伎・文楽公演
 - ◇あぜくら会報・文楽劇場友の会会報
 - ◇教育委員会月報(文部科学省)11月号 など
- ・チラシ・ポスター等による周知を行った。
 - ◇歌舞伎俳優・文楽研修生の合同募集チラシ・ポスターを作成し、各劇場に掲出した。
 - ◇振興会外の公演等で募集チラシを配布した。
 - 歌舞伎座、全国各地の文楽関連公演等、外部団体主催の地芝居及び民俗芸能公演
 - ◇DMの発送
 - 高等学校、芸術系大学・専門学校、公共ホール、図書館、各高校文化連盟、楽器店、カルチャーセンター、ユネスコ無形遺産登録団体、地芝居団体、報道機関等(約2,500件)
 - 6年度の国立劇場鑑賞教室公演案内に募集チラシを同封(10,796件)
- ・関連団体による周知協力
 - ◇全日本郷土芸能協会の会報誌に募集チラシを同封
 - ◇大阪市立中学校(129校)、尼崎市役所文化振興課

④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同講義、研修生交流会を12/14に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術の共同研修を実施した(参加者数：伝統芸能・現代舞台芸術の全分野の研修生45名)。

講師	竹本葵太夫(歌舞伎音楽竹本)
講義内容	「良き舞台人になるために」
会場	講義:国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 304室 交流会:国立オリンピック記念青少年総合センター内カフェフレンズ

⑤ 外部研修への協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた試行的取組

- ・全国の会館等で伝統芸能の上演を安全に実施する際の手引きとして令和4年度に改定した小冊子「国立劇場の舞台技術―伝統芸能の上演のために―」について、振興会ホームページの専用ページにて昨年度に引き続き公開した。
- ・フルハーネス型墜落制止用器具特別教育のインストラクター資格を取得させ、内部での講習会を開催し、法定教育講師の育成を行った。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、研修環境のさらなる充実を図ることで優れたアーティストが切磋琢磨する環境を醸成し、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家を育成
外部専門家等の意見聴取、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家の育成を目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家の育成を目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実

イ 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 国立劇場再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討

オ 新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた検討

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 研修の実施

民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、研修修了者の動向把握等による成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第24期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第25期生(5名)の2年目の研修

(c) 第26期生(4名)の1年目の研修

(d) 第27期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表9のとおり実施

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う

② バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第19期生(6名)の2年目の研修(修了)

(b) 第20期生(6名)の1年目の研修

(c) 第21期生(6名程度)の募集

(d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。

・ 第14期生(3名)の2年目の研修

・ 第15期生(2名)の1年目の研修

・ 第16期生(若干名)の募集

(e) 研修発表会等を別表9のとおり実施

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、5月に海外研修を行う

③ 演劇研修(研修期間3年)

- (a) 第17期生(7名)の3年目の研修(修了)
- (b) 第18期生(12名)の2年目の研修
- (c) 第19期生(14名)の1年目の研修
- (d) 第20期生(16名程度)の募集
- (e) 研修発表会等を別表9のとおり実施
- (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、5月～6月に国内研修を行う

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心の喚起、理解促進を図るため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、外部研修への協力等に努める

ア 安定的、継続的な実演家の育成

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を対象として、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を中心とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

① 研修実績

分野	期数	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了及び受講終了者
オペラ	第24期(3年次)	3年	5名	5名	5名
	第25期(2年次)		5名	5名	
	第26期(1年次)		4名	4名	
バレエ	第19期(2年次)	2年	6名	6名	6名
	第20期(1年次)		6名	5名	
バレエ予科	第14期(2年次)	2年	3名	3名	3名
	第15期(1年次)		2名	2名	
演劇	第17期(3年次)	3年	7名	7名	7名
	第18期(2年次)		12名	10名	
	第19期(1年次)		14名	13名	

- ・第20期バレエ研修生が6月付で1名退所となった。
- ・第18期演劇研修生について、2年次進級時の評価会にて進級できないこととなった2名が退所となった。
- ・第19期演劇研修生が11月付で1名退所となった。

② 主な授業等の概要

分野	期数	区分	合計回数	授業内容
オペラ	第24期	実技	718	実技: オペラ実習、身体表現 座学: 特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語、イタリア語、ドイツ語) その他: 舞台実習、舞台鑑賞
		座学	111	
		その他	34	
		合計	863	
	第25期	実技	677	
		座学	112	
		その他	35	
		合計	824	
	第26期	実技	674	
		座学	110	
		その他	33	
		合計	817	
バレエ	第19期	実技	424	実技: クラシカル・バレエ、身体表現ほか 座学: 講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語) その他: 舞台実習、舞台鑑賞、特別講習
		座学	52	
		その他	86	
		合計	562	
	第20期	実技	444	
		座学	56	

		その他	69	
		合計	569	
バレエ 予科	第 14 期	実技	425	実技: クラシカル・バレエ、身体表現ほか 座学: 講義、語学(英語)ほか その他: 舞台実習、舞台鑑賞、特別講習
		座学	44	
		その他	67	
	合計	536		
	第 15 期	実技	414	
		座学	44	
その他		69		
合計	527			
演劇	第 17 期	実技	172	実技: 演劇実習、演技/シーンスタディ、声、身体表現、テクニックほか 座学: 講義、特別講義、五館合同特別講義、戯曲研究/戯曲をよむ、ほか その他: アウトリーチ、国内研修、美術、観劇、見学、公演スタッフ研修ほか
		座学	5	
		その他	61	
		合計	238	
	第 18 期	実技	345	
		座学	6	
		その他	104	
		合計	455	
	第 19 期	実技	318	
		座学	41	
		その他	89	
		合計	448	

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・全日本空輸株式会社の協賛による支援事業の認定を受けた。
 - ◇ANA スカラシップ(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)
 - ◇新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所研修生のために国内研修に関わる航空券のサポート)
- ・令和5年度研修所入所式は新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて参加者の人数を限定し、関係者には式の様子をインターネット配信した。
- ・入所式に引き続いて、ANA スカラシップ認定証授与式を開催した。

《オペラ研修》

- ・5年度から就任した佐藤新所長のもと、ピアニストやコレペティートルといった音楽スタッフのメンバーが一部入れ替わり、新しい指導体制がスタートした。
- ・海外招聘講師についても、佐藤所長の推薦による新しいコーチ(K.ケリー、D.エドワーズ、M.カツ)を招聘し、それぞれがこれまでにない個性で研修生を指導し、研修生には新しい刺激となった。
- ・8月に国立劇場で行われた「舞台芸術のあしたへー国立劇場6館合同研修修了者合同公演一」に現役研修生も参加し、ヴェルディの「椿姫」からの抜粋を上演した。普段あまり交流することのない伝統芸能の研修生との合同公演は、研修生にとっても新たな視点を得る良い機会となった。

《バレエ研修》

- ・9月よりバレエ研修所入所前の13・14歳を対象に、基礎強化の「ジュニアクラス」を週2回程度、試行的に実施した(19名参加)。
- ・花伝舎のスタジオに加えて新宿村スタジオを可能な限り借用することで、研修生クラス・予科生クラスを分けるなど、少人数でのレッスンを多く実施し、研修効率を高めることができた。
- ・演劇基礎研修にて、4年度に引き続き演劇研修生との合同授業を実施した。表現方法の異なる研修生同士が共同で一つの小作品を作る過程で、表現力の向上につながる強い刺激やヒントを感受する姿が見られた。

《演劇研修》

- ・新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援により、演劇研修第17期生が沖縄研修を実施した(5/15～19)。
- ・朗読劇「ひめゆり」を新国立劇場公演のほか、国立劇場で行われた「舞台芸術のあしたへー国立劇場6館

研修修了者合同公演一」においてダイジェスト版で上演し、幅広い観客層の公演で、異なる環境に瞬時に適応して最善の演技を披露する経験を積んだ。

- ・日本の演劇界を牽引する演出家の下でシーンスタディを実施し、古今東西の戯曲に触れ、様々な演出家の要求に応えられる俳優としての素養を培った。

《海外研修》

- ・ANA スカラシップの一環として海外研修を実施した。

区分	研修期間	研修先
オペラ研修所 25 期生	9/9～10/1	ミラノ・スカラ座アカデミー
オペラ研修所 26 期生	3/15～31	バイエルン国立歌劇場付属研修所
バレエ研修所 19 期生	5/13～6/4	カナダ国立バレエ学校
合計	3 回	

《国際交流》

- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

区分	研修期間	講師
オペラ	4/24～4/27	シュテファン・グレーグラ
オペラ	5/15～6/2	キャサリーン・ケリー
オペラ	6/5～6/16	ポール・フェリントン
オペラ	7/3～7/30	デイヴィッド・エドワーズ
オペラ	9/11	カルロ・コロンバーラ
オペラ	10/16～10/27	マーティン・カツ
オペラ	1/9～3/3	シュテファン・グレーグラ
オペラ	2/6～3/3	ジョナサン・ストックハマー
バレエ	6/27～7/26 11/8～11/17 2/8～3/10	新井美紀子
バレエ	10/2～10/6	ウラジーミル・マラーホフ
演劇	11/11～24	アンネ・ランデ・ペータス
演劇	1/15～26	エマ・ボニッチ
演劇	3/7～3/28	木村早智

③ 研修発表会等の実施

(a) 研修公演

《研修発表会の実施実績》

区分	公演名	入場者数	入場率	入場料収入
オペラ	Scenes Recital 2023	975	53.8%	1,917 千円
オペラ	2023 冬のリサイタル	529	54.5%	790 千円
オペラ	修了公演「カルメル会修道女の対話」	2,427	89.3%	8,416 千円
バレエ	バレエ・アステラス 2023	2,111	58.8%	12,981 千円
バレエ	バレエ・コンサート 2023	1,208	66.7%	2,559 千円
バレエ	エトワールへの道程 2024 ～新国立劇場バレエ研修所の成果～	1,683	92.9%	4,623 千円
演劇	朗読劇「ひめゆり」	765	71.6%	1,141 千円
演劇	君は即ち春を吸ひこんだのだ	951	56.2%	1,817 千円
演劇	修了公演「流れゆく時の中に」	1,128	72.0%	2,487 千円
合計	9 公演(計画 9 公演)	11,777	69.1%	36,731 千円

《研修発表会の公演詳細》

Scenes Recital 2023			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	7/29～30	2 回
出演者	オペラ研修所第 24・25・26 期生、内山歌寿美(第 23 期修了) ほか		
入場料	3,850 円		

2023 冬のリサイタル			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	12/10	1回
出演者	オペラ研修所第24・25・26期生		
入場料	全席指定 3,850円、Z席 1,650円		
修了公演「カルメル会修道女の対話」			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	3/1～3	3回
出演者	オペラ研修所第24・25・26期生、ほか		
入場料	全席指定 4,950円、Z席 1,650円		
バレエ・アステラス 2023			
劇場・日程・回数	新国立劇場オペラ劇場	8/5～6	2回
出演者	バレエ研修所 第19期・20期研修生、予科生 ほか		
入場料	S席 8,800円、A席 7,700円、B席 6,600円、C席 4,950円、D席 3,300円、S席セット券 16,000円		
バレエ・コンサート 2023			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	12/2～3	2回
出演者	バレエ研修所 第19期・20期研修生、予科生 ほか		
入場料	全席指定 2,750円、Z席 1,650円		
エトワールへの道程 2024 ～新国立劇場バレエ研修所の成果～			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	3/9～10	2回
出演者	バレエ研修所 第19期・20期研修生、予科生 ほか		
入場料	全席指定 3,850円、Z席 1,650円		
朗読劇「ひめゆり」			
劇場・日程・回数	新国立劇場小劇場	8/10～13	4回
出演者	演劇研修所第17期生、研修修了者 ほか		
入場料	A席 2,750円、B席 2,200円、U25席 1,650円		
君は即ち春を吸ひこんだのだ			
劇場・日程・回数	新国立劇場小劇場	11/7～12	6回
出演者	演劇研修所第17期生		
入場料	A席 3,850円、B席 3,300円、U25席 1,650円、Z席 1,650円		
修了公演「流れゆく時の中に」			
劇場・日程・回数	新国立劇場小劇場	2/6～11	6回
出演者	演劇研修所第17期生、研修修了者 ほか		
入場料	A席 3,850円、B席 3,300円、U25席 1,650円、Z席 1,650円		

- ・オペラ研修所第24期生修了公演「カルメル会修道女の対話」では、オペラ研修所で久しぶりとなる外国人演出家と指揮者を招き、オペラ本公演さながらのリハーサルと音楽指導を受けることができた。また、SNS上などでの評判も目を見張るものがあった。
- ・「バレエ・アステラス 2023」では海外で活躍する若手日本バレエダンサーやミラノ・スカラ座バレエ・アカデミーを迎え、研修所研修生、新国立劇場バレエ団ダンサーも参加した。国際的に活躍する同世代のダンサーとの交流も深め、研修生にとって貴重な経験となった。
- ・「バレエ・コンサート 2023」、「エトワールへの道程 2024」では、古典バレエのみならず、コンテンポラリーダンスなど研修所ならではの作品も上演し、ダンサーとしての表現力の幅を披露することができた。
- ・演劇研修所としては久しぶりの現代日本戯曲への挑戦となった第17期生公演「君は即ち春を吸ひこんだのだ」では、研修生7名のみで演じきり、専門家からも好評を得た。
- ・演劇研修所第17期生修了公演「流れゆく時の中に」ではアメリカの劇作家テネシー・ウィリアムズ的一幕劇を3本同時に上演した。より具体性を持った人物造形、戯曲ひいては当時の時代背景との向き合い方を学び、研修生活の集大成にふさわしい濃度の高い公演を上演できた。

④ 次年度の研修生募集

区分	選考日	応募者数(A)	受験者数	合格者数(B)	倍率(A/B)	備考
オペラ	12/5～12/19	44名	42名	5名	8.8倍	願書受付 10/16～10/27
バレエ	11/4～11/12	67名	67名	16名	4.2倍	願書受付 9/1～9/15
演劇	1/10～1/14	31名	25名	12名	2.6倍	願書受付 11/20～12/15

- ・バレエ研修について、より優れたトップアーティストを育成するための全日制一貫研修実施のため、令和6年度から「本科(前期過課程・後期課程：各2年間)」と、特に優秀な研修生を対象とした「専科(令和8年度新設予定)」、「ジュニアクラス」で構成する新研修体系に移行する。そのため、次年度研修生募集にお

いて、本科前期課程、本科後期課程の選考を行った。

⑤ 研修修了者の動向把握等

《研修修了者の就業状況(令和6年4月1日)》

分野	研修修了者総数	研修修了者のうち 現在従事者数
オペラ	116人	110人
バレエ	115人	95人
演劇	188人	152人

《受賞等》

【オペラ研修】

- ・第92回日本音楽コンクール声楽部門(主催：毎日新聞社、NHK)
砂田愛梨(第18期修了、ソプラノ)が第3位に入賞。
- ・第15回マダダ・オリヴェーロ国際声楽コンクール(11/29～12/3。開催地：イタリア・ミラノ)
砂田愛梨(第18期修了、ソプラノ)がファイナリストに選出され、オペラ配役オーディションで「ラ・ボエーム」ムゼッタ役を獲得。
- ・ベッペ・デ・トマージ国際声楽コンクール(11/24～26。開催地：イタリア・カラブリア州ヴィボ・ヴァレンツィアのスピリト・サント教会)
井上大聞(第21期修了、バリトン)が第1位及びバロック声楽賞を受賞。
- ・日本トスティ歌曲コンクール2023(F.P. トスティ歌曲と日本歌曲のためのコンクール)
森翔梧(第22期修了、バリトン)が第1位を受賞。

《主催公演への出演》

- ・バレエ研修所修了者の多くが新国立劇場バレエ団に在籍しており、主催公演に多数出演した。
- ・特に、6月バレエ公演「白鳥の湖」において、契約ダンサー(アーティスト)として2シーズン目の吉田朱里(第16期修了)が主役(オデット/オディール)に抜擢された。
- ・オペラ、演劇の主催公演に研修修了者が多数出演した。
- ・東京スカイツリータウンソラマチで実施した「オペラ歌手とピアノで贈る ソラマチクリスマスコンサート」に研修修了者が出演した。

⑥ 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、前年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。
- ・バレエ研修生の選考に当たっては、外部の審査員(2名)を加えて実施した。

⑦ 舞台芸術グローバル拠点事業

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。

《舞台芸術グローバル拠点事業関連指標》

- ・海外研修の実施回数[再掲]：3回(オペラ研修2回、バレエ研修1回)
- ・夏期研修の実施回数：1回
- ・次年度の研修所入所希望者の応募倍率[再掲]

区分	応募者数(A)	合格者数(B)	応募倍率(A/B)
オペラ	44名	5名	8.8倍
バレエ	67名	16名	4.2倍
演劇	31名	12名	2.6倍

※なおバレエ研修所については、より優れたダンサー育成のための新研修体系への移行に伴い、募集人数について、研修生6名程度、予科生若干名であったところ、それぞれ本科後期12名程度、本科前期8名程度に変更している。

- ・新国立劇場バレエ団員の入団前所属経験(全団員数70人)

区分	新国立劇場 バレエ研修所	海外バレエ関係 (バレエ団、教室等)	国内バレエ関係 (バレエ団、付属研究所等)
人数	25人	31人	25人
全団員数に占める割合	35.7%	44.3%	35.7%

※「入団前所属経験」とは、新国立劇場バレエ団入団前のキャリア全てを上記 3 区分に分類したものである。複数のキャリアを有する団員もいることから、合計人数は全団員数より多くなっている。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

① ホームページ等での事業の周知

《SNS 等登録者数》

区分	Facebook	Instagram	X(旧 Twitter)
オペラ研修所	-	-	778
バレエ研修所	944	-	2,524
新国立劇場バレエ・アステラス	-	1,328	-
演劇研修所	1,221	-	1,687

- ・新国立劇場ホームページや SNS を活用し、研修の実施状況、研修公演の情報、研修公演の稽古、公演の様子、修了生の活動状況等を随時発信した。各研修所が専用の SNS を開設していることで連続性のある効果的な発信を行えた。
- ・オペラ研修所の修了生について、新国立劇場内外での出演情報や受賞情報をホームページに掲載することにより、研修所修了後の活躍についても幅広い広報を行った。
- ・バレエ研修所・演劇研修所においても修了生の活動状況を定期的に把握し、公演への出演予定や受賞歴等をホームページに掲載するとともに、研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・伝統芸能・現代舞台芸術の養成研修事業で実施している各分野の研修生が一堂に会した本館 8 月特別企画公演「舞台芸術のあしたへー国立劇場 6 館研修修了者合同公演ー」にオペラ・演劇研修所の研修生・研修修了生が出演した。舞台での成果の他にも、公演プログラムに新国立劇場の研修事業の概要を掲載するなど伝統芸能分野の観客に対しても事業周知を行うことができた。
- ・「ANA スカラシップ」の一環として、以下の広報活動を行った。
 - ◇ANA 国内線機内にてバレエ研修所と ANA スカラシップを紹介する映像を放映(10 月より 1 か月)、演劇研修所と「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を紹介する映像を放映(1 月より 1 か月間)、オペラ研修所と ANA スカラシップを紹介する映像を放映(3 月より 1 か月間)
 - ◇ANA グループ機内誌「翼の王国」に各研修所の紹介広告を掲載(オペラ 11 月号・2 月号、バレエ 9 月号、演劇 11 月号)

② 学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

《普及活動の実施実績》

区分	実施回数	参加者数
オペラ研修	0 件	0 人
バレエ研修	0 件	0 人
演劇研修	1 件	15 人

- ・演劇研修所では、東京都立葛飾盲学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。

③ 応募者の確保

《オープンスクール等の実施実績》

区分	実施回数	参加者数
オペラ研修	0 件	0 人
バレエ研修	2 件	305 人
演劇研修	3 件	65 人

- ・バレエ研修所では夏の特別バレエレッスンを実施した(8/22～27)。特別レッスン受講者に対して、バレエ研修所新研修体系の説明会をあわせて実施した。
- ・演劇研修所ではオープンスクールを 9/2 に対面で、9/23 にオンラインで開催した。

④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同講義、研修生交流会を 12/14 に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術の共同研修を実施した(参加者数：伝統芸能・現代舞台芸術の全分野の研修生 45 名)。

講師	竹本葵太夫(歌舞伎音楽竹本)
講義内容	「良き舞台人になるために」
会場	講義: 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 304 室

⑤ 舞台技術者等に対する研修の実施、外部研修への協力

- ・連携協力先である公益財団法人びわ湖芸術文化財団から舞台技術インターンシップの実習を受け入れた(6月、10日間、1名)。
- ・大学からインターンシップ等の受入れを行った。

学校名	日程	人数	内容
国立音楽大学	12/1 から 4 日間	8 名	インターンシップ
城西国際大学	11 月	1 名	初台アート・ロフトの展示関連業務を体験
玉川大学	10 月～12 月	3 名	演劇公演における制作現場を体験
学校法人華学園 華服飾専門学校	2/26	約 15 名	初台アート・ロフトに関するレクチャー
学校法人華学園 華服飾専門学校	3/11 から 4 日間	6 名	初台アート・ロフトの展示関連業務を体験
学校法人文化学園 文化服飾学院	2/1～2/14	2 名	舞台衣裳管理実習
武蔵野音楽大学	11/20 から 14 日間	1 名	アートマネジメント実習、音楽業務補助

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

[1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	128
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
ア 伝統芸能に関する調査研究	130
イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用	130
(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	
ア 公演記録の作成・活用	135
イ 普及活動	135
[2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	138
(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
ア 主催公演の上演作品等についての資料調査	139
イ 現代舞台芸術に関する図書・資料の収集・活用	139
ウ 資料等の展示公開	140
(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	
ア 公演記録の作成・活用	140
イ 普及活動	140

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評定	A
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 ・「近代歌舞伎年表名古屋篇」第十七巻の刊行及び上演資料集の文化デジタルライブラリーでの公開について、国立劇場等の再整備期間中も国立劇場が継続して行うべき意義のある事業との外部専門家から高い評価を受けた。 ・文化庁の「文化遺産オンライン」に国立劇場及び国立能楽堂の収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家から高い評価を得た。 ・インターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数:1,247,158件/850,000件（146.7%） 展示公開の実施回数:15回/15回（100.0%） 展示公開の来場者数:140,924人/104,367人（135.0%） 講座等の実施回数:49回/39回（125.6%）</p>
主要な業務実績	<p>[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 各表参照</p>
課題と対応	<p>[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 各表参照</p>

[1] 伝統芸能分野

自己評定	A
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開の来場者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 「近代歌舞伎年表名古屋篇」第十七巻の刊行及び上演資料集の文化デジタルライブラリーでの公開について、国立劇場等の再整備期間中も国立劇場が継続して行うべき意義のある事業との外部専門家から高い評価を受けた。 文化庁の「文化遺産オンライン」に国立劇場及び国立能楽堂の収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家から高い評価を受けた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数:1,247,158件/850,000件（146.7%） 展示公開の実施回数:15回/15回（100.0%） 展示公開の来場者数:136,457人/101,767人（134.1%） 講座等の実施回数22回/21回（104.8%）</p>
主要な業務実績	<p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研究を計画どおり実施し、展示図録、「近代歌舞伎年表名古屋篇」第十七巻を刊行した。また、「上演資料集」の作成、「絵入根本集」の翻刻、「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻を行い、文化デジタルライブラリーにおいて成果を公開した。 「義太夫年表 昭和篇」の第七巻を刊行した。最終巻となる本巻には人名・作品の索引を掲載した。 文化庁の「文化遺産オンライン」に国立劇場収蔵資料（錦絵、古典籍等66点）及び国立能楽堂収蔵資料（楽器29点）を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。 ブロマイド資料などのデータベース化を行い、文化デジタルライブラリーへ登録し公開した。 文化デジタルライブラリーにおいて、新たなコンテンツとして舞台芸術教材「声明」を製作し、公開した。 文化デジタルライブラリーシステムを11月に更新し、クラウド環境に移行した。デザインの変更や一部機能の改善等により、サービスの向上を図った。 伝統芸能全般の文献（図書・解説書・台本・雑誌等）、図画（錦絵・番付・絵画等）、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施した。 各館の資料展示室・閲覧室を開室し、計画どおり展示公開や閲覧業務等を実施した。 初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら記念の展示公開として「国立劇場所蔵芸能資料展」を実施した。 能楽堂では開場40周年記念企画展を実施し、展示図録を刊行した。 国立劇場おきなわでは開場20周年を迎えるに当たって企画展を実施した。 <p>(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 各館の主催公演について、映像・写真等による記録を作成した。 各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。 文楽劇場主催の公演映像（4公演）及び国立劇場・国立文楽劇場の過去の文楽公演映像（文楽プレミアムシアター・4回）の有料配信を行った。併せて夏休み文楽特別公演の映像を、海外向けに有料配信を行うため新たに編集し、作品内容（あら

	<p>すじ)を各演目の上映前に英語によるテロップ映像で紹介した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文楽劇場では、公演記録映像と文楽座技芸員を交えたアフタートークによる講座(1回、有料)及び文楽座技芸員の実演を交えた専門的な内容の文楽特別講座を開催した(1回、有料)。 ・国立劇場5月文楽公演、8・9月文楽公演の記録映像の有料配信を行った。通し狂言の上演にあわせて再配信するなど、動画配信と公演を連動させた取組を行い、舞台映像の有料配信の視聴回数増加を図った。 ・声明、浪曲、特別企画(伎楽)、講談など多様な芸能ジャンルの公演記録映像を有料配信した。公演記録映像等の配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文楽劇場での公演記録映像視聴のために構築した劇場内(VTR 室)限定の視聴システムは本年度も継続して実施。複数端末による同時視聴を可能とする本方式は、公演準備に関わる職員及び公演関係者の利便性を高めている。

[2] 現代舞台芸術分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示公開の来場者数及び講座等の実施回数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 ・ 「新国デジタルシアター」等でのインターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。 ・ 調査研究を計画どおり実施し、その成果については、オンラインも活用しながら講座・プログラムへの掲載など活用を図った。 ・ 新国立劇場内や外部施設において展示公開を実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	<p>展示公開の来場者数:4,467人/2,600人 (171.8%) 講座等の実施回数:27回/18回 (150.0%)</p>
主要な業務実績	<p>(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催した。開催に当たってはオンラインも活用して多くの方に参加する機会を提供した。 ・ 国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載した。 ・ 劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を実施した。 ・ 初台アート・ロフトに関連し、服飾専門学校生を対象に、海外デザイナーが手がけた舞台衣裳に関するレクチャー及びワークショップを通して理解を深め研究につながる活動等を行った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため休止していたビデオブースでの一般向けの記録映像公開を再開した。 <p>(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施した。 ・ 「新国デジタルシアター」等で公演記録映像等をインターネット配信した。 ・ 公演記録映像を活用した青島広志の講座「教えて、ブルーアイランド先生！新国立劇場で学ぶ 西洋音楽史」を実施し、多くの参加者を得た。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台美術センター資料館については、施設に対する活用方法に係るニーズが変化したことから、第5期中期計画期間に展示施設としての機能から衣裳等の保管機能へ移行することを目指し、具体的な作業を進める。

4 - [1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
伝統芸能の公開の充実等に資するため、調査研究並びに資料の収集及び活用を行う
関係機関等と連携した取組を進める
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 伝統芸能に関する調査研究を実施
- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査し、文化デジタルライブラリー又は書籍により公開
 - ② 日本各地の演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
 - ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を実施
- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
 - ② 収集した資料のデータベース化の推進やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開
舞台映像等の配信に係る権利処理等を行うための関係機関等と連携
収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開
関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化
国立劇場等の再整備期間中は、伝統芸能情報館及び国立演芸場での展示は休止し、関係機関等と連携
 - ③ 国立劇場等の再整備期間中において、資料の特性に応じた適切な管理により代替施設で保管
 - ④ 外部の関係機関とのネットワーク構築を推進、情報発信機能の充実について検討
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する
- イ 公開講座、公演記録の鑑賞会やICTを活用した公演記録映像の有料配信等を実施

《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 伝統芸能に関する調査研究
- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録等の調査・公開
 - ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究・刊行等
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十七巻の刊行
 - (b) 企画展「楽器名品展」図録(能楽堂)
 - (c) 「義太夫年表」昭和篇第七巻の刊行
 - ③ 伝統芸能に関する古文献等の調査研究、文化デジタルライブラリーで公開
 - (a) 「絵入根本集」4・5の翻刻・公開
 - (b) 「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻・公開
- イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用
- ① 各館で公開する分野に関する図書・資料の収集整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等
開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮した利用促進
博物資料等の適切な保存管理、関係機関等との連携等による一層の活用
 - ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開
 - (a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報等のデータベース化
 - (b) デジタルコンテンツの充実
 - i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの製作・公開
 - ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数: 850,000件
 - (c) 外部の関係機関とのネットワーク構築を推進、情報発信機能の充実について検討
 - (d) 収集した資料等の展示公開(別表10)

関係機関等と連携した取組、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化

(e) 展示図録の刊行

i. 企画展「楽器名品展」図録(能楽堂・再掲)

③ 国立劇場等の再整備期間中における、資料の特性に応じた適切な移転作業及びリスト化、代替施設での安全な保管体制の構築

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供する

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため普及活動を実施

① 伝統芸能に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等を別表 11 のとおり実施

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

③ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究

① 過去の公演記録等の調査・公開

《公演記録等の調査・公開実績》

分野	WEB 公開件数	刊行件数	合計
歌舞伎	5 件	0 件	5 件
文楽	5 件	0 件	5 件
組踊	0 件	2 件	2 件

- ・歌舞伎・文楽公演の上演演目について、初演から現在に至る上演記録や参考資料等を調査し、その成果を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
- ・国立劇場おきなわでは3月に上演資料集〈49〉「花売の縁」を刊行した。また、開場20周年を記念して、これまでの自主公演記録をまとめた刊行物「国立劇場おきなわ20年の公演記録」を作成した。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・上演資料集のWEB版は、図書館等で複数の文献資料にあたる必要がなく利便性が高い。

② 演劇興行、上演に関する記録の調査研究・刊行等

《刊行実績》

- ・「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十七巻
- ・国立能楽堂開場40周年記念企画展「楽器名品展」図録
- ・「義太夫年表 昭和篇」第七巻

《アンケート結果》

冊子名	回答数	満足数	満足回答率
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十七巻	48	45	93.8%

※満足回答率 = 満足数 / 無回答を除く回答総数

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・「近代歌舞伎年表名古屋篇」第十七巻の刊行は、再整備期間中も国立劇場が継続して行うべき意義のある事業である。

③ 古文献等の調査研究・公開

- ・下記の文献を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
 - ◇絵入根本集4「絵本敵討巖流島(えほんかたきうちがんだりゅうじま)」前編の翻刻・公開
 - ◇絵入根本集5「忠臣連理鉢植(ちゅうしんれんりのはちうえ)」の翻刻・公開
 - ◇歌舞伎の文献シリーズ「御狂言楽屋本説(おきょうげんがくやのほんせつ)」の復刻・公開

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・絵入根本集のように、文化デジタルライブラリーでのデジタル公開の方法は、紙媒体での刊行よりも製作コストや時間を削減して実施できる。デジタルを活用しながら、資料の収集・公開や調査研究事業を今後も継続して充実させていくべきである。

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・プロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では、主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

① 図書・資料の収集整理・活用

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開			
	図書	資料	閲覧室利用者数※	開室日数	写真複製使用	博物資料閲覧
伝統芸能情報館	2,042 冊	1,345 点	3,192 人	250 日	362 件	11 件
能楽堂	994 冊	1,004 点	2,963 人	243 日	50 件	4 件
文楽劇場	241 冊	208 点	544 人	239 日	61 件	0 件
国立劇場おきなわ	282 冊	133 点	4,735 人	251 日	16 件	0 件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

- ・国立劇場再整備等事業に伴い 10/28 より図書閲覧室・視聴室を休室したが、資料移転時期の見直しを行い、2/1 より閲覧と視聴のサービスを伝統芸能情報館 2 階図書閲覧室にて再開した。

《アンケート結果》

区分	回答数	満足数	満足回答率
国立劇場おきなわレファレンス室(4/1～3/31)	30	30	100.0%

(b) 伝統芸能に関する図書・資料等の博物館施設等への貸与等

区分	展示名	会場	主催等	活用内容	日程
情報館	「浮世絵×カブキ 江戸の役者絵展」	山口県立萩美術館・浦上記念館	山口県立萩美術館・浦上記念館	錦絵貸出	7/29～8/27
情報館	「没後 130 年河竹黙阿弥—江戸から東京へ—」	早稲田大学演劇博物館	早稲田大学演劇博物館	博物・映像資料貸出	10/2～1/21
情報館	「陰陽師とは何者か—うらない、まじない、こよみをつくる—」	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館	博物資料貸出	10/3～12/10
情報館	「日本雅楽会第 59 回雅楽公演」	国立劇場小劇場	日本雅楽会	楽器貸出	10/5
情報館	「歌舞音曲鑑 北斎と江戸の芸能」	すみだ北斎美術館	すみだ北斎美術館	錦絵貸出	3/19～5/26
文楽劇場	「図書館で観る文楽 2023」展	大阪市中央図書館	大阪市中央図書館	文楽かしら製作工程 文楽解説パネル	8/4～9/14
文楽劇場	貝塚市コスモシアター人形浄瑠璃文楽展	貝塚市コスモシアター	貝塚市文化振興事業団	文楽解説パネル	9/22～9/30
文楽劇場	「文楽に見る葛の葉伝説—信太の森へ聖地巡礼—」展	信太の森ふるさと館	和泉市教育委員会	文楽解説パネル	10/14～12/17
文楽劇場	「宮本順三～祭りと踊りに見る世界のデザインと色彩～」展	東大阪市民美術センター	東大阪市民美術センター	絵画 2 点	11/29～12/17
文楽劇場	「文楽に見る葛の葉伝説—葛の葉の世界—」展(前期)	和泉市いずみの国歴史館	和泉市教育委員会	絵看板・丸本等	1/13～2/11
文楽劇場	「文楽に見る葛の葉伝説—葛の葉の世界—」展(後期)	和泉市いずみの国歴史館	和泉市教育委員会	文楽解説パネル	2/17～3/24

(c) 関係機関等との連携による活用

- ・文化庁の文化遺産オンラインに国立劇場所蔵資料(錦絵、古典籍等 66 点)を画像と解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。
- ・文化庁の文化遺産オンラインに国立能楽堂の収蔵資料(楽器 29 点)を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。

② 資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	2,747 件	「国立劇場蔵書検索」での検索を可能にするため、図書の書誌データを図書管理システムのデータベースに登録、公開した。
資料	518 点	錦絵 150 点、プロマイド 355 点、上演資料集 WEB 版 10 点、電子図書 3 点。 新たに考証・整理が終了した錦絵(芝居版画等)150 点、プロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優) 355

		点を文化デジタルライブラリーに登録。また、上演資料集 WEB 版及び電子図書を公開。
上演情報	121 公演	歌舞伎 6 公演、文楽 9 公演、舞踊・邦楽 11 公演、雅楽・声明 2 公演、民俗芸能 2 公演、特別企画 2 公演、大衆芸能 47 公演、能・狂言 42 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	28,755 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で撮影した各ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。

(b) デジタルコンテンツの充実

《文化デジタルライブラリーアクセス件数》

実績	年度計画	達成率
1,247,158 件	850,000 件	146.7%

※Google Analytics の仕様変更により、今年度より集計方法がユーザー数に変更されている(前年度まではセッション数)。そのため、前年度よりも実績が 3 割程度減少する見込であり、この見込に基づいて年度計画を策定している。

- ・文化デジタルライブラリーの新たなコンテンツとして舞台芸術教材「声明」を製作し、8 月から公開した。
- ・文化デジタルライブラリーシステムを 11 月に更新し、クラウド環境に移行した。デザインの変更や一部機能の改善等により、サービスの向上を図った。
- ・主催公演の実施に合わせ、振興会ホームページの各公演情報に関連するコンテンツのリンク掲載や国立劇場 X(旧 Twitter)での情報発信により、一層の利用の促進を図った。
- ・文化デジタルライブラリーの概要を紹介するチラシ(英語併記)を作成し、振興会の各施設に掲出した。また、学校向けの鑑賞教室の案内に同封し、教育機関等への周知を図った。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・国立劇場の所蔵資料を「文化遺産オンライン」を経由して「ジャパンサーチ」でも公開したことは大変有意義である。国立劇場の再整備期間を利用し、今後も継続してデジタル公開を推進していくべきである。

(c) 外部関係機関とのネットワーク構築等

- ・一般社団法人 EPAD 等と映像配信に関する情報交換等を適宜行った。

(d) 資料の展示公開

《展示公開実績》

会場	展示名称	日程	日数 (日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
伝統芸能情報館 資料展示室	「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」	4/1～4/9	9	883	1,078	81.9%
	企画展「怪談物のつくりかたー役者の芸と仕掛けの世界ー」	4/22～8/20	120	24,698	14,376	171.8%
	初代国立劇場・国立演芸場さよなら記念 「国立劇場所蔵芸能資料展」	8/26～10/29	63	14,658	7,428	197.3%
	小 計	3 回	192	40,239	22,882	175.9%
演芸場 資料展示室	企画展「口絵・挿絵でたどる演芸速記本」	4/1～8/20	113	13,117	9,379	139.9%
	初代国立劇場・国立演芸場さよなら記念 「国立劇場所蔵芸能資料展」	8/26～10/29	51	8,415	4,316	195.0%
	小 計	2 回	164	21,532	13,695	157.2%
能楽堂 資料展示室	入門展「能楽入門」	5/27～8/5	61	7,133	5,900	120.9%
	開場 40 周年記念 企画展「楽器名品展」	9/6～11/17	63	7,307	6,300	116.0%
	開場 40 周年記念 収蔵資料展「収蔵資料名品展」	1/6～3/23	47	6,060	4,290	141.3%
	小 計	3 回	171	20,500	16,490	124.3%
文楽劇場 資料展示室	企画展示「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」	4/8～6/30	72	13,079	13,000	100.6%
	常設展示「文楽入門」I	7/22～11/26	115	19,370	18,500	104.7%
	常設展示「文楽入門」II	1/3～3/10	68	11,191	7,200	155.4%
	小 計	3 回	255	43,640	38,700	112.8%
国立劇場 おきなわ 資料展示室	第 1 回企画展「近現代の男性舞踊家 I」	4/8～6/18	72	2,288	2,525	90.6%
	第 2 回企画展「子どものための組踊入門」	7/8～9/18	56	2,332	2,595	89.9%

第3回企画展「祝20周年 劇場の歩みⅠ」	10/14～12/17	65	2,746	2,315	118.6%
第4回企画展「祝20周年 劇場の歩みⅡ」	1/13～3/17	65	3,180	2,565	124.0%
小計	4回	258	10,546	10,000	105.5%
伝統芸能分野 合計	15回	1,040	136,457	101,767	134.1%

<伝統芸能情報館・演芸場>

- ・「国立劇場所蔵 芸能資料展」は、初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら記念として、国立劇場開場以来、半世紀以上にわたって収集してきた膨大な資料から、名品、優品、貴重な芸能資料を一堂に展覧した。伝統芸能情報館では、国立劇場開場時の政府出資資料をはじめ、歌舞伎、文楽、舞踊、邦楽、新派、喜劇の資料を紹介し、演芸資料展示室では、落語、講談、浪曲、奇術、漫才など演芸関係の資料を紹介した。

<伝統芸能情報館>

- ・「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」は、上方の絵師・版元の手になる国立劇場所蔵浮世絵版画の中から名品100作品を選定し、役者や形式、時代などテーマ別に展覧した。
- ・企画展「怪談物のつくりかたー役者の芸と仕掛けの世界ー」は、国立劇場所蔵の錦絵や奇術文献、舞台上で使用される小道具や模型など多様な資料を通して「怪談物」の魅力とその舞台裏を紹介した。

<演芸場>

- ・企画展「口絵・挿絵でたどる演芸速記本」は、講談や落語の口演を速記で記録した「速記本」をテーマに、そこに掲載された口絵や挿絵に焦点を当て、速記本における口絵・挿絵の主題や技法の変遷を紹介した。

<能楽堂>

- ・全ての展示で看板、展示キャプションを日本語・英語で表記した。
- ・全ての展示で出品目録・解説(日本語版・英語版)を無料配布した。
- ・入門展「能楽入門」は、外国人、青少年、親子等の観客層を対象として、能のいでたち(扮装)に注目し、能の五番立に従って主な登場人物を面、装束、小道具等によって展示した。
- ・国立能楽堂開場40周年記念企画展「楽器名品展」は、東京国立博物館・東京藝術大学・泉屋博古館東京の所蔵品のほか、能楽囃子方各家・個人所蔵の秘蔵品を多く展示した。半数近くが初公開資料であり、特に出品資料の7割が楽器としての機能に優れ現役で使用されていることを強調した。また、楽器としての構造が見えやすいよう全てのキャプションに内側の写真を付け、図録にも掲載した。会期を2期に分け、3点を除いて総入れ替えとして、リピーターの増加を図った。
- ・国立能楽堂開場40周年記念収蔵資料展「収蔵資料名品展」は、開場から現在まで収集した能楽資料の中から、収蔵後の継続的な調査・研究によって新たな事実が判明した名品を中心に、60点をその調査報告と共に展示した。会期を2期に分けて展示替えを行い、リピーターの増加を図った。
- ・5年12月に復元完成した「白地御簾牡丹折枝模様縫箔」を原品と共に初めて展示した。
- ・松本峯盈筆「能狂言図巻物」を6年間の本紙保存修理後、初めて公開した。

<文楽劇場>

- ・企画展示「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」は、国立劇場調査養成部と連携し、4年度に伝統芸能情報館で開催した展示を大阪でも前期と後期の二期にわたって紹介した。伝統芸能情報館で展示した全作品に加え、文楽劇場独自の企画として人形浄瑠璃が題材となったコーナーを設け、上方の浮世絵を地元である関西でも紹介する意義がある内容とした。また、同展示で紹介の浮世絵数点を部分的にクローズアップする等、展示室内のモニターならではの鑑賞が楽しめるように編集した動画を作成した。
- ・常設展示「文楽入門Ⅰ」の前期は「文楽で見つけたリユース」を中心に紹介。文楽入門解説の資料を会場全体に配置し、中でも文楽の世界でリユースされている資料には人形の写真をキャプションに添え、目印として案内した。「普段は出ない襲名の幟や見台掛け、三味線の長袋などが見られて面白かった」と外部専門家から好評を得た。
後期は近松門左衛門300回忌にちなんだ企画を設け、豊竹呂勢太夫が所蔵する近松門左衛門の複数の肖像画をはじめ、近松の菩提寺である広濟寺所蔵で近松の自筆と伝わる「みくじ札」の版木や摺物など、近松の活躍や人気の高さがうかがえる資料を取り上げた。
- ・入門展示「文楽入門Ⅱ」は、文楽の歴史に関連した書籍をはじめ、太夫・三味線・人形の三業についての基本的な資料により文楽を紹介した。企画コーナーでは、初春文楽公演の演目に関連した資料として舞台装置(大道具)の一部を室内に設置し、写真撮影スポットとした。

<国立劇場おきなわ>

- ・企画展「近現代の男性舞踊家Ⅰ」では、戦前から戦後にかけて活躍した4名の男性舞踊家に焦点を当て、衣裳・道具類等の展示を行った。

- ・第2回企画展「子どものための組踊入門」では、朝薫五番について、漫画家大城さとしが描く漫画と登場人物の衣裳等を展示することで、分かりやすく紹介した。
- ・第3回企画展「祝20周年 劇場の歩みⅠ」では、国立劇場おきなわが開場20周年を迎えることから、国立劇場おきなわが建設され開場記念公演に至るまでを紹介する展示を行った。
- ・第4回企画展「祝20周年 劇場の歩みⅡ」では、開場記念公演後から現在に至るまでの公演を、ブース毎にテーマを設定し紹介した。
- ・20周年を記念して、過去の自主公演のポスターから抜粋した大型パネルを展示し(1/13～)、パネル展示に関するリーフレットを作成してその当時の主な出来事等を紹介した。また、20周年記念のモニュメントをロビーに設置した。

《関係機関等と連携した取組》

- ・早稲田大学演劇博物館との共催で、同館企画展示室にて「没後130年 河竹黙阿弥－江戸から東京へ－」(10/2～1/21)を開催した。国立劇場からは、河竹家寄贈の黙阿弥関連資料51件57点と国立劇場で上演した黙阿弥作品の公演記録映像を出品し、演劇博物館と国立劇場が所蔵する黙阿弥関連資料を一堂に展覧する貴重な機会となった。
- ・伝統芸能情報館で開催した企画展「怪談物のつくりかた－役者の芸と仕掛けの世界－」及び演芸資料展示室で開催した企画展「口絵・挿絵でたどる演芸速記本」でそれぞれ展示した資料の一部を「文化遺産オンライン」と「ジャパンサーチ」で公開した。「文化遺産オンライン」では、所蔵資料の画像と詳細な資料データ・解説文を公開し、「文化遺産オンライン」と連携した「ジャパンサーチ」では、ギャラリー機能を活用し、オンライン展示を制作、公開した。

《展示公開に関する広報等》

- ・振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、X(旧Twitter)等SNSにて開催案内や会期中の紹介等広報を行った。
- ・国立能楽堂では、企画展のポスター・チラシを作成し、全国の美術館・博物館に送付した。また8月からX(旧Twitter)での広報を開始し、展示メイキング、開催、展示図録の販売、展示替え、ギャラリートークの開催予告、展示品の紹介などを行った。

《展示公開等に関する映像配信》

実績		前年度実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
16件	10,260回	14件	9,579回

《アンケート結果》

区分	会場	回収数	満足数	満足回答率
「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」	伝統芸能情報館	118人	114人	96.6%
企画展「怪談物のつくりかた－役者の芸と仕掛けの世界－」	伝統芸能情報館	373人	359人	96.2%
企画展「口絵・挿絵でたどる演芸速記本」	演芸場	239人	232人	97.1%
「国立劇場所蔵 芸能資料展」	伝統芸能情報館	1,531人	1,478人	96.5%
「国立劇場所蔵 芸能資料展」	演芸場	601人	568人	94.5%
「国立能楽堂開場40周年記念企画展「楽器名品展」	能楽堂	34人	34人	100.0%
「国立能楽堂開場40周年記念収蔵資料展「収蔵資料名品展」	能楽堂	54人	53人	98.1%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・動画配信について、無料と有料とをうまく取り混ぜ、裾野を広げるための配信とコアな層にも満足してもらえる配信と、内容や方法を様々に工夫し、今後も継続して行ってほしい。
- ・国立文楽劇場企画展示「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」では、「国立劇場の展示をそのまま持ってくるだけでなく、文楽劇場ならではのオリジナルの部分もあるので、こういう形で実施できるのは非常に良いと思う」との意見を得た。
- ・入門展示「文楽入門Ⅰ」後期企画コーナー「近松門左衛門三〇〇回忌にちなんで」では、「豊竹呂勢太夫氏が収集される資料の種類が多さに感心した」という感想が寄せられた。
- ・入門展示「文楽入門Ⅱ」企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」では、「大道具(火の見櫓)の展示は実物ということもあり、大変興味深く楽しめた」と好評を得た。

＜文楽公演専門委員からの意見＞

- ・入門展示「文楽入門Ⅰ」前期企画コーナー「文楽でみつけたリユース」では、「普段は出ない襲名の幟や見台掛け、三味線の長袋などが見られて面白かった」との意見を得た。
- ・入門展示「文楽入門Ⅱ」企画コーナー「初春文楽公演の演目にちなんで」では、「火の見櫓の道具を間近に見られる貴重な機会だが、お七の人形あるいはそのカラーパネル等を添える工夫が欲しかった」という意見が寄せられた。

(e) 展示図録の刊行

- ・国立能楽堂開場 40 周年記念企画展「楽器名品展」図録を刊行した。

③ 再整備期間中の代替施設での安全な保管体制の構築

- ・国立劇場等の再整備期間における収蔵資料及び書籍等の保管等業務について、移転・保管に係る事業者との打合せ及び資料のリスト化等の事前準備作業を実施していたが、国立劇場再整備等事業の検討に伴い、資料移転時期の見直しを行った。現施設の老朽化による設備機能低下を考慮しながら、収蔵資料及び書籍等の安全な保管体制構築のための検討を継続して行っている。

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

- ・公演に際し、映像・写真による記録を作成した。
- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。

＜作成実績＞

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 48 公演
能楽堂	映像・音声・写真 50 公演
文楽劇場	映像・音声 13 公演、写真 15 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声 18 公演、写真 20 公演

＜活用実績＞

区分	視聴						複製	
	一般		関係者(出演者等)		合計		関係者(出演者等)	
本館	568 件	1,338 時間	254 件	399 時間	822 件	1,736 時間	353 件	568 時間
能楽堂	1,008 件	1,878 時間	635 件	893 時間	1,643 件	2,771 時間	221 件	256 時間
文楽劇場	87 件	134 時間	572 件	619 時間	659 件	753 時間	138 件	348 時間
国立劇場おきなわ	673 件	849 時間	2,901 件	3,464 時間	3,574 件	4,313 時間	32 件	29 時間

※時間は項目ごとに切上げ又は切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

イ 普及活動

① 伝統芸能に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等

(a) 伝統芸能に関する公開講座

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
伝統芸能情報館	公演映像有料配信	3 回	2 回	150.0%
	アーカイブ映像有料配信	4 回	4 回	100.0%
能楽堂	能楽特別講座	2 回	2 回	100.0%
	開場 40 周年記念 特別公開講座	2 回	2 回	100.0%
	開場 40 周年記念 特別シンポジウム	1 回	1 回	100.0%
文楽劇場	アーカイブ映像有料配信	4 回	4 回	100.0%
	伝統芸能講座(文楽特別講座等)	2 回	2 回	100.0%

国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会・ 沖縄伝統芸能公開講座	4回	4回	100.0%
	伝統芸能分野 合計	22回	21回	104.8%

<伝統芸能情報館>

- 企画展「怪談物のつくりかたー役者の芸と仕掛けの世界ー」では、企画や展示資料をより深く理解してもらうため、担当職員によるギャラリートークを計3回開催した(参加者数46名。うち2回は英語通訳付きで35名参加)。

<演芸場>

- 企画展「口絵・挿絵でたどる演芸速記本」では、企画や展示資料をより深く理解してもらうため、担当職員によるギャラリートークを計2回開催した(参加者数13名)。

<能楽堂>

- 国立能楽堂開場40周年記念特別公開講座として「映像とお話で振り返る国立能楽堂40年」を能舞台で実施した。座席字幕表示機に過去の公演記録映像を投影しながら、8/1には野村萬斎(狂言方泉流)をゲストとして狂言を中心に、8/31には大倉源次郎(小鼓方大倉流)をゲストとして能を中心に話を伺った(聞き手:金子直樹(能楽評論家))。
- 「古典に親しむ～能楽の道標～」と題して、国立能楽堂開場40周年記念特別シンポジウムを11/1の〈古典の日〉に能舞台にて実施した(後援:古典の日推進委員会)。
 - ◇基調講演:ロバート・キャンベル(日本文学研究者)
 - ◇仕舞「砧」:梅若紀彰
 - ◇座談会:ロバート・キャンベル、梅若紀彰、小林健二(国文学研究資料館名誉教授)
- 能楽囃子講座は東京能楽囃子科協議会との共催により、囃子方能楽師の実演を交えた有料講座とし、講師は第6回(6/12)に高桑いづみ、第7回(12/11)に山中玲子を迎えて実施した。
- 全ての講座は、実演や配布資料、スライド、映像、音源を用いて解説した。
- 国立能楽堂開場40周年記念企画展「楽器名品展」と国立能楽堂開場40周年記念収蔵資料展「収蔵資料名品展」の期間中に資料展示室でギャラリートークを計7回開催した(参加者数111名)。

<文楽劇場>

- 第9回文楽特別講座「夏祭浪花鑑～公演記録映像鑑賞とアフタートーク～」は、夏休み文楽特別公演第三部「夏祭浪花鑑」の公演記録映像(ダイジェスト)を上映した後、吉田玉男によるアフタートークを行った。さらに、文化審議会による同氏の重要無形文化財保持者(各個認定)認定の答申を受け、同氏の代表的な演目の舞台映像を紹介した(聞き手:亀岡典子(産経新聞大阪文化部特別記者))。
- 第10回文楽特別講座「文楽の三味線」は三味線弾きの竹澤宗助を講師に迎え開催した。太棹三味線に用いる道具の説明や豊竹靖太夫と共に浄瑠璃の語り分け・弾き分けなどを行い、より専門的な内容を受講者に披露した。竹澤宗助提供の「上がり糸」(使用済みの三味線糸)を受講者にプレゼントした。

<国立劇場おきなわ>

- 第1回公演記録鑑賞と講座「古典音楽を味わう」では、三線音楽公演「湛水流の美」に先立ち、古典音楽の楽しみ方について学ぶ講座を行った。併せて、三線の名手幸地亀千代等にゆかりのある西江喜春他2名をゲストに迎え、当時のレコード音源を聴きながら鼎談を行った。
- 「こどもサマーステージ」(8/11)では、琉球芸能ワークショップや子ども達の喜歌劇や舞踊の発表、からくり花火の映像鑑賞、喜歌劇「仲直り三良小」の鑑賞を実施した。
- 第3回公演記録鑑賞と講座「開場20年を振り返る」では、開場20年を記念して、過去の自主公演の中から参加者の思い出の舞台を選び、思い出やエピソードを語ってもらった。同時に、当時の映像や写真を鑑賞した。また、国立劇場において昭和42年に上演された「御冠船踊」の記録映像を鑑賞した。
- 第4回公演記録鑑賞と講座「からくり花火ー琉球と近世日本ー」では、古文書に記載される5基のからくり花火のうち、未着手であった5基目の花火の実演とからくり花火に関する講座、シンポジウムを開催した。

<<講座に関する広報等>>

- 振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、X(旧Twitter)等SNSにて開催案内等広報を行った。

<<公開講座等に関する映像配信>>

実績		前年度実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
3件	2,101回	4件	823回

(b) 舞台映像等の有料配信

実績		前年度実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
40 件	1,393 回	47 件	1,995 回

- ・国立劇場 5 月文楽公演、8・9 月文楽公演の記録映像を配信し、通し狂言の上演に併せて再配信を行うなど動画配信と公演を連動させる取組を行うことで、舞台映像の有料配信の視聴回数増加を図った。
- ・文楽劇場主催の文楽公演(4 公演)の有料配信を行った。また特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した。
- ・海外向けに夏休み文楽特別公演の有料配信を行った。作品内容(あらすじ)を各演目の上映前に英語によるテロップ映像で紹介した。
- ・「文楽プレミアムシアター」として、過去に収録した国立文楽劇場及び国立劇場の文楽公演の記録映像から選りすぐりの作品を有料で配信し、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した。
- ・配信に当たっては、有料配信映像の一部を活用した広報を振興会ホームページ及び X(旧 Twitter)により行った。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

《調査事業委員からの意見》

- ・ギャラリートークは大変良い試みで、アンケートの満足度も高評価であった。鑑賞に際し、職員のサポートがあるとリピーター率も向上し、職員自身のスキルとモチベーションも上がることが期待できる。

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

《公演関連講座・展示等の実施実績》

区分	件数	参加者数
本館	0 件	0 人
演芸場	0 件	0 人
能楽堂	0 件	0 人
文楽劇場	2 件	252 人
国立劇場おきなわ	1 件	191 人

③ 組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・学校に実演家が赴いて、学生に琉球芸能の魅力を伝えるおでかけワークショップを引き続き実施した。

4 - [2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進める
- (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施
 - イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施
 - ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、ICT等を有効利用して公開
 - エ 舞台美術センター資料館については、展示施設としての機能から衣裳等の保管機能への移行を進める
- (3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用し、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する
 - イ 公開講座、公演記録の鑑賞会やICTを活用した公演記録映像の有料配信等を実施

《年度計画の概要》

- 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用
- ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等の上演作品等についての資料調査
 - ① 現代舞台芸術に関する調査を新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等の実施
 - ② 他劇場等の情報収集・活用
 - ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等へ貸与
 - ④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介
 - イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、他の劇場施設等への貸与
 - ① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮した利用促進
 - ② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化
 - ③ ホームページで公開している「公演記録データベース」の充実
 - ④ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施
 - ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 10 のとおり実施
舞台美術センター資料館については施設に対する活用方法に係るニーズが変化したことから、第 5 期中期目標期間に展示施設としての機能から衣裳等の保管機能へ移行することを目指し、地元への説明を行うなど具体的な作業を進める
- (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用
 - イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、普及活動を実施
 - ① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 11 のとおり実施
 - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等
 - ③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で有料配信等を実施

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

① 現代舞台芸術に関する調査・調査結果を活用した講演会等の実施

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び演劇研究会委員による演劇研究会を定期開催した。
- ・民間出版社と連携して戯曲を刊行した。
◇6月演劇「楽園」(「悲劇喜劇」2023年7月号掲載)
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催した。
- ・新制作オペラの作品理解を深めるため、オペラ「リゴレット」「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」「シモン・ボッカネグラ」で演出家等のスタッフによるオペラトークを行った。また、オンライン(YouTube)でもアーカイブ配信を行った。
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載した。
オペラ：10冊、演劇：5冊

② 他劇場等の情報収集・活用

- ・「演劇研究会」により国内の劇場(シアターねこ、座・高円寺、ロームシアター京都)を調査研究し、成果を演劇公演プログラム(3冊)に掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施した。

③ 公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料の整理・保存を行った。
- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録し、公開した。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した。

④ 外部機関等との連携による調査研究

- ・学校法人華学園 華服飾専門学校、東京都服飾学校協会と連携し、華服飾専門学校在校生が初台アート・ロフトのクリエイティブチームと共に海外デザイナーの手がけた舞台衣裳の技法や表現を観察し、そこから得られたアイデアも取り入れ、各自がパネルによるアート作品(アッサンブラージュ)を創作するワークショップを実施した。

イ 現代舞台芸術に関する図書・資料の収集・活用

① 情報センターの利用促進

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	375冊	0点	4,467人	230日	555人	612人	731人	0件

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため休止していたビデオブースでの一般向けの記録映像公開を再開した。
- ・上演する公演に合わせて、関連書籍、過去の公演プログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。
- ・閲覧室に「調査研究関連コーナー」を設置、情報センターが収蔵する資料から舞台芸術に関する調査、研究報告書をピックアップして開架し、ホームページでも紹介した。

(b) 現代舞台芸術に関する図書・資料等の他の劇場施設等への貸与等

展示名	会場	主催等	活用内容	日程
「オペラの扉 2023 ～ KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION ～悪女と悪党展～」	ロームシアター京都	公益財団法人ロームミュージックファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	舞台装置模型・衣裳貸出	9/13～12/3
オペラ歌手とピアノで贈る ソラマチクリスマスコンサートに伴う舞台衣装展示	東京スカイツリータウン ソラマチ 5F スペース 634	東京ソラマチ	舞台衣裳貸出	12/16～25

② データベースの充実

(a) 図書資料管理・所蔵品管理システム

・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収蔵情報をホームページで公開した。

(b) 公演記録データベース

・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

ウ 資料等の展示公開

(a) 展示公開実績

展示室	企画内容	日程	日数(日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
新国立劇場内	公演関連展示(情報センター)	随時	230	4,467	2,600	171.8%

《新国立劇場内のオープンスペースを活用した衣裳展示等実績》

内容	期間	特記事項
初台アート・ロフト「時空をこえて—Across Time and Space—展」	4月～9月	「初台アート・ロフト「時空をこえて」舞台衣裳展鑑賞ツアー」と題して「時空をこえて展」クリエイティブチームと一緒に回る鑑賞ツアーを実施した(7/28～30。参加者数 138名)。
初台アート・ロフト「奇想空間—進化し続ける遊び心—展」	10月～2月	12月にはバレエ「くるみ割り人形」の上演にちなんで冬の装いを追加し、クリスマスフオトスポットを2か所設置した。
オペラ「リゴレット」の衣裳展示	オペラ「アイダ」の上演期間中	
バレエ「白鳥の湖」の衣裳展示	こどものためのバレエ劇場 2023「エデュケーショナル・プログラム 白鳥の湖」の上演期間中	

(b) 展示公開に関する広報等

・会報誌ジ・アトレ、ホームページ、SNS等にて告知を行った。

(c) 舞台美術センター資料館の機能移行

・舞台美術センター資料館(銚子市)については、衣裳等の保管機能を強化することとし、機能の移行を進めていくに当たって、地元地域への説明等の今後の計画を検討した。

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

・記録写真をホームページの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。

《作成実績》

区分	実績
記録件数・内容	映像・音声・写真 33 公演
公開件数(記録写真)	33 公演
公開件数(記録映像)	48 公演 64 件

イ 普及活動

① 現代舞台芸術に関する公開講座等

(a) 公開講座等実績

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
新国立劇場内	現代舞台芸術講座	19 回	10 回	190.0%
	新国デジタルシアター映像配信	8 回	8 回	100.0%
	現代舞台芸術分野 合計	27 回	18 回	150.0%

・青島広志の解説とピアノ演奏、ゲスト歌手の歌唱、公演記録映像を教材としたレクチャー・イベント「教えて、ブルーアイランド先生！新国立劇場で学ぶ 西洋音楽史」を実施した(全6回。参加者数 1,046人)。
 ・演劇研究会の成果として、公演ガイドツアーや、演出家等が演劇公演の作品の見どころ等について解説する「演劇晰」、中高生向けのワークショップ等、演劇制作の現場や舞台の周辺などを様々な切り口で掘り下げる「ギャラリープロジェクト」を開催した。

- ・ギャラリープロジェクトはオンライン(YouTube)でも開催した。

《ギャラリープロジェクト開催実績》

実績		前年度実績	
件数	参加者数	件数	参加者数
13 件	5,527 人	14 件	30,342 人

※参加者数には、オンラインでの視聴回数を含む。

(b) 公開講座等に関する広報等

- ・会報誌ジ・アトレ、公演プログラム、ホームページ、SNS 等にて告知を行った。

① 公演の実施にあわせた関連講座・展示等

《公演関連講座・展示等の実施実績》

区分	件数	参加者数
新国立劇場	11 件	5,303 人

② 公演記録映像の有料配信等

実績		前年度実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
2 件	436 回	0 件	0 回

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	142
1 業務運営の効率化	144
(1) 組織体制の整備・強化	144
(2) 給与水準の適正化	146
(3) 契約の適正化	146
(4) 共同調達等の取組の推進	146
(5) 情報システムの活用	148
(6) 予算執行の効率化	148

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化に関する取組

運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、令和4年度比5%以上の効率化を図る

2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、再整備期間中の業務及び組織体制の検討を行い、必要な措置を講ずる

3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

4 契約の適正化

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」に基づく取組を実施、外部有識者等で構成する契約監視委員会による点検など、契約の適正化を推進、毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直し

5 共同調達等の取組の推進

(1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

(2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進

6 情報システムの活用

ICTの活用など効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

(1) 組織体制の整備・強化

国立劇場閉場後の業務に応じた組織体制を検討し、必要な措置を講ずる

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

(5) 情報システムの活用

ア ICTの活用など効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

イ ワークフローシステム等の電子決裁を推進

ウ 仮想デスクトップシステムを活用し、テレワーク等新たな働き方に対応した業務形態の実現を目指す

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度導入したクラウドPBX及びスマートフォン並びに4年度に導入した仮想デスクトップシステムなど情報システムの有効活用により、代替施設における公演や養成所の事務所移転に対応した。 ・電子決裁の有効活用によるペーパーレス化が一層進んだ。 ・その他の項目についても、計画どおり必要な措置を講じた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	「業務運営の効率化に関する取組」参照
主要な業務実績	<p>(1) 組織体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場閉場後の業務に応じた組織体制について引き続き検討を行った。 ・伝統芸能分野の養成事業の実施体制について、既存の養成課(養成研修の実施)に加えて、新たに国立劇場全体の養成事業の企画(各劇場養成事業の一体化・連携強化)や寄附金等に関する業務を実施する部署の設置について検討を進め、令和6年4月に調査養成部に養成企画課を設置することを決定した。 <p>(2) 給与水準の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。 <p>(3) 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の「調達等合理化計画」を策定し、調達等の合理化に取り組んだ。 <p>(4) 共同調達等の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙の調達については、振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの4者により共同調達を実施した。 ・トイレトペーパー及びペーパータオルの調達については、公益財団法人新国立劇場運営財団と共同調達を実施した。 ・地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進については、温室効果ガス排出量の削減に向けて、新たに政府の実行計画に準じた「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」を策定した。 <p>(5) 情報システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化デジタルライブラリーシステムを更新し、利便性の強化と可用性の向上を推進した。 ・クラウドPBX及びスマートフォンの導入を行い、利用環境の安定化と国立劇場再整備に伴う事務所移転に向けた対応を行った。 <p>(6) 予算執行の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。

1 業務運営の効率化

【業務運営の効率化に関する取組】

一般管理費及び業務経費:以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A: 令和4年度の予算額(特殊要因経費、新たに追加される業務、公課公租及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の予算額(特殊要因経費、新たに追加される業務、公課公租及び人件費を除く)

《一般管理費》

区分	金額
令和4年度予算(A)	384百万円
令和5年度予算(B)	381百万円
増減比率	△1%

《業務経費》

区分	金額
令和4年度予算(A)	5,127百万円
令和5年度予算(B)	5,076百万円
増減比率	△1%

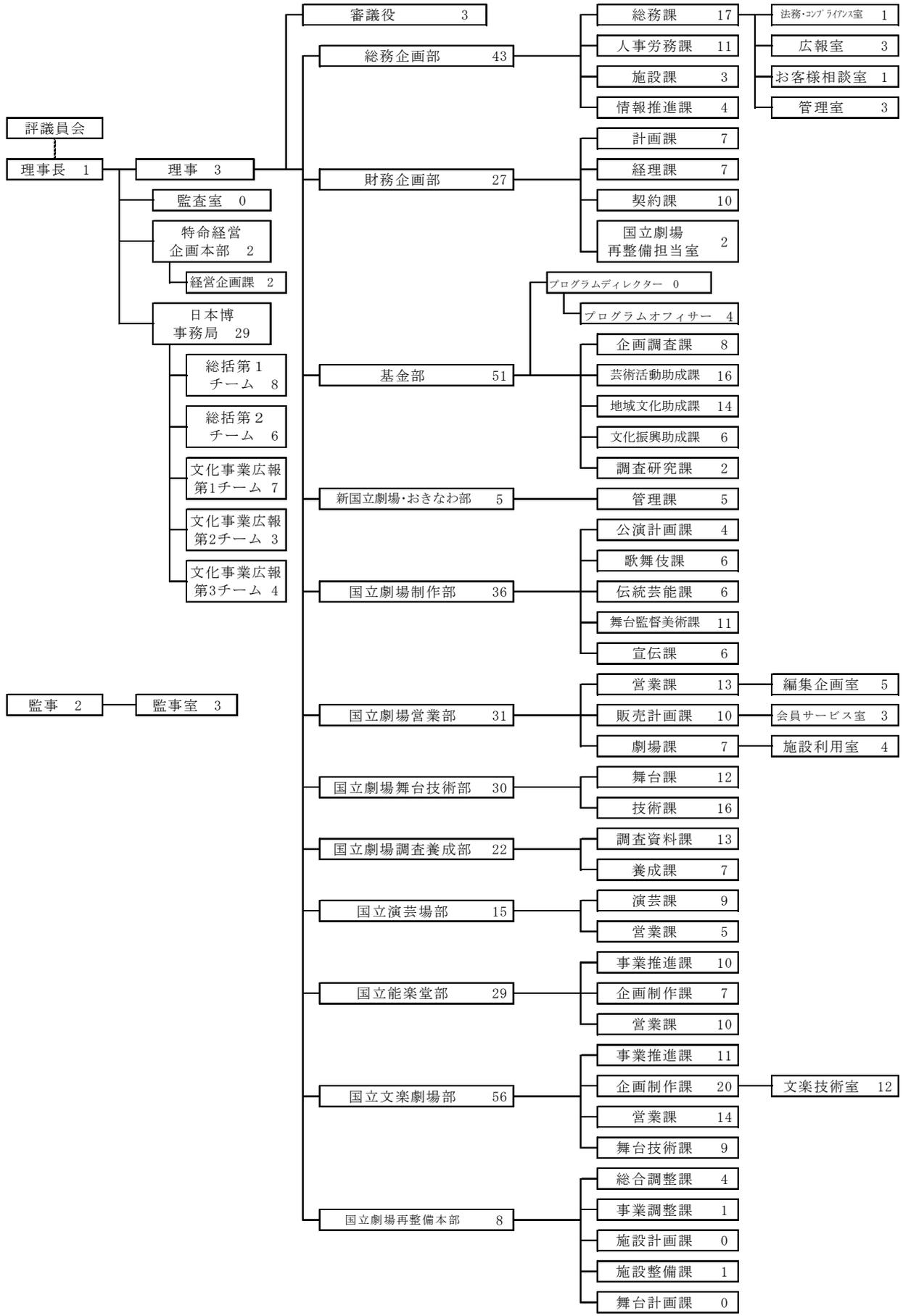
※増減比率は千円単位の予算に基づいて算出しているため、百万円単位での計算と一致しない場合があります。

(1) 組織体制の整備・強化

- ・ 伝統芸能の各分野の養成事業を一体的に実施する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」を設置した。
- ・ 国立劇場閉場後の業務に応じた組織体制について引き続き検討を行った。
- ・ 伝統芸能分野の養成事業の実施体制について、既存の養成課(養成研修の実施)に加えて、新たに国立劇場全体の養成事業の企画(各劇場養成事業の一体化・連携強化)や寄附金等に関する業務を実施する部署の設置について検討を進め、令和6年4月に調査養成部に養成企画課を設置することを決定した。
- ・ 文化庁から移管された業務等を実施するために、基金部に文化振興助成課、調査研究課、文化芸術活動基盤強化基金補助金「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業」に関するプロジェクトチームを設けた。
- ・ 国立劇場閉場を契機に、国内外への情報発信の取り組みを更に強化すべく、総務企画部総務課に広報室を設置し、振興会全体で広報・宣伝を行う体制を整えた。
- ・ 国立劇場稽古場等の貸与を担当する営業部営業課施設利用室の体制を縮小し、制作部公演計画課を増員することで、代替劇場を確保するための業務体制を強化した。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和6年3月31日現在)



(2) 給与水準の適正化

ア 対国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ラスパイレス指数[※]は、109.1（地域・学歴勘案=95.9）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.7（地域・学歴勘案=101.4）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数=国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 83.4%

(国からの財政支出額 28,467 百万円/支出予算の総額 34,139 百万円(令和4年度予算))

イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和4年度ベース)。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和5年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・「調達等合理化計画」に基づき、適正な調達手続きの周知、理解を徹底し、不祥事の発生の未然防止を図るため、「調達手続きの手引き」改訂版を内部ホームページと掲示板により周知を図った。
- ・「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、財務企画部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。

イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・第29回契約監視委員会(6/21)
 - ◇議事：令和4年度契約に関する点検・見直し(審議)、令和5年度調達等合理化計画の策定について(審議)、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和4年度分)について(報告)、令和4年度調達等合理化計画の自己評価の実施(報告)
- ・第30回契約監視委員会(12/5)
 - ◇議題等：連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和5年度分)について(審議)、令和5年度調達等合理化計画における進捗状況について(報告)
- ・外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第29回、第30回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。
- ・第29回契約監視委員会を開催し、競争性のある契約(一般競争・企画競争)及び競争性のない随意契約について、契約変更の妥当性や予定価格の算定方法の適正性等を点検審議した(6/21)。
- ・第30回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、競争性の確保等を審議した(12/5)。

《改善内容》

- ・「令和6年度国立劇場構内で使用する電気の調達」(仕様内容等を検討し、一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

ウ 電子入札の実施

- ・入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

① コピー用紙

- ・ 振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施した。

② トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・ 振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施した。

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

① 地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・ 地球温暖化対策を推進するために、自らの温室効果ガス排出量の把握に努め、東京都の削減目標に従って計画的削減に努めた。
- ・ 温室効果ガス排出量の削減に向けて、新たに政府の実行計画に準じた「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」を策定した。

② 光熱水量の節減

- ・ 本館・演芸場が10月をもって閉場したことにより、隼町地区の電気・ガス・水道使用量が減少した。
- ・ 劇場稼働率の上昇・入場者数の増加に伴ってトイレの使用が増加したことなどにより、文楽劇場の水道使用量が増加した。

事項	区分	使用量	対前年度増減率
電気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	4,339,440 kwh	△ 8.5%
	能楽堂	747,251 kwh	△ 4.0%
	文楽劇場	1,186,958 kwh	+5.5%
	合計	6,273,649 kwh	△ 5.6%
ガス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	114,852 m ³	△ 28.9%
	能楽堂	80,250 m ³	+3.3%
	文楽劇場	81,146 m ³	△ 2.9%
	合計	276,248 m ³	△ 14.4%
水道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	25,057 m ³	△ 16.7%
	能楽堂	6,646 m ³	△ 13.6%
	文楽劇場	9,062 m ³	+14.8%
	合計	40,765 m ³	△ 10.7%

③ 廃棄物の減量化

- ・ 本館・演芸場の閉場や事務所移転の準備のため、隼町地区の廃棄量が増加した。
- ・ 劇場稼働率の上昇・入場者数の増加などにより、文楽劇場の廃棄量が増加した。

事項	区分	処理量	対前年度増減率
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	41,827 kg	△ 5.2%
	能楽堂	3,951 kg	+1.2%
	文楽劇場	11,879 kg	+22.6%
	合計	57,657 kg	△ 0.1%
再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	42,444 kg	+16.3%
	能楽堂	4,928 kg	+9.4%
	文楽劇場	9,180 kg	△ 4.8%
	合計	56,552 kg	+11.7%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	67,475 kg	+395.1%
	能楽堂	453 kg	△ 16.0%
	文楽劇場	5,430 kg	+34.4%
	合計	73,358 kg	+302.9%

④ ペーパーレス化

- ・電子決裁の有効活用によるペーパーレス化が一層進んだ。
- ・本館・演芸場が10月をもって閉場したことにより、コピー用紙使用量・購入枚数が減少した。

事項	区分	枚数	対前年度増減率
コピー用紙 使用量	本館・演芸場	804,801 枚	△ 23.0%
	事務棟	1,895,625 枚	△ 4.6%
	伝統芸能情報館	319,280 枚	△ 30.8%
	能楽堂	375,206 枚	△ 4.7%
	文楽劇場	321,321 枚	△ 6.1%
	合計	3,716,233 枚	△ 12.1%
	うち管理部門	1,121,110 枚	△ 13.7%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	2,107,000 枚	△ 21.9%
	能楽堂	303,500 枚	△ 15.5%
	文楽劇場	278,000 枚	△ 9.0%
	合計	2,688,500 枚	△ 20.0%

⑤ グリーン購入法に基づく調達

- ・事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

(5) 情報システムの活用

- ・公演情報と収蔵資料等のアーカイブ及び舞台芸術教材の配信に係る文化デジタルライブラリーシステムの更新を行い、利用者の利便性を向上させるとともに、システムをクラウド環境に移すことで可用性の強化を行った。併せて、一般利用者が各館で同システムを閲覧するための閲覧用パソコンを更新した。
- ・10月にインボイス制度の運用が始まるのに先立ち、制度に適した帳票を出力できるようにするための出演者システム及びワークフローシステムの改修作業を行った。
- ・隼町地区電話交換機の老朽化及び国立劇場再整備に伴う事務所移転への対応として、クラウド PBX 及びスマートフォンを導入し、同地区全体で運用を開始した。同様にクラウドコールセンターシステムの導入に向けて調達を行い、具体的な協議を進めた。
- ・養成課の事務所移転に伴い、情報システムの利用環境を整備した。
- ・舞台技術業務用パソコンなど、仮想デスクトップを利用しないパソコンを館外でも安全に利用できるようにするための認証デバイスやディスク暗号化機能の導入を進め、運用を開始した。
- ・国立劇場等の閉場及び他劇場での公演の実施に関する広報を効果的に行うために、振興会 Web サイトの改修を行った。併せてサイトへの攻撃(ボット)対策のためのリキャプチャ機能を導入した。
- ・EU 一般データ保護規則(GDPR)等への対応として、Cookie 取得同意バナーを文化デジタルライブラリーシステム及び振興会 Web サイトに導入した。

(6) 予算執行の効率化

- ・各課室の予算執行見込について把握し、不用・不足を調整する等、効率的な予算執行に努めた。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画	149
1 予算	152
2 収支計画	153
3 資金計画	154
4 保有資産の処分	154

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

《中期計画の概要》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で、社会情勢に対応した事業展開において安定的な自己収入の確保を図るとともに、保有財産の有効活用やクラウドファンディング等を活用した外部資金の獲得など多様な財源確保に努め、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進めるため、各事業年度において適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

- 1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり
- 2 収支計画 別紙2のとおり
- 3 資金計画 別紙3のとおり
- 4 保有資産の処分

「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる

- 1 助成事業の充実
- 2 公演事業の充実
- 3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実
- 4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実
- 5 研修器具、芸能資料等の購入・修理
- 6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《年度計画の概要》

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

目標自己収入額:3,209百万円

- 1 予算 別紙1のとおり
- 2 収支計画 別紙2のとおり
- 3 資金計画 別紙3のとおり
- 4 保有資産の処分

保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものは不要財産として国庫納付等を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<p>以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な業務運営を見込んだ予算の策定を行い、法人全体で予算執行の抑制に努めた。 ・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 ・初代国立劇場さよなら公演を共に盛り上げるパートナー企業として、10社からの協賛を得た。 ・文楽「曾根崎心中」の舞台で使用されるアニメーションの背景美術映像の制作費用のため、クラウドファンディングによる寄附募集活動「文楽×アニメーション ー日本が誇る文楽を世界へ！PROJECTー」を実施した。 ・養成研修事業において、事業への理解促進と安定した外部資金の獲得のため、継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始した。 ・各館の公演等事業への寄附金を得るため、引き続き、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」への寄附を募った。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	自己収入の確保状況:3,444百万円/3,209百万円 (107.3%)
主要な業務実績	<p>1 予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に外部資金を獲得すべく、初代国立劇場さよなら特別公演協賛企業の募集、文楽「曾根崎心中」に関するクラウドファンディングや、「国立劇場養成所サポーター」の寄附募集等を展開した。 <p>2 収支計画</p> <p>3 資金計画</p> <p>4 保有資産の処分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船橋第三職員宿舎及び習志野職員宿舎を令和5年6月に国庫納付した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料収入や施設使用料収入について、国民の鑑賞機会の確保等に留意しつつ、公演収支の分析や料金の見直し等により安定的な自己収入の確保に向けた検討を行うとともに、様々な外部資金の獲得に向けた取組を進める。 ・国立劇場・国立演芸場は令和5年10月をもって閉場し、代替劇場での公演が令和6年度は通年で展開される。初めて公演を実施する劇場もある中、財務面で計画通り進捗しないことも想定されるため、一層細やかな執行管理に努める。

《方 針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

《自己収入の確保状況》

区分	助成事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
実績	459 百万円	2,450 百万円	35 百万円	13 百万円	487 百万円	3,444 百万円
年度計画	456 百万円	2,324 百万円	19 百万円	8 百万円	402 百万円	3,209 百万円
					達成率	107.3%

- ・芸術文化振興基金等の運用収入、主催公演や研修発表会等の入場料収入、劇場施設の使用料収入、所蔵資料の複製使用料、映像配信による収入等により、安定的な自己収入の確保を図った。
- ・寄附金・補助金等の外部資金を積極的に獲得した。

《外部資金の獲得状況》

区分	件数(件)	金額(千円)
オーケストラ支援への寄附	1	300,000
芸術文化振興基金に対する民間出せん金	46	500,858
文化芸術復興創造基金	18	150
主催公演における共催負担金	2	11,186
初代国立劇場さよなら特別公演企業協賛	10	7,073
公演事業への協賛	5	2,010
公演事業等への寄附	1	300,000
国立劇場基金(くろごちゃんファンド)	1,084	117,858
養成事業継続寄附(養成所サポーター制度)	481	1,143
クラウドファンディングによる寄附	480	9,030
国庫財源以外による外部資金の獲得状況(小計)	2,128	1,249,308
文化庁芸術祭主催公演請負代金	1	25,263
コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金(ライブエンタメ産業の基盤強化支援) J-LOX	2	43,861
観光再始動事業(委託費)	1	14,598
国庫財源による外部資金の獲得状況(小計)	4	83,722
合計	2,132	1,333,030

- ・初代国立劇場さよなら公演を共に盛り上げるパートナー企業として、10社からの協賛(7,073千円)を得た。
- ・文楽「曾根崎心中」の舞台で使用されるアニメーションの背景美術映像の制作費用のため、クラウドファンディングによる寄附募集活動「文楽×アニメーション ―日本が誇る文楽を世界へ! PROJECT―」を実施した。
 - ◇募集期間:12/5~1/31
 - ◇寄附実績:480件、9,030千円(開始時第一目標5,000千円)
- ・養成研修事業において、事業への理解促進と安定した外部資金の獲得のため、継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始した。
 - ◇令和5年8月募集開始
 - ◇寄附実績:481件、1,143千円
- ・コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金補助金を獲得し、公演の実施及び当該公演の海外向け動画の配信を行った。

1 予算

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
収 入			
運営費交付金	11,798	11,798	0
雑収入	73	64	△9
文化芸術振興費補助金	11,153	21,335	10,182
施設整備費補助金	310	244	△66
文化資源活用事業費補助金	300	300	0
コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金	—	44	44
基金運用収入	162	181	18
寄附金収入	621	399	△221
その他の助成事業収入	—	3	3
公演等事業収入	2,873	3,020	147
公演受託事業収入	1,830	1,864	33
計	29,120	39,252	10,132
支 出			
一般管理費	2,701	1,659	1,042
うち人件費	1,173	1,188	△15
うち物件費	1,528	471	1,057
事業費	9,170	9,116	54
うち人件費	2,271	2,266	4
うち助成情報提供等事業費	292	294	△2
うち国立劇場事業費	1,911	1,860	52
うち国立劇場おきなわ事業費	642	642	△0
うち新国立劇場事業費	4,054	4,054	△0
文化芸術振興費	11,153	20,483	△9,330
うち人件費	137	174	△38
うち物件費	11,016	20,309	△9,292
施設整備費	310	244	66
文化資源活用事業費	300	290	10
コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費	—	44	△44
基金助成事業費	1,143	939	204
うち人件費	133	135	△2
うち物件費	1,010	804	205
公演等事業費	2,973	2,782	191
公演受託事業費	1,830	1,810	21
計	29,580	37,367	△7,786

《主な増減理由》

(1) 収入

- ・文化芸術振興費補助金については、助成事業において令和4年度からの繰越事業を実施したこと等により10,182百万円の増となった。
- ・施設整備費補助金については、計画額には令和5年度補正予算事業の国立能楽堂 能舞台照明設備改修工事(144百万円)、国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事(69百万円)、国立劇場おきなわ 大劇場舞台機構設備整備 第1期(吊物制御PC)(55百万円)、新国立劇場 二酸化炭素消火設備容器弁交換工事(13百万円)、新国立劇場 オペラ劇場舞台機構設備整備(上手トラッキングワゴン1及び3)(29百万円)について計上したのに対し、実績額には、令和4年度補正予算事業の国立文楽劇場空調設備等衛生施設改修工事(55百万円)、国立劇場おきなわ音響設備整備(145百万円)、新国立劇場電話交換機設備改修工事(44百万円)を計上したことにより、結果として66百万円の減となった。

- ・コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金については、獲得した補助金額(44 百万円)を計上した。
- ・寄附金収入については、寄附金を財源として支出した基金助成事業費、公演事業費、研修事業費及び調査研究事業費と同額を収入実績額として計上したことにより、221 百万円の減となった。
- ・公演等事業収入については、還付消費税(181 百万円)、入場料収入の減等により 147 百万円の増となった。
- ・公演受託事業収入については、計画額には日本博運営委託費(1,830 百万円)について計上したのに対し、実績額には日本博運営委託費(1,830 百万円)、文楽入門公演「BUNRAKU 1st SESSION」入場料収入(17 百万円)、観光再始動事業(15 百万円)等を計上したことにより、33 百万円の増となった。

(2) 支出

- ・一般管理費のうち人件費については、退職手当が見込みより多かったこと等により、15 百万円の増となった。また、物件費については、国立劇場再整備等事業の繰り延べ等により、1,057 百万円の減となった。
- ・事業費のうち国立劇場事業費について水道光熱費が減少したこと等により、事業費全体で 54 百万円の減となった。
- ・文化芸術振興費については、助成事業における令和 4 年度からの繰越事業(9,957 百万円)、助成金の取下げや減額の発生等により 9,330 百万円の増となった。
- ・施設整備費については、計画額には令和 5 年度補正予算事業の国立能楽堂 能舞台照明設備改修工事(144 百万円)、国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事(69 百万円)、国立劇場おきなわ 大劇場舞台機構設備整備 第 1 期(吊物制御 PC)(55 百万円)、新国立劇場 二酸化炭素消火設備容器弁交換工事(13 百万円)、新国立劇場 オペラ劇場舞台機構設備整備(上手トラッキングワゴン 1 及び 3)(29 百万円)について計上したのに対し、実績額には、令和 4 年度補正予算事業の国立文楽劇場空調設備等衛生施設改修工事(55 百万円)、国立劇場おきなわ音響設備整備(145 百万円)、新国立劇場電話交換機設備改修工事(44 百万円)を計上したことにより、結果として 66 百万円の減となった。
- ・コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金については、獲得した補助金による支出額(44 百万円)を計上した。
- ・基金助成事業費の物件費については、寄附金充当事業の減等により 205 百万円の減となった。
- ・公演等事業費については、公演費、業務委託費等の減により、191 百万円の減となった。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
国立劇場公演等事業費	9,427	9,462	35
新国立劇場公演等事業費	4,269	4,386	117
基金助成事業費	12,656	21,782	9,126
一般管理費	2,776	1,435	△1,341
財務費用	11	11	0
雑損失	—	65	65
臨時損失	—	1	1
計	29,138	37,142	8,003
収益の部			
運営費交付金収益	10,722	9,886	△836
事業収入	2,520	2,402	△118
受託事業収入	1,830	1,838	8
財産利用収入	44	46	2
資産見返負債戻入	725	640	△85
賞与引当金見返に係る収益	256	242	△14
退職給付引当金見返に係る収益	△ 37	54	91
補助金等収益	11,453	20,816	9,363
施設整備費補助金収益	0	5	5
寄附金収益	621	399	△222
財務収益	524	691	167

雑益	21	244	223
臨時利益	—	2	2
計	28,678	37,265	8,586
純利益	△ 460	124	584
積立金取崩額	460	466	6
総利益	—	590	590

《主な増減理由》

(1) 費用の部

・基金助成事業費については、前年度からの繰越事業の実施等の要因により、9,126百万円の増となった。

(2) 収益の部

・運営費交付金収益については、固定資産取得額が計画よりも少なかったこと等の要因により、836百万円の減となった。

・補助金等収益については、前年度からの繰越事業の実施等の要因により、9,363百万円の増となった。

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	54,605	65,229	10,624
業務活動による支出	29,955	40,526	10,571
投資活動による支出	2,148	3,951	1,803
財務活動による支出	302	309	7
翌年度への繰越金	22,200	20,443	△1,757
資金収入	54,605	65,228	10,623
業務活動による収入	33,635	45,203	11,568
運営費交付金による収入	10,623	11,798	1,175
補助金による収入	17,453	27,767	10,314
公演等事業による収入	2,873	2,166	△707
公演受託事業による収入	1,830	1,851	21
養成事業による収入	39	31	△8
基金運用による収入	162	181	19
その他の収入	654	1,409	755
投資活動による収入	1,710	2,895	1,185
施設整備費補助金による収入	310	244	△66
その他の収入	1,400	2,651	1,251
財務活動による収入	600	501	△99
民間出えん金受入れによる収入	600	501	△99
前年度よりの繰越金	18,660	16,629	△2,031

《主な増減理由》

(1) 資金支出

・業務活動による支出については、前年度からの繰越事業の実施等の要因により、10,571百万円の増となった。

(2) 資金収入

・補助金による収入については、前年度からの繰越事業の実施等の要因により、10,314百万円の増となった。

4 保有資産の処分

(1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に

国立能楽堂	1	東京都渋谷区		実施するために必要な施設である。 なお、国立劇場(本館・演芸場)については、国立劇場再整備等事業のため、令和5年10月をもって一時閉場しており、再整備後に再開場の予定である。 令和5年度の稼働率の実績:P.95参照
国立文楽劇場	1	大阪府 大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和5年度の稼働率の実績:P.95参照
新国立劇場 舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパートリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	3	東京地区(2) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全39戸(うち入居戸数28戸。入居率71.8%)。

(2) 金融資産の保有状況

ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 190百万円
 有価証券： 2,000百万円
 投資有価証券： 76,736百万円
 長期性預金： 2,900百万円

イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況はI-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

船橋第三職員宿舎及び習志野職員宿舎を令和5年6月に国庫納付した。

《参 考》

1. 剰余金

損益計算の結果、令和5事業年度の当期総利益は590百万円である。

《利益が生じた主な理由》

[収入支出決算]

- (1) 公演等事業収入が、年度計画予算に対し147百万円増加した。その主な内容は次のとおり。
- ・還付消費税の増181百万円
 - ・有価証券利息の増45百万円
 - ・劇場入場料収入の減92百万円
- (2) 公演等事業費が、年度計画予算に対し191百万円減少した。その主な内容は次のとおり。
- ・国立劇場公演等事業費(公演費等)の減258百万円
 - ・新国立劇場公演事業費(保守修繕費等)の増52百万円

[損益計算]

- ・運用中の有価証券の未収収益を計上したことにより、116百万円の収益の増となった。
- ・固定資産の計上に伴う費用の減少により、81百万円の収益の増となった。

2. 運営費交付金債務

令和6年3月31日現在における運営費交付金債務残高は1,069百万円である。

(単位：百万円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額					引当金見返との 相殺額	期末残高
	運営費交付金 収益	運営費交付金 精算収益化額	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金		
11,798	9,886	0	180	0	0	663	1,069

3. 目的積立金等の状況

(単位：百万円)

	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末	令和8年度末	令和9年度末
前期中期目標期間繰越積立金	3,745				
目的積立金	0				
積立金	0				
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0				
運営費交付金債務	1,069				
当期の運営費交付金交付額 (a)	11,798				
うち年度末残高 (b)	1,069				
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	9.06%				

IV その他業務運営に関する重要事項

IV その他業務運営に関する重要事項	157
1 その他業務の運営に関する取組	160
2 施設及び設備に関する計画	162
3 人事に関する計画	165
4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項	167

IV その他業務運営に関する重要事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映

(2) 運営費交付金等の有効活用、理事長のマネジメントの強化、監査機能の充実

(3) 法令等に基づき法人文書を適正に作成、管理

(4) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底

ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

2 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ対策

「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」にのっとり情報システムの適切な整備・管理、法令等に基づいた適切な情報の開示、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策の推進

3 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備の推進

各劇場等施設について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

(2) 国立劇場再整備に関する事業の推進

「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づいたPFI事業実施に向けた手続きの推進、PFI事業における業績監視、国立劇場等の再開場に向けた新たな国立劇場の在り方の検討

4 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実

② 適切な労務管理の実施、多様で柔軟な働き方を推進するための制度の検討・導入

ウ 人材確保・育成方針に基づき、デジタル分野等専門的分野も含めた必要な人材の確保・育成を実施

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、以下のものに充てる

(1) 中期計画の剰余金に規定されている経費

(2) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(3) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

《年度計画の概要》

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 令和4年度の事業の実施結果について、自己点検評価、外部専門家からの意見聴取、外部の有識者・各分野の専門家等で構成する評価委員会における業務の実績に関する評価を実施

- イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化、法令遵守の周知徹底や役職員を対象としたコンプライアンス研修等の実施
- ウ リスク管理委員会において、業務ごとに内在するリスクを把握、リスク顕在時における対応策を策定
- エ 令和4年度に導入した文書システムによる電子決裁を活用し、法人文書の適正な作成、管理を実施
- オ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進より効果的な情報発信に向けたホームページの改修について検討

(2) 情報セキュリティ対策

- ア 「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」にのっとり情報システムの適切な整備・管理
- イ 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえて作成した情報セキュリティポリシーに沿って、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る
- ウ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応、ウイルスや不正アクセス等の情報を収集、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練や研修を実施

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

政府及び都道府県の要請等を踏まえ、観客、出演者・関係者及び役職員の安心・安全に配慮した適切な業務運営を実施

2 施設及び設備に関する計画

- (1) 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づき、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進
- (2) 国立劇場等の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチームにより策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に沿い、入札・契約手続きを進める

3 人事に関する計画

(1) 方針

- ア 職員の計画的・適正な配置、効果的な人事交流の実施
- イ 事務能率の維持、増進を図る
 - ① 職員に対する実務研修等の充実
 - ② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入
- ウ 人材確保・育成方針に基づき、デジタル分野等専門的分野も含めた必要な人材の確保・育成を実施

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地域の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

自己評価	B
自己評価の根拠	<p>以下に示すとおり、概ね年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場再整備等事業については、年度計画に定めたとおり、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(文部科学副大臣主宰)により策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に沿って事業を進めた。この整備計画に基づき6月に実施した入札において、落札に至らなかった。このため、次期入札に向けて、有識者検討会を実施するなど要件その他の検討を進めている。 ・未来へつなぐプロジェクトとして、初代国立劇場・国立演芸場さよなら記念事業(閉場式、記念公演等)を推進した。また、有料イベントや閉場記念誌・記念グッズの販売などにより、自己収入の増加に努めた。 ・内部統制の充実や人事に関する取組等について、年度計画に沿って着実に実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	数値目標なし
主要な業務実績	<p>1 その他業務の運営に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映した。 ・適切な情報セキュリティ対策を講じた。 ・政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準に基づき、振興会情報セキュリティポリシー及び関連する実施手順書等を更新した。 ・コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。 <p>2 施設及び設備に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場再整備等事業について、6/8に実施した入札及び6/20、6/27に実施した再度の入札でいずれもすべての「入札価格」が「予定価格」を超過したことから、応募者の意向を確認したうえで「不落随契」に移行した。その後応募者と協議を重ねたが、7/18までに全ての応募者から入札手続きに関する「辞退届」が提出された。 ・振興会ホームページにおいて「落札に至らなかったこと」を公表した(8/8)。 ・国立劇場再整備等事業に係る建設市場の動向等市場調査を実施した。建設会社5社、不動産会社8社、計13社に対して調査票の送付(8月)、調査票への回答の回収及び各企業への聞き取り調査(9月)を行った。同様の調査を1月にも行った。 ・国立劇場再整備について、次の入札公告に向けた要件その他の検討に当たり、必要な助言を得るため、理事長の下に「国立劇場再整備に関する有識者検討会」を3月に設置し、第1回を実施した(3/26)。 ・未来へつなぐプロジェクトとして、初代国立劇場・国立演芸場さよなら記念事業(閉場式、記念公演等)を推進した。 ・プロジェクトの推進においては、新聞社との連携等により、国立劇場再整備等事業や初代国立劇場・国立演芸場の閉場を広く国民に周知した。 ・さよなら記念事業として、各種有料イベントや閉場記念誌・記念グッズの販売などにより、自己収入の増加にも努めた。 <p>3 人事に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保・人材育成等に関する基本方針を計画的に推進した。 ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。 ・労務管理において、法令遵守の徹底、職員の心身の健康管理および就労の安全を図るため、安全衛生組織や顧問弁護士と連携を随時行った。 <p>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

① 自己点検評価について

《4年度自己点検評価の経過》

5年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
5年3月	各部において自己点検評価を実施
5年3月末～5月	財務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
5年5月8日	理事長により自己点検評価を決定
5年6月28日	評議員会において、4年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

② 外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第62回	6/28	令和4事業年度業務実績及び収入支出決算についての審議、令和4事業年度評価についての報告、令和4年度及び第4期中期目標期間における業務実績に対する文部科学大臣評価結果についての報告、令和6年度計画及び計画予算についての審議等
	第63回	10/12	
	第64回	3/29	
評価委員会	令和4年度第2回	5/12	令和4年度評価の実施
	第3回	6/12	
	第4回	6/19	
	令和5年度第1回	11/14	令和5年度評価についての審議等
芸術文化振興基金運営委員会	第63回	9/25	令和4年度評価の決定、令和6年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和6年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和6年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等
	第64回	1/16	
	第65回	3/14	
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	9/27・3/13	令和5年度公演計画の説明・意見聴取等、令和5年度公演状況の報告、令和6年度公演計画の説明・意見聴取等
	文楽公演専門委員会(本館)	7/13・3/25	
	舞踊公演専門委員会	6/15・3/26	
	邦楽公演専門委員会	6/14・3/27	
	雅楽・声明公演専門委員会	6/22・3/19	
	民俗芸能公演専門委員会	6/19・3/12	
	大衆芸能公演専門委員会	6/21・3/18	
	能楽公演専門委員会	2/2・3/6	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	9/5・3/5	
短期公演等専門委員会(文楽劇場)	8/21・3/13		
事業委員会	養成事業委員会	7/3・3/22	令和4年度評価結果の報告、令和5年度の事業実施状況、令和6年度事業計画についての意見聴取等
	調査事業委員会	7/5・3/8	
	養成事業委員会(おきなわ)	3/18	
	調査事業委員会(おきなわ)	3/15	
	公演事業委員会(おきなわ)	8/25・3/26	

イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化、法令遵守の徹底等

① 内部統制システムの充実

(a) 役員会の開催

- ・役員会を毎月2回開催(8月を除く)し、業務に係る重要事項を審議した(開催回数：22回)。
- ・審議事項の協議に加えて運営上のテーマについて議論するため、7月より運営会議を開始し、毎月2回開催(8月を除く)した。
- ・中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に運営会議で報告した。

(b) 情報伝達

- ・状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇談会」において随時協議し、その内容については、役員会での発言、担当役員から関係部署への指示、又は総務・人事労務担当課等担当部署からの連絡により、周知

と意思疎通を図った。

- ・部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数：5回)。
- ・事故等発生時は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。

(c) 内部統制委員会等の定期開催

- ・理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議した(第1回：8/1～8/14(書面開催)、第2回：11/27～12/1(書面開催))。
- ・主任級以下の常勤職員を対象とする内部統制研修を実施した(3/5。参加者数48名)。

② 監査

(a) 監事監査

- ・定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

《定期監査(令和4事業年度及び令和5事業年度監査)の経過》

4/20	令和5事業年度監査計画 理事長へ提出
6/14	監事と会計監査人とのディスカッション(会計監査人による令和4事業年度監査結果報告)
6/14	令和4事業年度監査報告 理事長へ提出 ※指摘すべき重大な事項は認められなかった。
2/1	監事と会計監査人とのディスカッション(会計監査人による令和5事業年度監査計画説明)

(b) 内部監査

- ・内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

8/18	内部監査計画の作成及び監事への通知
9～2月	監査実施
2/29	監査報告書 理事長へ提出 ※監査報告書に意見を記載(文書専決細則の徹底、交通系ICカードの管理に係る注意喚起) ※監事に監査報告書の写しを送付(3/7) ※監査報告書を法人内に周知(3/7)

③ 法令遵守の徹底等

- ・前年度から引き続き、コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。
- ・各職域の担当者が個別に法務相談ができる、法律顧問による法務相談窓口を昨年度に引き続き設置し、4月に職員に対し利用方法を再度周知した。
- ・最新の法令改正等の安全衛生に関する情報を入手し、コンプライアンスの向上に資するため、施設管理及び舞台技術関係職員を対象に、法律顧問による「安全衛生法改正の伝達研修」を実施した(11/14～12/14。参加者36名)。
- ・12月を劇場安全強化月間に設定し、職員の安全意識向上及び作業時の安全強化を目的とする各種取組を実施した。主な取組は以下のとおり。
 - ◇玉掛け作業に関する特別教育の受講(8/4～6)
 - ◇フルハーネス型墜落制止用器具に関する特別教育講師の養成(フルハーネス型墜落制止用器具特別教育インストラクターコースの受講 11/13～15)
 - ◇安全衛生法改正の伝達研修の開催(11/14)
 - ◇劇場安全講習会の開催(11/27)
 - ◇劇場安全強化月間ニュースを全役職員向けに配信(12/1・7・14・21・28・1/31)
 - ◇フルハーネス型墜落制止用器具に関する特別教育の開催(12/20)
 - ◇代替劇場公演を想定した自衛消防訓練の開催(図上型訓練 12/21)
 - ◇テールゲートリフター特別教育の受講(3/15・25・29)

ウ リスク管理委員会

- ・リスク管理委員会を開催した(第1回：6/20～6/26(書面開催)、第2回：9/25～9/29(書面開催)、第3回：1/22～2/2(書面開催)、第4回：3/25～3/29(書面開催))。
 - ◇代替施設での事業実施において想定されるリスクの把握
 - ◇振興会における新型コロナウイルス感染症対応の検証報告書の取りまとめ
 - ◇リスク管理表の見直し

エ 法人文書の適正な作成・管理

- ・文書管理システムによる電子決裁を活用し、法人文書の適正な作成・管理を行うため、全職員に向けて文書管理研修を行った。
- ・文書管理者・文書管理担当者、総括文書管理者・副総括文書管理者に向けては、全職員向け研修に加え、内閣府の公文書管理eラーニングを利用し研修を行った。

オ 情報開示の推進

- ・公文書等の管理に関する法律(平成 21 年法律第 66 号)及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 適切な情報セキュリティの確保

- ・7月に改定された政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準に基づき、振興会情報セキュリティポリシー及び関連する実施手順書等を更新した。
- ・振興会セキュリティポリシーの理解増進及び意識向上を目的として、外部のeラーニングシステムを活用した情報セキュリティ教育を全役職員(常勤及び非常勤、アルバイト及び医師・看護師等を含む)を対象に実施した。
- ・標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的とした「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。
- ・各職員(常勤及び非常勤)が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施した。
- ・情報セキュリティポリシーに基づき、人事給与システムを対象としてセキュリティ監査を行った。

イ 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応

- ・振興会ホームページについて第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター等から公表されるソフトウェアの脆弱性情報に対して、随時振興会内の全情報システムを調査し、必要な対策を行った。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供される脆弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行った。また、年末年始等の長期休業期間における情報セキュリティ対策事項を適宜周知した。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

- ・ガイドライン・実施要領等に従って、公演・展示等の各事業を実施した。
- ・公演の実施に際しては、事前に出演者・スタッフ等にPCR検査を実施するなどの対策を講じた。
- ・新型コロナウイルス感染症が感染症法5類に移行したことにより、ガイドライン及び実施要領を廃止した。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備

ア 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づく整備

- ・本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、再整備までの期間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行った。

《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立文楽劇場空調設備等衛生施設改修工事	55,460 千円
国立劇場おきなわ音響設備整備	144,650 千円
新国立劇場電話交換機設備改修工事	43,960 千円

(2) 国立劇場再整備等事業

① 国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について

- ・国立劇場再整備等事業について、応募グループから入札書・二次審査資料(提案書)の提出があった(6/7)。

- ・6/8 に実施した入札及び6/20、6/27 に実施した再度の入札でいずれも全ての入札価格が予定価格を超過したことから、応募者の意向を確認したうえで不落随契に移行した。その後応募者と協議を重ねたが、7/18 までに全ての応募者から入札手続きに関する辞退届が提出された。
- ・振興会ホームページにおいて「落札に至らなかったこと」を公表した(8/8)。
- ・国立劇場再整備等事業に係るアドバイザリー業務(PwC アドバイザリー合同会社 4/1 契約)について、当該事業の入札結果が落札に至らなかったことを受けて、落札後に予定していた業務の取りやめ、建設市場、金融市場等の調査の追加、履行期限の延長など一部契約内容について変更を行った(9/14)。
- ・国立劇場再整備等事業に係る建設市場の動向等市場調査を実施した。建設会社5社、不動産会社8社、計13社に対して調査票の送付(8月)、調査票への回答の回収及び各企業への聞き取り調査(9月)を行った。
- ・国立劇場再整備等事業に係る技術アドバイザリー業務(香山・山下PMC設計共同体 4/3 契約)について、当該事業の入札結果が落札に至らなかったことを受けて、落札後に予定していた業務が取りやめとなったため、本契約については合意解約となった(9/25)。
- ・国立劇場再整備等事業の不落札を受け、国立劇場の収蔵資料(図書、視聴覚資料、錦絵等)の移転等に係る業務委託契約の中止・解約手続きについて振興会から委託者へ申し入れ、受理された(11/17)。
- ・国立劇場再整備等事業の今後の対応等について、振興会及び文化庁等関係機関と検討を行った。
- ・国立劇場再整備等事業に係るアドバイザリー業務(PwC アドバイザリー合同会社)において、国立劇場再整備等事業に係る建設市場の動向等市場調査のヒアリング回答とりまとめ結果が提出された(12/21)。
- ・9月に行った建設市場の動向等調査を再度実施した(1月)。
- ・国立劇場再整備について、次の入札公告に向けた要件その他の検討に当たり、必要な助言を得るため、理事長の下に「国立劇場再整備に関する有識者検討会」を3月に設置し、第1回を実施した(3/26)。

② 未来へつなぐ国立劇場プロジェクトの推進

(a) 初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら記念事業

i. さよなら公演の実施

- ・前年度から引き続き、国立劇場・国立演芸場で「さよなら公演」を実施した。
- ・初代国立劇場さよなら公演における各種媒体を活用した企業PR(プログラムや劇場ロビーへの広告掲出等)を行うとともに、さよなら公演を共に盛り上げるパートナー企業として、以下の企業からの協賛を得た。

【パートナー企業】(企業表記は50音順)

◇さよなら記念協賛(全ての「初代国立劇場さよなら特別公演」への協賛)

＝住友生命保険相互会社、東芝ライテック株式会社

◇8・9月文楽公演

協賛＝森平舞台機構株式会社

◇9月歌舞伎公演

協賛＝SMBC日興証券株式会社

大和証券株式会社、東京コンピュータサービス株式会社

◇10月歌舞伎公演

特別協力＝紡ぐプロジェクト

協賛＝株式会社高島屋

株式会社日本国際放送、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

- ・読売新聞「紡ぐプロジェクト」と連携して公演・イベントの広報等を行った。

◇紡ぐ特集紙面・ウェブサイトにおける広報

◇VIP特別会合(同プロジェクト協賛10社役員に向けた事業進捗状況報告会)の実施に伴う協力(10/6)

▶10月歌舞伎公演鑑賞、2階お休み処での会合、大劇場での舞台見学・尾上菊之助の挨拶・記念撮影

ii. 閉場式

- ・国立劇場及び国立演芸場の閉場記念式典を国立劇場大劇場にて実施した(10/29)。
- ・式典では宮内庁式部職楽部OB及び現役楽師による「君が代演奏」を行い、その後、記念上演を行った。

【記念上演】

◇舞踊「菊」 出演：井上八千代・富山清琴・藤舎名生ほか

◇文楽「万才」 出演：豊竹呂太夫・鶴澤清治・吉田和生・桐竹勘十郎ほか

◇講談「扇の的」 出演：神田松鯉

◇歌舞伎「お祭り」 出演：片岡仁左衛門ほか

iii. イベント等の実施

- ・国立劇場オープンシアターを実施した(いずれも有料。参加者数 687 名)。
 - ◇春のオープンシアター(4 回実施)
 - 音声ガイドアプリ(日・英)によるロビー見学
 - ステージツアー(4/3 のみ)
 - ◇ラストオープンシアター(13 回実施)
 - 音声ガイドアプリ(日・英)によるロビー見学
 - 英語ガイド限定ステージツアー
 - ステージツアー(日本語ガイド)
- ・さよなら記念事業との共催等により、以下のイベントに協力した。
 - ◇日本テレビ「笑点」公開収録(7/25 演芸場、8/13・20 放映)
 - ◇人形浄瑠璃文楽座特別公演「文楽祭」(9/25 小劇場、3/4 NHK-BS プレミアム他で放映)
 - 主催：一般社団法人人形浄瑠璃文楽座
 - 共催：公益財団法人文楽協会、振興会
 - 協賛：サントリーホールディングス株式会社
 - ◇第 39 回「俳優祭」(9/28 大劇場、1/28 NHK E テレ他で放映)
 - 主催：公益社団法人日本俳優協会
 - 共催：振興会
 - 協力：伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社、日本放送協会
- ・「未来へつなぐ国立劇場プロジェクト」特設サイト内「国立劇場の『記憶』」ページに「ゆかりの方々の記憶」として、特別インタビュー「初代国立劇場を語る」(伝統芸能各分野の実演家へのインタビュー)、あぜくら特別インタビュー「国立劇場草創期」(3 年 10 月～4 年 10 月にかけてあぜくら会報に掲載した記事の再録)を掲載した。
- ・前年度に引き続き、観客から初代国立劇場・演芸場の思い出を募集した(9 月まで)。
 - ◇応募件数 エッセイ部門：121 件、写真部門：20 件
 - ◇お客様から寄せられたエッセイや写真を特設サイト内「国立劇場の『記憶』」ページや、大劇場ロビーの紹介パネルに掲載した。

iii. 記念グッズの販売

- ・初代国立劇場さよなら記念グッズを国立劇場売店及び蔦屋書店(銀座店・京都岡崎店)で販売した。
 - ◇愛蔵版歌舞伎名ぜりふかるた、チケットホルダー、ポストカード、緞帳一筆箋、まめぐい、ボンボニエール(金平糖とのセット販売)、日本酒(有田焼カップ酒)、閉場記念誌「初代国立劇場の記憶」
- ・銀座蔦屋書店において「初代国立劇場さよなら記念フェア」を実施した(10 月まで)。
 - ◇記念グッズの販売
 - ◇さよなら公演・さよなら特別公演の広報・周知
 - ◇関連トークイベントの実施
 - 「文楽人形遣い 吉田玉助と国立劇場」(5/10。参加者数 49 名(店頭 32 名・オンライン 17 名))
 - 「歌舞伎音楽竹本(太夫)・竹本葵太夫と国立劇場」(10/22。参加者数 134 名(店頭 41 名・オンライン 93 名))
 - 「歌舞伎俳優・中村米吉と国立劇場」(10/22。参加者数 133 名(店頭 40 名・オンライン 93 名))
- ・主催公演出演者による記念グッズの紹介動画及び写真、記事をホームページ及び X(旧 Twitter) に掲載した。
 - ◇6 月歌舞伎鑑賞教室：中村虎之介(愛蔵版歌舞伎名ぜりふかるた、まめぐい)
 - ◇7 月歌舞伎鑑賞教室：坂東彦三郎(愛蔵版歌舞伎名ぜりふかるた、クラフトビール)
 - ◇8・9 月文楽：鶴澤清丈(ボンボニエール)
- ・初代国立劇場メモリアルグッズ第 1 弾として、「初代国立劇場 定式幕ディベア」「初代国立劇場×辻屋本店 上敷雪駄」をぴあ株式会社のサイト等で販売した。
- ・初代国立演芸場さよなら記念グッズとして、四色刷り緞帳柄手拭い、閉場記念誌「初代国立演芸場の公演記録」及び演題入りあづま袋を限定品として販売した。閉場後も、閉場記念誌とあづま袋の通信販売を行った。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的・適正な配置、効果的な人事交流の実施

- ・新規採用の事務職員、非常勤嘱託からの採用試験を経た舞台技術職員、施設担当の専門職及び任期付きの職員を採用した。
- ・国の機関、国立大学法人及び地方自治体等との人事交流を実施し多様な人材の確保による組織の活性化を図った。
- ・国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	21人	国の機関への実務研修者	3人
独立行政法人国立文化財機構からの出向者	1人	国の機関への職員の出向	4人
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1人	国立劇場おきなわ運営財団への職員の出向	1人
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1人	新国立劇場運営財団への職員の出向	3人
一般財団法人建築コスト管理システム研究所	1人		

イ 事務能率の維持、増進

① 各種研修の実施、外部研修への職員の派遣

(a) 各種研修の実施

研修の実施にあたっては、3年度において階層別研修の内容と対象年次を整理し見直しを行ったことを踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大により影響を受けた4年度からの連続性にも留意しつつ、5年度も着実に実施した。

《研修実績》

研修名	実施日	参加者数
新入職員研修(1年次職員)	4/3～4/7	13名
理事長研修(1年次職員)	6/8	13名
部長業務研修(1年次職員)	5/29・6/6・6/8	13名
課長業務研修(1年次職員)	10/19・11/15・12/20・1/15・2/7	12名
公演研修(1年次職員)	6月～1月	13名
公演研修(2年次職員)	8月～1月	5名
営業研修(1年次職員)	9月～2月	13名
若手職員フォローアップ研修(4年次～6年次職員)	1/31・2/5	26名
パソコン研修(eラーニング講座)(1・2年次職員)	6/12～8/31	18名
メンター制度の実施	7月～3月	31名
経理関係業務研修会(インボイス制度)	8/29～9/5	222名
安全衛生法改正の伝達研修	11/14～12/14	36名
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	12/20	5名

(b) 外部研修への職員の派遣

《外部研修実績》

研修名	実施日	参加者数
公文書管理研修Ⅰ(独法等向け第1回)	5/18	2名
公文書管理研修Ⅱ(第1回)	6/21～6/22	2名
令和5年度情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修会	7/31～9/29	2名
令和5年度 苦情相談実務研修会	10/26	1名
令和5年度関東地区評価・監査セミナー	2/1～2/29	1名
防火・防災管理講習	10/17～10/18	1名
令和5年度 給与実務研修会(諸手当関係)	7/21	1名
令和5年度 給与実務研修会(人事院勧告)	8/31	1名
令和5年度 給与実務研修会(俸給決定及び支給関係)	10/20	1名
令和5年度 勤務時間・休暇制度実務研修会	9/7	1名

情報システム統一研修(第1四半期)	5/15～6/30	2名
情報システム統一研修(第2四半期)	7/24～9/29	2名
情報システム統一研修(第3四半期)	10/19～12/22	1名
情報システム統一研修(第4四半期)	1/25～3/22	2名
エネルギー管理講習	6/21	1名
学校等における省エネルギー対策に関する講習会	12/1～3/29	1名
2024年公共文化施設向け ホール改修オンラインセミナー	2/5	5名
第61回政府関係法人会計事務職員研修	10/3～11/16	1名
第52回会計事務職員契約管理研修	5/17～6/15	1名
政府出資法人等向け入札談合等関与行為防止法(官製談合防止法)等研修会	11/16	1名
法人向け不当寄附勧誘防止法説明会(東京)	3/6	2名
マイナンバー実務セミナー	6/26	1名
令和5年度都道府県著作権事務担当者講習会	7/10	3名
令和5年度国際教育交流担当職員長期研修プログラム(LEAP)	6月～3月	1名
令和5年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第1回)	9/14～9/15	3名
令和5年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第2回)	10/19～10/20	3名
玉掛け技能講習 Aコース	8/4～8/6	1名
全国劇場・音楽堂等職員 舞台技術研修会	9/27	1名
全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会ワークショップ1	2/14～2/15	1名
全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会オンラインプログラム	2/1～3/24	21名
舞台公演記録のアーカイブ化のためのモデル形成事業『ドーナツ・プロジェクト 2023 実践編』	7/25～2/9	1名
地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会	3/6	15名
令和5年度 ミュージアム・PR(パブリックリレーションズ)研修	3/6～3/8	1名
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育インストラクターコース	11/13～11/15	1名
テールゲートリフター特別教育	3/15・3/25・3/29	9名

② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

(a) 適切な労務管理

i. 顧問弁護士との提携

・顧問弁護士と提携し、労務管理に関する問題点を調査し、改善に向けて、規程・運用の見直しを行った。

ii. ハラスメント防止への取組

・ハラスメントに関する苦情相談を受ける職員(相談員)を配置し、職員が相談しやすい環境を維持した。

iii. メンタル不全対策の実施

・新規採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した(7/12～3/31、31名)。メンターである職員は、メンター研修によりメンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。

・産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、長時間労働者と産業医との面談等の相談業務を実施した。

・メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を継続して整えた。

・ストレスチェックを実施し、高ストレス者となった職員に対し必要な措置を講じた(11/13～11/24、382名)。

・特定の年次の若手・中堅職員に対して専門家によるメンタルヘルスカウンセリングを実施し、メンタルヘルスの維持・向上を図った(34名)。

iv. 安全衛生管理への取組

・安全衛生委員会、産業医及び衛生管理者、舞台安全保持委員会と連携し、職場環境の改善に必要な措置を講じた。

(b) 多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う勤務体制の特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励等を実施した。5類移行後も、多様で柔軟な働き方の推進に向け、規定整備等の検討を進めた。

・国立劇場閉場による代替劇場での公演に伴い、用務地における勤務時間管理の運用方法を周知し、適正な勤務時間管理を図った。

ウ 必要な人材の確保・育成

- ・人材確保・育成方針等に関する基本方針に基づき、以下の取組の向上を図った。
 - ◇職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。
 - ◇各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理実施する。
 - ◇国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図ること、多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討する。
 - ◇任期付職員制度を活用し、高度な専門性と豊富な知識・経験を有する者を採用した。

(2) 人員に係る指標

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(4年度ベース)。
- ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

ア 委託契約の状況

4/1～3/31 の組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 638,756 千円を限度として締結した。その後、2/8 付けで業務委託契約の限度額を 656,355 千円に変更した。

イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に係る規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的な提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

カ 効率化状況等

① 委託費の推移

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
金額	690,828 千円	679,753 千円	676,604 千円	674,712 千円	656,355 千円
前年度比	104.0%	98.4%	99.5%	99.7%	97.3%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

県や国からの補助金や受託金の外部資金獲得を行い、入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に

設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

③ 効率化に関する取組

(a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

《使用量・処理量》

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	1,859,800 kwh	△ 6.7%
	ガス使用量	31,792 m ³	+4.6%
	水道使用量	2,235 m ³	+7.0%
廃棄物	一般廃棄物	380 kg	△ 51.9%
	産業廃棄物	1,800 kg	+8.4%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	507,067 枚	△ 10.6%
	用紙購入枚数	497,500 枚	+9.1%

(c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

(2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

ア 委託契約の状況

4/1～3/31 の現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 4,254,801 千円を限度として締結した。

イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

カ 情報開示の推進

公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情

報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

キ 効率化状況等

① 委託費の推移

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
金額	4,061,155 千円	4,440,663 千円	4,446,986 千円	4,421,219 千円	4,254,801 千円
前年度比	98.9%	109.3%	100.1%	99.4%	96.2%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業に係る支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については、公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。寄附金・協賛金収入等については、賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

③ 効率化に関する取組

(a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和5年度の外部委託契約52件のうち、委託業務34件(うち複数年契約28件)、物品の製造販売工事等5件の合計39件について一般競争入札等を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が2件ある。令和5年度に行った入札及び公募は17件(うち複数年契約8件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが15件となっている。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

《使用量・処理量》

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	5,909,908 kWh	△ 2.6%
	ガス使用量	120 m ³	△ 63.1%
	水道使用量	11,237 m ³	+0.6%
廃棄物	一般廃棄物	26,216 kg	△ 1.4%
	再利用廃棄物	15,154 kg	△ 8.7%
	産業廃棄物	16,339 kg	△ 11.4%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	1,678,814 枚	△ 10.7%
	用紙購入枚数	1,687,500 枚	△ 8.5%

※ペーパーレス化が進んだことにより、コピー用紙の使用量・購入枚数が減少した。

(c) 情報システムの活用

- ・業務サーバーを外部クラウドに設置することにより、劇場施設の停電や災害等による非常時でもアクセスできる環境を整えた。
- ・業務に電子承認のツール(ワークフロー)を導入し、効率化を図った。
- ・給与・人事システムの更新を行い、効率的運用が可能となった。
- ・ネットワーク・端末のセキュリティ対策としてXDR(Extended Detection and Response)を導入し、より安全な環境とするとともに危険の感知が確実にできるシステムとした。

令和5事業年度評価報告書

第21期（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

令和6年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 6 年 6 月 28 日に開催された第 65 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会
令和5事業年度評価報告書

令和6年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和 5 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	令和 5 年 11 月 14 日
第 2 回評価委員会	令和 6 年 5 月 17 日
第 3 回評価委員会	令和 6 年 6 月 11 日
第 4 回評価委員会	令和 6 年 6 月 24 日

令和 5 事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 概観

○令和 4 年度補正予算による「統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業」17 団体、令和 5 年度に文化庁から移管された「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」「全国キャラバン」合計 60 団体の採択団体に助成金を交付し、加えて、新たに外部資金による助成を 5 件行った。援助を拡大して実施したことを評価する。

○プログラムディレクター・プログラムオフィサーや外部の専門家である専門委員等による公演等調査が積極的に行われ、その件数が目標値を大きく上回り、達成率が 154.2%となった。

○対面やオンラインを駆使して応募団体等との意見交換会や応募相談を実施するなど、きめ細かに応募団体等への対応を行った。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○助成事業が拡大しており、交付事務の効率化を推進されたい。

○助成事業の実施については、応募しやすいように情報の提供を細やかにし、募集案内や審査基準の記載をより平易にしてほしい。

○公演等調査は実施するだけでなく、その結果を援助業務に反映するなど活用を進めてほしい。

○外部資金による助成を更に充実させてもらいたい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○公演等調査件数が目標値を大きく上回り、文化庁から新たに移管された事業も着実に実施している。また、制度検証推進部会を新設し、芸術団体等の自律的・持続的発展に資するよう制度の見直しが行われた。各団体に対する細やかな相談対応環境が整備され、意見交換会も丁寧に行っていることなどから、評定としては A が適切と判断できる。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2-〈1〉 伝統芸能の公開

(1) 概観

《全般》

○公演数、入場者数ともに目標値を上回った。オンライン動画配信については、特に海外での視聴回数が大幅に伸び、伝統芸能を海外に発信することができた。

○初代国立劇場・国立演芸場の閉場に伴い、「さよなら公演」「さよなら特別公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。閉場後は代替劇場での公演を工夫しつつ順調に開催することができた。

《歌舞伎》

○義太夫狂言の名作を2か月連続の二部構成によって通し狂言として上演したことは国立劇場ならではの取組で、国立劇場の存在意義を示し、初代劇場の姿を人々の記憶に刻むことができた。

○代替劇場である新国立劇場での公演では、若手俳優による芸の継承に加え、舞台設営などに工夫が施され、歌舞伎上演の在り方の幅を広げることができた。

《文楽》

○本館公演の最後を「菅原伝授手習鑑」の完全通し上演で締めくくったことや、東京では51年ぶりの上演となる「安井汐待の段」の復活は、振興会ならではの企画であった。国立文楽劇場では、近松門左衛門の300回忌に合わせて近松の代表作を上演し、文楽劇場らしい連続企画を行った。

○代替劇場での公演では、観客の入退場・誘導なども円滑に行われ、太夫・三味線・人形遣いとも質の高い技芸が維持された。

《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等》

○開催が難しいジャンルでありながら、振興会ならではの伝統芸能分野で、各公演ともしっかりと制作の意図を掲げ、充実した公演を実施した。

○特別企画公演「舞台芸術のあしたへ」では、全分野の研修修了者による公演が実現され、振興会ならではの企画として評価できる。また、文楽劇場10月公演「東西名流舞踊鑑賞会」は、上演が途絶えていた名作の復活、流儀を超えた舞踊家の共演など、振興会だからこそ成し得たものであった。

《大衆芸能》

○「初代国立演芸場さよなら公演」として、開場以来の集大成となる内容の上演を行った。質・量ともに充実した内容であった。閉場後の「国立演芸場寄席」は、各公演の入場者数達成率に高低があるが、代替劇場での公演を順調に開始できたことを評価したい。また、文楽劇場での浪曲公演、上方演芸特選会は安定した集客があった。

《能楽》

○定例公演・普及公演・企画公演・鑑賞教室の4つのカテゴリで鑑賞対象者を網羅しつつ、初心者向けから大曲・稀曲の上演まで戦略的に取り組んでいる。
○「国立能楽堂開場40周年記念公演」は、現代能楽界を代表する演者による能・狂言の名作・大曲・稀曲を上演し、国立能楽堂ならではの企画であった。
○「国立能楽堂ショーケース」や12月企画公演〈リクエスト能・狂言〉などの企画は、新たな観客層の獲得や観客の期待感・満足度を高める取組であった。

《組踊等沖縄伝統芸能》

○打組舞踊、湛水流三線音楽、歌情けなど訴求力のある公演や、上演機会が少なかった歌劇を積極的に取り上げている。さらに「祝いの宴」が沖縄伝統芸能の総集編として「国立劇場おきなわ開場20周年記念公演」にふさわしい内容であったことなど、全体として高い企画力が発揮された。

《演目の拡充》

○文楽公演では「妹背山婦女庭訓」大序 大内の段を、文楽劇場10月舞踊公演では「この鳥」を復活するなど、復活・復曲・新作等の上演が、各分野とも計画通り実現できている。さらに国立劇場おきなわでは、「新作組踊戯曲大賞」の公募・選考・表彰が行われ、新作への取組を軌道に乗せたことが評価できる。

《青少年等を対象とした公演》

○青少年、親子、外国人等を主対象とした公演は、公演趣旨に沿って作品・題目・内容が選択され、若手演者による解説、工夫を凝らした公演解説書の配布など、長年にわたる実績が活かされた公演となった。

《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○伝統芸能のオンライン配信は、海外からの視聴回数が顕著に増加し、関心層の

拡大につながっていると判断できる。

○地方公共団体等との連携協力が進み、なかでも代替劇場での公演では積極的な連携が行われており、再整備期間中の公演事業の展開に向けた柔軟な対応が開始された。

《快適な観劇環境の形成》

○新型コロナウイルス感染症対策の劇場内飲食禁止の解除、代替劇場での観劇の雰囲気づくり、販売グッズの拡充、外国語による解説等の観劇サポート、オンラインも含めた公演説明会・ワークショップなど、取組が適切に行われた。

○上演演目等にちなんだフォトスポットは、多くの観劇者が撮影しており、SNSでの発信も期待できるものとなっていた。

《広報・営業活動の充実》

○空港など交通拠点での広報やマスメディアへの情報提供など多様な活動に加え、WEB 広告や SNS による積極的な発信に取り組んでいる。

○振興会のホームページがリニューアルされて見やすくなった。

○インバウンドの集客を図るため、外国人向け割引販売や海外 OTA でのチケット販売開始など、積極的な営業活動がなされた。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○初代国立劇場・国立演芸場閉場後も施設の安全性を確認した上で本館稽古室・研修室等の貸出を行い、再整備の中でも柔軟な対応がなされている。

○使用効率の向上に向けた施設見学会等は利用促進する点で意義のある取組である。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○再整備期間中は公演広報・情報提供を迅速かつ積極的に進めてほしい。

○代替劇場については、安定的な確保に加え、地方劇場との連携なども視野に入れ、伝統芸能の普及・振興に努めてほしい。

○再整備期間中は東京近郊のみならず、地方の劇場と連携することで、地方にも国立劇場の作品を身近に観ることのできる上演機会を提供し、地域間格差の是正に努めてほしい。

○青少年の鑑賞機会の増加を図るため、学校団体等に対する営業活動に引き続き力を入れてもらいたい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○初代国立劇場・国立演芸場の閉場に伴う特別公演を行い、12月以降は代替劇場での公演を工夫しつつ着実に開始した。また、国立能楽堂開場40周年、国立劇場おきなわ開場20周年の節目にふさわしい公演をそれぞれ実施し、評定としてはBが適切と判断できる。

2-〈2〉 現代舞台芸術の公演

(1) 概観

《全般》

○著名な作品に新機軸を加えての公演、新制作等での公演、研修所修了者や若手の抜擢、起用が行われ、全体として現代舞台芸術界に活力を与えていると評価できる。オペラ、バレエは世界水準レベルの公演を次々に行っており、演劇の公演活動も積極的である。入場者数、収支ともに好調で、オンライン動画配信も高い実績を上げた。

《オペラ》

○海外キャストを予定通り招聘した公演に加え、日本人歌手も前年度から引き続き重要な役を担った。また、研修所修了者の起用も継続的になされ、研修制度の成果が明確に表れている。

○「アイダ」「ラ・ボエーム」では「新国立劇場開場25周年記念公演」にふさわしい豪華な舞台が繰り広げられたほか、「シモン・ボッカネグラ」ではフィンランド国立歌劇場、テアトロ・リアルとの共同新制作が行われるなど、話題性あふれる企画が展開された。

《バレエ》

○人気の高い「白鳥の湖」「くるみ割り人形」などに若手を登用しながら、年間ラインアップの基軸に据え、世界初演作品となる「マクベス」と新制作上演「夏の夜の夢」の2作品を加え、注目度を高めている。若手の起用はバレエ界全体の技量向上に貢献しており、振興会の役割が発揮できている。

○プリンシパル、ソリスト、コール・ド全てが充実し、高い水準の舞台を提供し続けており、集客率の高さに結びついている。

○出演者が令和5年度芸術選奨文部科学大臣新人賞などを受賞したのは、質の高い公演の成果と言える。

《現代舞踊》

- 入場者数が目標値を大きく上回ったのは、高い企画力によると判断できる。
- 「ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2023」は、日本独自の創作舞踊のパイオニアたちの作品を復元上演する意義深い公演で、質の高い舞台を創り上げた。「DANCE to the Future: Young NBJ GALA」では新国立劇場バレエ団の若手ダンサーにスポットライトを当て、次世代育成促進に資する公演となった。

《演劇》

- 6公演それぞれは企画意図が明確で、取り組み方にも独自性があった。それらが魅力となって話題性を高め、全体的な集客増加や出演者の受賞につながるなど成果を上げた。
- 現代演劇の名作で大長編である「エンジェルス・イン・アメリカ」をフルキャストオーディションで上演し、英国初演のミュージカル「東京ローズ」を日本初演するなど、意欲的な公演が目立った。

《青少年等を対象とした公演》

- 「こどものためのバレエ劇場」は、本公演と同じ衣裳・装置と生演奏による本格的な上演で、かつ観客が身体を動かして体験する場面を織り込んだ構成で、工夫された内容となった。
- 新国立劇場合唱団による各地の学校巡回公演は、学校での音楽教育の質的向上に寄与した。

《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

- 全国各地の劇場等と連携し、共催公演や受託公演が行われたほか、新国立劇場合唱団の外部公演への出演も安定的に継続していることは評価できる。また、海外劇場等との交流は、海外からの視察・見学も含め、着実に進み、国際的な注目度が上がりつつある。
- 「新国デジタルシアター」は、劇場に来ることのできない地方や海外の人たちにも鑑賞機会を提供し、十分な成果を上げた。国際的なレピュテーションの向上にも寄与しうるものでもある。

《快適な観劇環境の形成》

- 上演演目に合わせた初台駅の列車接近メロディの変更や、フォトスポットの

設置など、公演を印象づける工夫が凝らされ、振興会ならではの観劇環境づくりが行われた。

《広報・営業活動の充実》

○SNS で舞台稽古や舞台裏の映像を発信し、大きな反響を呼んだほか、海外向けの発信にも力を入れ、オペラ「シモン・ボッカネグラ」の舞台写真が英国の伝統あるオペラ雑誌の表紙を飾るなど、画期的であった。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○オペラ劇場、中劇場、小劇場ともに稼働率が高く、貸劇場としても優れた機能を発揮した。再整備期間中の本館主催公演を受け入れるなど相互連携も行われ、公的施設として役割を十分に果たしている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○大都市圏だけでなく、地方都市での共催・受託公演を、各地のアーツカウンシルなどとの連携等によって積極的に進めてほしい。

○新作については事前の評価が困難であり集客が難しい。意欲的な作品であるからこそ、その魅力を多様な観点から情報発信し周知してほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○各分野とも公演ラインナップに高い企画力が発揮されたとともに、質の高い上演が行われ、入場者数も増加しており、評定としてはBが適切と判断できる。

2-〈3〉 日本博の運営・実施

(1) 概観

○「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」という基本コンセプトに従って事業初年度は、委託型、補助型、参画型の事業募集を行い、委託型では75件の応募から37件を、補助型では30件から11件を採択した。参画型は、日本博事業としての認証を受けるもので、511件の認証を行った。

○採択された委託型・補助型の事業は、振興会各劇場での訪日外国人向けの諸企画、北海道の白老文化芸術や沖縄県やんばる地域の魅力発信事業、国立博物館の「茶の湯」文化等の発信と体験、大阪・関西万博に向けた大阪府内での文化・芸術事業など、その内容は多岐にわたっている。

○委託型・補助型の48事業は、それぞれ来場した外国人に対し、対面あるいは

書面によるアンケート調査を実施し、39 事業においてその内容に満足という評価を受けている。

○国内各地での事業展開に加え、公式 Web サイトを更新するとともに、SNS による情報発信を積極的に行い、フォロワーは 11 万人ほどになっている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○「文化資源の磨き上げ」という事業理念、「満足度向上」という目的は、ともに多様な解釈が可能であり、「磨き上げ」「満足度向上」の具体的内容、判断尺度を明確にする必要がある。

○『自己点検評価報告書』での「日本博の運営・実施」では、採択事業の具体的内容、満足度調査の内容と方法は記載されておらず、これらの具体的な内容を明記しての自己点検評価が必要である。

○日本博事業の広報については、採択・認証事業者による広報も含め、国内外に向けた、より積極的な取組を進めてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○事業の理念・目的に対する内容と評価基準の明確化という課題はあるが、事業初年度に 48 件の採択、511 件の認証を行い、委託型・補助型の全事業で来場外国人を対象に調査を実施し、目標値を超える満足度を得ており、評定としては A が適切と判断できる。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

(1) 概観

○伝統芸能各分野の養成事業を横断的に所管する機関として「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」が発足し、再整備期間中も国立オリンピック記念青少年総合センターで養成を着実に継続した。また、「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始し、100 名を超える会員が登録した。

○養成事業の周知、研修生募集広報及び普及事業などの取組が積極的に行われ、研修講師及び修了者による普及事業「伝統芸能体験教室」では、歌舞伎と文楽で合計 100 名を超える参加があった。ワークショップ参加者の中から研修生への応募があり、応募者確保に向けて具体的な成果を上げた。

○国立劇場 6 館研修修了者による「舞台芸術のあしたへ」の公演は、今後の研修生確保にも向けた、振興会ならではの取組として評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 文楽研修については、選考試験後に合格者が辞退をした理由や状況を把握して対策を講ずるとともに、応募者を増やすために、将来的に伝統芸能の世界で生きていくことへの魅力や将来ビジョンをアピールする必要がある。
- 全国高等学校文化連盟への養成所の研修制度の周知など研修生確保への多様な取組が行われているが、応募実績、研修実績は厳しい状況が続いており、より幅広く、粘り強い広報が必要となる。
- 「国立劇場養成所サポーター」については、経済面に加え、具体的なボランティア支援も検討してほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- 再整備期間中の養成研修の代替施設として、研修施設を整備、移転し、養成事業を着実に継続した。伝統芸能の伝承者の養成が困難な中、多種多様な取組で応募者獲得と養成に成果を出している。評定としてはBが適切と判断できる。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 概観

- 研修志願者が多く、一定以上の倍率を持った選考によって人材が確保されている。研修修了者のうちの80%以上が舞台活動を続けている。
- バレエ研修所が全日制一貫研修という新研修体系への移行に向けて、次年度研修生の募集と選考、並びに「ジュニアクラス」の試行的な実施を進めた。
- 「ANA スカラシップ」を活用した海外研修(オペラ研修所・バレエ研修所)や、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修など、充実した研修が行われた。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 研修所の環境、研修内容、スカラシップなど研修志願の動機付けとなる制度の充実など、振興会ならではの取組の充実に一層努められたい。
- バレエの新研修体系の運用開始に当たり、その確立に向けた組織体制の円滑な開始を望む。新設した「ジュニアクラス」の研修に海外研修も加えるなど、次のステップに確実につながる取組が望まれる。

(3) 自己点検評価に対する意見

- 研修応募者の現状、研修生確保状況、また、修了者による研修発表公演の企画

内容、修了者の各種コンクールでの受賞など、研修事業は実効を上げていると判断でき、評定としてはBが適切である。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

4-1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

○文化デジタルライブラリーでの情報、公開資料が着々と充実度を増している。また、文化庁の「文化遺産オンライン」でも所蔵資料の公開が進み、情報提供の多元化が進んだことも評価できる。

○伝統芸能に関する調査研究の成果として、「近代歌舞伎年表」や上演資料集等の公開は、振興会ならではの優れた事業である。

○「国立劇場所蔵 芸能資料展」は、初代国立劇場・初代国立演芸場さよなら記念として、開場以来半世紀以上にわたって収集してきた膨大な資料から、名品、優品、貴重な芸能資料を一堂に展示した。展示公開の来場者数についても目標値を大きく上回った点を評価する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○再整備に伴い、長年にわたって収集・保存・活用してきた諸資料と文献の適切な保存・活用の体制を整える必要がある。特に各館の展示については積極的な広報を進めてほしい。

○文化デジタルライブラリーからブロマイドや番付、電子図書が見られるようになっており、至便性が向上した。今後も諸資料の更なる公開を進めてほしい。

○デジタル資料の閲覧環境を更に整えるとともに、再整備期間中も代替会場での展示や巡回展などの開催を検討されたい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開来場者数が目標値を大きく上回った。伝統芸能に関する情報提供機関としての役割が遺憾なく発揮できているとともに、資料収集と調査研究成果の公開が着実に進んでおり、評定としてはAが適切と判断できる。

4-(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

○主催公演に関する諸資料の収集・公開が進んだ。また、劇場という特性を活かした公開講座も積極的に行われ、その参加者動向からは、現代舞台芸術の理解者やファンを増やしていると言える。

○劇場内のオープンスペースを活用した衣裳展示等は、来場者が現代舞台芸術に身近に触れる機会を提供した。

○外部機関との連携にも意欲がうかがえる。特に専門学校生を対象としたワークショップは、人材育成にもつながる良い試みである。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○現代舞台芸術に関する体系的な資料収集や調査研究等は、新国立劇場が国内では唯一の機関と思われる。限られた予算・人員の中での事業遂行であることから、ルーティンワークに加え、特に調査研究、収蔵資料の充実については、5年単位の重点領域を設けるなど、計画的な事業遂行が望まれる。

○「初台アート・ロフト」は、照明など見せ方の工夫も必要だと感じる。より洗練された展示やフォトスポットの場としての魅力向上を期待したい。

○参加者多数のギャラリープロジェクトや講座・展示等も更に練り上げて継続してほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○情報センターからの情報公開や、資料活用の充実に向けた取組、「新国デジタルシアター」などインターネット配信による公演記録映像等の有効活用が推進されている。評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 概観

○組織体制の整備・強化として、伝統芸能の各分野の養成事業を一体的に実施する機関である「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」を設置し、令和6年4月に調査養成部に養成企画課を設置することを決定した。

○令和5年度から導入したクラウドPBXや、4年度に導入した仮想デスクトップシステムなど、デジタルの有効活用を進めている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○国立劇場再整備や、これに伴う閉場後の業務に応じた体制整備、文化庁から移管された業務の実施など、各事業が適切に行えるよう、業務の効率化に一層取り組まれたい。

○代替劇場での公演が長期にわたることから、代替劇場の確保と公演実施等に関する組織的体制の整備も必要になるのではなかろうか。

○文化芸術の人と場を育てるには、組織や業務体制の面でもただ効率だけを追求しても良い結果は出ないと思う。観劇環境づくりに必要な、ペーパータオルの設置、ゴミ箱の設置、ロビーや客席の照明などの設備については、削減対象にならないことを願う。

(3) 自己点検評価に対する意見

○国立劇場再整備の実施が不安定な状況の中でも、組織体制の再編、業務の効率化などが進んでおり、評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

(1) 概観

○令和4年度の文化芸術振興費補助金の繰越事業等を除くと、収支実績額は計画額に近く、予算・収支計画に沿った執行が行われたと判断できる。

○助成事業・公演事業など全ての事業区分において計画していた自己収入額を上回った。また、国庫以外の財源として外部資金を獲得し、多様な財源による安定的な運営に寄与した。

○初代国立劇場さよなら公演のパートナー企業として、10社からの協賛を得た。また、文楽「曾根崎心中」で背景美術映像の制作費用をクラウドファンディングにより集め、養成研修事業では「国立劇場養成所サポーター」の募集を開始するなど、新たな工夫を講じている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○代替劇場での公演の常態化に伴い、公演企画や広報の内容・方法などを検証しながら、予算・収支計画の立案・執行を進めてほしい。国庫財源以外からの外部資金獲得は容易ではなく、持続的に積極的な呼びかけを行ってほしい。

○クラウドファンディングや寄附募集に工夫が見られ、効果も上げている。寄附者への還元は、文化芸術水準の向上の可視化や「アーティストに会える」などの企画があり、今後も様々な取組を期待する。

○劇場入場料収入が計画額を下回ったことについては、公演制作・広報・営業など各方面からの分析を行い、入場料値上げではなく、国立の劇場として、より魅力ある公演企画に加え、広報・営業の内容充実と期間確保を進めるなど、計画額の達成に取り組まれない。

(3) 自己点検評価に対する意見

○多様な資金調達策を実行するとともに、すべての事業区分において年度計画額を上回っており、評定としてはBが適切と判断できる。

IVその他業務運営に関する重要事項

(1) 概観

○初代国立劇場・演芸場の再整備、代替劇場での公演という転換期にあたり、公演専門委員会など外部識者の意見も含めて運営の点検を進め、事業内容に反映させている。国立劇場再整備等事業については、次期入札に向けて、有識者検討会を設置、開催するなど検討を進めている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○初代国立劇場の閉場に伴い、公演を行う伝統芸能の種類が狭められているが、従前の公演枠組を維持し、振興会が持つ伝統芸能の継承・振興の役割を果たしてほしい。

○国立劇場再整備については、一刻も早く実現可能な方向性を打ち出していただきたい。その内容については、速やかに公開し、再整備についての国民的理解を促進する必要がある。

○職員研修やヘルスケア体制に加え、舞台技術関係職員向けの研修も充実させてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○業務運営の改善に向けた積極的な取組に加え、喫緊の課題である国立劇場再整備等事業の進展に向けた有識者検討会を発足させ、検討を始めている。評定としてはBが適切と判断できる。

令和5年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿
(任期：令和5年7月1日～令和6年6月30日)

委員長 小川直之（國學院大學名誉教授・大学院客員教授）

委員長代理 大久保充代（公益財団法人八尾市文化振興事業団 業務執行理事 兼 八尾市文化会館（プリズムホール）館長）

委員 小玉祥子（演劇評論・ライター）

委員 桜井多佳子（舞踊評論）

委員 氷川まりこ（伝統文化ジャーナリスト）

委員 広瀬依子（追手門学院大学文学部講師）

委員 古谷伸太郎（公認会計士）

独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日

改正 平成21年 3月27日

評議員会決定

第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務企画部総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日
改正 平成16年 4月 1日
改正 平成17年 3月16日
改正 平成20年 6月19日
改正 平成21年 4月 1日
改正 令和 4年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、9人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、財務企画部計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月31日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則（平成20年6月21日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則（平成21年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

独立行政法人日本芸術文化振興会

令和5事業年度 業務実績報告書

令和6年6月28日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：財務企画部 計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表）

<https://www.ntj.jac.go.jp/>